

リアホナ

©2007 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, Salt Lake City, Utah. All rights reserved. ISSN 1344-8595

総大会特集号

ソルトレーク・タバナクル、
再奉獻される



© DAVID LINDSEY. 複写は禁じます

「マリヤとマルタの家でのキリスト」 デビッド・リンズレー画

救い主は「ある村へはいられた。するとマルタという名の女がイエスを家に迎え入れた。この女にマリヤという妹がいたが、主の足もとにすわって、御言^{みことば}に聞き入っていた。」(ルカ 10 : 38 - 39)

リアホナ

2 第177回年次総大会の概要

●土曜午前の部会

- 4 教会役員の支持
大管長会第一顧問 トーマス・S・モンソン管長
- 6 2006年度教会監査部報告
教会監査部実務運営ディレクター
ロバート・W・キャントウェル
- 7 2006年度統計報告
大管長会秘書 F・マイケル・ワトソン
- 8 祈りという天与の賜物を用いる
十二使徒定員会 リチャード・G・スコット長老
- 11 賛美歌の持つ養いの力
七十人 ジェイ・E・ジェンセン長老
- 14 主と約束する
七十人 ジョン・B・ディクソン長老
- 16 天使の言葉
十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド長老
- 19 あなたがたは再び生まれなければならない
十二使徒定員会 デビッド・A・ベドナー長老
- 22 主は生けりと知る
大管長会第一顧問 トーマス・S・モンソン管長

●土曜午後の部会

- 26 タバナクルの御霊
十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー会長
- 29 開拓時代と現代の預言者
七十人会長会 アール・C・ティンギー長老
- 32 「もしこの古い壁が口を利けるとしたら」
管理ビショップ H・デビッド・バートン ビショップ
- 34 感謝——幸福への道
前中央扶助協会会長 ボニー・D・パーキン
- 36 覚えておきなさい。滅びてはならない
七十人 マーリン・K・ジェンセン長老
- 39 ソルトレークタバナクルの再奉獻
大管長会第二顧問
ジェームズ・E・ファウスト管長
- 41 タバナクルの思い出
大管長会第一顧問 トーマス・S・モンソン管長
- 43 荒れ野の中の幕屋
ゴードン・B・ヒンクレイ大管長

●神権部会

- 45 人生で学んだ教訓
十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン長老
- 48 アロン神権者へ——決意の10年間に備える
十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ長老
- 51 蓄える
管理ビショップリック第二顧問
キース・B・マクマリン ビショップ

- 54 孫へのメッセージ
大管長会第二顧問
ジェームズ・E・ファウスト管長
- 57 神権——神聖な賜物
大管長会第一顧問 トーマス・S・モンソン管長
- 60 わたしは清く、汚れがありません
ゴードン・B・ヒンクレイ大管長

●日曜午前の部会

- 67 赦しのもたらす癒しの力
大管長会第二顧問
ジェームズ・E・ファウスト管長
- 70 離婚
十二使徒定員会 ダリン・H・オークス長老
- 74 福音は真実ではないのですか。それなら、ほかのものが何だというのですか
七十人会長会 ニール・L・アンダーセン長老
- 76 モルモン書の教え
中央初等協会会長会第二顧問
ビッキー・F・松森
- 78 あなたは知っていますか
七十人 グレン・L・ベイス長老
- 80 聖書という奇跡
十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード長老
- 83 わたしの知っていること
ゴードン・B・ヒンクレイ大管長

●日曜午後の部会

- 85 回復のメッセージ
十二使徒定員会 L・トム・ペリー長老
- 89 「今日」という日
十二使徒定員会 ヘンリー・B・アイリング長老
- 92 「お母さん、わたしたちはクリスチャンなの？」
七十人 ゲーリー・J・コールマン長老
- 94 主の方には誰が立つや
中央若い男性会長
チャールズ・W・ダールクウィスト2世
- 97 人は神の物を盗むことをするだろうか
七十人
菊地 良彦 長老

- 99 帰還可能点
十二使徒定員会
ディーター・F・ワークトドルフ長老
- 102 悔い改めと改心
十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン長老
- 105 閉会に当たり
ゴードン・B・ヒンクレイ大管長

●中央若い女性集會

- 106 天の御父の娘
中央若い女性会長 スーザン・W・タナー
- 109 主を覚え、悔い改め、変わる
中央若い女性会長会第一顧問
ジュリー・B・ベック
- 112 道をそれずに
中央若い女性会長会第二顧問
イレイン・S・ダルトン
- 115 絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい
ゴードン・B・ヒンクレイ大管長

- 64 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部
- 118 大会で話された実話や物語の索引
- 119 わたしたちの時代のための教え
- 119 アロン神権者および若い女性用リソースガイド
- 122 中央補助組織会長会
- 122 チャーチ・ニュース

今月号を使って学び、教えるうえでさらに助けが必要な場合は——ゴードン・B・ヒンクレイ大管長が提案したように家庭の夕べで教える場合も含め(105ページ参照)——以下を参照してください。
●テーマ別索引(3ページ) ●大会で話された実話や物語の索引(118ページ) ●『教師、その大いなる召し』(アイテム番号36123 300)単元Bの項目32。



第177回年次総大会の概要

2007年3月31日土曜午前、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トーマス・S・モンソン管長。開会の祈り——ロバート・F・オートン長老。閉会の祈り——ポール・E・コーリカー長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——クレグ・ジェソップ, マック・ウィルバーク;オルガニスト——クレグ・クリスチャンセン。「神に栄え」『賛美歌』33番;「祈りは楽しみ」『賛美歌』81番;「世はよく働く人を求む」『賛美歌』161番, ウィルバーク編曲, 未刊;「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番;「いのりながらみ言葉読む時」『子供の歌集』66;“Come, Thou Fount of Every Blessing,” *Hymns* (1948年), 70番, ウィルバーク編曲, オックスフォード刊

2007年3月31日土曜午後、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。開会の祈り——ローウェル・M・スノー長老。閉会の祈り——R・コンラッド・シュルツ長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——クレグ・ジェソップ, マック・ウィルバーク;オルガニスト——ジョン・ロングハースト, リチャード・エリオット。「イスラエルの救い主」『賛美歌』4番, ウィルバーク編曲, 未刊;「恐れず来たれ, 聖徒」『賛美歌』17番, ウィルバーク編曲, 未刊;「いとまされる」『賛美歌』158番;「主のみ言葉は」『賛美歌』46番;「この家, 父なる神に捧ぐ」『賛美歌』148番, ウィルバーク編曲, 未刊;「主のみたまは火のごと燃え」『賛美歌』3番, ウィルバーク編曲, 未刊

2007年3月31日土曜夜、神権部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トーマス・S・モンソン管長。開会の祈り——ウェイン・S・ピーターソン長老。閉会の祈り——ポール・V・ジョンソン長老。音楽——ブリガム・ヤング大学の神権者による聖歌隊;指揮——ロナルド・ステューリー;オルガニスト——ジョン・ロングハースト。“Rise Up, O Men of God,” *Hymns*, 324

番, ステューリー編曲, 未刊;「天父は灯台のごとく」『賛美歌』200番, ホブキンス編曲, 未刊;「いざ救いの日を楽しまん」『賛美歌』5番;“I Love the Lord,” 原曲——*Hymns*, 124番, ジョン・シアーズ・タナー詞, ステューリー編曲, 未刊

2007年4月1日日曜午前、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。開会の祈り——ロバート・K・デレンバック長老。閉会の祈り——高元龍長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——クレグ・ジェソップ, マック・ウィルバーク;オルガニスト——リチャード・エリオット, クレー・クリスチャンセン。「喜べ, 主を」『賛美歌』32番;「飼い主はわれを」『賛美歌』65番, ウィルバーク編曲, 未刊;「神の子です」『賛美歌』189番;「山の上に」『賛美歌』2番;“For He Shall Give His Angels to Watch Over Thee,” メンデルスゾーン, ジェソップ編集, 未刊;“When Faith Endures,” *Hymns*, 128番;「高きに栄えて」『賛美歌』180番, ゲーツ編曲, ジャックマン刊

2007年4月1日日曜午後、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トーマス・S・モンソン管長。開会の祈り——H・ロス・ワークマン長老。閉会の祈り——D・レックス・ジェレット長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——クレグ・ジェソップ, マック・ウィルバーク;オルガニスト——ボニー・グッドリッフェ。“From All That Dwell below the Skies,” *Hymns*, 90番, ウィルバーク編曲, 未刊;「心に光あり」『賛美歌』139番, ウィルバーク編曲, 未刊;「来たれ, 主の子女」『賛美歌』31番;「絶えず頼り主求む」『賛美歌』53番, ウィルバーク編曲, 未刊

2007年3月24日土曜夜、中央若い女性集会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——スーザン・W・タナー。開会の祈り——ヒラリー・オルセン。閉会の祈り——ロージー・バセツ

ト。音楽——ユタ州プロボの複数のステーキの若い女性による聖歌隊;指揮——メリリー・ウェブ;オルガニスト——リンダ・マーゲツ。「神の子です」『賛美歌』189番, ベリー編曲, 未刊(フレンチホルン——メアリー・ウッド-ランブロス);“If the Savior Stood Beside Me,” デフォード, デフォード編曲, 未刊;「主イエスの愛に」『賛美歌』109番, マヌーキン編曲, ジャックマン刊(フルート——キャサリン・エリンソン, ハープ——サラ・エドワーズ);「シオンの若者として」『リアホナ』2000年4月号, 24, ケーセン編曲, 改作, ジャックマン刊

総大会の収録物の入手

総大会の各部会を収録したものは、<http://www.lds.org> にアクセスすれば、多くの言語で聞くことができます。CDとDVDは、通常、教会管理本部配送センターから大会後2か月以内に入手できるようになっています。

インターネット上での大会説教

インターネットにより、多くの言語で総大会説教にアクセスすることができます。アドレスは次のとおりです。——<http://www.lds.org> にアクセスし、“Gospel Library”, “General Conference”の順にクリックし、言語を選択してください。(訳注——日本語版の文字データを閲覧するには、<http://www.ldschurch.jp> にアクセスし、「教会員の方へ」[ライブラリー]「総大会説教」の順にクリックしてください。)

ホームティーチングおよび家庭訪問

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとしては、訪問する会員の必要に最も適した総大会説教の一つを選んでください。

表紙の説明

表紙——写真/クレグ・ダイヤモンド
裏表紙——写真/ウェルデン・C・アンダーセン

大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。ソルトレーク・シティー——クレグ・ダイヤモンド, ウェルデン・C・アンダーセン, ジョン・ルーク, クリステイナ・スミス, レス・ニルソン, スコット・デイビス, ロッド・ボーム, エミリー・リーシュマン, ジェフリー・マカリスト, マーク・ワインバーク, コートニー・クリステンセン。ブラジル——ラウレニ・アダマール・フォチュット, アドリアーノ・カルバリオ・ベドビ。カナダ——デビッド・ズスキンド。グアテマラ——ビルナ・ロドリゲス。ホンジュラス——パブロ・アルチャガ, ルツ・フィゲロア, アルマンド・リバス, アルマンド・シエラ。ジャマイカ——デベン・ラウル。ペルー——フアン・マヌエル・リベラ・ガビラーノ。フィリピン——ダニエル・ソレタ。スウェーデン——マーク・ヘデングレン



リアホナ 2007年5月号
第9巻第5号(00785 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン、
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックス、M・ラッセル・バラード、
ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・
D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホルランド、ヘンリー・B・アイリング、
ディーター・F・ウークトドルフ、デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ジェンセン
顧問:ゲリー・J・コールマン、菊地良彦、ジェラルド・N・ランド、W・ダ
グラス・シャムウェー

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ

主任編集者:ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーグ

編集主幹:R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー、アダム・C・ホルソン

編集補佐:スーザン・パレット

編集スタッフ:クリスティー・バンス、リンダ・ステール・クーバー、デビッド・
A・エドワーズ、ラリー・ポーター・ガント、キャリー・カステン、メリッ
サ・メリル、マイケル・R・モリス、サリー・J・オデカーク、ジュディス・M・
パーラー、ピアノ・ポールセン、リチャード・M・ロムニ、ジェニファー・
ローズ、ドン・L・サール、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーク、
ジュリー・ワーテル、キンバリー・ウェッブ

主任秘書:モニカ・L・ディッキンソン

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロヨ、コレット・ネベカー・オース、ブリ
タニー・ジョンズ・ピーム、ハワード・G・ブ라운、ジュリー・パーデッ
ト、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリステンセン、キャスリー
ン・ハワード、エリック・P・ジョンセン、デニス・カービー、ランドール・J・
ピクストン

印刷ディレクター:クレーグ・K・セジウィック

配送ディレクター:ランディー・J・ベンソン

日本語版翻訳課長:ヘンリー・W・サグストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替
(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-
4151)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵
送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ
……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キ
リスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メール:liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書)に出ている言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、
以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウク
ライナ語、ウルドゥー語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア
語、ギリシャ語、キルギス語、クワチア語、モザンビーク語、シンハラ語、スウェー
デン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、タミ
ル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、
ルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、ヒスラマ語、ヒンディー語、フィジー語、
フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガ
ル語、マーシャル語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リトアニア語、
ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2007 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷/日本
「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭におい
て臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。
視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている
場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、
Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール—
cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org (英語)に様々な言語で
掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をク
リックしてください。その他の言語は言語名をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

May 2007 no. 5 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is
published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East
North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA subscription price is \$10.00 per
year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt
Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include
address label from a recent issue; old and new address must be included.
Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at
address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders
(Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada
Postage Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center,
Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



話者リスト(50音順)

アイリング、ヘンリー・B、……89
アンダーセン、ニール・L、……74
ウークトドルフ、ディーター・F、……99
オックス、ダリン・H、……70
菊地 良彦、……97
コールマン、ゲリー・J、……92
ジェンセン、ジェイ・E、……11
ジェンセン、マーリン・K、……36
スコット、リチャード・G、……8
ダークウイスト、チャールズ・W・
2世、……94
タナー、スーザン・W、……106
ダルトン、イレイン・S、……112
ディクソン、ジョン・B、……14
ティンギー、アール・C、……29
ネルソン、ラッセル・M、……102
パーキン、ボニー・D、……34
バートン、H・デビッド、……32
バックナー、ボイド・K、……26
バラード、M・ラッセル、……80
ヒンクレイ、ゴードン・B、
……43, 60, 83, 105, 115
ファウスト、ジェームズ・E、
……39, 54, 67
ベイス、グレン・L、……78
ヘイルズ、ロバート・D、……48
ベック、ジュリー・B、……109
ベドナー、デビッド・A、……19
ベリー、L・トム、……85
ホルランド、ジェフリー・R、……16
マクマリン、キース・B、……51
松森、ビッキー・F、……76
モンソン、トーマス・S、
……4, 22, 41, 57
ワースリン、ジョセフ・B、……45

祈り ……8, 76, 94, 115
癒し ……67, 70
永遠の命 ……22
覚える ……36
親の務め ……94
音楽 ……11, 26
か改宗・改心 ……11, 19, 102
回復 ……83, 85, 92
家族 ……54, 76
活発化 ……85, 109
家庭の夕べ ……105
神の性質 ……94, 106
感謝 ……34, 57
義 ……51, 54
犠牲 ……80, 94, 109
希望 ……102
逆境 ……34, 78, 94
虐待 ……16
教育 ……54
教会機関誌 ……105
教会歴史 29, 32, 36, 39, 43
清さ ……60
聖め ……19
勤勉 ……45, 51
悔い改め ……99, 102, 109
敬虔さ、ひげけん
……11
啓示 ……92
決意 ……14, 48
結婚 ……16, 70, 105
謙遜 ……67
高潔 ……45, 60
個人の価値 ……106
言葉 ……16
さ賛美歌 ……11, 94
自己満足 ……89
自立 ……51
従順 14, 45, 48, 60, 94, 97
什分の一 ……57, 97, 115
正直 ……45, 76
神会 ……83, 92
神権 ……54, 57, 85
信仰 ……8, 41, 48, 67,
74, 76, 78, 97, 109, 115

親切 ……105
スミス、ジョセフ ……78, 80
聖書 ……80
青少年 ……14
聖文 ……76, 80, 115
聖約 ……19, 76, 112
聖霊 ……26, 78
責任 ……54
選択の自由 ……94
総大会 ……41, 105
備え ……48, 51
た タバナクル
……26, 29, 32, 39, 41, 43
知恵の言葉 ……14
父なる神 ……8
慎み深さ ……112
伝道活動 ……11
徳 ……112
は 励まし ……16
バプテスマ ……41, 92
引き延ばし ……89
標準 ……14
ヒンクレイ、ゴードン・B ……29
負債 ……51
ふさわしさ ……57
復活 ……22
平安 ……8
奉仕 ……45, 85, 89
ま 目標 ……45
模範 ……106, 109
モルモン書 ……92
や ヤング、プリガム ……29
勇氣 ……45, 57, 78
優先順位 ……74
赦し ……67, 99
預言者 ……29, 32, 39
5 離婚 ……70
靈感 ……26
霊的な再生 ……19
礼拝 ……11
わ 若い女性 ……109

教会役員の支持

大管長会第一顧問

トーマス・S・モンソン管長



ヒンクレー大管長の依頼により、これから、教会の中央幹部、地域七十人、ならびに中央補助組織会長会の名前を提議しますので、賛意の表明をお願いします。単に手を挙げるだけでなく、わたしたちすべてが心からの聖約のしるしとして行うことができますように。

預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてゴードン・ビトナー・ヒンクレーを支持して下さるよう、また、大管長会第一顧問としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第二顧問としてジェームズ・エスドラス・ファウストを支持して下さるよう提議します。

賛成の方は手を挙げてその意を表してください。

反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

十二使徒定員会会長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、十二使徒定員会会長代理としてボイド・ケネス・パッカーを、また十二使徒定員会会員として、ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・

M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング、データー・F・ワークトドルフ、デビッド・A・ベドナーを支持して下さるよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

大管長会顧問、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持して下さるよう提議します。

賛成の方は皆、その意を表してください。

反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

2007年5月1日をもって、次の各長老を地域七十人から解任するよう提議します。D・アレン・アンダーセン、C・エルマー・ブラック、イルデフォンソ・デ・カストロ・デウス、オスカー・W・チャベス、エクター・A・ダバロス、カルロス・R・フェルナンデス、カルロス・J・ガルシア、ジョン・R・ギブソン、ホセ・L・ゴンザレス、パウロ・グラール、ビーバー・T・ホー・チン、イマニエル・A・キッシー、エリック・W・コピシュカ、G・ステイブン・レーニー、バリー・リー、ジェームズ・B・マクドナルド、ジェラルド・A・ミード、ホルヘ・メンデス、ロドリゴ・ミラ、カルロス・A・ベレス、リチャード・G・ピーターソン、エリック・B・シャムウェー、ジョセフ・W・シターティ、A・キム・スミス、W・ブレイク・ツネ、ゲーリー・M・ステュアート、マイケル・J・テー、ロバート・B・ホワイト、ジョン・W・ヤードレー。

感謝の意を表明して下さる方は、その意を表してください。

七十人第一定員会の新しい会員として、エンリケ・R・ファラベラ、エリック・W・コピシュカ、マイケル・J・テー、オクタビアナ・テ



ノリオ、クラウディオ・D・シビックを支持して下さるよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

以下の人々を新たに地域七十人として支持して下さるよう提議します。リチャード・K・アハジ、ルーベン・V・アレー、クリマト・C・A・アルメイダ、セリオ・M・アナヤ、ウィルフォード・W・アンダーセン、フェルナンド・J・D・アルージョ、ノーラン・D・アーチボルト、カルロス・L・アストル



大会の部会終了後にゴードン・B・ヒンクレー大管長とあいさつを交わす十二使徒定員会のヘンリー・B・アイリング長老(左)とジェフリー・R・ホランド長老(中央)。

ガ、エクター・アビラ、マービン・T・ブリンカーホフ、M・アンソニー・バーンズ、デビッド・カブレラ、ラファエル・E・カストロ、ジェラルド・J・カセ、ロバート・E・チェンバーズ、^{チェ} ^{ユーンフワン} 崔 崙 煥、キム・B・クラーク、デビッド・L・クック、ネルソン・D・コルドバ、ゲリー・L・クリッテンデン、スティーブン・L・フルッキガー、ヨベンシオ・A・グアンソン、マリオ・E・ゲーラ、ルイス・S・エルナンデス、ギャリス・C・ヒル、フレデリック・C・イシエネ、デビッド・H・イングラム、

^{いしいてつじ} 石井 哲志、カプンバ・T・コーラ、リチャード・K・メルチン、R・ブルース・メレル、ピーター・F・メウルス、ベンソン・E・ミサルチャ、エンリケ・J・モントーヤ、K・ブレット・ナトレス、ラッセル・T・オズガソープ、ガマリエル・オソルノ、パトリック・H・ブライス、パウロ・R・プエルタ、ルーベン・L・スピタレ、ナタ・C・トビアス、フランク・V・トライソル、テレンス・M・ビンソン、タニエラ・B・ワコロ、リチャード・W・ウィーラー、スコット・D・ホワイトティング。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

わたしたちは、心からの感謝をもって、中央扶助協会会長会のボニー・レイ・ダンシー・パーキン、キャスリーン・ハースト・ヒューズ、アン・クラーク・ピングリーを、解任するよう提議します。これに伴い扶助協会中央管理会をすべて解任します。

わたしたちはまた、中央若い女性会長会顧問のジュリー・バンガター・ベックと

イレイン・シュワーツ・ダルトンを解任するよう提議します。

彼女たちの卓越した働きと献身に、感謝の意を表明して下さる方は、その意を表してください。

わたしたちは、ジュリー・バンガター・ベックを中央扶助協会の新しい会長として、シルビア・エンリケス・オールレッドを第一顧問、バーバラ・トンプソンを第二顧問として支持して下さるよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

わたしたちは、イレイン・シュワーツ・ダルトンを中央若い女性会長会第一顧問として、メアリー・ニールセン・クックを第二顧問として支持して下さるよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

そのほかの中央幹部、地域七十人、中央補助組織会長会を現状のまま支持して下さるよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

ヒンクレー大管長、提議は、全員一致で賛成の表明が得られたようです。

兄弟姉妹の皆さんの信仰と祈りに感謝します。

2006年度 教会監査部報告

教会監査部実務運営ディレクター
ロバート・W・キャントウェル提出

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会に対して提示

愛する大管長会の皆さん。教義と聖約第120章の啓示に定められているように、教会基金の支出の承認は、^{じゅうふん} 什分の一配分評議会が行います。同評議会は、大管長会、十二使徒定員会および管理ビショップリックで構成されており、教会の各部門と運営組織の予算を承認します。評議会により承認された後、教会の各部門は、承認された予算のとおり、教会の方針と手続きに従って基金を使います。

教会監査部は、基金の収支と教会資産の保全が適切に管理されているかを監査するうえで必要な、あらゆる記録やシステ

ムから情報を入手する権利があります。教会監査部は、教会のほかのあらゆる部門や運営組織から独立しており、監査を実施する人々は、公認会計士、公認内部監査人、公認情報システム監査人、そのほかの資格ある専門家によって構成されています。

監査の結果、教会監査部では、2006年度において、教会のすべての資材、献金や寄付、支出、および教会資産は、適切な会計と承認された予算、および教会の方針と手続きに従って記録し、管理されているという見解に達しました。

以上、謹んでご報告いたします。

教会監査部
実務運営ディレクター
ロバート・W・キャントウェル



2006年度統計報告

大管長会秘書

F・マイケル・ワトソン提出

兄 弟姉妹の皆さん、大管長会は、2006年12月31日現在の会員数の増加と活動状態を示す以下のような記録を発表しました。

教会ユニット数

ステーク 2,745
伝道部 344
地方部 630

ワードと支部の合計 27,475

教会員数

教会員総数 12,868,606
記録上の子供数の増加 94,006
バプテスマを受けた改宗者 272,845

宣教師

専任宣教師数 53,164

神 殿

2006年に奉献された神殿数 2
(カリフォルニア州サクラメント神殿,
フィンランド・ヘルシンキ神殿)
2006年に再奉献された神殿数 2
(チリ・サンティアゴ神殿,
タヒチ・パペーテ神殿)
儀式が執行されている神殿数 124

2006年4月以降に他界した 著名な教会員

デビア・ハリス長老 (元七十人会員)
スペンサー・H・オズボーン長老 (元七十人会員)
エリサ・ヤング・ロジャーズ・ワースリン姉妹 (十二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老夫人)
ノーマ・バーンストン・アシュトン姉妹 (元十二使徒定員会会員のマービン・J・アシュトン長老夫人)
ドロシー・ポーター・ホルト姉妹 (元中央若い女性会長会顧問)



大会の衛星放送に集まったジャマイカ・リンステッド地方部の会員と宣教師たち。

祈りという 天^た与^{まも}の賜物^のを用いる

十二使徒定員会

リチャード・G・スコット長老

祈りは天の御父からわたしたち一人一人への、この上ない贈り物です。



この大会は、壮大なモルモンタバナクル合唱団による「祈りは楽しき」という伝統的な賛美歌で始まりました。深遠で感動的な歌でした。祈りは、愛にあふれ哀れみ深い天の御父が快く与えてくださる慰め、安堵、保護の源であることを、このなじみ深い歌詞は思い起こさせてくれます。

祈りという賜物

祈りは天の御父からわたしたち一人一人への、この上ない贈り物です。考えてみてください。絶対に至高の存在であり全知全能の御方が、取るに足りないわたしたちに、御父として話しかけるよう励ましてくださっているのです。実際、わたしたちには御父の導きが何としても必要で

あることを御存じなので、「あなたは心の中で祈るだけでなく、声にも出して祈りなさい。隠れて祈るだけでなく、世の人々の前でも祈り、ひそかに祈るだけでなく、公にも祈りなさい」とお命じになっているのです。

状況にかかわらず、また謙虚であろうと尊大であろうと、貧富の差や学問の有無、自由の身かとらわれの身かにも関係なく、愛情を受けて育ったか否かにもかかわらず、わたしたちは神に語りかけることができます。事前に予約を入れる必要もありません。願いの言葉は、簡潔なものでも、必要なだけ時間をかけたものでもかまいません。愛や感謝を伝える祈りでも、必死に助けを願い求める祈りでもよいのです。神は数え切れないほどの宇宙を創造し、それらの世界に人を送ってこられました。にもかかわらず、皆さんやわたしは御父と直接話をすることができ、御父は常にこたえてくださるのです。

どのように祈るべきか

わたしたちは天の御父の愛子イエスキリストの聖なる御名により祈ります。ふさわしい動機をもって、清く従順になろうと努めるとき、そして進んで御父の望まれるように行おうとするとき、祈りは効力を最大限に発揮します。謙虚に、そして神を信頼して祈るなら、指示と平安がもたらされます。

天の御父に気持ちを上手に伝えられな

いのでは、と心配する必要はありません。哀れみと思いやりに満ちた御父にただ話しかければよいのです。皆さんは御父の大切な子供であり、御父は皆さんをこの上なく愛し、助けたいと思っておられます。祈りながら、天の御父が近くにおいて耳を傾けておられることを心で感じてください。

よりよい祈りへの鍵は、正しい質問ができるようになることです。欲しいものを願う祈りから、御父が自分に望んでおられることは何かを誠実に求める祈りへと変えてみてはどうでしょうか。御心が分かかったら、次に、御心を行う強さを得られるよう祈ってください。

御父との間に距離を感じたことがあるとすれば、それには多くの原因が考えられます。原因が何であれ、助けを嘆願し続ければ、御父が近くにおられるという確信を取り戻すためにすべきことを、御父は教えてください。祈る気持ちになれないときでも祈ってください。時には誤った振る舞いをしてしまい、子供のように、問題のあるままでは御父に近づけない、と感じることもあるでしょう。そういうときこそ祈る必要があります。ふさわしくないから祈れないなどは決して思わないでください。

急を要する、どうしようもない問題に直面し、解決する力が自分にはないと気づいて初めて、計り知れない祈りの力を真に理解することがあります。そのようになると、自分がまったく御父に依存していることを謙虚に認め、御父に頼るようになります。そんなとき、必要なだけ長く、そして熱心に気持ちを言葉に出せるよう、独りになれる場所があれば助けになります。

わたしもそのようにしたことがあります。とても不安に駆られる経験をしたときのことで、不従順や背罪とは関係のないことですが、非常に大切な人間関係にかかわることでした。しばらくの間、わたしは心を注ぎ出すように熱烈に祈りました。しかしどんなに努力しても解決方法は見つからず、かき乱された心が平安を取り戻すことはありませんでした。わたしは御父に、すなわち自分が知るようになり、完全に信頼するようになった永遠の御父

にひたすら助けを請い求めました。それでも心に平安を与えてくれる道はなかなか見いだせませんでした。その平安こそ、いつもなら享受している祝福でした。そのうちにわたしは、睡魔に負けて眠ってしまいました。すると目覚めたとき、平安に包まれていたのです。再びわたしはひざまずいて厳かな祈りをささげ、「主よ、どうしてこのようにされたのですか」と尋ねました。そしてその答えは、御父のわたしへの愛と思いやりであったことを悟りました。これが哀れみ深い御父にささげる心からの祈りの力なのです。

わたしはヒンクレー大管長が集会で祈りをささげるのに耳を傾けることで、祈りについて多くを学んできました。皆さんも、2001年10月、御父の世界中の子供たちに向けて開かれた大会²で大管長がささげた閉会の祈りを注意深く研究すれば、大管長から学ぶことができます。大管長は準備された原稿を読んだのではなく、心からの祈りをささげました。(大管長のこの祈りをメッセージの最後に掲載しますので、参照してください。)²

その祈りを研究すれば、時折見受けられる無益な繰り返しも、人にいいところを見せようという態度もまったくないことに気づくでしょう。大管長は簡単な言葉をつなげて、力強く祈っているのです。そして愛する天の御父をよく知る、謙虚で信じて疑わない息子として祈っています。御父の答えは最も必要なときに与えられるということに絶大な信頼を置いています。祈るときはいつも、目的に沿った言葉を用い、何を解決したいのかをはっきり述べ、自分が認識している具体的な祝福に対して十分な感謝を表すべきです。大管長が飾ることなく述べた祈りは、丹念に磨かれた宝石のようであり、長年祈りが生活の中で欠かせない位置を占めてきたことを静かに証しています。

祈りはどのようにこたえられるか

祈りはどのようにこたえられるか、ということに関する真理は、皆さんの助けになるかもしれません。

重大な事柄への助けを求めて祈る際、



天の御父はよく、穏やかな促しを与えてくださいます。そのような促しはわたしたちに、考え、信仰を働かせ、取り組み、時には苦しみ、そして行動することを求めます。それは、わたしたちが靈感された答えを識別できるようにする、順を追ったプロセスなのです。

時折、主から答えを受けるうえで乗り越えられない障害のように思える状況に遭遇します。しかしそのような状況は、主を信頼して踏み出す大きな一歩となることに、わたしは気づきました。答えを全部すぐに与えられることはめったにありません。わたしたちが成長して力を増し加えられるよう、一度に少しずつ与えられるのです。一つ一つの答えも信仰があってこそ得られるもので、少しずつ導かれて、ついには、全部の答えを得るに至るのです。この手順を踏むには、御父がこたえてくださるという信仰を働かせることが求められます。この手順がとても難しいときもありますが、結果として大きく成長することができるのです。

御父はいつでも皆さんの祈りを聞いてくださり、常にこたえてくださいます。しかしひざまずいて祈っている間に答えを受けることはめったにありません。たとえ今すぐに答えが欲しいと懇願していてもです。むしろ御父は、御霊が皆さんの思いと心に最も効果的に影響を及ぼせる静かな時間に導きを与えてくださいます。そのため、指示を受け、力を得ていることを認識できる静かな時間を意識して作る必要があります。そうすれば御父の方法により皆さんは成長することができます。

デビッド・O・マッケイ大管長はこのように証しています。「祈りの答えは必ずしも直接的でなく、望んでいるときに、期待しているような方法で与えられるとは限らないことは確かです。けれども、答えは必ずやって来ます。願い求める人にとって最も良い時と方法で与えられます。」³ですから、答えを得るまでの長い間、時折神が皆さんを苦しむままにしておかれることに感謝しましょう。皆さんの人格が培われ、信仰が増すのです。この二つの事柄には相関関係があります。つまり信仰が増せば増すほど、人格が培われます。そして人格が培われると、より大きな信仰を働かせることができるようになるのです。

時折、主は皆さんが尋ねる前に答えを下さることがあります。このようなことは、皆さんが危険に気づかないときや、間違っただけのことをしているのに正しいことをしていると思こんでいるときに起こり得ます。

強く望んでいることについて心から祈っていて、思いどおりの答えが返ってこないときは、とてもつらいものです。従順な生活を送り、大きな信仰を心から働かせたのに、どうして望んでいた結果が得られなかったのかを理解するのは難しいものです。救い主はこのように教えられました。「あなたがたがわたしの名によって父に求めるもので、あなたがたにとって必要なものは何でも、与えられるであろう。」⁴長い目で見ると何が最良なのか、何が必要なのか見分けるのが難しいときがあります。しかし、神が皆さんの生涯で行われることは永遠の観点から見て皆さんのためになるということを受け入れる



と、人生が楽になります。

皆さんは自分の祈りに対する答えを求めるように言われています。⁵「心の中でそれをよく思い計〔る〕」⁶ ようにという主の勧めに従ってください。自分で解決策を考え、出した答えが正しいか確認を求めるときに、助けが与えられることが往々にしてあります。それは祈りを通して、または聖霊の影響として与えられる場合もあり、時にはほかの人がかかわって与えられることもあります。⁷

オリバー・カウドリに与えられた祈りについての導きは、皆さんにも役立つでしょう。「見よ、……あなたはわたしに求めさえすれば、何も考えなくてもわたしから与えられると思ってきた。

……あなたは心の中でそれをよく思い計り、その後、それが正しいかどうかわたしに尋ね〔なさい。〕もしそれが正しいければ、……あなたの胸〔は〕内から燃〔える〕であろう。〕それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。〕⁸

答えは、確信が伴う感情として与えられます。救い主は二つある回路を明確にしておられます。「聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう。〕⁹

思いと心への答えは、聖霊からわたしたちの霊へのメッセージです。わたしにとって思いへの答えとは、明確に語られた言葉のようにとっても具体的なものですが、心への答えは少し漠然としていて、例えば「もっと祈りたい」という気持ちとなって表れます。¹⁰

さらに主は、このように明確にしておられます。「しかし〔もしあなたが提案したことが〕正しくなければ、……思いが鈍く

な〔る。〕」¹¹ わたしにとってそれは落ち着かない、不安な気持ちのこです。

オリバー・カウドリは肯定的な答えが与えられる別の方法を教わりました。「わたしはこの件についてあなたの心に平安を告げなかったであろうか。〕¹² 平安な気持ちは確認の証であり、わたしが個人的に経験する中で最もよく受けるものです。ある重要なことでとても心を悩まし、解決しようともがいてもうまくいかなかったとき、わたしは信仰をもって努力を続けました。後に御父が約束されたように、平安に満たされ、わたしの問題は解決しました。

聖文に記された効果的な祈りの原則を理解すれば、祈りに関する誤解は幾らか解けるでしょう。しかし、それらの原則をもってしても、答えがいつ与えられるかは確定できません。実際、御父は三つの方法のうちから一つの方法でこたえてくださいます。一つ目の方法として、自分の決断が正しいという確認を与える平安と慰め、確信を感じることがあります。あるいは二つ目の方法として、気持ちが落ち着かず、思いが鈍くなれば、自分の選択が間違っていることが分かります。または三つ目ですが、これは難しい方法です。答えを感じられないという方法です。

入念に準備し、熱心に祈り、答えを受け取るのに必要なだけの間待ったのに、それでも答えを感じられない場合、皆さんはどうしますか。そのような場合、それは御父の信頼の証であるため、感謝した方がよいかもしれません。ふさわしい生活を送っており、その選択が救い主の教えと一致していて、そして行動を起こさなければならぬのであれば、信頼を胸に

前進してください。御霊の促しに敏感であれば、二つのうちのいずれかが必ず適切なきに起こります。つまり思いが鈍って不適切な選択であったことが示唆されるか、平安を感じたり胸の内が燃えたりするのを感じ、選択が正しかったことが確認されます。皆さんが義にかなった生活を送っていて、神を信頼して行動しているならば、間違った決定をしている場合、神は警告的な気持ちを与えないまま、皆さんが進みすぎてしまうのを黙って見ているようなことはされません。

祈りという賜物に対する感謝

祈りの大切な側面は感謝です。イエスはこう宣言されました。「すべてのことの中に神の手を認めない者と、神の戒めに従わない者のほかに、人はどのようなことについても神を怒らせることはない……。〕¹³ 祈りという比類ない賜物とそこから得られる無限の祝福についてよく考えると、真の喜びがわたしたちの思いと心を満たし、感謝でいっぱいになります。ですから、わたしたちは絶えず心から、力を尽くして、愛する御父に絶えることのない感謝を伝えるべきではないでしょうか。祈りという至高の贈り物を下さったことへの感謝、そしてわたしたちを成長させ、必要に最も合った答えを下さることへの感謝をささげるのです。

御父がいつでも皆さんの祈りに対して、永遠の観点から見て最良の方法で最良の時期にこたえてくださることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 教義と聖約19:28
2. 「永遠の父なる神よ、あなたは大きいなる万国の裁き主、宇宙の統治者であり、わたしたちの御父にして神であられます。わたしたちはあなたの子どもであり、この暗い厳粛な時に当たり、信仰をもってあなたに心を向けています。愛する御父よ、どうかわたしたちが信仰を持てるように祝福してください。愛を持てるように、心の中に慈愛を持てるように祝福してください。この世にある恐ろしい悪を

なくすため、忍耐の精神を持てるように祝福してください。現在戦いに従事している人々に保護と導きをお与えください。彼らを祝福し、命を守り、危害と悪から救ってください。彼らの愛する者たちの安全を求める祈りをお聞きください。わたしたちは世界の偉大な民主主義のために祈ります。その政府の創設はあなたが見守ってくださったものであり、そこには平和と自由、そして民主的なプロセスが存在しています。

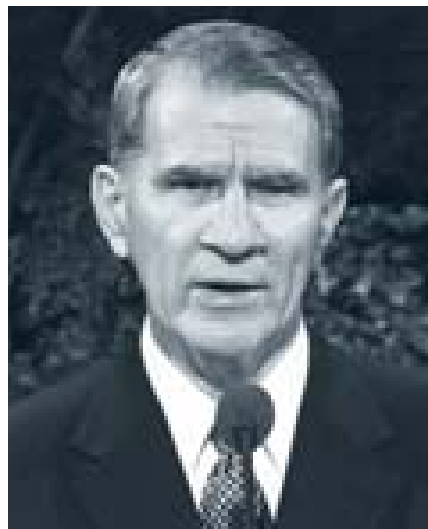
御父よ、助けを必要とするこの時期にあつて、わたしたち自身の国家とその友を憐れみの目で御覧ください。わたしたちの命を守り、あなたとあなたの愛される御子を信じる信仰をもって歩めますように助けてください。わたしたちは御子の憐れみに頼り、わたしたちの主なる救い主としてあがめています。平和の業を祝福し、再び速やかに平和を回復してください。わたしたちはへりくだって請い求めます。どうか、わたしたちの傲慢さを赦し、罪を見過ごし、親切と寛大さをもってお計らいくださいますように、また人々の心をあなたに向けさせてくださいますように。わたしたちすべてを愛しておられる御方、すなわち主イエス・キリスト、わたしたちの贖い主、救い主の御名によってへりくだりお祈りします。アーメン。」「(また逢うまで)『リアホナ』2002年1月号、105)

3. Conference Report, 1969年4月, 153
4. 教義と聖約88:64, 強調付加。63, 65節も参照
5. 教義と聖約6:23, 36; 教義と聖約8:2-3, 10; 教義と聖約9:9参照
6. 教義と聖約9:8
7. スペンサー・W・キンボール, *The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編(1982年), 252参照
8. 教義と聖約9:7-8, 強調付加
9. 教義と聖約8:2-3, 強調付加
10. エノス1:3-5, 9-10参照
11. 教義と聖約9:9
12. 教義と聖約6:23, 強調付加
13. 教義と聖約59:21

賛美歌の持つ 養いの力

七十人
ジェイ・E・ジェンセン長老

賛美歌は、霊性を高め、啓示を招き、改心を促すに当たって欠かすことのできない役割を果たしてくれます。



夕 バナクル合唱団のすばらしい歌声に耳を傾けていると、靈感された説教を聞いているような気持ちになります。実際に「賛美歌を歌うことが、すばらしい説教になることもあります。」「¹ 少年時代、シオンの賛美歌を歌うことから大きな影響を受けたわたしは、回復された福音について証を得て、改心しました。わたしはユタ州のメイプルトンという小さな町で育ち、今では「古ぼけた白い教会」と呼ばれている建物で集会に参加していました。95歳になる母は今もメイプルトンに住んでいます。母を訪ねる途中、「古ぼけた白い教会」のそばを通ると、数多くの懐かしい思い出がよみがえります。神権会や日曜学校、そして聖餐会で賛美歌を歌ったときに改心の力を感じ

たことも思い出の一つです。わたしの経験は、まだ執事だったころのヒンクレイ大管長の経験と似ています。父親とステークの神権会に出席し、賛美歌「たたえよ、主の召したまいし」²を歌ったときのことについて、大管長は後にこう語っています。「わたしはジョセフ・スミスが確かに神の預言者であると感じました。以来、その気持ちが薄れたことはありません。」「³ 同じ経験を度々している聖徒もたくさんいると、わたしは確信しています。賛美歌は、霊性を高め、啓示を招き、改心を促すに当たって欠かすことのできない役割を果たしてくれます。

賛美歌は御霊を招く

賛美歌は「教会の集会に欠かすことができません。賛美歌は主の御霊を招きます。」「⁴ また、賛美歌を通して、ほかのどのような手段よりも早く御霊を感じるということがよくあります。J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長は次のように言いました。「祈りを除けば、恐らくわたしたちは音楽を通して最も主に近づくことができます。」「⁵

ペルーで伝道していた一組の宣教師が、ある年配の夫婦の自宅で福音を教えていました。そこへ息子夫婦が3人の子供を連れて入って来ました。長老たちは自分たちが宣教師で、福音を教えていたことを説明しましたが、息子は宣教師たちを信用できない様子で、気まずい雰囲気になりました。後輩の宣教師は心の中



で「天のお父様、どうしたらよいですか」と祈りをささげました。歌いなさいという気持ちを感じ、二人は「神の子です」⁶を歌いました。御霊が家族5人の心を和らげました。賛美歌から影響を受けたことがきっかけとなり、この家族は2人だけでなく7人全員が改宗したのです。

教会の集会やクラスにおける音楽は、礼拝と啓示と証の霊を招くものでなければなりません。聖餐会の音楽を選ぶ、または承認する責任はビショップリックと支部会長会にあります。ビショップリックは、メロディー、歌詞、楽器が神聖かつ厳かで、礼拝と啓示を促すものであるよう取り扱われます。音楽そのものが注目を集めるようでは単なる音楽発表になってしまいます。何年も前のことですが、ある集会で音楽の責任を受け、特別な音楽発表を行いました。結果は残念なものでした。礼拝の霊が損なわれてしまったのです。

賛美歌は啓示を招く

賛美歌は「敬虔な雰囲気をかもし出します」⁷。敬虔さと啓示という言葉は、仲の良い双子のようなものです。大管長会と十二使徒の集会に七十人と管理ビショッ

リックも同席するとき、わたしたちは早めに到着し、敬虔な気持ちで前奏曲に耳を傾けるよう指示を受けます。そうすることによって啓示を招き、集会に備えることができるからです。

バッカー会長は次のように教えています。オルガニストが「前奏曲の賛美歌を静かに演奏するのを聞くと、わたしたちは心が静まり、王国にかかわる平和をもたらす事柄を教える歌詞を心に思い浮かべることができるようになります。なぜなら、福音の回復を歌う賛美歌は、まさに教義を教えるレッスンとも言えるものだからです。」⁸

賛美歌は改心を促す

回復の賛美歌には改心の霊が宿っています。これらの賛美歌は犠牲のうえに生まれました。回復の偉大な真理には、天の御父と御子の神性、贖いの計画、啓示、末日の聖典、イスラエルの集合、聖なる神権、儀式と聖約などが含まれますが、「たたえよ、主の召したまいし」⁹「恐れず来たれ、聖徒」¹⁰「イスラエルの長老たちよ」¹¹「感謝を神に捧げん」¹²「イスラエルの救い主」¹³をはじめとする多くの賛美歌は、これらの真理をさらに力強いものにして

くれます。これらの賛美歌には養いの力があり、それが作り出す雰囲気はわたしたちを改心に導く御霊を招きます。

礼拝の賛美歌がなかったとしたら、聖餐会はどれほど不完全でむなしなものとなってしまいませんか。¹⁴ 賛美歌の中で特に神聖なのは、イエス・キリストの犠牲、万人のために救い主が流された血と、無限の贖いを歌ったものです。

わたしが救い主の癒しの力を感じた最初の記憶は、聖餐の賛美歌に関連したものです。「主イエスの愛にただ驚く 恵みの深きにわれ惑う」¹⁵ わたしにとってこの歌詞はまさに真実です。

贖いの教義についてのわたしの理解は賛美歌と結びついています。次の歌詞がそれをよく表しています。

救いの計画 いかにかに^{とうと}尊し
憐れみと愛の 神の恵み^{あわ}¹⁶

子供に賛美歌を教えるのは家庭から

賛美歌を歌ったり適切な音楽を聴いたりする習慣は家庭で始めなければなりません。大管長会は次のように教えています。

「末日聖徒は、家庭を価値ある音楽で



満ちあふれさせなければなりません。

……〔この賛美歌集が〕家庭の中にあって、聖典や他の霊的な書物などとともに、大切に扱われるように願っております。賛美歌は家庭に、美と平和を愛する心をもたらし、家族同士の愛と一致を強める力を持っています。

子供たちに賛美歌を愛するように教えてください。安息日や〔家庭の〕夕べ、また聖典を学ぶときや祈りのときにも歌うようにしてください。そして、働くときにも、遊ぶときにも、家族で旅行をするときにも歌ってください。小さな子供たちに、子守り歌として賛美歌を歌って聞かせ、信仰と証を築く一助としてください。』¹⁷

賛美歌を通して礼拝をより有意義なものとする

賛美歌についてわたしが学んだ大切な教訓を次に挙げます。わたし自身も実践したいと願っている事柄です。

1. もっと時間に余裕をもって集会に到着し、静かに座って前奏曲に耳を傾け、敬虔な気持ちで啓示を受けられるよう努力する。

2. 集会后、後奏曲を聴き、御霊が引き

続きとどまるよう、さらに敬虔な気持ちで退室する。

3. 賛美歌を歌う。賛美歌集が手もとにあっても歌わない人がいます。

4. 集会和テーマにふさわしい賛美歌を選ぶ。

5. レッスンやクラスで、聖文や福音の真理を紹介したり強調したりするために賛美歌を使う。

6. 御霊があふれるよう、家庭でもっと賛美歌を聴く。

わたしたちが生活の中からあらゆる不適切な音楽を取り除き、大管長会の次の教えに従うことができるように祈ります。「兄弟姉妹の皆さん、賛美歌を歌い、主の御霊をわたしたちの集いに、家庭に、個人の生活の中に招き入れましょう。賛美歌を覚え、歌詞について深く考えましょう。また、暗唱して歌いましょう。そして賛美歌の持つ霊的な糧にあずかるうではありませんか。義人の歌は天の御父に対する祈りであって、『それに対する答えとして、〔わたしたちの〕頭^{こうべ}に祝福が注がれる』ことを心に留めてください。』¹⁸ これが確かに真実であることをイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

注

1. 『賛美歌』9ページ
2. 『賛美歌』16番
3. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 399
4. 『賛美歌』9ページ
5. Conference Report, 1936年10月, 111
6. 『賛美歌』189番
7. 『賛美歌』9ページ
8. 「啓示をもたらす敬虔さ」『聖徒の道』1992年1月号, 24
9. 『賛美歌』16番
10. 『賛美歌』17番
11. 『賛美歌』196番
12. 『賛美歌』11番
13. 『賛美歌』4番
14. 安息日や家族の礼拝に賛美歌が欠かせないように、クリスマスにも賛美歌やクリスマスキャロルがとても重要です(『賛美歌』116-128番参照)。
15. 「主イエスの愛に」『賛美歌』109番
16. 「高さに満ちたる」『賛美歌』112番
17. 『賛美歌』10ページ
18. 『賛美歌』10ページ

主と約束する

七十人

ジョン・B・ディクソン長老

この死すべき試しの生涯においてどのような人になりたいのか、今こそ主と約束をする時です。



兄 弟姉妹の皆さん、おはようございます。今朝は、ディクソン姉妹とわたしが自分の家族に話すように、教会の若人に話したいと思います。

皆さんは並外れて優れた世代の若者です。わたしたちの跡を継ぎ、すぐに家庭、職場、地域社会や教会において指導者となるでしょう。

天の御父は皆さん一人一人を愛しておられ、目的をもって皆さんを地上に送られました。そして幸福の計画を明らかにされ、この計画に従うならば、この世の試練や困難に打ち勝ち、やがて御父のみもとに戻れるようにしてくださいました。主の定められた規範に従って生活することを今、決意してください。そうすれば大きな力が与えられ、道徳的な選択の自由を正しく使うことができるでしょう。自分の心に決意し、その決意を貫くことを主に約束することはきわめて重要です。詩篇では、

「あなたの道を主にゆだねよ（訳注——「ゆだねよ」に当たる英語のcommitには、「約束する」と「ゆだねる」の両方の意味がある）。……主はそれをなしとげ〔られる〕と教えられています（詩篇37：5）。

皆さんは世の始めから待ち望まれていた時代、すなわち主の再臨に先立つ時代に地上へやって来ました。それは、一方ではイエス・キリストの福音が完全な形で回復される時であり、他方では不安や混乱、邪悪が満ちる時でもあります。皆さんが生まれてきたこの試しの世は、偉大な機会に恵まれたすばらしい場所ですが、同時にまた、人の魂までも脅かす大きな危険のある所でもあります。この死すべき試しの生涯においてどのような人になりたいのか、今こそ主と約束をする時です。両親や生ける預言者、聖文と同じように、聖霊は皆さんが正しいことと間違ったことを識別し、正しい決定を下せるよう助けてくださいます。

皆さんが『若人の強さのために』を祈りの気持ちでよく学び、何度も読み返し、要約版を財布などに入れていつも持ち歩くように願っています。『若人の強さのために』に書かれている規範に従って生活することを今、心に決めるなら、この世においても永遠にも、大きな喜びを得ることができるでしょう。

若いときに決意をしておく、どのような助けが得られるかを、一人の教会指導者の体験を基に話しましょう。まだ若かったとき、彼は常に知恵の言葉を守り、アルコールを飲まず、たばこを吸わないと心に決めました。何がきっかけとなっ

たかは覚えていませんが、心の中でこの大切な決断をしたのです。そしてひざまずいて祈り、常にこの戒めを守ることを主と約束しました。長年にわたりアルコールやたばこを勧められてきましたが、その度に「いいえ、けっこうです」と答えるようにしていました。知恵の言葉を守ることに心について心に迷いを持つことはまったくありませんでした。ずっと昔に心に決め、この律法に従うことを心から主と約束していたからです。

知恵の言葉に関して天の御父から祝福を受けたいと望むならば、今の世で広く用いられている違法な薬物には決して手を出さないと決意してください。皆さんが手をつけたことのないものに対しては、サタンはほとんど誘惑の力を持たないのです。

教会員としてわたしたちはバプテスマを受け、神の戒めを守り、イエス・キリストの御名を受けると聖約しました。もし過ちを犯してしまっても、福音のおかげで、心から悔い改めれば赦しを受けることができます。年齢にかかわらず、自分が今置かれている状況に合わせた決意から始めましょう。すでに過ちを犯しているならば、悔い改めて、罪を捨て去る決意をしてください。

主は義にかなった、悔い改める子供たちに大いなる永遠の祝福を与えると約束しておられます。しかし、この世には大きな危険があることも御存じの主は、次の戒めを与えられました。「……自分自身について気をつけ、永遠の命の言葉を熱心に心に留めるようにしなさい。」（教義と聖約84：43）主はわたしたちを愛し、わたしたちがみもとに戻ることを望んでおられるので、社会でどのような人たちと交わるのか、何を读み、何を見るのか、どのようなメディアや娯楽を選び、どんな音楽を聴くのかといった、わたしたちに関するすべてのことに慎重であるようにと促し、「〔わたしたち自身〕について気をつけ」よう命じられたのです。

若いときに決意をすることは非常に大切です。例えば、什分の一や献金を納める人に約束されている祝福を得るためには、すべての収入に対して什分の一を納



大会の部会の開始を待つ大管長会。——ゴードン・B・ヒンクレー大管長(中央)、第一顧問のトーマス・S・モンソン管長(右)、第二顧問のジェームズ・E・ファウスト管長(左)。

めることを今、決意しなければなりません。什分の一を納めることは、わたしたちがさらに自分を捨て、より天の御父のようになるうえで助けになります。義にかなった子供たちに御自分がお持ちのすべてを与えることを望まれる御父のようになるのです。この決意をすることはきわめて大きな意味を持つこととなります。興味深いのは、什分の一をはじめとするすべての戒めが、皆さんの永遠の幸福のため、

また皆さんがさらに御父に似た者となるために与えられているという点です。「行って、主が命じられたことを行います」と心に固く決めていた昔のニーファイのようになると今、決意してください(1ニーファイ3:7)。

皆さんの生活を祝福してくれる決意についてほかにも考えてみましょう。学校でほかの生徒が何をしていても、今から自分は決して汚い言葉を使わず、常に誠実

な人間となり、その行動を皆が知るようになったら、何とすばらしいことでしょう。決してだましたりごまかしたりしないこと、清い言葉を使うこと、生涯にわたって下品な言葉や冗談を言わないことを今、心に決めてください。このような決意は、自分の部屋で静かにひざまずいてするといいいでしょう。真剣に、祈りの気持ちで、へりくだって主に近づくなら、固い決意を貫くことができるでしょう。聖文はこう教えています。「あなたは謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。」(教義と聖約112:10)

慎重な服装をすることや、デートのときにどのような行動を取るかについても決意してください。デートの相手や友達、同級生といるときに決断を迫られるようなことになっても、前もって自分の取る行動を決めておけば、主の標準をより容易に、そして常に守ることができます。義にかなった原則に従って決意を貫く皆さんの標準を理解できない人もいるかもしれませんが、しかし、彼らが真に皆さんを尊敬し、立派だと思い、もっと皆さんのようになりたいと願う時が来るでしょう。

そのほか、高い道徳観を持つ、性的に清くある、安息日を守る、伝道や神殿参入に備える、常にふさわしい状態で聖餐を受けるなどの標準についても、よく考え、決意する必要があります。

ヒンクレー大管長は若人を愛し、主の定められた標準に従うよう一貫して勧めています。生ける預言者の励ましや勧告に従うなら、わたしたちは「永遠の幸福」の道へ導かれるでしょう。

主の御心を行うよう今決意するなら、主は皆さんを助け、力を与えてくださいます。主を信じ、頼り、そして従いたいと願うならば、強い決意をもって御心を行うことができるでしょう。わたしは天の御父が皆さん一人一人を愛し、皆さんを助けるために独り子を送られたこと、そして主に従おうと皆さんが心から決意するとき、栄光に満ちた祝福が与えられることを知っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。

天使の言葉

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド長老

わたしたちの言葉は、行動と同様、信仰、希望、慈愛で満たされるべきです。



預言者ジョセフ・スミスは、言葉の持つ力について、わたしたちの理解を深める次のような教えを残しています。「信仰によって業を行うとき、人は言葉を通して行う。神は『光あれ』と言われた。すると光があった。ヨシュアが言葉を発すると、神が創造された大きな光がとどまった。エリヤが命じると、天は3年半閉ざされ、雨は降らなかった。……これらはすべて信仰によってなされたのである。……まず信仰があり、次に言葉によって業が行われた。そして、(言葉)によって、最も力ある業が行われてきた。これからもそうであろう。」「上から来る」あらゆる賜物と同様、言葉は「神聖であり、それについては注意して、御霊の促しによって語るようにしなければならぬ……。」²

言葉の持つこのような力と神聖さをよく理解したうえで、もし警告する必要がある

なら、わたしは互いにどのような言葉遣いをすればよいか、また自分自身についてどのように語ればよいかについて警告したいと思います。

聖書外典の中に、この問題の重大さをわたしよりも明確に語っている一節があります。こう記されています。「鞭の一打ちは肉体に傷跡を残す。しかし言葉の一打ちは骨を打ち砕く。」³ この一節の持つ痛々しいイメージを心に描いていたわたしは、ヤコブの手紙の中に「完全な人」となるための方策があることを知ったとき、深く感銘を受けました。

ヤコブはこう語っています。「わたしたちは皆、多くのあやまちを犯すものである。[しかし]もし、言葉の上であやまちのない人があれば、そういう人は、全身をも制御することのできる完全な人である。」

さらにヤコブは、制御することを次のようにたとえます。「馬を御するために、その口にくつわをはめるなら、その全身を引きまわすことができる。

また船を見るがよい。船体が非常に大きく、また激しい風に吹きまわられても、ごく小さなかじ一つで、操縦者の思いのままに運転される。……」

そして、ヤコブは自分の言いたいことを明らかにします。「舌[もまた]小さな器官ではあるが、……[しかし]見よ、ごく小さな火でも、非常に大きな森を燃やすではないか。

……舌[火]は、わたしたちの器官の一つとしてそなえられたものであるが、全身を汚し、……自らは地獄の火で焼かれる。

あらゆる種類の獣、鳥、這うもの、海の

生物は、……人類に……制せられてきた。

ところが、舌を制しうる人は、ひとりもない。それは、制しにくい悪であって、死の毒に満ちている。

わたしたちは、この舌で父なる主をさんびし、また、その同じ舌で、神にかたどって造られた人間をのろっている。

同じ口から、さんびとのろいとが出て来る。わたしの兄弟たちよ。このような事は、あるべきでない。」⁴

実に率直な言葉です。もちろん、ヤコブはわたしたちの舌がいつも罪深いと言っているわけではありませんし、わたしたちの口にする言葉がすべて「死の毒に満ちている」と言っているわけでもありません。しかし、ヤコブは確かに、わたしたちが口にする少なくとも幾つかの言葉は、破壊的であり、有毒なことさえあると言っています。末日聖徒にとっては身も凍るような言葉です。わたしたちは心からの証を述べ、熱烈な祈りをささげ、シオンの賛美歌を歌うその同じ声で、非難し、批判し、卑しめ、辱め、苦痛を与え、いつの間にか自分自身と周囲の人々の霊を破壊することがあるということです。「同じ口から、さんびとのろいとが出て来る」とヤコブは嘆きました。またこう勧告しています。「わたしの兄弟[そして姉妹]たちよ。このような事は、あるべきでない。」

これはわたしたち全員が取り組むべき事柄ではないでしょうか。「完全な」男性あるいは女性になるために、もう少し努力することができる分野ではないでしょうか。

夫の皆さん、皆さんは神がお与えになることのできる最も神聖な賜物を授かっています。それは、愛と喜びに満ちた夫婦関係を築くために、自らを皆さんにささげている妻であり、神の娘、子供たちの母親です。交際中に口にした優しい言葉を思い出してください。奥さんの頭に手を置いて、彼女に授けた数々の祝福を思い出してください。あなたと伴侶が、生まれながらに受け継いでいる神々としての特質に思いをはせてください。それからしばらくの間、冷たく、辛辣な、制し切れなかった言葉を使ったときのことをよく考えてください。言葉がもたらす害について



考えると、救い主がこう言われたのも驚くに当たりません。「口にはいるものは人を汚すことはない。かえって、口から出るものが人を汚すのである。」⁵ 物理的に妻を殴るなど夢にも思わないような夫でも、思いやりのない不親切な言葉という暴力によって、たとえ彼女の骨を砕くことはなくとも、その心を傷つけることはあるのです。身体的な虐待は、どこにおいても、どのような理由であっても、末日聖徒イエス・キリスト教会では罪に定められます。それよりもさらに罪深いことがあるとすれば、それはあらゆる形の性的虐待であり、わたしたちはその行為をさらに強く非難します。わたしは、だれであろうとあらゆる人への言葉による虐待、精神的虐待、特に夫の妻に対する虐待を強く非難します。兄弟の皆さん、このようなことは、あるべきではないのです。

同様の精神で、姉妹たちにも話します。なぜなら言葉による虐待の罪に男女差はないからです。妻の皆さん、皆さんの口は言葉を制していますか。皆さんの言葉が持つ力は善と悪のどちらですか。神の摂理により、これほど美しく、清らかであり、霊的で、生まれつき優しく親切な声⁶が、けたたましく、辛辣で、とげとげしい、また荒々しい声に突然変わることがあるのはなぜでしょうか。女性の言葉は、これまでに造られたどの短刀よりも鋭利な刃

物となることがあります。また、会話を始めた時点ではだれも想像し得なかったほど遠くまで、愛する人を後ずさりさせることがあります。姉妹の皆さん、皆さんのすばらしい霊に、うわさ話や陰口、悪意のある言葉を含む、辛辣な、あるいは不快いかなる言葉も入り込む余地はありません。わたしたちの家庭やワード、あるいは近所で、「舌は火である。わたしたちの間で燃える、不義の世界である」と言われることがないようにしようではありませんか。

この勧告をさらに拡大して、家族全体に関連づけましょう。子供に話しかけるときには細心の注意を払わなければなりません。何を言い、何を言わないか、どのように言うか、いつ言うか、これは子供が自分自身をどうとらえるか、その方向性を決めるうえで実に、実に大切な要素です。またそれは、子供が両親を信じる気持ちと神への信仰をはぐくむうえで、さらに大切な要素となります。子供たちにはいつも建設的な言葉をかけるようにしてください。冗談交じりであっても、子供に「太っている」や「頭が悪い」「怠け者」「器量が悪い」などと一言も言わないでください。決して悪気がなくても、子供たちはその言葉を記憶し、それを忘れ、赦すために何年も苦しむかもしれません。また、うまく褒める自信があっても、子供たちを比べないようにしてください。褒め言葉のつも

りで、「スーザンはかわいいし、サンドラは頭がいい」と言ったとしても、スーザンは「自分は頭が良くない」、サンドラは「自分はかわいくない」としか記憶しないでしょう。子供たち一人一人の、そのあるがまを褒めてください。そして、比較し、競い、決して「自分はこれで十分だ」と満足することのない、この文化にこびりつく妄想から解放されるようにしてください。

言うまでもないことですが、ほとんどの場合、否定的な言葉は否定的な考えから生まれます。その中には自分自身についての否定的な思いも含まれます。わたしたちは自分の欠点を見ます。自分自身について批判的なことを口にするか、少なくとも考えます。やがて、すべての人、すべてのことを批判的に見るようになります。太陽の輝き、バラの美しさ、希望あるいは幸福の兆しが見えなくなるのです。そしてすぐに、自分も周りの人も、皆が惨めになります。

オーソン・F・ホイットニー長老がかつて言った言葉が好きです。「福音の精神は楽観的です。神に信頼を置き、物事の明るい面に目を向けます。その反対、すなわち悲観的な精神は、人を落ち込ませ、神から引き離します。暗い面に目を向け、つぶやいたり、不平を漏らしたりして、なかなか従順になれないのです。」⁶ わたしたちは、「元気を出さない」という救い



主の宣言に従うべきです。⁷ (実際、この戒めはほかのどの戒めよりも頻繁に破られているように思います。) 語るときには希望で心を満たしてください。自分自身を含め人を励ますように語ってください。ひっきりなしに愚痴をこぼしたり、嘆いたりしないようにしてください。⁸ ある人が次のような言葉を残しています。「文明の黄金時代であっても、こうつぶやく人がいたに違いない。『何だ、見るものすべて黄色じゃないか。』」

ニーファイにとって、縄で縛られ、棒で打たれることは、レーマンとレムエルの不平を絶え間なく聞かされるよりは耐えやすかったかもしれない、と何度も思ったことがあります。ニーファイも少なくとも一度はこう言ったことでしょう。「気を失うまでたたいてください。これ以上不平を聞かずに済むでしょうから。」そうです、人生には問題がつきものです。確かに、否定的な事柄に直面しなければなりません。しかし、どうぞホランド長老の処世訓を取り入れてください。「不平を言うことほど、人を不幸にするものはない。」

パウロは同様のことを率直に、しかし大いに希望を抱きながら語りました。わたしたちすべてに向けた言葉です。「悪い言葉をいっさい、あなたがたの口から出してはいけません。必要があれば、人の徳を高めるのに役立つような言葉を語って、聞いて

ている者の益になるようにしなさい。

神の聖霊を悲しませてはいけません。……すべての無慈悲、憤り、怒り、騒ぎ、そり……を捨て去りなさい。

互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。⁹

ニーファイは、深い感動を与える最後の証の中で、「十分に固い決意をもって〔神の〕御子に従うよう勧め、次のように約束しています。「……火と聖霊によるバプテスマを受け〔た後に〕、〔あなたがたは〕新しい言葉、すなわち天使の言葉で語れるように〔なる〕。……また、聖霊によらなければ、どうして天使の言葉で語ることができようか。天使は聖霊の力で語る。したがって、天使はキリストの言葉を語る。……」¹⁰ 愛弟子ヨハネが記したように、¹¹ 過去においても現在においてもキリストは確かに恵みとまことに満ち、憐れみと慈悲に富んだ「言」^{ことば}であられるのです。

兄弟姉妹の皆さん、救い主にさらに似た者となるというこの永遠の追求を続けるに当たって、現時点では、少なくともこの一つの方法で「完全な男性および女性」になれるように努力しようではありませんか。言葉で人を傷つけないようにしましょう。もっと前向きな言い方をすれば、新しい言葉、すなわち天使の言葉で語り

ましょう。わたしたちの言葉は、行動と同様、今日の世界にぜひとも必要なクリスチャンの三大原則、すなわち信仰、希望、慈愛で満たされるべきです。御霊の影響の下に語られるそのような言葉により、人は涙をぬぐい、心を癒し、生活を向上させ、希望を取り戻し、自信を増し加えることができるのです。難しくとも取り組みがいのあるこのテーマに関してさえも、わたしの言葉が、皆さんに失望ではなく希望を与えるように、わたしの声を通して、わたしが皆さんを文字どおり心から愛していることを感じ取ってもらえるように祈ります。そして何よりも、天の御父が皆さんを愛しておられ、その独り子も皆さんを愛しておられることを知ってください。御二方が皆さんに語りかけられるとき、——確かに御二方は語りかけられます——それは風の中でも、地震の中でも、火の中でもなく、静かな細い声で、優しく思いやりに満ちた声で語られるのです。¹² 天使の言葉で語られるのです。わたしたちが皆、次の思いに喜びを見いだすことができますように。すなわち、これらの最も小さい者であるわたしたちの兄弟姉妹、子供たちを教化し、励ます言葉を口にすることは、ほかでもない神に向かって口にしていくのです。¹³ イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

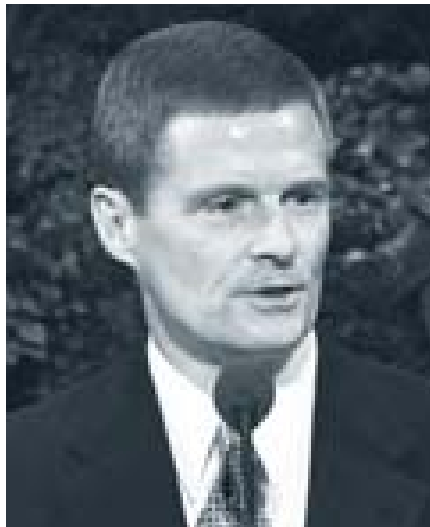
1. *Lectures on Faith* (1985年), 72–73, 強調付加
2. 教義と聖約63:64
3. *Ecclesiasticus*, 28:17
4. ヤコブの手紙3:2–10, 強調付加
5. マタイ15:11
6. *Conference Report*, 1917年4月, 43
7. マタイ14:27; マルコ6:50; ヨハネ16:33
8. 1ニーファイ3:28–31; 18:11–15参照
9. エペソ4:29–32
10. 2ニーファイ31:13–14; 32:2–3
11. ヨハネ1:1
12. 列王上19:11–12参照
13. マタイ25:40参照

あなたがたは 再び生まれなければ ならない

十二使徒定員会

デビッド・A・ベドナー長老

キリストを信じる信仰により、わたしたちは霊的に備えられ、罪から洗い清められ、主の福音に浸され、福音を十分に吸収し、約束の聖なる御霊によって清められ、結び固められます。



少年時代を過ごしたカリフォルニア州の家の比較的近くに、アンズ、サクランボ、桃、洋ナシ、そしてほかにもおいしい果実のなる果樹園がありました。またキュウリやトマトなど、様々な野菜を育てている畑も近くにありました。

少年のころ、いつも瓶詰めを楽しみにしていました。ガラス瓶をごしごし洗ったり、暑い台所で作業をしたりするのは好きではありませんでしたが、母や父と働くことは好きでした。また、詰めているものを味見するのが大好きでした。果物は

瓶詰めした量よりも、わたしのおなかに入った量の方が多かったことでしょう。

今でも、サクランボや桃の手作りの瓶詰めを見る度に、台所で父母と作業をしたときの思い出がよみがえります。果物や野菜を収穫して瓶詰めにしながら、物質的に自立することや儉約して生活することについて学びました。この基本的な教訓は生涯にわたって祝福となっています。興味深いことに、ありふれた普通の経験が最も重要な学びの機会となることがよくあります。

大人になってから、瓶詰め作りの季節に台所で見た光景についてよく考えました。今朝はキュウリがピクルスになるまでの工程から学べる、幾つかの霊的な教訓について話します。キリストのみもとに来て霊的に新しく生まれるうえで、わたしや皆さんにとって、これらの教訓がどのような意味を持つのか考えてみましょう。この場に聖霊がともにいてくださるようお願いしています。

キュウリとピクルス

ピクルスは特定のレシピ(調理法)や手順に従ってキュウリが変化したものです。キュウリをピクルスに変えるための最初の手順は下ごしらえと洗浄です。家の裏口

で何時間も、収穫したキュウリからへたを取り、泥をきれいに落としたことを思い出します。母はキュウリの下ごしらえと洗浄にはとても几帳面でした。清潔さに関して高い基準があり、わたしがこの大切な作業を適切に行ったかどうかを必ず確認していました。

キュウリをピクルスに変えるための次の手順は、長時間キュウリを塩水に浸して塩分をしみ込ませることです。塩水を準備するとき、母はいつも祖母から教わったレシピを使いました。特殊な材料や緻密な工程を記したレシピです。キュウリがピクルスになるには、規定の時間、全体が完全に塩水に浸されていなければなりません。この処理工程がキュウリの構造を徐々に変え、ピクルスの透明感や特有の味を作り出します。塩水を時々振りかけたり、塩水にくぐらせたりするだけでは必要な変化は生じません。望む変化を生じさせるためには、一定の状態を、継続して、完全に浸すことが必要なのです。

処理工程の最後の手順は、保存処理したピクルスを、滅菌してきれいに洗った瓶に入れ、密閉(Sealing)することです。ピクルスは保存用の瓶に、沸騰した熱い塩水とともに入れ、その瓶を専用の湯煎鍋の中で密閉処理します。出来上がったものが保護され、その鮮度が保たれるように、ピクルスと瓶の両方から不純物をすべて除去するのです。この工程を正しく行えば、長期間にわたってピクルスを保存し、堪能できます。

つまり、キュウリをピクルスにするには、下ごしらえして洗い、塩水に浸して塩分をしみ込ませ、滅菌した保存容器に入れて密閉しなければならないのです。この工程は時間がかかるもので、短縮できませんし、大切な手順はどれ一つといえども無視したり、避けたりすることができません。

大きな変化

権能を受けた主の僕たちは繰り返し、人が現世にいる第一の目的は、イエス・キリストの贖罪を通して霊的に変えられ、変化することであると教えてきました。アルマはこう述べています。



「全人類、すなわち男女を問わず、すべての国民、部族、国語の民、民族が再び生まれなければならないことを不思議に思ってはならない。まことに、人は神から生まれ、肉欲にふける墮落した状態から義の状態に変わって、神に贖われ、神の息子や娘にならなければならない。

このようにして、彼らは新たな者となる。このようにならないかぎり、決して神の王国を受け継ぐことはできない。」(モーサヤ27:25-26)

わたしたちはこう命じられています。「キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心に添わないものをすべて拒みなさい。」(モロナイ10:32) さらに、キリストにあって「新しく造られ」(2コリント5:17参照)、「生まれながらの人」を捨て(モーサヤ3:19)、「悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように、わたしたちの中に、すなわちわたしたちの心の中に

大きな変化」を経験するように(モーサヤ5:2)命じられています。心に留めてほしいのは、これらの聖句が指す改心が小さなものではなく、大きなものであるという点です。すなわち、霊的に新しく生まれること、そして感情、願望、思考、行動、人格そのものが本質的に変化することを指すのです。実のところ、イエス・キリストの福音の真髄には、わたしたちの性質の根本的で永続的な変化が伴います。この変化は「聖なるメシヤの功德と憐れみと恵み」に頼ることによって可能となります(2ニーファイ2:8)。主に従うことを選ぶとき、わたしたちは自分が主によって変えられること、すなわち霊的に新しく生まれることを選んでいくのです。

準備と洗淨

キュウリをピクルスにするには下ごしらえをして洗う必要があるのと同様に、皆さんもわたしも、「信仰の言葉と……良い教の

言葉」によって準備され(1テモテ4:6)、まずアロン神権の権能によって執行される儀式と聖約を通して洗い清められます。

「そして、小神権が存続した。この神権は、天使の働きと備えの福音の鍵を持つものである。

この福音は、悔い改めとバプテスマと罪の赦しの福音……である。」(教義と聖約84:26-27)

また、主は清さに関して高い標準を設けられました。

「それゆえ、あなたの子供たちに次のことを教えなさい。すなわち、どこにいる人でもすべての人が、悔い改めなければならない。そうしなければ、決して神の王国を受け継ぐことはできない。清くない者はそこに住むことができない、すなわち、神の前に住むことができないからである。」(モーセ6:57)

正しい準備と清めは、再び生まれる工程の最初の基本的な手順なのです。

浸され、十分に吸収する

塩水に浸され、塩分をたっぷり含んだキュウリがピクルスに変化するのと同じように、皆さんもわたしも、イエス・キリストの福音を吸収することで再び生まれます。交わした「聖約」を尊んで「守〔り〕」(教義と聖約42:13), 「キリストの言葉をよく味わ〔い〕」(2ニーファイ32:3), 「熱意を込めて御父に祈〔り〕」(モロナイ7:48), そして「〔わたしたちの〕心と、勢力と、思いと、力を尽くして神に仕え〔る〕」(教義と聖約4:2), 次の聖句のようになれます。

「あなたがたが交わした聖約のために、あなたがたはキリストの子と呼ばれ、キリストの息子および娘と呼ばれる。見よ、それは、今日キリストが霊的にあなたがたを子としてみうけられたからである。あなたがたは、キリストの御名を信じて心が改まったと言う。だから、あなたがたはキリストから生まれ、キリストの息子および娘となったのである。」(モーサヤ5:7)

この聖句が教える霊的再生は概して短時間で起きたり、一度に起きたりするものではありません。一つの出来事ではなく、継続的な過程なのです。教訓に教訓、規則に規則を重ね、徐々に、そしてほとんど気づかないくらい少しずつ、わたしたちの動機、思い、言葉、行いが神の御心に添うものとなっていきます。変化の過程におけるこの段階は、時間と根気、そして忍耐を要します。

キュウリをピクルスにするには、一定の状態を、継続して、完全に塩水に浸さなければなりません。そのため、塩は調理上の重要な役割を果たします。塩は聖文の中で、聖約および聖約の民の両方を表す象徴として頻繁に用いられています。そして、キュウリがピクルスに変化するうえで塩が欠かせないのと同様、聖約もわたしたちが霊的に新しく生まれるうえで欠かせないものです。

再び生まれる過程は、キリストを信じる信仰を働かせ、罪を悔い改め、神権の権能を持つ人によって罪の赦しを受けるために水に沈めるバプテスマを受けることから始まります。

「すなわち、わたしたちは、その死にあ



ずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。」(ローマ6:4)

バプテスマの水から出た後、わたしたちの霊は継続的に救い主の福音の光と真理に浸され、それらを吸収しなければなりません。キリストの教義に単発的に浅く浸され、回復された主の教会に時々参加するだけでは、「新しいいのちに生きる」ために必要な霊的な変化を引き起こすことはできません。永遠の祝福を享受するためには、聖約を忠実に守り、絶えず決意を強め、自分自身を神にささげることが必要です。

「わたしはあなたがたがイスラエルの聖者であるキリストのもとに来て、キリストの救いと、キリストの贖いの力にあずかるように望んでいる。まことに、キリストのもとに来て、自分自身をキリストへのささげ物としてささげ、断食と祈りを続け、最後まで堪え忍びなさい。そうすれば、主が生きておられるように確かに、あなたがたは救われるであろう。」(オムナイ1:26)

救い主の福音に完全に浸り、福音を十分に吸収することは、再び生まれる過程において不可欠の手順です。

清めと結び固め

塩漬けにしたキュウリは、滅菌した瓶に詰めて熱処理します。不純物を取り除き、外から雑菌が入らないように瓶を密閉するためです。熱湯に入れる過程により、ピクルスを長期間保護し、保存できるようになります。同様に、皆さんもわたし

も小羊の血によって洗われ、再び生まれ、メルキゼデク神権の権能によって執行される儀式を受け、聖約を尊ぶときに、清められ、心の聖めを受けます。

「それでも彼らは、しばしば断食して祈り、ますます謙遜になり、ますますキリストを信じる信仰を確固としたものにしたので、喜びと慰めで満たされ、まことに清められ、心の聖めを受けた。この聖めは、彼らが心を神に従わせたために受けたのである。」(ヒラマン3:35)

今日のわたしの話に出てくる「結び固め(Sealing)」という言葉は、主の宮で執り行われる永遠の結婚の儀式だけを指しているわけではありません。わたしはこの言葉を、教義と聖約第76章に説かれているような意味で用いています。

「正しい者の復活の時に出て来る人々に関するキリストの福音の証はこれである。

すなわち、彼らはイエスの証を受け入れ、その名を信じ、そしてイエスの名によって水の中に沈められ、イエスから与えられた戒めのとおりその埋葬に就いてバプテスマを受けた者である。

それは戒めを守ることによって、彼らが自分のすべての罪から洗われて清くされ、この力を持つように聖任され結び固められている者の按手によって聖なる御霊を受けるためである。

また、彼らは信仰によって勝利を得、御父が正しくかつ真実な者すべてに注がれる約束の聖なる御霊により結び固められている者である。」(50-53節)

約束の聖なる御霊とは、聖霊がお持ちの結び固めの力です。一つの儀式、誓い、

主は生けりと知る

大管長会第一顧問

トーマス・S・モンソン 管長

救い主がカルバリで亡くなられたことにより、死はわたしたちを束縛する力を失いました。

あるいは聖約が、約束の聖なる御霊によって結び固められると、地上においても天においても結び固められます(教義と聖約132:7参照)。聖霊からのこの「承認の印」は、「時がたって」(モーセ7:21)、わたしたちが福音の聖約を尊ぶことへの忠実さ、誠実さ、そして堅固さを示して初めて、与えられます。しかしながら、この結び固めは不義や背きによって解かれてしまいます。

約束の聖なる御霊による清めと結び固めは、再び生まれる過程における最高の段階です。

「心を込めて」

愛する兄弟姉妹の皆さん、このピクセルのとえが、生活を吟味し、霊的に新しく生まれることの永遠の重要性をより理解する助けになるように願っています。アルマと同じように、「わたしは心を込めて語って」きました(アルマ5:43)。

「わたしの愛する同胞とこの地に住むすべての人に教えを説き、まことに、老いた人にも若い人にも、束縛された人にも自由な人にも、まことに、老人にも中年の人にも青年にも、すべての人に教えを説き、まことに、彼らに悔い改めて再び生まれなければならないことを叫び求めること、これが、わたしが召された位である。」(アルマ5:49)

救い主が確かに生きていて神の御子であられること、また、みもとに来て変化を遂げるようにわたしたちを招いておられることを証します。預言者ジョセフ・スミスを通して主の教会と神権の権能が回復されたことを証します。キリストを信じる信仰により、わたしたちは霊的に備えられ、罪から洗い清められ、主の福音に浸され、福音を十分に吸収し、約束の聖なる御霊によって清められ、結び固められます。こうして再び生まれることができるのです。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。



最近、家族のアルバムをめくりながら、家族旅行や誕生日、親族の集まりや記念日などに撮った、愛する人たちの写真を見ていると、懐かしい思い出が次々によみがえってきました。それらの愛する家族や親族の中には、写真を撮ってからこれまでの間に、この世を去った人々もいます。主の言葉が心に浮かんできました。「あなたは死ぬ者を失うことで涙を流すほどに……ともに愛をもって生活するようにならなければならない。」¹ 家族の輪から旅立って行った一人一人への思いは、いつまでも消えることはありません。

つらく、困難ではあっても、死はこの世の経験において不可欠です。わたしたちは前世を離れてこの地球に来て、この世での旅を始めます。詩人ワーズワースはこの旅について、靈感に満ちた詩「不死を知る頌」²の中でこのように表現しています。

われらの誕生はただ眠りと
前世の忘却とに過ぎず。
われらとともに昇りし魂、生命の星は、
かつて何処かに沈みて、
遙かより来たれり。
過ぎ去りし昔を忘れしにはあらず、
また赤裸にて来りしにもあらず
栄光の雲を曳きつつ、
われらの故郷なる神のもとより来りぬ。
われらの助けなきとき、
天国はわれらのめぐりにありき。²

人生は流れゆき、子供はやがて青年になり、いつの間にか大人に近づいていきます。人生の目的を探し求め、問題について思い巡らすとき、遅かれ早かれ、人生の短さや自分の人生について、また、永遠の命について疑問を抱くようになります。特に、愛する人を亡くしたとき、あるいは自分が愛する人たちを残して世を去ろうとするとき、この疑問が心に迫ってきます。

そんなときに思い巡らすのは、年離れたヨブがいにしへの時代に端的に言い表した普遍の問いかけでしょう。「人がもし死ねば、また生きるでしょうか。」³

今日も、いつの時代も、懐疑論者は神の言葉に異議を唱えます。ですから、人は皆、だれの言葉に耳を傾けるかを選ばなければなりません。有名な弁護士であり不可知論者であったクラレンス・ダローは、「いずれの人生もさほどの価値はなく、いずれの死もほんの小さな損失でしかない」⁴と語りました。また、ドイツの哲学者であり悲観論者であったショーペンハウアーは「不死不滅を願うとは、人生という



大きな過ちが永遠に続くように願うことだ』⁵と書いています。今の時代の人々も、キリストを再び十字架につけるような言葉を語っています。主の奇跡を文字どおりにとらえず、主の神性を疑い、主の復活を受け入れません。

ロバート・ブラッチフォードはその著書『神とわたしの隣人』(God and My Neighbor)の中で、神、キリスト、祈り、不死不滅といった、キリスト教徒が信仰する事柄を激しく攻撃しました。大胆にもこのように主張したのです。「わたしは自分が証明を試みた事柄はすべて完全に、はっきりと証明し尽くしてきた。たとえどんなに偉大で能力のあるキリスト教徒であっても、わたしの主張に対抗し、論拠を覆すことはできない。」⁶ 彼はいわば、懐疑論という壁で完全防備していました。そんな彼に驚くべきことが起こりました。彼の築いた疑いの壁が粉々に崩れ落ちたのです。彼の確信していた事柄は、人生の試練に遭ったとき何の役にも立たず、彼を守ってはいくれませんでした。そのため彼は、あれほど軽蔑し、あざけっていた

はずの信仰に、少しずつ戻って行ったのです。彼をこれほどまでに変えた試練とは何だったのでしょうか。それは妻の死でした。打ちひしがれて、亡骸^{なきがら}が置かれた部屋に入った彼は、心から愛した彼女の死に顔を見詰めました。部屋から出て来た彼は、友人にこう語りました。「あれは彼女だが、彼女ではない。何もかも変わってしまった。以前にはそこにあった何かを取り去られ、今は前と同じ彼女ではない。その取り去られた何かが魂^{たまご}というものでなかったとしたら、いったい何だろうか。」

彼は後にこう書いています。「死は一部の人々が想像しているようなものではない。それはあたかも、別の部屋に移動するようなものだ。その部屋に行けば、……愛し、亡くした、いとおいしい男女やかわいらしい子供たちに会えるだろう。」⁷

キリストの神性を疑う今日の人々に対して、論破することのできない証^{あかし}拠、実際にその目で見たとする証^{あかし}を引用しましょう。聖書の時代に、残虐な殉教を遂げたステパノは、天を仰いで叫びました。「あ

あ、天が開けて、人の子が神の右に立っておいでになるのが見える。」⁸

コリント人^{びと}に告げたパウロの力強い証^{あかし}から、確信を受けない人がいるでしょうか。彼はこう言いました。「キリスト〔は〕、聖書に書いてあるとおり、わたしたちの罪のために死んだ……、そして葬られた……、聖書に書いてあるとおり、三日目によみがえった……、ケバに現れ、次に、十二人に現れた……。……そして最後に……わたしにも、現れたのである。」⁹

わたしたちの神権時代にも、これと同様の証^{あかし}を預言者ジョセフ・スミスが雄々しく語りました。シドニー・リグドンとともにこう証^{あかし}しています。「そして今、小羊についてなされてきた多くの証^{あかし}の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証^{あかし}はこれである。すなわち『小羊は生きておられる。』」¹⁰ これこそわたしたちを支える知識です。わたしたちを慰める真理です。そして悲しみに打ちひしがれた人を影から光へと導き出す確信なのです。

1997年のクリスマスイブに、わたしはすばらしい家族と出会いました。全員が真



会員と求道者の到着を待つ、スウェーデン・ストックホルムの宣教師たち。

理に対して、また復活が真実であることに
対して揺るぎない証を持っていました。
両親と子供4人の6人家族でした。しかし、
男の子3人、女の子1人の子供たちは4人
とも、生まれつき、まれな型の筋ジストロ
フィー症で、どの子も障害がありました。
当時16歳だったマークは、もっと自由に動
けるようにと脊髄手術を受けていました。
二人の弟、13歳のクリストファーと10歳の
ジェイソンも、同様の手術を受けるために、
数日後にカリフォルニアに行くことになっ
ていました。当時5歳だった一人娘のシャ
ナはかわいらしい女の子でした。4人とも
賢く、信仰深く、両親のビルとシェリーが、子
供たち一人一人を誇りに思っているのが
見て取れました。彼らと少し話すうちに、
わたしの執務室、そしてわたしの心は、
特別な御霊に満たされました。わたしは
父親とともに、手術を間近に控えた二人
の息子に祝福を施しました。そして両親
は幼いシャナに、わたしのために歌うよう
頼んでくれました。父親の説明では、シャ
ナの肺活量が少なくなっていて難しいか
もしれないとのことでしたが、彼女は歌っ
てみたいと言ってくれました。テーブル
コーダーの伴奏に合わせて、美しく澄ん
だ声で、1音も外すことなく歌ってくれま
した。それは、明るい未来についてのこん

な歌でした。

わたしの夢見る美しい日
わたしが待ち望む世界には
太陽がわたしのために輝く
美しい場所がある
わたしの願いがかなえられ
この美しい冬の朝に
わたしの夢見る美しい日が
訪れますように¹¹

彼女が歌い終えたときには、全員が感
動に包まれていました。彼らと出会った
おかげで、わたしはその年のクリスマス
を特別な思いで過ごすことができました。

わたしはその後彼らと交流を続けま
した。長男のマークが19歳になったとき、
教会本部で、ある特別な任務に就く手配
がなされました。やがて、下の二人の弟
も、同じ機会に恵まれました。

約1年前、当時22歳だったクリスト
ファーが、子供たち全員を苦しめてきた
病気のために亡くなりました。そして去年
の9月、あの幼いシャナが14歳の若さで亡
くなったという知らせを受けました。葬
儀では、美しい弔辞の数々が彼女に贈ら
れました。残された兄のマークとジェイ
ソンが、説教壇に寄りかかりながら、家族

の経験について心打つ話をしました。
シャナの母親は美しいデュエット曲を歌
いました。シャナの父親と祖父は感動的
な話をしました。心は悲しみに張り裂け
そうになりながらも、全員が力強い、心の
底からわき出る証をしたのです。確かに
復活が真実であり、シャナも、兄のクリ
ストファーも今も生きており、再び愛する家
族がともに集う栄光に満ちた日を待ち望
んでいると証しました。

わたしが話す時間になり、約9年前に家
族が執務室を訪ねて来たときにシャナが
歌ってくれた美しい歌について触れ、最
後に次のように思いを語りました。「救い
主がカルバリで亡くなられたことにより、
死はわたしたちを束縛する力を失いま
した。シャナは今、病から解き放たれて元
気に生きています。1997年のあの特別な
クリスマスイブに、彼女が歌った美しい日、
彼女が夢見た美しい日は、願いどおり訪
れたのです。」

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは笑い、
泣き、働き、遊び、愛し、生きます。

そして、死にます。死はすべての人に訪
れます。だれもがその門をくぐらなければ
なりません。死は年老いた者や疲れ果て
た者を訪れるだけでなく、希望と期待に
満ちあふれた若者をも訪れます。幼子も
死の手から逃れることはできません。使徒
パウロの言葉どおり、「一度だけ死ぬこと
……が人間に定まっている」¹²のです。

ナザレのイエスという御方とその使命な
しには、人は死に定まったままでいたで
しょう。馬小屋に生まれ、かいばおけに
寝かされたその御方の誕生は、多くの預
言者の靈感あふれる預言を成就しました。
主は高い所から教えを受け、人に命と光
と道をお与えになりました。群衆が従い、
子供たちは主をあがめ、高ぶる者は拒絶
しました。主はたとえて語り、模範によっ
て教え、完全な生涯を送られました。

王の王、主の主が来られたにもかかわ
らず、主は敵や反逆者として扱われ、あざ
けられ、訴えられました。「十字架につけ
よ、十字架につけよ」¹³という声が響き渡
り、主はやがてカルバリの丘へと歩み始
められました。

主はあざけられ、ののしられ、嘲笑^{ちやうしやう}され「イスラエルの王キリスト、いま十字架からおりてみるがよい。それを見たら信じよう」¹⁴という叫び声の中、釘で十字架に打ち付けられました。「他人を救ったが、自分自身を救うことができない」¹⁵と言う者に主はこう答えられました。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているか、わからずにいるのです。」¹⁶「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。」こう言ってついに息を引きたられました。¹⁷主の亡骸は主を愛してやまない者たちの手により、石を掘って造った墓に納められました。

週の初めの日の明け方に、マグダラのマリヤとヤコブの母マリアがその他の人々とともに墓を訪れました。驚いたことに、主の体はそこにありませんでした。ルカは、輝く衣を着た二人の人が女たちのそばに立ち、こう語ったと記しています。「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。」¹⁸

来週、キリスト教徒は歴史上最も重要な出来事を祝います。「そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ」という簡潔な言葉は、主なる救い主イエス・キリストの文字どおりの復活を最初に証した言葉でした。最初のイースターの朝、空になった墓は、慰めと確信を与え、「人がもし死ねば、また生きるでしょうか」¹⁹というヨブの問いかけに、はっきりとした肯定的な答えを与えました。

愛する人を失ったすべての人に向けて、ヨブの問いかけを答えにしてお伝えしましょう。もし人が死ねば、また生きるのです。わたしたちはそれを知っています。なぜなら、明らかにされた真理の光があるからです。「わたしはよみがえりであり、命である」と主は言われました。「わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」²⁰

涙や試練、恐れや悲しみ、愛する人を失った心痛や孤独の中にあっても、命は永遠であるという確信があります。主なる救い主はその生ける証人です。



わたしは特別な証人として、心を込め、熱い思いを尽くして、神が生きておられることを高らかに証し、宣言します。イエスは神の御子、肉における御父の独り子です。わたしたちの贖い主であり、御父と人との間の仲保者です。わたしたちの罪を贖うために、十字架上で亡くなり、復活の初穂となられました。主が命を捨てられたので、すべての人は再び生きることができます。「主は生けりと知る」²¹という歌詞の何と美しいことでしょう。世のすべての人がこのことを知り、その知識に従って生きることができますように、主なる救い主、イエス・キリストの御名によってへりくだり祈ります、アーメン。

注

1. 教義と聖約42:45
2. ウィリアム・ワーズワース、田辺重治訳「幼年時代を追想して不死を知る頌」『ワーズワース詩集』岩波文庫、167、振り仮名付加
3. ヨブ14:14
4. *The Story of My Life* (1932年)、第47章、第34段落

5. アーサー・ショーペンハウワー、*The Home Book of Quotations*、バートン・スティープンソン選(1934年)、969
6. *God and My Neighbor* (1914年)
7. *More Things in Heaven and Earth: Adventures in Quest of a Soul* (1925年)、11参照
8. 使徒7:56
9. 1コリント15:3-5, 8
10. 教義と聖約76:22
11. 映画*Scrooge* (1970年)から“The Beautiful Day,” 作詞・作曲/レスリー・プリカス
12. ヘブル9:27
13. ルカ23:21
14. マルコ15:32
15. マルコ15:31
16. ルカ23:34
17. ルカ23:46
18. ルカ24:5-6
19. ヨブ14:14
20. ヨハネ11:25-26
21. 「主は生けりと知る」『賛美歌』75番。ヨブ19:25も参照

タバナクルの御霊

十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー会長

タバナクルは……イエス・キリストの福音の回復を示す旗印として存在してきました。



46年前、わたしは十二使徒定員会補助として召しを受けました。そして初めてこの壇上に立ちました。当時わたしは37歳でした。普段賛美歌の中で「御名を崇む」と歌っているような、立派な預言者や使徒の中に立ったのです（「高きに導く」『賛美歌』173番）。自分がとても小さく感じられました。

ちょうど同じころ、ここタバナクルでとても大切な経験をしました。その経験はわたしに確信と勇気を与えてくれました。

当時はこの場所で、4月の大会前に初等協会の大会が開かれていました。南のドアから入ると、ちょうど大勢の初等協会の子供たちによる聖歌隊が開会の歌を歌っているところでした。初等協会中央管理会のルー・S・グロズバック姉妹の指揮で、子供たちはこのように歌っていました。

心低く 主の愛思い

静かに歌う 賛美の歌を
心低く 祈ります
御霊が今日も あるように
（「心低く」『子供の歌集』11）

子供たちは静かな声で歌っていました。才能豊かなオルガニストは自分に注意をひきつけることなく、子供の声に合わせて伴奏しました。巧みに抑えられたオルガンの音は、歌声と調和して靈感と啓示にあふれるメロディーを生み出しました。それがわたしにとっての決定的な瞬間でした。この経験によって心に深く永遠に刻み込まれたことこそ、その後のわたしをずっと支えてくれたのです。

わたしは預言者エリヤと同じことを感じていたのかもしれませんが。エリヤは邪悪な王アハブに反抗して天を閉じ、洞穴へ逃れて主を求めました。

「……大きな強い風が吹き、山を裂き、岩を砕いた。しかし主は風の中におられなかった。風の後に地震があったが、地震の中にも主はおられなかった。

地震の後に火があったが、火の中にも主はおられなかった。火の後に静かな細い声が聞えた。

エリヤはそれを聞いて顔を外套がいたうに包み、主と語るために「出てほら穴の口に立」ったと記録されています（列王上19：11-13）。

わたしは、主がニーファイ人に御姿を現されたときに民が感じたに違いない気持ちの幾分かを感じました。「天から発せられるような声が聞こえた。しかし彼らは、自分たちに聞こえたその声の告げる

意味が分からなかったので、辺りを見回した。それは耳障りな声ではなく、大きな声でもなかったが、小さな声でありながら、聞いた人々の心の中まで貫いたので、彼らの全身はことごとくそれによって震えた。まったく、それは魂そのものにまで彼らを貫き、彼らの心を燃え上がらせた。」（3ニーファイ11：3）

預言者ジョセフ・スミスが次のように書いたときに理解していたのは、エリヤとニーファイ人が聞いたこの静かな細い声のことでした。「万物を貫き通してささや〔く〕静かな細い声は、次のように告げられる。」（教義と聖約85：6）

あの特別な瞬間、わたしは、この静かな細い声は耳で聞くものではなく、むしろ心で感じるものだと分かりました。その声に耳を傾けるなら、わたしは自分の務めを無事に果たせらるだろうと感じたのです。

その後、求めよ、捜せ、門をたたけという招きに応じるなら、だれでも慰め主、すなわち聖霊がともにいてくださるという確信を得ることができました（マタイ7：7-8；ルカ11：9-10；3ニーファイ14：7-8；教義と聖約88：63参照）。そのときわたしはこれで大丈夫だと思いました。それから何年もたちますが、まさにそのとおりでした。

わたしはまた、音楽の中に大きな力があることも学びました。音楽が敬虔に演奏されると、それはあたかも啓示のようになります。時には、主の御声みこゑ、つまり御霊の静かな細い声と区別がつかないこともあると、わたしは考えています。

すべてのふさわしい音楽にはそれぞれ適した場所があります。良い音楽を楽しむ場所は数限りなくあります。しかしその中でもテンプルスクウェアで演奏されるタバナクルの音楽は、ほかのどの音楽とも違います。

タバナクル合唱団は何世代にもわたって、毎週の放送の始めて、ウィリアム・W・フェルプス長老が詞を書いた賛美歌を歌っています。このような詞です。

賛歌を捧げん
安息の日来ぬ、



休みの日は来ぬ
受けたる神の、
み恵みのため
感謝を捧げん
〔賛歌を捧げん』『賛美歌』84番〕

100年以上前、当時91歳だったウィルフォード・ウッドラフ大管長は、恐らく最後となった説教をこの壇上から行いました。そのとき聴衆の中に12歳のリグランド・リチャーズがいました。後に使徒に聖任された父親ジョージ・F・リチャーズが中央幹部の説教を聞かせるために、息子たちをタバナクルに連れて来ていたのです。リグランドはその経験を決して忘れませんでした。

20年以上もの間、リグランド・リチャーズ長老とわたしは親しい間柄でした。96歳になっても、あのときのメッセージはリチャーズ長老の心に響いていました。リチャーズ長老はウッドラフ大管長の言葉は忘れていましたが、その言葉を聞いた

ときに感じた気持ちは、決して忘れられなかったのです。

時折、わたしはこのタバナクルを建てた人たち、守ってきた人たちの存在を感じます。先に生きた人たちは、音楽と説教により、福音とイエス・キリストの証あかしの簡潔さを保ってきました。その証は彼らにとって人生を導く光だったのです。

教会の行く末を定める重大な出来事は、テンプルスクウェアのこのタバナクルで起こりました。

ジョセフ・スミスとブリガム・ヤングを除き、教会のすべての大管長はこのタバナクルの聖会において支持を受けています。そして同様の方式で、啓示によって命じられたとおり、毎年総大会において支持の手続きが繰り返され、すべてのステーク、ワード、支部において同じことが行われています。

主は言われました、「だれか権能を持つ者によって聖任され、そして権能を持っていることと、教会の長たちによって正式に

聖任されたことが教会員に知られないかぎり、だれもわたしの福音を宣べ伝えるために出て行くこと、あるいはわたしの教会を築き上げることは許されない。」(教義と聖約42:11)

ですから、見も知らぬ人が入って来て権能を持っていると主張し、教会を迷わせることはできないのです。

また1880年、高価な真珠がこの場所で教会の標準聖典の一つとして受け入れられました。

この場所で、現在教義と聖約第137章と第138章として知られている二つの啓示が標準聖典に加えられました。第137章はカートランド神殿でジョセフ・スミスに与えられた示現を記したもので、第138章は救い主が死者の霊を訪れられたことに関して、ジョセフ・F・スミス大管長が受けた示現です。

1979年には、長年の準備の末に完成した末日聖徒版の欽定訳聖書がこの場所で教会員に紹介されました。

モルモン書、教義と聖約、高価な真珠の新しい版もここで教会員に発表されました。

ジョセフ・F・スミス大管長は、1908年の総大会において、知恵の言葉として知られる教義と聖約の第89章を読みました。それからスミス大管長と二人の顧問、十二使徒定員会の会長が、知恵の言葉という同じテーマで話しました。それから、これを教会員が守るべき戒めとして受け入れるという提議が、全員一致で受け入れられました。

その啓示はこう始まっています。「終わりの時に陰謀を企てる人々の心の中に今あり、また将来もある悪ともくろみのゆえに、わたしはあなたがたに警告を与えており、また、啓示によりこの知恵の言葉を与えることによって、あなたがたにあらかじめ警告するものである。」(教義と聖約89:4)

これは教会員、特に教会の若者に与えられた盾であり守りです。そして啓示の中で約束されている神の「武具」の一部となって、敵対する者の放つ「火の矢」から彼らを守るのです(教義と聖約27:15-18参照)。

教会も教会員一人一人もこれまで常にサタンに攻撃されてきました。その攻撃は現在も、また将来も続くでしょう。サタンは、静かな細い声を遮断する、あるいはかき消すために、意味不明の歌詞、もっと悪いときには聞くに堪えない歌詞の音楽を、騒々しく、耳障りな音でまき散らします。そしてあらゆる手段を駆使して誘惑し、わたしたちを誤った道へと抜かりなく誘うのです。

この場所で、主は啓示により、神権の位を明らかにされました。これによって「あらゆる国民、部族、国語の民、民族に」福音を携えて行き(教義と聖約133:37)、彼らの中で主の教会を設立するという救い主の戒めを果たすために、扉が開かれたのです。

またこの場所で、モルモン書に「イエス・キリストについてのもう一つの証」という副題が付けられました。それ以来、この書物を開く人は、この副題を見て書物の内容



を知ることができるようになりました。

この聖なる建物の中で受ける教え、説教、音楽、感情、御霊は、少しも損なわれることなく、何万という聴衆のいる近くのカンファレンスセンターへ届けられ、数多くの言語に通訳されて世界中の会衆に届けられます。

さらに、その御霊は家庭に入り、何百万人もの末日聖徒に届けられます。家庭では、両親が子供たちの幸福を願って祈っています。男性も女性も、そしてモルモン書に約束されているように、幼い子供たちさえも、イエス・キリストについての証(モーサヤ24:22;アルマ32:23;3ニーファイ17:25参照)と主の福音が回復されたことについての証を受けることができるのです。

このテンプルスクウェアのタバナクルは「祈りの家、断食の家、信仰の家、栄光の家、また神の家、すなわち[主の]家」なのです(教義と聖約109:16)。ですから、この場所で話すよう招かれる人、音楽や芸

術を披露するよう招かれる人は、ふさわしいものを提供する義務があるのです。

人の誉れを求めると、気づかぬうちに、この世でたどるべき唯一の安全な道から外れてしまうと聖文は警告しています(ヨハネ12:43;1ニーファイ13:9;2ニーファイ26:29;ヒラマン7:21;モルモン8:38;教義と聖約58:39参照)。また「人の誉れを得ることを望」むとどうなるか、聖文は明白に警告しています(教義と聖約121:35)。

大切なのは、説教で何を聞いたかよりも、何を感じたかです。聖霊はその影響力を受けようとするすべての人に、メッセージが真実であり、この教会が末日聖徒イエス・キリスト教会であることを確認してください。

タバナクルはまるで^{いかり}錨のように神殿の隣に立ち、回復の象徴となっています。非常に貧しい、ごくごく平凡な人々によって建てられたものですが、今では世界に知れ渡っています。

この建物の名前を受けたタバナクル合唱団は、長年にわたって教会の声となってきました。彼らが果たしてきたその重要な使命から逸脱したり、離れたたりすることがないように祈っています。

合唱団は何世代にもわたって、毎週の放送の始まりと終わりで、靈感あふれるメッセージを伝えてきました。それは、回復された原則が豊かに盛り込まれ、回復された教義に基づいたものでした。毎回「賛歌をささげん」(『賛美歌』84番)で始まり、「草の露は、主の」(『賛美歌』86番)で終わるのです。

タバナクルはふさわしい音楽と文化の偉大な中心として世界に存在してきました。しかし、何よりも、イエス・キリストの福音の回復を示す旗印として存在してきました。その純粋な証は、この建物の中で、あの初等協会の子供たちが敬虔に、啓示のような歌声で歌っていたときに、わたしの心に深く、永遠に植え付けられたのです。

この聖なる建物に、またこの中で行われるすべてのことに神の祝福がありますように。この建物が神聖さを失うことなく再

生まれ、一新されたことを心から感謝しています。

十二使徒定員会のパーリー・P・ブラット長老は、教義と聖約第121章から次の聖句を読みました。「絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい。そうするとき、神の前においてあなたの自信は増し、神権の教義は天からの露のようにあなたの心に滴るであろう。

聖霊は常にあなたの伴^{はんりよ}となり、あなたの^{しやく}筋は義と真理の不変の筋となるであろう。そして、あなたの主権は永遠の主権となり、それは強いられることなく、とこしえにいつまでも、あなたに流れ込むことであろう。」(教義と聖約121:45-46)

深く心を動かされたパーリー・P・ブラット長老は、その思いを、祈りと言える賛美歌の詞として表現しました。長い年月、合唱団はこの賛美歌を毎週の放送の最後の歌として選んできました。

草の露は、
主のみ^{しやく}旨をなすため
降り来て その草、
よみがえらせり

恵みのみ教え
上よりくだし
主の愛のみ業
知らしめたまえ

主よ、み旨に添^そう
この集い見て
上より^{いのち}生命の露、
そそぎたまえ

み前によらしめ
みたまをたまえ
人、皆主を賛め
喜びたたえん
(「草の露は、主の」『賛美歌』86番)

この聖なる奉獻の日に、イエスがキリストであり、この建物が主の家であることについて、わたし自身の証を付け加えます。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

開拓時代と 現代の預言者

七十人会長会

アール・C・ティンギー長老

ブリガム・ヤング大管長とゴードン・B・ヒンクレー大管長とともに、靈感と啓示によって教会を導いてきた預言者です。



兄 弟姉妹、この古くて新しいタバナクルの説教壇に立っていると、この瞬間の歴史の重みに圧倒されます。片方の足を過去に、もう片方を未来に置いて両方を眺めながら、開拓時代と現代の預言者および使徒たちに感謝しています。このすばらしい建物を建設して将来に残すという、彼らが抱いていた思いは、今も息づいています。

わたしは、このような思いを持った二人の人物、ブリガム・ヤングと今日の後継者について話します。

ブリガム・ヤングは末日聖徒イエス・キリスト教会の2代目の預言者で、33年間、教会を導きました。このタバナクルを建設し、1875年10月の総大会で行った奉獻式を管理しました。今から131年以上前のこと

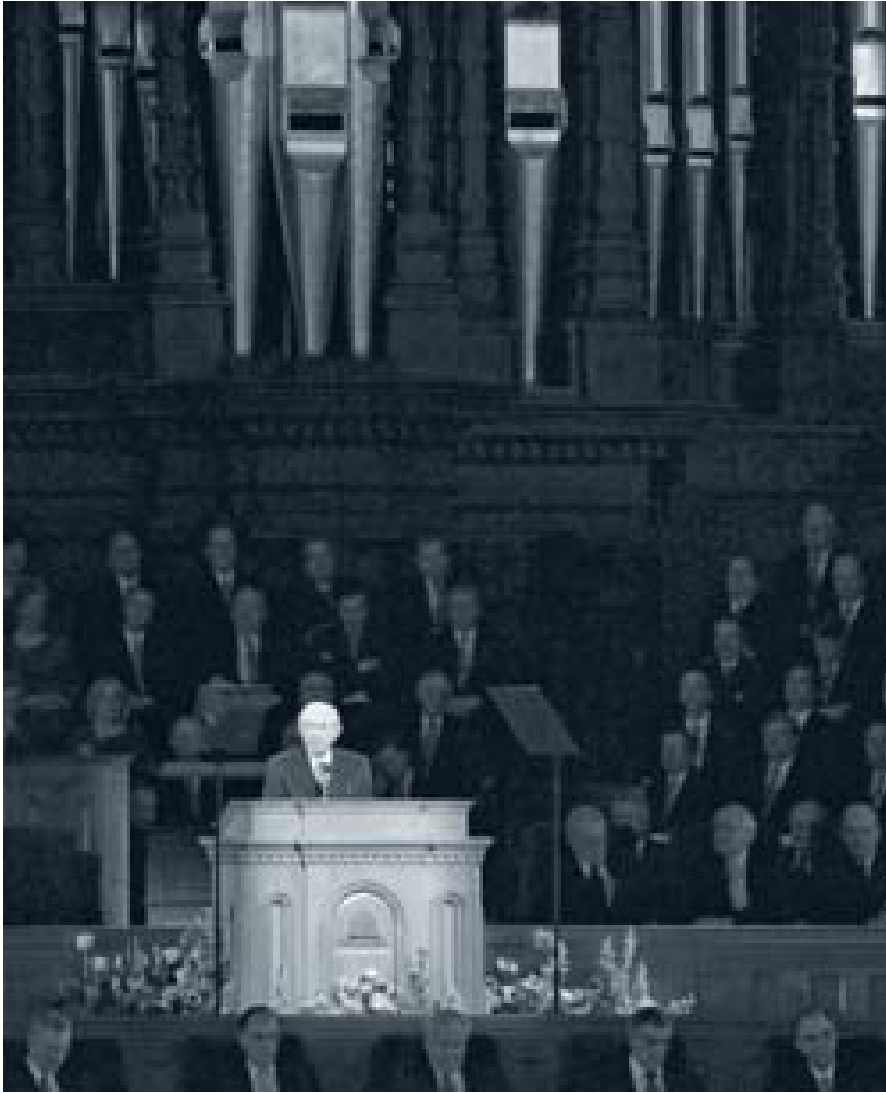
です。

ほかにも数多くの業績を残していますが、ここではほんのわずかししか触れることができません。

ブリガム・ヤングは開拓者でした。つまり、人々がその後に従って進む道を切り開き、備えた人物です。ある文筆家は、ブリガム・ヤングについてこう書いています。「ブリガム・ヤングは、この世の所有物を事実上すべて奪われた未熟で貧しい人々を未知の土地に導いた。ヤングを批判する人々も伝記作家も、近代史において他に類を見ない指導者として彼を記している。これは、ヤングがまったく政治的、財政的な援助がない中、神権と強い霊性を唯一の権威として教えを説き、砂漠の中に秩序ある勤勉な社会を一から築き上げたただ一人の人物だからである。絶え間ない勧告と教えを通して、人々を一つにまとめ上げ、地上に神の王国を建設するという神の命令を果たすように奮い立たせたのである。」¹

初めてグレートソルトレーク盆地に到着したとき、ブリガム・ヤングは「まさにこの地である」²と宣言しました。後にこう語っています。

「神はわたしに、この地こそ御自身の民が定住し、栄える地であると示してくださいました。神は聖徒たちのために自然を鎮め、霜と不毛な土壌とを叱責して、この地を豊かな実りある地としてくださいます。……わたしたちはこの地に、いと高き神



のための町と神殿を建設するのです。』³

今日、わたしたちは皆、この預言が真実であると証言できます。確かにこのロッキー山脈の砂漠と渓谷は、豊かで実り多い、約束と預言の地となりました。

ブリガム・ヤングは神殿を建設しました。ソルトレーク神殿の建設に着手し、この工事は完成までに40年を要しました。さらに、マンタイ、ローガン両神殿の建設にも着手し、亡くなる4か月半前にセントジョージ神殿を奉獻しています。

ブリガム・ヤングはアメリカの最も偉大な開拓者の一人でした。亡くなるまでに400近くの移住地を確立しています。

ブリガム・ヤングは、永代移住基金を設立しました。困窮している人々に手を差し伸べ、資金を十分に持たない人がヨーロッパ諸国から移住できるようにするためです。

ブリガム・ヤングは大学を設立しました。当時のデゼレト大学は、現在ユタ大学として知られています。末日聖徒カレッジは、現在のLDSビジネスカレッジの前身です。もちろん、ブリガム・ヤング大学も設立しました。

ブリガム・ヤングは教会と教会員を愛しました。彼はユニークな方法で教会のことを説明しています。

「シオンは強大な船であり、神がその舵を取っておられます。皆さんが船にとどまって敬意を払い、シオンの船と同じ思いを抱くなら、何も心配は要りません。……

……主は船を導き、わたしたちを安全に港へ連れて行ってくださいます。心を碎かなければならないのは、自立して正しい行いをするだけです。一人一人が忠実に断固として自分の持ち場を守り抜き、雄々しく義務を果たそうではありませんか。

せんか。そうすれば、船はどのような嵐をも乗り切って、日の栄えの無上の喜びという港へと安全に運んでくれます。』⁴

ブリガム・ヤングは教会の青少年を愛しました。それはヒーバー・J・グラントの経験からも明らかです。ヒーバーは生後9日で、父親のジェデダイア・M・グラントを亡くしました。父親はブリガム・ヤング大管長の第二顧問でした。それから21年の間、ブリガム・ヤングはヒーバー・J・グラントに特別な関心を寄せ続けました。

ヒーバー・J・グラントはこう書いています。「わたしは、母がいる自分の家と同じくらい、ブリガム・ヤング大管長の家で愛され、くつろぐことができました。おなかですくと、自分の家にいるように気軽に食べ物をねだることができました。……子供のときも、青年になってからも、ライオンハウスの大管長の家で度々家族の祈りとともにひざまずきました。』⁵

ブリガム・ヤングは預言者ジョセフ・スミスを愛していました。こう語っています。

「わたしが主から頂いたものはすべて、ジョセフ・スミスを通して授けられたものです。』⁶

「わたしは彼の教えた教義を愛しています。……ジョセフ・スミスを知っていたことを思うと、いつもハレルヤと叫びたくなります。……』⁷

わたしはブリガム・ヤングを深く愛しています。その現代の後継者は、預言者として同様に敬愛されるゴードン・B・ヒンクレー大管長です。

建物の設計図を前に、将来に期待を寄せるヒンクレー大管長を描いた見事な絵があります。絵に描かれているヒンクレー大管長の背後にはブリガム・ヤングの肖像画があり、まるでヤング大管長がヒンクレー大管長を肩越しに眺めているかのようです。

この絵に描かれているブリガム・ヤングの肖像画は、ヒンクレー大管長の執務室に実際にかけてられており、大管長自身何度もこの肖像画について話しています。最近の総大会で、大管長はこう言いました。

「特に難しい問題を抱えていたある一日の終わりに、わたしは自分の部屋に掛

けてあるブリガム・ヤングの肖像画を見上げると、こう尋ねました。『ブリガム兄弟、わたしたちはどうすべきでしょうか。』

わたしには彼がほほえんだように見え、次にこう言っているように思えました。『わたしは自分の時代に十分問題を抱えていました。どうすべきかわたしに尋ねないでください。今はあなたの担当です。主に尋ねなさい。確かに主の業なのですから。』⁸

ブリガム・ヤング大管長とゴードン・B・ヒンクレー大管長という二人の偉大な預言者には、将来を見通す預言者としての共通した思いがあり、それを実現する信仰を併せ持っているという点でつながりがあります。

ヒンクレー大管長は、ブリガム・ヤングと同じく開拓者であり建設者です。大管長は世界中を旅して、王、女王、大統領と会話し、世界のメディアからインタビューを受けてきました。教会を引き続き「暗黒から」もたらし、⁹ 過去12年間で75以上の神殿を建設し、荘厳なカンファレンスセンターを建設するという靈感を受けました。

ヒンクレー大管長は、ブリガム・ヤングと同じように福音を広め、教育を重んじています。教会の会員は、現在176の国や領土に広がり、その数は1,300万人に近づいています。また、5万3,000人を超える宣教師が世界中で奉仕し、この大会は90の言語に通訳されています。大管長は教会の大学や教会の教育を支援し続けています。現在、永代教育基金の恩恵を受けている教会員は2万6,000人以上になります。

ヒンクレー大管長は、ブリガム・ヤングと同じように教会の青少年とすべての会員を愛しています。特に教会の青少年は、ヒンクレー大管長から預言に満ちた勧告を受けようと努めています。

ヒンクレー大管長は預言者ジョセフ・スミスを愛しています。数年前、大管長は次のように語りました。

「わたしは、永遠の父なる天の神を礼拝します。わたしの救い主であり贖い主である主イエス・キリストも礼拝します。



総大会の放送に出席したブラジル・サンパウロの二人の会員。

預言者ジョセフ・スミスを礼拝はしませんが、この福音という奇跡を回復する仲立ちとなった、偉大な聖見者を尊敬し、愛しています。齢を重ねた今、物事の自然の成り行きとして、わたしは遠からずこの世を去って永遠の世に入り、造り主である主の前で人生について報告をすることになります。そのとき、預言者ジョセフ・スミスがこの腕に抱き、感謝と愛を伝える機会があるように願っています。¹⁰

ブリガム・ヤング大管長とゴードン・B・ヒンクレー大管長がともに靈感と啓示によって教会を導いてきた預言者であることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. ヒュー・W・ニブレー、ダニエル・H・ラドロ編、*Encyclopedia of Mormonism*、全5巻(1992年)、第4巻、1611
2. ウィルフォード・ウッドラフによる引用、

- The Utah Pioneers*(1880年)、23
3. ジェームズ・R・クラーク編、*Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*、全6巻(1965-1975年)、第6巻、265で引用
4. プレストン・ニブレー、*Brigham Young: The Man and His Work*(1936年)、293、352で引用
5. *Gospel Standards*、G・ホーマー・ダラム編(1941年)、223
6. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』377
7. *Discourses of Brigham Young*、ジョン・A・ウイツォー選(1954年)、458
8. 「国民の旗、世の光」『リアホナ』2003年11月号、82
9. 教義と聖約 1:30
10. *Teachings of Gordon B. Hinckley*(1997年)、509

「もしこの古い壁が 口を利けるとしたら」

管理ビショップ

H・デビッド・バートン ビショップ

**100年以上の間、末日の預言者、聖見者、啓示者の言葉が、この説教壇から世に
発せられてきました。**



ゴードン・B・シンクレイ大管長は、2004年10月の記者会見でこう語りました。「わたしはこの建物に敬意を抱いています。この建物を愛しています。大切に思っています。この建物を残したいのです。……古い、元のままのタバナクルの弱くなったつなぎ目をしっかりとつなぎ、強化して、ありのままの、すばらしい美しさを残したいのです。」それからわたしを見てこう言いました。「手を加えるべきでないところには一切手を加えないでください。手を加えるなら巧みに、正しくやってください。」¹

この心揺さぶる、しかし恐ろしい言葉とともに、わたしたちにある責任が任せられました。古い、元のままのソルトレークタ

バナクルを守り、強化し、再び卓越した働きができるように新たな活力を与えてよみがえらせる責任です。

愛する大管長、本日わたしたちは、新たに磨きをかけられ、歴史の優美さを保ったまましっかりと固定されたこの高齢の建物をお渡しします。とはいえ以前より少々快適です。管理ビショップリックは誇りをもって、2,000人以上の職人とともに、「古い、元のタバナクル」をお返しします。100年間の保証付きです。

「古い、元のままのタバナクル」を復元するようというシンクレイ大管長の求めは、建築および構造上の難題に判断を下す際の基準となりました。この言葉はプロジェクトの真髄と目的を表すために用いられました。「すべての塔の上」や「行く先々の」² 必要な場所で高く掲げられたため、司令官モロナイの自由の旗のようでした。

もしこの古い壁が口を利けるとしたら、FFKR設計事務所、ジェイコブセン建設、また何よりも重要な教会のプロジェクトチームなど、この複雑な計画を実現可能にした技術者に、声を合わせて感謝を述べるでしょう。ある主任技術者はこう言いました。「互いに意見を交わすことにより、本来持っている以上の力を主から受けました。」

プロジェクト関係者は皆、タバナクルの美しさや、元のタバナクルを建設した人

たち、そしてその技術の高さに多大な敬意を抱きました。100年以上の間、末日の預言者、聖見者、啓示者の言葉がここから語られてきたことに驚嘆しました。

もしこの古い壁が語れるとしたら、きっと新しい堅固な土台があることに感謝を述べるでしょう。高く直立できるよう壁を支える、新しいスチールベルトに喜びを感じるでしょう。また、天井から14層のペンキを取り除いて、新たにきれいに塗装を施したことに感謝することでしょう。

この古い壁は、光沢のある新しいアルミ製の屋根に守られ、美しくなったことに感謝するでしょう。また、幾らか座り心地が良くなったいすや、前列との間隔が少しゆったりしたことに気づいて喜ぶ利用者の笑顔を、あの長いすとともにうれしそうに眺めるでしょう。

この古い壁は、靈感あふれる音楽の調べを以前にも増して響かせる新しい設備を歓迎し、感謝するでしょう。

想像しかできませんが、古い壁たちは、これまで何年も注意深く耳を傾けてきた多くの説教を思い出すことでしょう。

もしこの古い壁が話せるとしたら、1918年10月に、「わたしたちはここにいた!」と叫ぶことでしょう。ジョセフ・F・スミス大管長が長期にわたる闘病生活の中で総大会に出席し、最初の部会で感極まりながらこう言ったのです。「今朝は心に去来することの多くをあえて語ろうとは思いません。それはもう少し先に延ばしたいと思います。そのときになれば主は、わたしが考え、心に感じていることを皆さんに告げる試みを喜んで受け入れてくださるでしょう。」スミス大管長は続けて述べています。「この5か月の間、わたしは独りではありませんでした。祈りと嘆願と信仰と決意の霊の内にあり、絶えず主の御霊と交わっていたのです。」³ 後日、スミス大管長が大会の前日に、死者の贖いに関する示現として記録されている啓示を受けたことが分かりました。この示現は後に教義と聖約第138章になっています。

もしこの古い壁が語れるとしたら、大恐慌時代の沈んだ、暗い日々について思い出させてくれるでしょう。1936年4月の総



大会で、ヒーバー・J・グラント大管長は教会の保全計画を開始することを発表しました。これは後に教会福祉計画と呼ばれます。6か月後、グラント大管長はこう説明しました。「わたしたちの第一の目的は、可能なかぎり、忌まわしい怠惰や施しのもたらす悪弊を排除し、独立心、勤勉、儉約、自尊心を再びわたしたちの間に確立することである。教会の目的は、人々の自立を助けることである。勤労が再び教会員の生活を貫く原則にならない。」⁴

1964年10月、デビッド・O・マッケイ大管長の指示により、ハロルド・B・リー長老は親の責任について話しました。これらの壁は、1915年に教会員に向けて書かれた大管長会の手紙を読み上げるリー長老の声を感じているでしょう。手紙を読み上げる前に、リー長老はこのように言いました。「これはマーク・トウェンが天気について言ったのと似ている気がします。『わたしたちは天気についてよく話すが、それをどうにかしようとはしない。』」それからリー長老は50年前の手紙を読みました。

「わたしたちは全教会で『家庭の夕べ』を始めるように勧告し、また強く求めます。

父親と母親はこのひととき、家庭に子供たちを集めて、主の言葉を教えることができます。……」

そして次の約束が続きます。

「聖徒たちがこの勧告に従うならば、大いなる祝福がもたらされることをわたしたちは約束します。家庭に愛が満ち、両親に対する従順が増し加えられるでしょう。イスラエルの若人の心に信仰がはぐくまれ、襲いかかる悪の力と誘惑に立ち向かう力を得ることでしょう。」⁵

また、この古い壁たちは、1985年の総大会の話者として、ブルース・R・マッコンキー長老の名前が挙がったときにタバナクルが静まり返ったことを覚えています。マッコンキー長老が次の感動的な言葉で話し終えたとき、この古い壁たちは深い畏敬の念を抱いたことでしょう。

「そして、神の血を流すことによってなされた完全な贖罪しよくざいに関して、わたしはそれがゲツセマネとゴルゴタで行われたことを証あかしします。またイエス・キリストに関して、イエスが生ける神の御子であり、この世の罪のために十字架におかかりになった御方であることを証します。イエスはわたしたちの主であり、神であり、王であら

れます。わたしはこのことをほかのだれにも頼らず、自分自身の知識として知っています。

わたしは主の証人の一人であり、いつの日か主の御手と御足の釘跡くぎあとに触れ、主の御足を涙でぬらすことでしょう。

しかし主が神の全能の御子であられ、わたしたちの救い主、贖い主であられ、また救いが贖いの血以外の何ものからももたらされないとの知識は、今と何ら変わることがないのです。」⁶

1995年に、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は教会の女性にこう語りました。「真理という仮面をかぶった詭弁こびんがあふれており、倫理基準や価値観に対する欺瞞ぎまんが後を絶たず、じわじわと世の汚れに染めていこうとする誘惑があまりにも多い現代において、わたしたちは皆さんに警告したいことがあります。現在起こっていることと、これから起こることの両方に対する警告です。」ヒンクレー大管長はその後でこのように読み上げました。

「わたしたち、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒評議会は、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の

行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。
.....

夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。『子供たちは神から賜わった嗣業であり』（詩篇127:3）とあります。両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。夫と妻、すなわち父親と母親は、これらの責務の遂行について、将来神の御前で報告することになります。』⁷

わたしはこのたぐいまれな建物に感謝しています。タバナクルは、過去に対する神聖な記念碑であり、将来への希望を表す壮大なしるしです。天の愛ある御父の神性を証します。また、わたしたち一人一人に対する救い主のあふれんばかりの愛を証します。神の預言者によって導かれていることを心から感謝し、イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. "Tabernacle Renovation Press Briefing—Remarks by President Gordon B. Hinckley", 2004年10月1日: www.newsroom.lds.org [英語] 参照
2. アルマ46:36;62:4
3. Conference Report, 1918年10月, 2
4. Conference Report, 1936年10月, 3
5. Conference Report, 1964年10月, 83-84
6. 「ゲツセマネの清めの力」『聖徒の道』1985年7月号, 11
7. 「世の策略に対抗して立つ」『聖徒の道』1996年1月号, 113-114。「家族—世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49も参照

感謝——幸福への道

前中央扶助協会会長
ボニー・D・パーキン

感謝は御霊に満ちた原則です。感謝することにより、生ける神の豊かな恵みに満ちた世界を知ることができます。



今日は、まさにこのタバナクルにおいて、代々の扶助協会の指導者たちを代表することを光栄に思います。彼女たちはここで、王国の教義を教え、家庭や家族の中での女性の役割の重要性を力説し、互いに慈善奉仕をするように呼びかけ、義にかなった生活をするところから得られる喜びを姉妹たちに思い起こさせてくれました。

1870年に、エライザ・R・スノーは何千人もの女性にこの壇上から一つの質問をしました。今日その質問を繰り返したいと思います。「この地上で、末日聖徒の女性のように自由であり、また高貴で輝かしい特権を得ている女性がほかにいるでしょうか。」¹ わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の女性が高貴で輝かしい特権を得ていることを証します。

祝福のかご

すばらしい話を一つ紹介します。ある家族は大変な時期を迎えていました。目の前の難問で頭はいっぱいでした。その家族の母親はこう書いています。「わたしたちの生活はめちゃくちゃになっていたので、天の御父の導きを求めました。そうするとすぐに、わたしたちの周りには良いことがたくさんあり、あちらこちらから励まされていることに気がついたのです。そこで家族みんなで毎日、主に対してはもちろん家族にも感謝を伝えることにしました。親しい友人から、あなたの家族の『祝福のかご』はあふれているわねと言われました。その言葉からヒントを得て、わたしたちはあるゲームを思いつき、子供たちと一緒に楽しむようになりました。毎晩家族の祈りをする前に、その日のことを話し合い、『祝福のかご』に加えられた多くの祝福を互いに分かち合うのです。感謝を表せば表すほど、感謝するべきことが増えてきました。このように成長する機会が与えられ、主の愛をとて深く感じました。」²

「祝福のかご」は、皆さんの家族をどのように祝福してくれるでしょうか。

御霊に満ちた原則

感謝するには、感謝の気持ちを認識するだけでなく、感謝を表現する努力が必要です。わたしたちはしばしば主の御手に気がつかないことがあります。わたしたちは、つぶやいたり、不平を言ったり、反抗したり、批判したりします。感謝の気

持ちを抱かないことが実に多いのです。モルモン書は、つぶやく者は「自分たちを造られたあの神の計らい」³を知らないと教えています。主は、つぶやくと御霊の働きが妨げられるので、つぶやいてはならないと教えておられます。

感謝は御霊に満ちた原則です。感謝することにより、生ける神の豊かな恵みに満ちた世界を知ることができます。感謝することによってとても小さな事柄のすばらしさを、霊的に認識できるようになります。小さな事柄の中にある神の愛のメッセージによって、わたしたちの心は喜びます。このように感謝すべきことを認識できるようになると、神からの導きをより敏感に感じるようになります。感謝を伝えると、わたしたちは御霊に満たされて周りの人や主と結ばれるのです。感謝は幸福を吹き込み、天の力を運びます。アミュレクは、「神が授けてくださる多くの憐れみと祝福を日々感謝しながら生活するように」⁴と語っています。

憐れみと祝福は、様々な形で訪れます。時には困難な事態として訪れることもあります。にもかかわらず、主は言われました。「あなたはすべてのことについて、主なるあなたの神に感謝しなければならぬ。」⁵「すべてのこと」とはその言葉どおり、良いことも困難なことも全部です。「幾つか」ではありません。主は感謝の気持ちがあれば幸福になれることを御存じなので、すべてに感謝するようにと命じておられるのです。これも神の愛の一つの表れです。

だれかから感謝を伝えられたら、どう感じますか。ある日曜日、わたしは扶助協会で、ある姉妹の隣に座り、彼女についてもう少しよく知ることができました。数日後、次のような電子メールを受け取りました。「扶助協会で娘の隣に座っていただき、ありがとうございます。あなたは娘の肩を抱いてくださいました。それが娘とわたしにとってどれほど大きな意味を持つかお分かりにはならないでしょう。」⁶わたしはこの母親の言葉に驚き、そして、とても幸せな気持ちになりました。

皆さんがだれかに感謝を伝えるとき、どう感じますか。わたしの孫たちの世話



をしてくださっているある人に感謝を伝えたいと思います。数か月前テキサスへ行ったとき、6歳のトーマスに、彼のビショップはどんな人か聞きました。するとトーマスは言いました。「あのね、おばあちゃん、見たら分かるよ。黒っぽいスーツを着ているよ、パパのような白いワイシャツを着ているよ。靴はピカピカで、赤いネクタイをしているんだ。眼鏡をかけて、いつもにこにこしているよ。」トーマスのビショップに会ったとき一目で彼がその人だと分かりました。わたしはビショップへの感謝でいっぱいになりました。グッドマンビショップ、そしてすべてのすばらしいビショップの皆さん、ありがとうございます。

信仰の表現

ルカによる福音書第17章には、救い主が重い皮膚病にかかっていた10人の人を癒されたときのことが記されています。御存じのように、癒された10人のうち、神に感謝を伝えるために帰って来たのは、たった一人でした。興味深いのは、主は「あなたの感謝があなたを救ったのだ」とは言わず、「あなたの信仰があなたを救ったのだ」⁷と言われたことです。

救い主は彼の示した感謝を、彼の信仰の表現であることと認められました。優しいけれども御姿みすがたを見ることのできない天の御父に、祈りを通して感謝を表すとき、わたしたちは神への信仰をも表しています。感謝することは、わたしたちの生活に主

の御手があることを快く認めることです。つまり信仰を表すことなのです。

苦難の中での感謝——隠された祝福

1832年、主は来るべき苦難に対して教会員に備えをさせる必要があることを御覧になりました。苦難は恐ろしいものです。にもかかわらず主は言われました。「元気を出しなさい。わたしがあなたがたを導いて行くからである。天国はあなたがたのものであり、その祝福もあなたがたのものであり、また永遠の富もあなたがたのものである。」

すべてのことを感謝して受け入れる者は、栄光を与えられるであろう。⁸

苦難さえもありがたく受け入れるという感謝の心には次の条件が求められます。打ち砕かれた心と悔いる霊、変えられないことを受け入れる謙虚さ、たとえ理解できないときでも主にすべてをゆだねること、まだ明らかにされていない隠された機会に感謝する気持ちなどです。平安が訪れるのはそれからです。

試練や苦難に対して皆さんが最後に主に感謝したのはいつのことだったでしょうか。逆境にあるとき、わたしたちは祈らずにはいられません。同じように、逆境に対する感謝の祈りもささげているでしょうか。

デビッド・O・マッケイ大管長はこう述べています。「苦しい逆境にあるときこそが、わたしたちの感謝の心が真に試されると

きです。……それは……生活の表面的な悲しさや楽しさに左右されない深い感謝です。』⁹

終わりに

驚嘆すべき、信仰篤い、教会の姉妹であり、わたしの姉妹である皆さん、皆さんが奉仕を通して主の愛を示していることに感謝しています。また、愛する人を亡くした家族への配慮、訪問教師としての気配り、初等協会で子供たちの証を築こうとする努力、若い女性が女性らしい特質をはぐむ備えをするために時間を注いでくださること。皆さんが一心に尽くしてくださることに感謝しています。わたしは皆さんの忠実さによって主の愛を感じてきました。皆さんとともに仕えることによって祝福を受けてきました。わたしの心は皆さん一人一人への感謝と愛でいっぱいです。またともに働いてきた神権者の兄弟たちに深く感謝しています。

そして最も深い感謝をわたしの救い主にささげます。主は、天の御父が求められたことをすべて成し遂げ、わたしたちすべての罪を贖ってくださった従順な御子です。主を覚え、主の慈しみに感謝するとき、主のようになりたいと思います。毎日の生活の中で主の愛を感じるができますように。「言いつくせない賜物のゆえに、神に感謝」¹⁰ します。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。

注

1. ジル・C・マルベール “Eliza R. Snow and the Woman Question,” *Brigham Young University Studies*, 1976年冬, 251
2. 個人的な書簡
3. 1ニーファイ2: 12
4. アルマ34: 38
5. 教義と聖約59: 7, 強調付加
6. 個人的な書簡
7. ルカ17: 19, 強調付加
8. 教義と聖約78: 18-19, 強調付加
9. *Pathways to Happiness*, リウエリン・R・マッケイ編(1957年), 318
10. 2コリント9: 15

覚えておきなさい。 滅びてはならない

七十人

マーリン・K・ジェンセン長老

神が意図しておられる方法で覚えることは、救いに必要な福音の基本原則です。



パーキン姉妹に続いて話せることを光栄に思います。パーキン姉妹の二人の顧問もそうですが、姉妹が行ってきた奉仕とその教えは、わたしたち皆に祝福をもたらしました。18年半前、今と同じ時間に、わたしはこの説教壇の近くに立って、皆が賛美歌を歌い終わるのを待っていました。前に進んで、総大会で初めて説教をしようとしていたのです。不安に思っているのが見て取れたのでしよう。後ろに立っていたL・トム・ペリー長老が顔を近づけて、持ち前のきっぱりとした元気な調子でこうささやきました。「リラックスしてください。緊張のあまり壇上で命を落とした人はここ何年もいませんから!」

この励ましの言葉と、それからの数分

間に全世界の末日聖徒に向けて初めて話をしたことは、わたしにとって忘れられない思い出となっています。皆さんと同じように、わたしはいつも思い出を大切にしています。そこから非常に有益な教訓を学ぶことができ、また楽しい思い出が多いからです。そればかりか、歳を取っても昔話をして周囲に煙たがられるようなまねは決してするまいと、若いころ決心していたにもかかわらず、今ではあらゆる機会に思い出を語っています。今日は、記憶の持つ、より深遠な役割について話します。イエス・キリストの福音において、「記憶する」「覚える」ということは、単に過去の記憶を思い出して楽しむだけにとどまりません。

「覚える」という言葉が聖典の中でどのように使われているかよく注意して見ると、神が意図しておられる方法で覚えることが分かります。なぜなら、覚えるよう促す預言者の勧告はたいへい、耳を傾ける、見る、行う、従う、悔い改める、といった行動を求めるからです。神が望まれる方法で「覚える」ならば、人生の戦いのために防備を固めるだけにすぎない人間の性癖を克服して、実際に戦いに参加するようになります。誘惑を退け、罪を避けるためにできる限りのことをするのです。

ベニヤミン王は、覚えておくことに熱心であるよう自分の民に勧告しました。

「最後に言うが、あなたがたが罪を犯す

もとなることをすべて告げることはできない。その方法や手段はいろいろあって、数え上げられないほど多いからである。

しかし、これだけは言える。もし自分自身や自分の思い、言葉、行いに注意を払わず、神の戒めを守らず、主の来臨について聞いた事柄を生涯の最後まで信じ続けないならば、あなたがたは滅びるに違いない。おお、人々よ、覚えておきなさい。滅びてはならない。」²

覚えることの人生における重要な役割に気づいたわたしたちは、何を覚えるべきでしょうか。今日ここに集い、由緒あるタバナクルを記念し、再奉獻するに当たり提言できることは、イエス・キリストの教会とその民の歴史を、記憶にとどめるべきだということです。聖典では、教会の歴史に重点が置かれています。実際、聖典の大部分は教会歴史から成っています。教会が組織されたその日、神はジョセフ・スミスに、「見よ、あなたがたの間で記録を記さなければならない」³と命じられました。この命令に従い、ジョセフは教会の第二の長老であり、ジョセフの第一補佐でもあったオリバー・カウドリを、最初の教会歴史家に任命しました。記録を取るのには記憶を助けるためであり、教会の起こりと発展は、オリバー・カウドリの時代から現在まで記録されています。この驚くべき歴史記録は、神が再び天を開き、現



部会の合間に、テンプルスクウェアの訪問者センターにある絵を鑑賞する会員たち。

代のわたしたちに行動を促す真理を明らかにされたことを思い起こさせます。

長い年月にわたって歴史家たちが収集し、保存し、記述してきた記録の中でも、ジョセフ・スミスの純粋で実直な物語ほど、教会歴史の大切さと影響力を如実に示しているものはありません。それは父なる神と御子イエス・キリストがジョセフに御姿を現された、「最初の示現」として教会歴史に記されている物語です。何世代にもわたって宣教師たちが暗記し、真理を探究する全世界の人々に伝えてきた言葉の中で、ジョセフは、どの教会が正しいのかという祈りに、奇跡的な方法で答えが与えられたことを語っています。

「わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。

……そして、その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上

の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」⁴

ジョセフは実際に主に尋ねてみました。以来、無数の人々がこの話を聞き、読み、ジョセフが回復の一端を担ったイエス・キリストの福音を受け入れてきました。わたしはジョセフ・スミスを信じ、彼が神の真の預言者であったことを知っています。ジョセフの最初の示現を思い起こす度に、さらなる決意と行動に駆られます。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長ほど、教会歴史の価値を認識している人はいません。人を喜ばせるユーモアのセンスもさることながら、その歴史に対する思いは力強いものです。大管長の著書や説教には、教会歴史の信仰を鼓舞する物語や逸話が散りばめられています。大管長は生ける預言者として、わたしたちが今この時にもっと義にかなった生き方ができるよ



う、過去と未来を強調しているのです。その教えを通して、わたしたちは、預言と信仰によって教会の未来に神の御手があることを確信できるように、記憶することで教会の歴史に神の御手があったことを確認することができます。ヒンクレー大管長は、わたしたちが神の恵みを通してさらに忠実に試練に立ち向かえるように、初期の教会員が試練に立ち向かう姿を思い出させてくれます。過去を思い起こさせることにより、大管長はわたしたちを、霊的な遺産である当時の人々や場所、出来事と結びつけ、わたしたちがさらに奉仕に励み、信仰を深め、より親切になるよう動機づけます。

また、模範的な方法で、ヒンクレー大管長は自分の経験や家族の歴史をわたしたちに話してくれます。伝道に出たばかりで落胆している宣教師の中には、ヒンクレー大管長も伝道を始めたころに落胆して、父親に手紙で伝えたことを知って安心した人も多いはず。大管長は、父親から来た短い返信も堂々と紹介してくれました。「愛するゴードンへ。手紙を読みました。わたしにできる忠告はただ一つ。自分を忘れて御業に励みなさい。」⁵ 70年以

上もたった今でも、ヒンクレー大管長がこの勸告を胸に刻んで忠実に従っていることは、だれもが認めるとおりです。大管長の卓越した人格と預言者の知恵を見ると、自分の過去はもちろん、教会歴史を心に留めることにより、多くを得られることがよく分かります。

イエス・キリストの福音における、「記憶」と「覚える」ことについては話が尽きません。わたしたちはよく、神聖な聖約と神の戒めを覚えることや、亡くなった先祖を覚え、救いの儀式を執行することについて語ります。そして何よりも、救い主であるイエス・キリストを覚えることがどれほど必要かを語ります。都合の良いときだけではなく、主が命じておられるように常に覚えておくのです。⁶ 聖餐を取るとき、わたしたちはいつも主を覚えていることを証明します。それに対して、いつも主の御霊を受けるといふ約束を与えられます。興味深いことに、「[わたしたちに]ことごとく思い起こさせる」のは、天の御父から送られるこの同じ御霊なのです。⁷ このように、ふさわしい状態で聖餐を受けるならば、わたしたちは御霊を通して、繰り返し思い起こすという記憶の環の中に入り、キ

リストとその贖いをいつも思い起こし、常に献身的に仕えることができるようになります。

キリストのみもとに来て、キリストによって完全になるということは、覚えることの究極の目的ではないかと思えます。⁸ 神が祝福してくださり、神の完全な御子を特に覚え、滅びることがないように祈ります。キリストの神性と救いの力を感謝をもって証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 2ニーファイ1:12, モーサヤ6:3, ヒラマン5:14参照。(訳注:「覚える」という意味の remember は、「思い起こす」「思い出す」などとも訳されている。)
2. モーサヤ4:29-30
3. 教義と聖約21:1
4. ジョセフ・スミス—歴史1:16-17
5. ゴードン・B・ヒンクレー, *Faith: The Essence of True Religion* (1989年), 115
6. 3ニーファイ18:7, 11参照
7. ヨハネ14:26
8. モロナイ10:32-33参照

ソルトレーク タバナクルの再奉献

大管長会第二顧問

ジェームズ・E・ファウスト管長

この素晴らしい建物が補強され、新しくなり、神の子供たちを教え導き、高めるためにこれからもずっと使われていくことに感謝しています。



ソルトレーク神殿の西に位置する偉大な建造物、ソルトレークタバナクルの再奉献式に出席できることは、大きな誉れであり、特権です。この建物の中で行われた偉業に携わったすべての人に感謝いたします。特に、管理ビショップリックのH・デビッド・バートンビショップ、リチャード・C・エッジリービショップ、キース・B・マクマリンビショップの3人が、ソルトレークタバナクルを最新式のものにしたり修復したりする作業を監督するに当たり、素晴らしい指導力を発揮してくれたことに感謝しています。

少年時代からこれまで、このタバナクルに集った懐かしい思い出がいろいろとあります。ここでバプテスマを受けましたし、執事になったときには、父親に連れられて、

今の総大会の神権部会に当たる中央神権会に出席しました。15分前に着きましたが、簡単に2階席に座ることができました。

教会の初期の時代には、目的を礼拝に限って建設された建物はカートランドとノーブーの神殿だけでした。いずれも啓示に基づいて建てられました。記録にあるかぎり、教会が集会所として建てた最初の建物は、校舎としても使われていました。それは、1831年にミズーリ州に建てられた丸太小屋でした。¹

1836年にカートランド神殿が奉献されるころまでには、会員も増え、奉献式への出席を希望するすべての聖徒を収容するには小さすぎるようになっていました。預言者ジョセフ・スミスは、もっと多くの人を収容できなくて残念である、と記録に残しています。²しかし、カートランドで聖徒や指導者への迫害が激しくなってきたため、1838年、教会はこのかけがえのない建物を後に残して、本拠地をミズーリへ移しました。

ノーブー神殿は基本的に、1階と2階に集会の部屋があったカートランド神殿ならに倣って建てられました。しかし1846年にノーブー神殿が完成する以前には、聖徒たちは野外で集会を開き、ジョセフやほかの教会指導者たちの話に耳を傾けました。建設中の神殿の近くで開かれることもよくありました。時には何千という人々が集まりました。

ジョージ・A・スミスはユーモアを込め

て、このように表現しています。「預言者ジョセフの時代には……『モルモニズム』は野外の方が最も多くの人に説かれた。」なぜなら、「預言者が世を去るまでに、すべての聖徒を収容できるような大きな建物を建てることができなかったからだ。」³

時に野外集会の最中に天気が悪くなり、話し手も聴衆も大変な目に遭うことができました。ジョセフ・F・スミス大管長はノーブー神殿近くで行われた野外集会の苦勞をよく覚えていて、次のように語っています。

「礼拝の場所について最初に思い出すのは、ノーブーです。神殿用地近くの小さな森で行われた集會に母とともに出席し、ブリガム・ヤングやヒーバー・C・キンボール、オーソン・ハイド、パーリー・P・プラット、オーソン・プラット、預言者ジョセフ、大祝福師ハイラムといった兄弟たちが話すのを聞きました。非常によく覚えていることがあります。その森で開かれたある集會で、聴衆の前に荷馬車が置かれ、御者席に預言者ジョセフが立って話し始めたとき、ちょうど雨が降り始めました。一人か二人が立ち上がり、ジョセフがぬれないようにと傘を差しかけました。傘を持っていない人もたくさんいて、そこに座り続けているのは非常に不快で、つらいものでしたが、彼が話す間、そこを立ち去る人はだれもいませんでした。当時わたしはまだ幼かったのですが、そのことは今もよく覚えています。」⁴

預言者ジョセフは亡くなる前に、大きな集會に集う聖徒たちを収容するために、丈夫なキャンバス地で礼拝目的の幕屋、つまりタバナクルを作るようにという指示を残していました。1845年、神殿が完成に近づき、十二使徒定員會のオーソン・ハイド長老が資金調達と「約4,000ヤード(約3,700メートル)分」のキャンバス地を購入するために、東部に戻されました。ブリガム・ヤングが「シオンにおける會見の幕屋」と語った建物を建てるためでした。⁵

オーソン・プラット兄弟は1845年8月30日付けの手紙の中で、キャンバス地製のタバナクルの建設候補地やそのデザインについて、次のように説明しています。

「教会は、神殿の西側に隣接して、カン



バス地のタバナクルを建設する予定です。このタバナクルは、楕円形で……その床面積は8,000人から1万人を収容するに十分な大きさで、席はひな壇式に、後列になるにつれてだんだんと高くすることになっています。』⁶

翌日、兄弟たちはカンバス地製のタバナクル建設のために整地を始めましたが、敵の迫害が強まったため、聖徒はノーブーからの退去を余儀なくされました。そのため、カンバス地のタバナクルが建てられることはありませんでした。オーソン・ハイドは「1846年、布を荷馬車に積み込み、西へ向かいました。』⁷ ソルトレーク盆地へと旅する聖徒たちのために「布はテントや幌馬車の屋根や後部の覆いなどに役立てられるだろう」⁸ と推測していた人もいたようです。

ソルトレーク・シティーのテンプルスクウェアに完成したタバナクルは、ノーブーに建てる予定だったカンバス地のタバナクルとほぼ同サイズで、ノーブーのタバナクルと同様に、神殿の真西に位置しています。西部への大規模な移住などと同じように、ジョセフ・スミスはこの大規模なタバナクルを構想し、ブリガム・ヤングがそれを実現したのです。

ノーブーで建設される予定だったタバ

ナクルは、実際にそこに建てられることはありませんでしたが、この歴史的な建物の原型となりました。わたしが幼いころは総大会をラジオで聞いたものですが、今は通信衛星と近代的な電気機器のおかげで、ソルトレーク・シティーから一斉に全世界に向けて放送し、世界中の建物で受信されています。ちょうど今わたしたちがしているようにです。これはこの時代の人々の必要を満たすために中央幹部に与えられた靈感によるものです。この一つの例を取ってみても、教会員の必要を満たすことを、主がどのように可能にくださるかがよく分かります。主は、絶え間なく発展を続ける教会の全会員の必要を満たす方法と手段を、主の預言者ゴードン・B・ヒンクレーに常に明らかにしてください。わたしはそのことを証します。

このすばらしい建物が補強され、新しくなり、神の子供たちを教え導き、高めるためにこれからもずっと使われていくことに感謝しています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. リチャード・W・ジャクソン、*Places of Worship: 150 Years of Latter-day Saint Architecture* (2003年)、16

参照

2. *History of the Church*, 第2巻、410–411参照
3. *Deseret News*, 1855年8月29日付、194
4. “The Spirit of Worship,” *Improvement Era*, 1910年6月号、749–750
5. Brigham Young to the Saints Abroad, 1845年6月17日, *New York Messenger*, 1845年8月16日付。 *History of the Church*, 第7巻、427; エルデン・J・ワトソン, “The Nauvoo Tabernacle,” *Brigham Young University Studies*, 1979年春号、416も参照
6. オーソン・プラットからリユーベン・ヘッドロックにあてた1845年8月20日付の手紙, *New York Messenger*, 1845年8月30日付、67に掲載。 *Brigham Young University Studies*, 1979年春号、420も参照
7. グレン・M・レナード, *Nauvoo: A Place of Peace, a People of Promise* (2002年)、479–480
8. *Brigham Young University Studies* 1979年春号、421。ウィリアム・スミスが グレン・M・レナード, *Nauvoo*, 754に記載した注釈86も参照

タバナクルの思い出

大管長会第一顧問

トーマス・S・モンソン管長

今日この建物が再奉獻されるに当たり、わたしたちも主であり救い主であるイエス・キリストの業のために、生涯をささげることを再び誓いましょう。



こタバナクルにいる兄弟姉妹、様々な手段を使って世界中で耳を傾けている兄弟姉妹の皆さん、再びこのすばらしい建物が皆さんの前に立てることをうれしく思います。この場にいます、この美しい礼拝の家を建設した初期の聖徒たちと、長年にわたり手入れし、磨き上げてきた人々の霊を感じずにはられません。

わたしは最近、人生におけるソルトレークタバナクルにまつわる数々の重要な出来事を思い出していました。たくさんありすぎてすべてを語り尽くすことはできませんが、その幾つかを話します。

8歳になり、バプテスマを受ける日が近づいたときのことを思い出します。母が悔い改めとバプテスマの意味を話してくれました。そして1935年9月のある土曜日に、母はわたしを路面電車に乗せて、タバナクルのバプテスマフォントに連れて行って

くれました。バプテスマフォントは最近までこの建物にありました。当時は、現在のように父親が子供のバプテスマを施すことが日常的ではありませんでした。バプテスマの儀式は一般的に土曜日の午前か午後に行われており、たいいてい父親はその日に仕事をしていたからです。わたしは白い服に着替え、バプテスマを受けました。その日のことと、儀式を受けて感じた喜びを、まるで昨日のことに覚えています。

長年にわたり、そして特にビショップを務めていた間、わたしはタバナクルのフォントで行われたたくさんのバプテスマを見てきました。どれも特別で、霊を鼓舞し、自分のバプテスマを思い起こさせるものでした。

1950年4月、妻のフランシスとわたしはこの建物で開かれた総大会の日曜日午後の部会に出席しました。教会の大管長であったジョージ・アルバート・スミス大管長は、部会を閉会するに当たり、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの復活について、靈感あふれる力強いメッセージを伝えました。ところが話を終える前に、大管長は預言者として警告を発したのです。こう語りました。「急いで悔い改めなければ、間もなく人類に不幸が襲いかかります。そう遠くないうちに、世界各地に散在している多くの人々が、今後起こることのために亡くなるでしょう。」(Conference Report, 1950年4月, 169) 実に気がかりな言葉でした。神の預言者がそれを語ったからです。

その総大会から2か月半後の1950年6月

25日、朝鮮半島で戦争が勃発し、この戦争は結果的に推定250万人の死者を出しました。その事件を通して、わたしはその春、この建物でスミス大管長が語った言葉を思い返すよう強く促されました。

わたしは、タバナクルでの総大会に何度も出席し、常に指導者の言葉に教化され、靈感を受けてきました。そして1963年10月、わたしはデビッド・O・マッケイ大管長から事務所に招かれ、十二使徒定員会会員の召しを告げられました。大管長は、この神聖な召しを伴員以外には一切明かさず、内密にしておくように告げ、翌日のタバナクルでの総大会で、わたしの名前が読み上げられると言いました。

翌朝、タバナクルに着いたわたしは、どこに座ったらよいかまったく分かりませんでした。わたしは神権ホームティーチング委員会の会員だったので、委員会の人たちと座ることにしました。ヒュー・スミスという、やはり神権ホームティーチング委員会の会員だった友達を見つけると、彼はわたしに、隣に座るようにと手で合図しました。召しについて何も言うことができありませんでしたが、とにかく座りました。

部会の中で、十二使徒定員会の会員が支持を受け、確かにわたしの名前も呼ばれました。聴衆席から壇上までは、生涯で最も長い道のりでした。

その大会から44年近くがたちました。2000年にカンファレンスセンターが奉獻されるまで、中央補助組織の大会やその他の集会を別にして、わたしはこの建物の説教壇から101回の総大会メッセージを伝える特権にあずかりました。今日のこの話で102回目になります。これまで何年もの間、ここに立って多くの霊的な経験をしてきました。

1975年10月の総大会で話している最中に、わたしはこの建物の2階席に座っていたブロンドの長い髪の女の子に向けて話すべきだという促しを感じました。聴衆の注目をその少女に集め、感じていることを話そうと思いました。わたしが考えていた、ある年若い女性の信仰に関するメッセージを、その少女が必要としているとはっきり感じたからです。



部会が終わり、事務室に戻ると、ミスティ・ホワイトという子供が、祖母父とおばとともにわたしを待っていました。あいさつをしたとき、このミスティという子が、わたしが話をしたあの2階席の少女であることに気がつきました。ミスティは8歳の誕生日が近づいていて、バプテスマを受けるべきか分からずに悩んでいました。ミスティはバプテスマを受けたいとは思っており、同居していた祖父母もミスティのバプテスマを望んでいました。しかし、あまり教会に集っていなかった母親は、18歳になるまで待ってから決めた方がいいと言っていたのです。ミスティは祖父母にこう言っていました。「ソルトレーク・シティーの大会に行けば、天のお父様はきっとどうしたらいいか教えてくださいわ。」

ミスティと祖父母とおばは、大会に出席するためにカリフォルニアからソルトレーク・シティーまで旅し、タバナクルでの土曜

午後の部会の席を手に入れることができました。彼らはこのタバナクルに着席し、わたしはミスティに注目して、彼女に向けて話そうと決心しました。

部会後のこの会話を続けていると、ミスティの祖母がわたしにこう言いました。「ミスティがお話したいことがあるようです。」そしてこのかわいらしい少女が言いました。「モンソン兄弟は大会のお話の中で、わたしの質問に答えてくれました。わたしはバプテスマを受けたいです。」

家族はカリフォルニアに帰って行き、ミスティはバプテスマを受け、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員に確認されました。それ以来ミスティは、イエス・キリストの福音に忠実であり続けています。14年前にミスティとすばらしい青年の神殿結婚を執り行うことができたのは特権でした。二人は5人の子供を育てていて、もう1人生まれる予定です。

兄弟姉妹の皆さん、わたしはすばらし

い思い出の多いこの建物、タバナクルの説教壇に再び立てることを名誉に思います。タバナクルはわたしの人生の一部、大切な一部です。

これまでの人生の中で、9人の大管長の名前が読まれる度に、手を直角に挙げて支持できたことを誇りに思い、うれしく思います。今朝、もう一度皆さんとともに愛するゴードン・B・ヒンクレー大管長を支持しました。ファウスト管長とともに大管長のそばで仕えることができるのは、喜びであり特権でもあります。

今日この建物が再奉獻されるに当たり、わたしたちも主であり救い主であるイエス・キリストの業のために、生涯をささげることがを再び誓いましょう。主はわたしたちが生きるために進んで命をささげられました。主の足跡を日々たどることができるよう、イエス・キリストの御名により、へりくだり祈ります。アーメン。

荒れ野の中の幕屋

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

この建物は唯一無二のすばらしい集会場所となりました。



わ たしの兄弟姉妹である皆さん、今日わたしたちは、これまで幾度も大会を開いてきた、この歴史的なタバナクルに再び集まっています。

この度、最新の耐震基準を満たすために、この建物に大規模な改築と改装が行われました。今回の事業によって、この建物の歴史的な特長が損なわれていないことを願い、また祈っています。

古い長いすの一部は残されており、今後引き続き使用します。しかし、皆さんもすでに気づいていると思いますが、新しい長いすは古いと同じくらい硬いです！

今日の基準を満たすために、出口が追加されました。外壁を構成している大きい石造りの柱は、大幅に補強されました。屋根は強くするためにスチール製の骨組みが添えられ、新しい屋根材が用いられました。

この建物の改築は今回が初めてではな

いということをお願い添えておきます。建てられて間もない時期にさえ、手が加えられています。当初は2階席がなく、増築が必要だったのです。

長年にわたって、この建物は唯一無二のすばらしい集会場所となりました。これまでに多くの男女が、イエス・キリストの福音の回復について、ここで証を述べてきました。ブリガム・ヤングの時代から現在に至るまで、すべての預言者がこの教壇から語ってきました。そのほかにも、合衆国の大統領を含む数々の著名人が語ってきました。また、この地域社会における芸術と文化の拠点にもなってきました。ユタ交響楽団は、初めてこの建物を演奏会場として利用しました。『メサイア』(Messiah)や、『タナー・ギフト・オブ・ミュージック』(Tanner Gift of Music)など、偉大な芸術作品が披露されてきました。卓越した男女の葬儀も行われてきました。これまで長年にわたって、常にこの地域社会の中心的存在となってきました。

このタバナクルは世界に一つしかない独特な建物です。約1世紀半前に、この民が貧しかった時代に建てられました。文字どおり、荒れ野の中に建てられた幕屋でした。当時、神殿は完成までまだ相当な時間を要する状態でした。タバナクルを建てた人々は、初歩的な建築技術と、信仰によって作業を成し遂げました。懐疑的な人はいつの時代にも大勢います。そのような人々は、足場が取り外されたなら、屋根も一緒に落下するだろうと言いました。しかしそうはならず、それからこの長い年月にわたってここに立ち続け、日の光や嵐に

耐えてきました。

この建物は、モルモンタバナクル合唱団の本拠地として、世界中で知られるようになってきました。タバナクル合唱団の毎週のラジオ放送は、1929年以来、75年以上にわたって、ほかのどの全国番組よりも長く続いています。

さて、毎週の安息日、『ミュージック・アンド・スポークン・ワード』(Music and the Spoken Word)が、「西部の十字路」にあるこのタバナクルから再び世界に流されることとなります。ここは再びタバナクル合唱団とtemplarsクウェア管弦楽団の本拠地となり、ほかにも多くの演奏会や行事が開催されるでしょう。ステーキ大会や地区大会、公開講演会、コンサート、そのほかの催しに使用されます。

1875年10月9日土曜日にイギリスで発行された『ミレニアルスター』(Millennial Star)紙には、ジョン・テラーがこの神聖な建造物を奉献したときに、細部にまで言及した長い祈りをささげたと記録されています。それはこの建物が実際に使われてから数年後のことでした。

わたしの兄弟姉妹である皆さん、それではここで、この集会を閉じるに当たり、皆さんもわたしと一緒に頭を下げ、目を閉じて、再奉献の祈りをささげましょう。





奉献の祈り

わたしたちの永遠の父なる神よ、わたしたちは頭を垂れて、この歴史的な機会に敬虔な思いであなたの御前に参りました。わたしたちは1世紀以上にわたる使用の後に改築された、この偉大なタバナクルに集っています。

聖なる神権の権能により、イエス・キリストの御名によって、わたしたちはこのソルトレークタバナクルを、今後幾年にもわたってあなたの民が様々な理由のために集まる場所となるように、あなたとあなたの愛される御子に奉献し、聖別します。

この機会に思いをはせるとき、わたしたちは預言者ジョセフのことを思います。ジョセフはあなたの御手に使われる者となって、主イエス・キリストの永遠の福音を、それに伴うすべての賜物と権能と祝福とともに回復しました。

わたしたちは、昔の民の大いなる信仰に感謝します。彼らはノーブーから追われ、

多くの人々の死を含む、非常な苦しみを味わいながら、アイオワ州を横断してウィンタークォーターズを築き、その後、長い距離を歩いて、ウィンタークォーターズからこのグレート・ソルトレーク盆地にやって来ました。

わたしたちは、ブリガム・ヤング会長の靈感による指導に感謝します。ヤング会長は、示現で見た以外はこの盆地を一度も見たことのないままに、民をこの地に導きました。ヤング会長はこの地域についてほとんど何も知りませんでした。土壌や気候、水やそのほかの特徴について知りませんでした。この砂漠で、開拓者たちは地を耕し、種をまき、水を引き、作物を育て、労働の実を刈り取りました。また、一つの町を据え、今では何十万もの人々が住む大きな町になっています。

かつては末日聖徒のほとんどが、この盆地と、開拓された周辺の地域に住んでいました。現在では、あなたの御業は発

展して地に広がり、この国に住む会員よりも、この国以外の地に住む会員の方が多くなっています。

愛する父よ、どうぞあなたの御業を引き続き栄えさせ、増し加え、発展させてください。御業が発展し広がるのを可能とするために、民が什分の一とささげ物をささげるとき、彼らを祝福してください。人手によらずに山から切り出された石が転がり進み、地に満ちると定められているように、御業が進み、全地を満たしますように。今後の世代において強力な指導者たちを立ててください。そしてあなたの民が、あなたの御業における務めを喜び、大いなる幸福を見いだしますように。

以上のように、わたしたちはこの神聖な建造物を奉献し、再奉献し、聖別し、イエス・キリストの聖なる御名によってこのすべてを行い、また願い求めます。アーメン。

人生で学んだ教訓

十二使徒定員会

ジョセフ・B・ワースリン長老

自分の生き方をぜひ吟味してください。自分の状態を把握し、理想の自分に近づくためには何をする必要がありますのか考えましょう。



最近、この人生で得た数々のすばらしい経験について思い巡らしました。そして、大いなる祝福と機会を与えてくださったことに対して天の御父に感謝の言葉を申し上げたとき、自分にとって若いころの人格形成がいかに重要だったかを以前にも増して痛感しました。

わたしの人生を変えるような非常に重要な出来事の多くは、若いころに起こっています。そのとき学んだ教訓が人格を形成し、運命を形作っていったのです。これらの出来事を経験していなければ、わたしはまったく違った人間になっており、現在とは非常に違う場所にいたことでしょう。今晚わたしは、こうした貴重な経験とそこから学んだことについて少々話したいと思います。

高校時代に戦ったあるライバル校とのフットボールの試合は、忘れることができ

ません。わたしのポジションはウイングバックで、相手のラインバッカーをブロックするか、または相手ディフェンスからなるべく離れてクォーターバックからボールを受け取るのがわたしの役目でした。この試合だけ特に覚えているのは、わたしがブロックしなければならなかった相手チームの選手が巨漢だったからです。

わたしはスポーツ選手として特別背が高いわけではありませんでしたが、この選手の身長は、恐らくスポーツ選手の中で世界一だっただろうと思います。この選手を見上げて、体重は自分の2倍はあるなと思ったことを覚えています。言っておきますが、わたしたちの時代には今の選手が着けているようなプロテクターはありません。わたしのヘルメットは革製で、フェイスガードは付いていませんでした。

そのことを思うと、自分の幸運をしみじみとかみしめます。もしもこの選手に捕まってタックルされていたら、残りシーズンはずっと病院のベッドから味方に声援を送る羽目になっていたかもしれないのですから。

幸いわたしは足が速かったので、第1ハーフの大半はどうかこの選手に捕まらないで済みました。

しかし、1度だけ捕まってしまったのです。

味方チームのクォーターバックが1歩下がってパスしてきました。わたしはノーマークでした。投げたボールはわたしに向かって飛んで来ました。

ところが、背後から地響きのような足音が迫って来たのです。ここでボールを受け取れば間違いなく病院送りだ、という思

いがとっさに脳裏をよぎりました。しかし、ボールは向かって来ます。しかも試合の勝敗はわたしのプレーに懸かっていたから、わたしはボールに手を伸ばしました。でも、……次の瞬間、……わたしは上を見てしまったのです。

すると、あの巨漢の選手がいました。

覚えているのは、手に当たったボールをしっかりとつかもうともがいたことです。ボールが芝生に落ちる音が聞こえました。その後、何が起こったかはよく分かりません。激しくタックルされてくらくらしていましたから。一つだけ覚えているのは、意識がもうろうとする中、背後から聞こえてきた太い声です。「おれ様のいるチームと当たったのが運の尽きだったな。」

ウィリアム・マッキンリー・オズワルドがわたしの高校時代のフットボールのコーチでした。偉大なコーチで、わたしの人生に多大な影響を与えました。ただし指導方法は非常に厳しく、まるで初年兵を訓練する軍曹のようでした。

その日、ハーフタイムの休憩時の注意の中で、オズワルドコーチはわたしがパスを落としたことをチーム全員の前で指摘しました。そして、わたしを指差し、「あのざまは何だ」と聞いてきました。

どなるような声でわたしに言ったのです。

「あのパスをどうして落としたのか、理由を言え。」

わたしは最初口ごもっていたのですが、腹を決めて正直に言うことにしました。「ボールから目を離しました。」

コーチはわたしを見て言いました。「そのとおり。おまえはボールから目を離した。以後、二度と目を離すな。球技ではこの手のミスが敗北につながるんだ。」

わたしはオズワルドコーチを尊敬していましたから、しかられて気分是最悪だったものの、言われたとおりにしようと思決心しました。たとえ相手チームの巨漢に張り倒されて地面にめり込もうとも、絶対にボールから目を離すものかと誓ったのです。

わたしたちは持ち場に戻り、第2ハーフが始まりました。接戦で、味方チームの奮闘にもかかわらず、第4クォーター後半に

なっても4点差で負けていました。

クォーターバックが次のプレーでわたしにパスをすると指示しました。わたしは再び飛び出しました。このときもノーマークでした。ボールが飛んで来ました。しかし、今度はあの巨漢の選手がわたしの前に立ちはだかり、理想的な位置でパスをカットしようとしていました。

巨漢は手を伸ばしましたが、ボールは手の間をすり抜けました。わたしは高くジャンプし、決して目を離さずボールに食らいついて決勝点のタッチダウンを決めたのです。

その後のお祝いについてはあまり覚えていないのですが、オズワルドコーチの顔だけははっきりと覚えています。

「よくボールから目を離さなかったな」とコーチは言ったのです。

その週は口もとが緩んで仕方ありませんでした。

わたしは偉大な男性や女性を数多く知っています。経歴や才能、物の見方は様々ですが、こうした偉大な人たちには次のような共通点があります。つまり、目標達成に向かって熱心に根気強く努力するという点です。人はいとも簡単にほかのことに心を奪われて、人生でいちばん大切なことを見失ってしまいます。わたしはオズワルドコーチから受けた教訓を忘れず、自分にとって大切なものを最優先して、真に価値あることに目を向けられるよう努めてきました。

自分の生き方をぜひ吟味してください。自分の状態を把握し、理想の自分に近づくためには何をやる必要があるのか考えましょう。想像力を刺激し、胸の内が燃えるような、霊を鼓舞する、義にかなった、気高い目標を立てましょう。次に、目標から目を離さないことです。その目標を達成できるよう絶えず努力しましょう。

アメリカ人の作家ヘンリー・デビッド・ソローは次のように言っています。「夢に向かって自信をもって進み、思い描いたとおりの生き方ができるよう努力する人は、普通では考えられないようなことを達成するものです。」¹

言い換えれば、「ボールから目を離すな」



ということです。

フットボールの競技場で得たもう一つの教訓は、10人の選手の山のいちばん下になったときに学んだものです。ロッキー山脈選手権の試合でのことでした。わたしはボールを持ってフィールド中央にいる敵チームの選手たちを突破し、追加得点のタッチダウンを奪わなければなりませんでしたが、クォーターバックからボールを受け取ると、相手選手の列に突進していました。ゴールラインが近いことは分かっていたのですが、どれくらい近づいているのかは分かりませんでした。大勢の選手がわたしの上に折り重なっていましたが、5、6センチ手を伸ばすと、指にゴールラインが触れました。ゴールラインまではあと5センチだったのです。

その瞬間、ルールに反することですがボールを押し出そうという誘惑に駆られました。そうすることは可能でした。もしそうすれば、審判が選手の山を崩したとき、わたしはヒーローになるでしょう。わたしがボールを押し出したとしても、だれにも分からないでしょう。

子供のころから夢見ていた瞬間がやって来るのです。そのチャンスはまさに手の届くところにありました。しかし、そのとき母の言葉を思い出したのです。母はよくこう言っていました。「ジョセフ、結果

はどうあれ、正しいことを行いなさい。正しいことをしていれば、物事はうまくいくものよ。」

どうしてもそのタッチダウンを決めたいと思いました。しかし、友達の目にヒーローと映るよりも、母の目にヒーローと映りたいと思いました。そこで、ボールを動かすのをやめました。ゴールまではあとわずか5センチでした。

その当時は分からなかったのですが、この経験はわたしの人格形成に決定的な影響を与えました。もしあのときボールを動かしていたら、当座はチャンピオンでいられたかもしれませんが、一時的な栄光を手にする代わりに、わたしの人格には後々まで残る深い傷が残ったことでしょう。その傷はわたしの良心に刻まれ、生涯消え去ることがなかったはずでした。正しいことを行わなければならないことをわたしは知っていたのですから。

キリストの光は、善と悪を見分けることができるよう助けてくれます。誘惑に負けて静かな良心の声が聞こえなくなってしまうと、正しい判断を下すことが難しくなります。

誘惑がやって来たら、即座に対応して直ちにきっぱりと「嫌だ!」と言いなさいと両親から教えられました。皆さんにもこの教えを実行するようお勧めします。誘惑を避けてください。

わたしが学んだもう一つの教訓は、人に奉仕することの喜びです。以前にも話しましたが、わたしが所属するワードのビショップであった父は、わたしに荷車いっぱい荷物を積み込ませ、困っている家族に食物や物資を届けさせました。困っている人に愛の手を差し伸べたいという望みを持っていたのは、父だけではありませんでした。

75年前、ウィリアム・F・パーションビショップはソルトレーク・シティーのバイオニアステーク第4ワードを管理していました。このビショップはドイツからの移民で、教会への改宗者でした。そして話し方には強いなまりがありました。優秀なビジネスマンでしたが、それよりも、深い思いやりの心を持つことで知られていました。

毎週神権会で、パーションビショップはアロン神権者に次の言葉を復唱させていました。「神権とは奉仕です。神権を持つ者として、わたしは奉仕します。」

それは単なるスローガンではありませんでした。夫を亡くした女性が助けを求めていれば、パーションビショップとアロン神権者が行って助きました。礼拝堂建設中には、パーションビショップとアロン神権者が行って手伝いました。パーションビショップとアロン神権者は福祉農場のビート畑やジャガイモ畑に雑草が生えるとそこに行き、収穫の時期になるとまた行きました。

後にウィリアム・パーションはステーキ会長会で働き、トーマス・S・モンソンという名前の若いビショップに影響を与えます。1950年代にパーションビショップはスイス・オーストリア伝道部の会長に召され、アメリカ大陸外で初の神殿をスイスのベルンに建設するために重要な役割を果たしました。

パーションビショップのことを思い出すときはいつも、彼が人を気遣い、思いやりを示していた姿が浮かんできます。しかも彼は、そのように行うことの大切さを人に教えることにも情熱を傾けていました。彼がビショップとして管理していた若いアロン神権者の中から後にビショップになった人が29人、ステーキ会長会で奉仕した人が10人、伝道部会長になった人が5人、神殿会長としての召しを受けた人が3人、中央幹部として奉仕した人が2人います。²

兄弟の皆さん、これが偉大な指導者の持つ力であり、奉仕の持つ力です。

当時は十分理解してはいませんでしたが、今ははっきりと分かります。これまで話した教訓をはじめとして、若いころ学んだ教訓は、後にわたしの人生を形作る土台となりました。

わたしたちは皆、霊的な賜物たまものを持っています。信仰の賜物を授かっている人もいれば、癒しの賜物いやを授かっている人もいます。教会全体には、すべての霊的な賜物があります。わたしの場合、最も感謝している霊的な賜物の一つは、従順な気質です。両親や教会の指導者から賢明



な助言を聞くと、考えや行動に取り入れようとしてきました。

神権を持つ兄弟たち、従順な気質という賜物を伸ばすよう心からお勧めします。救い主は次のように教えておられます。「わたしのこれらの言葉を聞いて行うものを……賢い人に比べることができよう。……また、わたしのこれらの言葉を聞いても行わない者を……愚かな人に比べることができよう。」³

自分が賢いか愚かか、どうすれば分かりますか。靈感された助言を聞いたときにわたしたちは従います。それが、賢者と愚者を見分ける基準です。

賢明な助言を聞いても、心に留めなければ、何の役に立つでしょうか。経験から学ばないとしたら、経験が何の役に立つでしょうか。聖文の言葉を胸に刻んで生活に取り入れないとしたら、聖文が何の役に立つでしょうか。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように約束しています。「〔天の御父は〕戒めに従順に歩む人々に祝福を注いでくださいます。」⁴

この言葉にわたしの言葉を付け加えます。イエスがキリストであり、全人類の救い主であられることを証あかしします。神がわた

したちの近くにおられることを証します。神はわたしたちを心にかけて、愛しておられます。預言者、聖見者、啓示者に導かれてこの回復されたイエス・キリストの教会は発展しています。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、この教会における末日の預言者であり、この世界の預言者です。

創造主がこのすばらしい人生を用意してくださったことに感謝します。人生とは、各人がほかの方法では理解できないことを学ぶ機会です。

愛する兄弟の皆さん、義にかなった目標を立て、達成できるよう努めましょう。正しいことを行い、愛をもって周りの人に手を差し伸べましょう。これがわたしの祈りであり証です。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. Walden, J・リンドン・シャンレー編 (1971年), 323
2. グレン・L・ラッド長老からトーマス・S・モンソン管長にあてた1987年2月5日付手紙
3. マタイ7:24, 26
4. 「主のみ業」『聖徒の道』1995年7月号, 77参照

アロン神権者へ—— 決意の10年間に 備える

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ長老

今皆さんがどのようにその神権の責任を引き受けるかが、将来最も重大な決断をする備えとなるのです。



世 界各地の会場に集まった兄弟たちと神権部会に同席でき、光栄です。「見よ、王の軍は旗を掲げ、いのち 生命の戦勝ちて進む」^{いくさ}という賛美歌の言葉を思い出します。皆さんはまさに信仰深く忠実な神の軍です。

今晚わたしは、この王の軍の最も若い戦士であり、人生の戦いに勇敢に立ち向かっている執事、教師、祭司の職にあるアロン神権者の皆さんに話したいと思います。覚えてはいなくとも、皆さんは遠い昔、前世で同じ一つの決断をし、神の計画に同意しました。天上の大会議で、皆さんは天の御父と御子イエス・キリストの御心みこころに従うと決心したのです。このこと

を忘れないでください。皆さんは最も重要なときに救い主に従うと決意した神の息子であり、そのことにより皆さんは真に偉大な者となったのです。

永遠の進歩を決定したその神聖な決断により、皆さんは肉体を得て、悪よりも善を選択する自由を手に入れました。そして今や皆さんは成長し、救い主の属性を自分自身に受ける準備をしています。皆さんはバプテスマを受け、聖霊を受けました。皆さんは自分が何者であるのか、なぜこの地上にいるのか、またどこに行こうとしているのかを学んでいます。そして今や皆さんはアロン神権を受けているのです。

アロン神権は人生で用意をする期間に与えられる、備えの神権です。今皆さんがどのようにその神権の責任を引き受けるかが、将来最も重大な決断をする備えとなるのです。重大な決断の中にはメルキゼデク神権を受けること、神殿に参入すること、伝道に出ること、教育を受けること、職業を選ぶこと、そして伴侶はんりよを選択し聖なる神殿でこの世においても永遠にわたっても結び固められることがあります。わたしたちが行う決断にはすべて時と季節があります。適切な時と季節に決断するようにしてください。これら人生を変える決断のすべてが、「決意の10年間」とわたしが呼ぶ、20代の実に忙しく比較

的短い期間に起こります。

ジェット戦闘機のパイロットになる訓練をしていたとき、わたしはフライトシミュレーターを使ってそのような重要な決断を下す備えをしました。例えば、火災警報ランプが点灯し、飛行機が急旋回してコントロールが利かなくなった場合、いつ飛行機から脱出すればよいのかを決断する練習をしました。こういった準備をしていなかった大事な友人が一人いたのを覚えています。彼はシミュレーター訓練を抜け出してゴルフや水泳に行っていました。こうして彼は、緊急訓練をまったく受けませんでした。数か月後、彼の飛行機は火を噴き、炎に包まれたまま旋回しながら地上に落ちて行きました。火災警報ランプに気づいた彼の年下の同僚は、警報に対処する能力を身に付けていたため、いつ飛行機からパラシュートで脱出すればよいのか分かっていました。しかしその決断をする準備をしていなかったわたしの友人は飛行機にとどまり、墜落死しました。

これから10年という皆さんの準備の期間は限られています。アロン神権者である皆さんにとって今重要なのは、準備することです。皆さんが人生でこれから先10年間に下す重大な決断のため、必要ときに答えが出せるよう用意をしておかなければなりません。それぞれの決断を下す段階に来たとき、いつ何をすればよいのかを知っておかなければならないのです。まったく決断しないということは、間違った決断をするのと同じくらい致命的なことになり得ます。皆さんが下す、あるいは下さない決断の多くは、永遠の結果をもたらします。

今こそイエス・キリストの弟子となる時です。これは「わたしに従ってきなさい」²という主の招きを受け入れることを意味します。これはわたしたちが前世で下した決断なのです。今わたしたちはこの現世において、毎日、あらゆる状況の中で、救い主の御名を受け、主の贖いあがなを覚え、戒めを守ることによって再び決意しなければなりません。バプテスマを受けたとき、わたしたちはこのことを聖約しました。



そして毎週^{せいさん}聖餐を受けることで、これらの聖約を新たにすることができるのです。

今こそ常に聖霊を伴侶とするために自らを組織し、自らを備える時です。これは皆さんの両親や指導者たちが皆さんに教えてきたことを行うこと、すなわち聖文を学び、朝晩の祈りをささげ、身だしなみを整え、予定表に従い、目標を立てて達成し、すべての面で正直であり、決意を守り、授かっている神権にふさわしくあるということです。また預言者が小冊子『若人の強さのために』で明らかにしている標準に添った生活を常に、常にしてください。

今こそだれが皆さんの友人であるのかを決め、また義にかなった永遠の伴侶に

ふさわしくなると決意する時です。兄弟の皆さん、これはとても簡単なことです。母がわたしに教えてくれたように「類は友を呼ぶ」ものです。仲間というものは、すばらしいことをするよう皆さんを鼓舞してくれることもあります。好ましくない惨めな道へと誘惑することもあります。でも、真の友人は福音を実践することを容易にしてくれます。決して彼らの方法と主の方法のどちらかをわたしたちを選択させたりするようなことはありません。わたしたちがほかの真の友人を引きつけるような人になれるよう助けてくれます。またわたしたちが、義にかなった伴侶から永遠にともにいたいと望んでもらえるような人

になれるよう助けてくれます。皆さんがそういう友人を得たければ、こう自問してください。「わたしはほかの人にとってそういう友人となっているだろうか。」「永遠の伴侶に求める特質を自分自身が備えているだろうか。」

今こそ伝道の備えをする時です。それぞれの状況に応じて、皆さんは専任宣教師として奉仕することができるでしょう。これは重要ですが、もっと重要なのは伝道に出る前に神殿に参入することです。それを忘れないでください。伝道は、奉獻の律法を実践することによって神殿での聖約を守るとても貴重な機会です。すなわち、自分の時間と賜物、才能のすべてを主にささげ、心と、勢力と、思いと、力を尽くして主に仕えるのです。この2年間の奉仕は、皆さんの人生の最初の20年で与えられた時間の^{じゅうぶん}十分の一をささげることであると、わたしは常々感じていました。また、専任宣教師として奉仕できなかったとしても、将来いつか適切な時期に神殿に参入できるよう備えることができます。そこで神聖な聖約を交わし、永遠の祝福を受けられるようになるのです。

今こそ訓練と教育を受ける備えをし、職業に就くための準備をする時です。アロン神権を持つ若い男性の皆さんは、人生の準備段階にいます。皆さんは、今、学校で熱心に勉強するなら、ヒンクレイ大管長が皆さんの将来を見据えて語った、「できるかぎり高い教育を受けるように」という勧告に従うことになります。³ 学校や仕事において最善を尽くすことを、今、決意してください。そうすればチャンスが訪れたとき、それを受け入れ、最大限に役立つ備えができていでしょう。「各人に……一つの賜物が与えられる」⁴ ということをお忘れてはなりません。自分の賜物や才能を伸ばしてください。若い男性の皆さん、皆さんが将来さらに大きな機会や責任を引き受ける備えとなるようなクラスや訓練プログラム、仕事を、祈りの気持ちで選択するようにしてください。

今こそ従う時です。前世でわたしたちは神の御心の一部だけに従うと約束したのではありません。永遠の計画のどの部



分に従うかを好みしたのでもありません。わたしはこのことを飛行訓練の中で、初めて夜の単独飛行をしたときに学びました。そのとき、わたしたち全員は「夜、アクロバット飛行をするな。君たちは航空計器による飛行訓練をしていない初心者パイロットである」という指示を受けました。しばらくして、それまで常に優秀なパイロットであった、かけがえのない友人が、その命令に背くことを選びました。彼はテキサスの夜の上空を宙返りや横転をしながら飛んでいるとき、操縦席上の透明な円蓋の外に見えるのは星だと思っていました。しかし、彼が見ていたのは、実は地上にある油田採掘機のライトだったのです。彼の方向感覚は狂ってしまっていました。逆さまになっていたにもかかわらず、飛行機にかかる重力加速度の影響で、自分が正しく上を向いていると思い込んでいました。そして、夜の上空をもっと高く飛ぼうと操縦桿を引いたとき、彼は地面を目がけて突進し、下の油田の瞬く明かりの中へと墜落してしまいました。

飛行機を操縦しているとき、角度にしてわずか1度分だけ機体の向きを変えたとしたら、方向感覚をつかさどる内耳はその変化を感じ取ることができません。あらゆる年齢の兄弟の皆さんに申し上げます。従う戒めを好みしていると、主との関係は変わってしまいます。それは通常、少しずつ少しずつ変わってしまうのです。人を欺くようなサタンの力が及んだとしても、それを感じ取ることができず、霊的な方向感覚は狂ってしまいます。安全

な方向に進んでいるように見えても、ほんとうは大きな不幸に向かっていることがあるのです。前世において、主に従うというわたしたちの決意は完全なものでした。現世の試しの生涯において主に完全に従うことによって、わたしたちはそれぞれ天の御父のみもとに帰ることができるのです。

今こそ時間を有効に使う時です。「現世は人が神にお会いする用意をする時期である。」⁵ 若いときに賢明に時間を使うことを学ばなら、地上にいる時間は十分であることを証します。「わが子よ、忘れずに若いうちに知恵を得なさい。まことに、神の戒めを守ることを若いうちに習慣としなさい。」⁶

今こそ自分の生得権を守る時です。人生の終わりが近づいたとき、旧約聖書の預言者ヤコブは息子たち一人一人に父親の祝福を受けました。ルベンが長子であり、彼だけに与えられる特別な祝福である生得権を持っていました。しかしルベンへの祝福の中で父のヤコブはこうに言いました。あなたは「移り変わる水のようなだから、もはや、すぐれた者ではあり得ない。」⁷ 移り変わる水のようなからという言葉の意味を少し考えてみましょう。水は熱くなると蒸発します。冷たくなると凍ります。水路がないと、立ちほだかるものを浸食し破壊します。

アロン神権を持つ者として、皆さんにも生得権があります。どうか従順で堅固であってください。救い主に従うという決意を固く保つようにしてください。福音に

従って生活するに当たって、岩のように堅固であってください。だれもわたしたちを待ち受けている祝福のすべてを知りません。これらの祝福を失うたった一つの方法は、不従順によって放棄することです。この世のもののために永遠の受け継ぎを放棄しないでください。わたしたちの輝かしい生得権を尊び、守り、享受するため、今従順になり、備えましょう。

若い男性の皆さん、皆さんは主の軍勢のきわめて大切な力であり、末日における若き戦士です。⁸ 「あなたがたは、何であろうとまいたものをまた刈り入れるからである。」⁹ 皆さんにお願いします。すばらしい収穫が前途に待ち受けていることについて熟慮し、皆さんがこれから迎える10年の間にどのように決断を下すのか深く考えてください。

刈り入れの律法は、決断を下すうえでの基本です。自分が神の息子であるという自覚を持ち、土壌を整える農夫のように、祈りを通して自分自身を整えてください。理にかなった忠告を与えてくれる人々に相談し、聖霊の導きを求めることによって種を植えてください。靈感の種が育つようにしてください。皆さんがすべきことについて、心に浮かぶ霊的な考えやアイデアに注意を向けるようにしてください。成熟には時間を要します。自分が正しい決断をしているかどうか、祈りによって天の御父に問うとき、靈感による光は、霊的な収穫をもたらしてくれます。光に従うとき、暗闇は消え、その光は「ますます輝きを増してついに真昼」¹⁰ となります。その日には、わたしたちは天の御父のみもとにいるのです。

最後に、「そこにいてください」と申し上げます。わたしたちが今享受している偉大な幸福の計画を選ぶ天上の会議において、わたしたちは皆「そこに」いたのです。若い男性の皆さん、皆さんが自分自身に、家族に、ビショップに、雇用主に約束をしたなら、必ず「そこにいてください。」教会やミューチャルにいるべき時間に、神権の責任を果たすべき時間に「そこにいてください。」学校や訓練プログラムの卒業式のときに、「そこにいてください。」宣

教師として奉仕する時期に、「そこにいてください。」あなたが最も愛する若い女性が神の神聖な神殿の聖壇にひざまずくときに、「そこにいてください。」(証人としてではなく。)家族が日の栄えの王国に集まるときに、「そこにいてください。」この地上での生涯を終え、栄光をもって帰還するあなたを救い主が出迎えてくださり、天の御父が愛の御腕^{みうで}に抱こうとあなたを待ち受けてくださるときに、「そこにいてください。」

決意の10年間の後は、さらに前進してください。「立ち上がれ、神の男たちよ!」¹¹信仰深い夫、父親となってください。忠実であってください。立ち上がって、自分を支持し支えてくれるふさわしい神の娘にふさわしくなしましょう。主を敬うように、彼女たちを敬いましょう。

天の御父は、力強い王の軍の一員である皆さんが一致した勇敢な強い戦士として、また司令官であるキリストに従う戦士として、今晚ここに集っていることを知っておられます。そのことを証します。主の戦士として、喜びの歌を歌いましょう。「勝利よ、勝利よ われらに主あり 勝利よ、勝利よ 主により勝たん。」¹¹ 主はそこにいらっしゃいます。主はわたしたちがみもとに来るよう望んでおられます。主はわたしたちを導き、勝利に導いてくださいます。そのことを、イエス・キリストの御名により証いたします。アーメン。

注

1. 「見よ、王の軍は」『賛美歌』160番
2. ルカ18:22
3. 「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号、34-36参照
4. 教義と聖約46:11
5. アルマ34:32
6. アルマ37:35
7. 欽定訳創世49:4から和訳
8. アルマ53章参照
9. 教義と聖約6:33
10. 教義と聖約50:24
11. Hymns, 323番
12. 『賛美歌』160番

蓄える

管理ビショップリック第二顧問
キース・B・マクマリン ビショップ

神権者の皆さんにお願いします。皆さんと皆さんの家族が人生の浮き沈みを乗り切ることができるよう、十分に蓄えてください。



愛する兄弟の皆さん。大管長会、十二使徒会とともに集っているわたしたちはなんと恵まれていることでしょうか。ここに集う神権者は皆、12歳であろうと112歳であろうと、わたしたちの救い主イエス・キリストを通じて、「福音の律法と儀式に従うことによって」¹日の栄えの命を受け継ぐことができます。そう考えるだけでも素晴らしいことです。わたしはそれが真実であることを知っています。皆さんは自分自身の生涯に責任を負っているのです!

このことを念頭に置きながら、皆さんの益のために次の物語を紹介したいと思います。野心と活気にあふれ、ある立派な大学に入学した一人の青年の物語です。当時彼はアロン神権の祭司でした。目標は高く、医師になりたいと考えていました。その目指すところは実に野心的でした。つまり、金持ちになりたかったので

す。彼はフットボールをしたいと思っていました。そこで自分でコーチを探し出し、最終的にチームに入れてもらったのです。こうして彼は大学のスポーツ界に特有の人気と、誇りを手に入れたのです。

彼の頭の中はそうした考えでいっぱいでした。その分、高慢で空虚な野心をいつか打ち砕くものがあることには少しも思いが至りませんでした。つまり、蓄えることを忘れていたのです。適切な備えをすること、講義に定期的に出席しなければならないこと、勉強に励まなければならないこと、そして大学の化学の授業に出席すること。彼はそれらの大切さをあまりにも軽く考えていました。その結果は駆け足で情け容赦なくやって来ます。90もしないうちにその時が訪れたのです。それは、このようにして起こりました。

その日、185センチ77キロの彼は、相手大学選抜チームのマンモスのような巨体を誇るラインマン(訳注——アメリカンフットボールの攻守両チームの最前列に位置する選手)とスクリーメージライン(訳注——攻守両チームを区切る架空の線)でもみ合っていたとき、自分が見間違いなスポーツをしていることに気づいたのです。

精神的に勉強するというのに慣れていなかった彼は、しばらくの間、教科書を前にしても、その目も頭脳もまったく機能しませんでした。

決定的な敗北は最後の化学のテストのときにやって来ました。選択式の問題にまったくでたらめに解答したのですが、まぐれ当たりすらしなかったのです。惨めな敗北でした。

苦しい勉強、人生の目的について正しい認識を持たせてくれた伝道の経験、そして不断の備え。最終的には、こうしたことが短いながらも愚かなあの経験の結果を乗り越えるのに役立ちました。しかし、わたしは今でも、あの化学のクラスの悪夢に悩まされることがあるのは事実です。

ありがたいことに、主は同じような愚かな経験や心痛を避けるために、どうしたらよいか、その方法を示してくださいました。

「聴きなさい、おお、わたしの教会の人々よ。……遠くの民よ、聴きなさい。海の島々にいる者よ、ともに耳を傾けなさい。……

あなたがたは備えなさい。来るべきことのために備えなさい。主は近いからである。」²

メシヤが再臨されるという教えは、備えをなし、正しく生きるための大いなる動機づけの一つとなります。天の御父はその子供たちが、報いを約束されれば義にかなった業を行う励みにし、罰が約束されていれば、悪事を行うのを恐れるということ、よく知っておられます。主の再臨に関する啓示というのは、そのような教えです。³

こうした啓示は、天と地におけるしるしや不思議について語っています。それらは困難な時代、甚大な出来事が長期にわたって続く差し迫った事態について告げています。そして、最も重要なことは、わたしたちが次のような天からの約束を受けているということです。

「そして、主も聖徒たちを支配する力を持ち、彼らの中で治め……る。」⁴

「それは、あなたがたに下る艱難があるにもかかわらず、わたしの摂理によって、教会が日の栄えの世界の下にある他のすべての造られたものの上で自立するためである。」⁵

だから、「備えていれば恐れることはない。」⁶

神権者は、こうした約束に導かれて、主の再臨に備えて自らを整え、家族を整えます。⁷ 再臨に至るまでの出来事について心配する必要はありません。むしろ、これから起こることについて理解できていることに大いに感謝しましょう。自分自身の



世界に責任を負っていることに感謝しようではありませんか。わたしたちは、主の代理人となって、主から託されたものを管理しているのです。⁸ 成功に至る公式は簡単です。忠実な者となる。人生の荷物を下ろす。蓄える。この3つです。

忠実な者となる。神権者として、わたしたちは優しく接し、愛ある言葉を語る習慣を養います。わたしたちは、祈り、安息日を聖く守り、神の御言葉を知っています。また、自分の一を納め、断食し、断食献金を惜しみなく納めます。さらに聖約を守り、神の王国の建設のために生涯をささげます。

そして、兄弟の皆さん、わたしたちは蓄えませす！ このようなことを実行するならば、「主も聖徒たちを支配する力を持ち、[わたしたちの]中で治め」⁹られるのです。

人生の荷物を下ろす。神の人であるわたしたちは、有り余のものの中から、人を教化することに、心を向けます。それは、「人を教化しないものは、神から出ては」¹⁰いないからです。仕事、つきあい、趣味、スケジュールが、神を第一にするのを妨げているとしたら、それらをそぎ落として、人生の荷物を下ろす必要があります。¹¹ もし負債があるとしたら、返済し、可能なかぎり負債のない生活をします。

そして、兄弟の皆さん、わたしたちは蓄えませす！ そうすると、「艱難があるにもかかわらず、[主の]摂理によって教会[とその民]が……自立する」¹² ことになるのです。

蓄える。妻は蓄えることにたけています。しかし、彼女は、家族の備えを先頭に

立って進める夫を必要としています。子供たちは、蓄えるという義にかなった伝統を自分に植え付けてくれる両親を必要としています。そうすれば彼らも自分たちの子供に同じように教えるようになります。そうすれば、子孫の蓄えは尽きることがなくなるのです。

福音の主要な原則の一つは、飢饉のときのために備えをするということです。勤労、勤勉、節約は、気高い生き方の一部です。パウロの次の言葉を忘れないようにしましょう。「もしある人が、その親族を、ことに自分の家族をかえりみない場合には、その信仰を捨てたことになるのであって、不信者以上にわるい。」¹³

わたしたちの前には、教会の大管長会を構成する3人の管理大祭司が座っています。

第二顧問であるジェームズ・E・ファウスト管長はこう言いました。「父親と母親は家族の管理者です。非常の場合に家族が必要とするものは何でも備えておかなければなりません。……[そうすれば]神は試練のときにわたしたちを支えてくださるでしょう。」¹⁴

第一顧問のトーマス・S・モンソン管長はこう言っています。「もし1年分の食糧を蓄え、……負債がゼロだとしたら、もっと多くの人が経済的な嵐に翻弄されずに済むことでしょう。現在、多くの人がこの勧告と正反対のことは行っています。少なくとも1年分の負債を負い、食糧貯蔵はゼロなのです。」¹⁵

主の預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう言っています。

「食糧を貯蔵するのに最適な場所は家庭です。……

少しずつ始めましょう。まずは1週間分の食糧から始め、1か月分、3か月分と増やしていきます。……わたしが懸念するのは、長期間の食糧保存をとっても無理な目標だと考え、何も努力しない人が大勢いるのではないかとということです。

少量から始めましょう。そして、適切な目標に向けて量を増やしていくのです。」¹⁶

靈感に導かれて行う備えというのは、イエス・キリストを信じる信仰、従順、そ

してつつましい生活を基としています。会員たちは極端に走るべきではありませんが、備えを始めるべきです。

神権者の皆さんにお願いします。皆さんと皆さんの家族が人生の浮き沈みを乗り切ることができるよう、十分に蓄えてください。皆さんの見守る人が、『すべての必要なものを用意しなさい』という題の2冊のパンフレットを持てるようにしてください。非常時のために今から備えをするよう熱心に勧めてください。

神権指導者の皆さん、家族の備えと家庭管理を改善するに当たって扶助協会の協力を求めてください。教会の女性たちは、皆さんの援助を必要としていますし、皆さんの指導に従うでしょう。

衛生的で基本となる食糧と飲用水を少しずつ家庭貯蔵に加えるよう会員たちを励ましてください。会員たちは1週間にたとえ硬貨数枚であったとしても、貯金をするべきです。こうして少しずつ目標に向かって近づいていけば、日ならずして、数か月分の貯蔵ができる日も来ることでしょう。やがてこうしたささやかな努力が長期間の貯蔵へと結びつき、ほかに食べ物がない場合でも生き延びることができるよう、穀類や豆類などの必須食品の保存へとつながっていくことでしょう。¹⁷

最善を尽くすとき、わたしたちは「かめの粉は尽きず、びんの油は絶えない」¹⁸ことを確信できるのです。わたしたちはより大なる知恵、安全、平安な思い、幸福を得るでしょう。備えができるでしょう、そして、備えているので「恐れることはない」¹⁹でしょう。

最後に、皆さんにバカローノ家族を紹介しましょう。ルーカ・バカローノとパトリツァ・バカローノは、イタリアのローマに近い小さな町に住んでいます。最近届いた手紙に次のように書いてありました。

「いろいろ経験した結果、いつも食べるものを貯蔵することが大切だという結論に至りました。時には、特定の食べ物についてはその食習慣を変える必要も出てきます。……

現代の預言者を通じて主から与えられている戒めに忠実でありたいという願



と、そこから得られる平安により、聖なる御霊を味わっていて、……恐れるのでなく、主の再臨の前の時のしるしは祝福であると感じています。わたしたちは再臨を喜びとし、イエス・キリストの福音が回復されたことを喜びとし、預言者を喜びとします。それが、忠実な者となり、最後まで堪え忍び、救いにあずかり、永遠の命にあずかりたいと願う動機になっているのです。²⁰

手紙の最後に、バカローノ兄弟はこう書いています。「下手な英語ですみません。わたしの説明したいことを理解していただければ幸いです。」バカローノ兄弟姉妹、確かに理解しました。それは聖文にこう書いてあるからなのです。「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」²¹ イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 信仰簡条1:3
2. 教義と聖約1:1, 12
3. ブルース・R・マッコンキー, *Doctrinal New Testament Commentary*, 全3巻(1966-1973年), 第1巻, 677-678参照
4. 教義と聖約1:36
5. 教義と聖約78:14

6. 教義と聖約38:30
7. 2テモテ4:8参照; 教義と聖約133:50, 52参照
8. 教義と聖約104:13-17参照
9. 教義と聖約1:36
10. 教義と聖約50:23
11. *Doctrinal New Testament Commentary*, 第1巻, 675-676; ジョセフ・スミス訳マタイ6:38参照
12. 教義と聖約78:14
13. 1テモテ5:8, 1テモテ6:19; 教義と聖約29:34; 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49; ジョセフ・F・スミス, *Conference Report*, 1900年10月, 46; ブルース・R・マッコンキー, *The Mortal Messiah: From Bethlehem to Calvary*, 全4巻(1979-1981年), 第2巻, 155も参照
14. 「福祉の責任は個人とその家族に」『聖徒の道』1986年7月号, 22
15. "That Noble Gift—Love at Home," *Church News*, 2001年5月12日付, 7
16. 「神権を持つ男性たちへ」『リアホナ』2002年11月号, 58
17. *The Teachings of Harold B. Lee*, クライド・J・ウィリアムズ編(1996年), 314参照
18. 列王上17:14, 8-16節も参照
19. 教義と聖約38:30
20. 2007年3月3日付の手紙
21. 箴言3:5-6

孫へのメッセージ

大管長会第二顧問

ジェームズ・E・ファウスト管長

皆さん一人一人が神の人となるよう願っています。皆さんは義にかなった業に携わることで神の人となります。



兄弟の皆さん、今晚わたしは自分の孫に話すように皆さんに話します。わたしの話すことが、世界中のすべての若い神権者に当てはまるよう願っています。この大勢の人たち、また衛星放送で会に臨んでいるさらに多くの皆さんのことを考えると、神の神権を持つという偉大な祝福は、世界に数十億という人がいる中で比較的少数の人に取っておかれた祝福であることに気づかされます。神権を持つということは実に名誉なことであり、にもかかわらず、教会の12歳以上のふさわしい男性なら、だれでもあずかることのできるものです。

神権とは、神の御名によって教え導くために人に託された権能です。人が自らの判断で得られるものではありません。パウロが言ったように、「だれもこの榮譽ある務を自分で得るのではなく、アロンの場合のように、神の召しによって受ける」¹

のです。一人の力で造り出せるような権能ではないのです。

ピーターという若い祭司が、ある経験について書いてくれました。ピーターはその経験から神権の力が実在することを学びました。カナダのオンタリオ州にあるピーターが所属するワードで、一人の若い改宗者がアロン神権の教師として支持を受け、ピーターは聖任の輪の中で儀式を執り行うよう依頼されたのです。ピーターはこう書いています。「それまでにだれかの頭に手を置いたことはありませんでした。自分にはとてもできなと感じました。けれども御霊を通して、儀式を執り行っても大丈夫であるという確信を得ました。……

聖任を受ける若い男性がいすに腰かけました。わたしはその真後ろに立ちました。〔若い男性の会長が〕聖任の祈りの言葉を耳打ちしてくれました。わたしはその言葉を一言一句漏らさず繰り返しました。聖任の部分を終え、『……あなたに祝福の言葉を授けます……』と言うと、〔若い男性の会長は〕ここからは一人で行うようにと、目で合図したのです。

その瞬間、神権はまったく別の意味を持つようになりました。もはや単なる肩書きではなく、実際に神の御名によって行動する権能であり、わたしはその権能をほかの人に授けようとしていたのです。わたしは間を置いて、語るべき言葉を御霊がささやくまで待ちました。その祝福の間に感じた気持ちを表現することは簡単ではありませんが、今ははっきり言えることは、神権の力が実在するといういっそう力強い証があるということです。²

若い男性の皆さんは、大神権すなわちメルキゼデク神権を受ける日を心待ちにしていることでしょう。この大神権について、預言者ジョセフ・スミスはこう言いました。「神権が備えられたのは、『地の基がすえられ、明けの星が相共に歌い、神の子たちが皆喜び呼ばわる』以前であって、神権は最も気高く神聖で、神の御子の位に基づくものである。」³

わたしたち神権者は主の代理人です。主は1831年、カートランドにいる教会の長老たちに、この神聖な務めについて語られました。「さて、あなたがたは代理人であるので、主の用向きを受けている。そして、あなたがたが主の思いに従って行うことは何であろうと、主の業務である。」⁴

ヒンクレー大管長はしばしば、伝道活動が本来神権者の責任であることを思い起こさせてくれます。宣教師として主に仕えるよう召されることは、偉大な誉れであり、責任でもあります。たとえ困難や失意に見舞われることがあっても、この奉仕から永遠に続く喜びを得ることができません。伝道の経験をを通して、わたしの生き方は一変しました。人生で最もすばらしい経験の一つです。伝道に出ることで、残りの生涯の業と永遠の業に備えるのです。

皆さん一人一人が神の人となるよう願っています。皆さんは義にかなった業に携わることで神の人となります。また神権を尊び、大いなるものとします。そして使徒パウロが語ったように、「義と信心と信仰と愛と忍耐と柔和とを追い求め」るのです。⁵

義にかなった計画に従い、社会の決まりや主の律法に従順になることは、必ずしも容易ではありません。しかし、最終的には、規則に従うことは主が約束されたあらゆるものにあずかるために最も優れた道なのです。

わたしたちは皆、自分の行動に責任があります。弁護士の経験から分かったことは、犯罪を繰り返す人は、自分が刑務所に入った原因をしばしば父親や母親、あるいは社会のせいにするということです。しかし、実際は、自ら進んで「神の性質に反して」行動することを選んでおり、結果として「幸福の本質に反する状態」⁶

にあるのです。中には「悪魔がそうさせたんだ」と言い張る人もいます。その言い分については、人が悪事を働くよう悪魔がそそのかすというのがほんとうです。⁷ わたしたちには選択の自由があるからです。わたしたちが自ら選んでいないことを、悪魔が無理強いさせることはできません。⁸

わなや落とし穴にはまることは、だれにでもあります。青年であろうと、壮年や老年であろうと同じです。ある人が言ったように、「若いうちは問題に飛び込んで行くが、年を取ると問題が飛び込んで来る」⁹のです。現代社会が規律を緩めるにつれ、わたしたちは主から祝福と守りを頂くために、義の鉄の棒にしっかりとつかまる必要があります。サタンの誘惑を軽々しく扱うことは非常に危険です。わたしたちは生涯を通じて、あらゆる形の悪から身を守る必要があります。

神権を持つ若い男性の皆さんは、女性を敬うという義務を負っています。教会のすてきな若い女性とデートをするときは、彼女たちの身の安全と徳を守る義務があります。皆さんは神権を与えられているので、さらに大きな責任が課せられています。それは、教会の高い道徳的標準がいつも守られていることを見守る責任です。性的な誘惑という崖がけに近づいてはならないことは分かっていると思います。その崖から飛び降り、生殖の偉大な力をもてあそぶなら、自分自身の持つ神聖さの一部を損なうことになります。自己を制する力がない者に、この世にあっても永遠の世にあっても、偉大な役割を果たすという望みを託すことができるでしょうか。主を愛し、皆さんを愛し、神権を尊ぶ義にかなった女性と結婚することは、この世と永遠の世における最大の祝福の一つです。わたしはそれを、妻のルースとの60年以上にもわたる結婚生活で実感してきました。

友人や知人は豊かな人生に彩りを添えてくれます。しかし、そうした関係も一時的なものでしかありません。皆さんの両親以上に、皆さんを愛し、皆さんの幸福を心にかけてくれる人はいません。両親の言うことに疑問を差し挟むことはあっても、その愛や皆さんの幸福に寄せる思い



に疑念を抱くことはできないはずで

すが、若い男性の皆さんが、妻や子供たちを養うという責任を担う日がやってきました。皆さんが一家を支えるのです。結婚すると、皆さんは妻の幸福に対して責任を負い、家族が増えると、最終的には子供たちの幸福にも責任を負うようになります。結婚生活や父親としての役割は、すばらしい永遠の幸福と喜びをもたらしてくれます。ジョセフ・F・スミス大管長が語ったように、「教会の統治は……家族生活の上に成り立ち、受け継がれていくの

です。』¹⁰ 家庭において大いなる満足感を味わうためには、夫婦は二人とも結婚生活にすべてをささげる必要があります。デビッド・O・マッケイ大管長はこう言いました。「人は家庭よりも仕事や快楽を優先させると、その瞬間から霊の衰退に向かって坂を下り始めます。』¹¹

皆さんの中には、すでに人生の目標に向かって着々と進んでいる人もいますでしょう。皆さんを誇りに思います。父はかつてこう言いました。「法科大学院を卒業したときには、これで一生安泰あんたいだと思った

よ。でも、実際のところ、卒業はある意味でさらに大きなチャレンジの始まりでしかなかったのさ。」わたしたちの人生には、「一生安泰」などということはありません。この世の生涯を送るかぎり、世の問題から逃れることはないのです。

現代は専門化が進む時代です。少年のころ、多くの人がT型フォードという車に乗っていました。現代の車と比較すると、その構造は比較的単純でした。バルブを研磨したり、ピストンリングを交換したり、ブレーキバンドを新しくしたり、簡単に手に入るベアリングワイヤーを使ったりすることで、自分で修理のできる人が大勢いました。現在では、自動車の構造も複雑化し、普通の人は修理の仕方に関する知識をほとんど持ち合わせていません。現代の機械工は、エンジントラブルの診断にコンピューターを使っています。こうした例を引き合いに出したのは、若い男性の皆さんに、遅れを取ることがないように訓練や教育を受けることを強く勧めたいからです。技術教育は非常に重要です。高等教育の分野でも同じことが言えます。どのような技術であっても、専門化された訓練が必要なのです。

この世でどのような職業を選ぼうとも、それが誇りに値するものであるかぎり、問題ではありません。家族をどう養うかは皆さんが決めることです。技術を習得することは、生計を立てるうえで良い方法です。しかし、生計を立てること以上に大切なことがあるのを忘れてはなりません。人間性の本質を失ってしまうほど、物質的なものに心を奪われてはなりません。ディケンズの作品に登場するジェーコブ・マーレイを思い出した人もいるかもしれません。マーレイは、自分が仕事ばかりで頭がいっぱいだったことを嘆き、こう叫びます。「仕事だと！ 人間こそ、わしの仕事だったのだ。万人の幸福こそ、わしの仕事であった。」¹² わたしたちは、一人一人が社会を強めるうえで役目を果たし、特に神の業に携わることが求められているのです。

神権を持つ者にとって、成功への最善の公式は次の聖句にあることを学びました。「まず神の国と義とを求めなさい。そ



大会の放送に出席する、ホンジュラス・コマヤゲラ・トロカグアステーキの二人の少年。

うすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう」¹³ 成功は一朝一夕にもたらされるものではありません。備えと勤勉が必要とされるからです。実際、成功への近道など存在しないのです。

わたしたちは一人一人が天の御父に創造された特異な存在です。同じ人は一人としていません。同じ賜物たまものや才能を持っている人は、ほかに存在しないのです。ですから、与えられた才能や賜物に磨きをかけ、その特異性をさらに輝かせるために活用してください。例を挙げましょう。子供のころ、近所に立派な青年がいました。この青年は、勉強は得意ではありませんでしたが、見事な家具を作ることができました。わたしたちは同じ日に軍に入隊しましたが、彼はベッドを整えることができず、いつも検査をパスできずにいました。しかし、木片から実に精巧な芸術作品を作り出すことができたのです。ハワード・W・ハンター大管長はこう言いました。「才能や創造性、情緒の安定、偉大さなどは、青年のうちに開花するものではなく、年齢を重ねて初めて到達できるものであるという考えを持つ人がいます。しかし、そうではないのです。」¹⁴

若い男性の皆さんには、偉大な約束を伴う未来があります。皆さんは世界がこれまで知り得なかったような知識の恩恵にあずかるのです。この知識によって、皆さんは、現代のビジネス、産業、農業、そ

して専門職の将来に貢献することができます。戦場で命を守るかもしれません。また、福音の原則を世界に広め、教会の発展を助けるかもしれません。

わたしのかわいい孫である愛する皆さん、わたしの声に耳を傾けるすべての特別な若い男性の皆さん。前進してください。信仰と義をもって前進し、預言者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長の教えに従ってください。そうすれば、主は皆さんを強め、大いなる者としてくださり、皆さんは偉大なことを成し遂げるでしょう。神権がわたしの人生に偉大で深い影響を与えてくれたことを証します。わたしは長い人生を通して、自分が何者であり、何を信じているのかを隠さないように努めてきました。そのことで職歴に傷がついたり、貴重な友人を失ったりしたことは一度もありません。むしろ、彼らは謙虚に、わたしがこの教会の会員であることを認めてくれたのです。皆さんにわたしの証と祝福を残します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

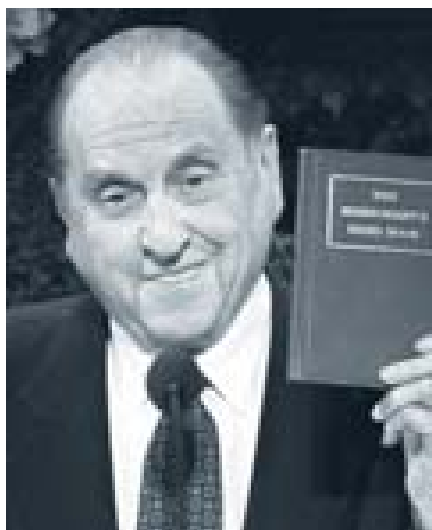
1. ヘブル5:4
2. ピーター・ポマー「実在する力」『聖徒の道』1997年6月号、44
3. *History of the Church*, 第4巻、207
4. 教義と聖約64:29
5. 1テモテ6:11
6. アルマ41:11
7. モロナイ7:12参照
8. ヤコブの手紙1:12-15;4:7参照
9. ジョシュ・ピリングス, *Dictionary of Humorous Quotations*, イバン・イサー編(1962年), 36で引用
10. "Parents Should Be Consulted," *Improvement Era*, 1902年2月号, 308-309
11. Conference Report, 1964年4月, 5
12. チャールス・ディケンズ『クリスマス・キャロル』脇明子訳, 岩波少年文庫, 47
13. マタイ6:33
14. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編(1997年), 117

神権——神聖な賜物

大管長会第一顧問

トーマス・S・モンソン管長

わたしたちには、神権を持つ者として常にふさわしくあるために、生活を律する責任があります。



兄 弟の皆さん、今晚わたしたちは神権者の強大な集団として、ここカンファレンスセンターと世界の各地に集っています。わたしは皆さんに話す特権を得て光栄に思っています。主から靈感を受け、わたしの思いが導かれ、語る言葉に靈感が宿るように祈っています。

皆さんに今夜何を話せるだろうかと、この数週間いろいろ考えてきました。そのとき、神の神聖な神権を持つわたしたちが受けている祝福を度々思い出しました。全世界の65億以上の人口を考えると、わたしたちはとても小さな、選ばれた集団であることが分かります。神権を持っているわたしたちは、使徒ペテロの言葉のように、「選ばれた種族、王国の神権者」¹なのです。

ジョセフ・F・スミス大管長は神権をこのように定義しています。「〔神権とは〕人に委任された神の力であり、人類家族の

救いのために人が地上で行動することができるのはこの神権によるのです。……それは、天使がここにいて直接話すように神の御心^{みこころ}を話す権能であり、地上でつなぐことが天でもつなぐれ、地上で解くことが天でも解かれる権能です。」スミス大管長はさらにこう言いました。「〔神権は〕神聖なものです。人はそれを神聖に保たなければなりません。』²

わたしの兄弟である皆さん、神権は賜物です。神権によって、特別な祝福が授けられるばかりでなく、神聖な責任をも引き受けなければなりません。わたしたちには、神権を持つ者として常にふさわしくあるために、生活を律する責任があります。わたしたちは破滅の道へと誘う多くのものに取り囲まれた時代に生活しています。その道を避けるには決意と勇気が必要です。

勇気は大切です。そのことをわたしは、何年も前に、明確に、また劇的な方法で学びました。当時わたしはビショップとして働いていました。ステーキ大会の一般部会がソルトレーク・シティーのテンプルスクウェアにあるアッセンブリーホールで開かれていました。その部会でステーキ会長会が再組織される予定でした。アロン神権者は、ビショップリックも含め、聖歌隊として一緒に歌っていました。最初の歌を歌い終えると、大会訪問者のジョセフ・フィールディング・スミス会長が壇上に立ち、支持の挙手を得るために新しいステーキ会長会の名前を読み上げました。彼はそれから、パーシー・フェッツァーとジョン・パートは(ちなみに、新た

にステーキ会長になったフェッツァー兄弟も、第一顧問になったパート兄弟も前のステーキ会長会の顧問でした)この新しい召しについて大会が始まる前に知らされていましたが、第二顧問に召されたモンソン兄弟は役員^{役員}の支持の中で名前が読み上げられるまでこの件について知らされていませんでしたと説明しました。それからスミス会長はこう言いました。「モンソン兄弟が喜んでステーキ会長会顧問の召しにこたえてくれるのでしたら、今、彼からお話を聞きたいと思います。」

わたしが壇上に立って、聴衆の顔で埋まった広い会場を見渡すと、先ほど歌ったばかりの歌が頭に浮かんできました。知恵の言葉についての歌で、題名は「少年よ、断る勇気を持って」(“Have Courage, My Boy, to Say No”)でした。その日わたしは召しを受け入れるに当たって、短い話のテーマを「少年よ、受け入れる勇気を持って」にしました。勇気が必要な場面はわたしたち一人一人に絶えずやって来ます。信念をはっきり主張する勇気、責任を成し遂げる勇気、神権を尊ぶ勇気です。

どこにしようと、神権はわたしたちとともにあります。わたしたちは「聖なる場所」³に立っているのでしょうか。長年大管長会の顧問を務めたJ・ルーベン・クラーク・ジュニア管長はこう言いました。「神権は衣服のように着たり脱いだりできるものではありません。神権はわたしたち次第で永遠の賜物になります。」さらにこう言いました。「〔神権は〕脱ぎ捨てられないこと、神権を〔汚す〕なら神から責任を問われることを固く信じているなら、神権はわたしたちを、多くのふさわしくないことをしたり、多くのふさわしくない場所へ行ったりしないように導いてくれるでしょう。まっすぐで狭い道から少しでもそれ始めると『これは神権を持つわたしがすべきことだろうか』という思いがわき、すぐにまっすぐで狭い道に戻れるでしょう。』⁴

スペンサー・W・キンボール大管長は言いました。「皆さんが持っている神権には無限の力があります。けれども、皆さんが主の御霊^{御霊}に一致した生活をしなければ、その力を十分に引き出すことはでき



ません。』⁵

わたしの兄弟であるすべての年代の神権者の皆さん、皆さんは主が求めておられる標準に従って生活していますか。皆さんは神の神権を持つ者としてふさわしいでしょうか。もしそうでなければ、今ここで決意してください。勇気を奮い起こし、ふさわしい生活をするためであれば今の自分をどのようにでも変えろ。現世という海を安全に渡るには、永遠の航海士、大いなるエホバの導きが必要です。もしわたしたちが主の用向きを受けているのであれば、主の助けを受ける権利があるのです。

わたしはこれまでの人生を通じて、数え切れないほど主の助けを受けてきました。第二次世界大戦が最終局面を迎えたころ、わたしは18歳になり、長老に聖任されました。ちょうどその1週間後に、海軍に召集され故郷を離れることになりました。ワードのビショップリックの一人が駅まで見送りに来てくれました。列車が発する直前に、彼は1冊の本を手渡してくれました。それは今晚、皆さんの前に掲げるこの本です。タイトルは『宣教師の手引き』です。わたしは笑いながら「わたしは海軍に入ります。伝道に行くのではありませんよ」と言いました。すると彼は「とにかく持って行きなさい。きっと役に立つから」と言いました。

実際それは大変役に立ちました。基本訓練を受けていたとき、部隊の司令官が、どうしたら大きなセーラーバッグに最も上手に衣類を納められるかを教えてくれました。彼はこう言いました。「硬い長方

形のものを持っていたらバッグの底に敷くんだ。そうすれば衣服を固定しやすくなる。」わたしは思いました。「硬くて長方形のものなんて持っていたかなあ。」その瞬間、わたしの頭に、それにぴったりの硬い長方形のものが浮かびました。『宣教師の手引き』です。このようにして、この本は12週間その役目を果たしてくれました。

クリスマス休暇に入る前の夜、わたしたちは、いつものことですが、故郷を懐かしんでいました。兵舎で騒ぐ者はだれもいません。すると突然隣のベッドで、教会員のレランド・メルルが苦しんでいるのに気づきました。わたしは尋ねました。「メルル、どうしたんだ。」

彼は答えました。「具合が悪い。とても苦しい。」

基地内の医務局に行くよう勧めましたが、彼はそんなことをすればクリスマスに家へ帰れなくなるかもしれないと答えました。わたしは、「それなら、静かにした方がいい。さもなければ、兵舎中の人を起こしてしまうかもしれないから」と言いました。

時間が長く感じられました。うめき声はますます大きくなります。彼はわらにもする思いでわたしにささやきました。「モンソン、君は長老だったよね。」わたしはそのとおりだと答えました。すると彼は言いました。「祝福してくれ。」

わたしは、それまで一度も祝福をしたことがなかったことを痛感しました。そのような祝福を受けたことも、祝福が施されるのを見たこともありませんでした。わたしは神に助けを嘆願しました。すると

「セーラーバッグの底を見なさい」という答えを受けました。真夜中の2時に、床の上にバッグの中身を出し、終夜灯の下であの硬い長方形の『宣教師の手引き』を取り出して、病人を祝福する方法を読みました。それから120人ほどの水兵が好奇の目で見守る中、わたしは祝福を行いました。わたしが荷物をバッグにしまう前に、レランド・メルルは子供のように眠りに就きました。

翌朝、メルルはわたしの方を向いてほほえんで言いました。「モンソン、君が神権を持っていてよかったよ。」彼の喜びもさることながら、わたしはそれ以上に感謝の気持ちでいっぱいでした。神権者であることを感謝しただけでなく、切羽詰まっていたときに、助けを受け、神権の力を行使できるだけのふさわしさを保っていたことを感謝したのです。

兄弟の皆さん、わたしたちの主なる救い主はこう言われました。「わたしに従ってきなさい。」⁶ 主の招きを受け入れ、主の足跡をたどって進むならば、主はわたしたちの道をまっすぐにしてくださいでしょう。

2000年4月に、そのような導きを経験しました。ローザ・サラス・ギフォードという面識のない人から電話がありました。彼女の説明によると、両親がコスタリカからやって来て、彼女のところに数か月間滞在していて、ちょうど1週間前に父親のベルナルド・アウグスト・サラスが肝臓癌と診断されたということです。医師団は家族に、父親はあと数日の命だと説明したというのです。彼女はわたしに、父親のたつての願いは、死ぬ前にモンソン兄弟に会うことであると言いました。彼女はわたしに住所を告げ、父親に会うためにソルトレークの彼女の家まで来てくれないうかと言いました。

会合や責任で、わたしが事務所を出るのはかなり遅くなりました。しかし、自宅に直行せずに車をずっと南に走らせて、今夜中にサラス兄弟を訪問したほうがよいと感じました。住所を書いたメモを片手に、家を探しました。道はかなり混んでいます。日が落ちて薄暗くなっていたの

で、彼女の家に続く道を通り過ぎてしまいました。何も見当たりません。けれども、簡単にはあきらめませんでした。その区画を1周回ってみました。何もありません。もう一度探してみました。その道らしきものはありません。十分力を尽くしたけれども、家は見つからなかったのだから、もう自宅に帰ってもよいのではないかと思ひ始めました。けれども、助けを求めて静かに祈りました。すると反対方向へ行くようにとの靈感を受けました。わたしは車を走らせてから、ユーターンして反対車線に入りました。反対車線に入ると交通量はとてま少なくりました。もう一度その場所に近づくと、かすかな明かりの中で道路の端に倒れた標識を見つけました。雑草に覆われてほとんど見えない道があり、その道に入ると表通りからかなり離れた所に小さなアパートと小さな家が1軒ずつありました。建物に近づくと、白い服を着た少女がわたしの方に向かって手を振りました。やっとその家族のところに着てきたのです。

わたしは家の中へ招き入れられ、サラス兄弟が寝ている部屋へ通されました。ベッドの周りにはサラス姉妹と3人の娘さん、1人の義理の息子さんが集まっています。義理の息子さん以外は全員コスタリカから来ていました。サラス兄弟は見るからに病状が重いことが分かりました。彼の額に載っているぬらした布は、タオルや手ぬぐいではなく、端がほつれた布で、それがこの家族の経済状態を物語っていました。

小声で呼びかけると、サラス兄弟は目を開けました。そしてわたしが手を取ると、彼は弱々しくほほえみました。「あなたにお会いするために来ました」と言うと、彼の目から涙がこぼれました。わたしの目も潤みました。

祝福を希望されますかと尋ねると、家族全員が、そうしてほしいと答えました。義理の息子さんは神権を持っていないので、わたしは一人で神権の祝福を授けました。主の御霊に導かれているように言葉がよどみなく出てきました。わたしは教義と聖約第84章88節の救い主の言葉



を祝福の中に含めました。「わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」祝福の後で、悲しむ家族を慰めるために少し言葉をかけました。彼らがわたしの英語を理解できるように言葉を選んで話しました。それから、わたしの限られたスペイン語を使って、彼らを愛していることと、天の御父が彼らを祝福されることを伝えました。

家族の聖書を借りてヨハネの第三の手紙4節に彼らの注意を向けました。「わたしの子供たちが真理のうちの歩いていることを聞く以上に、大きい喜びはない。」そして彼らに言いました。「これは、あなたのご主人、皆さんのお父さんが、地上を離れる準備をしている今、皆さんに覚えておいてほしいと望んでおられる言葉です。」

サラス兄弟の優しい妻は涙を流しながら、わたしが伝えた二つの聖句を家族がまた読み返せるように聖句の箇所を書いてほしいと言いました。手ごろな紙を持っていなかったサラス姉妹は自分の財

わたしは清く、 汚れがありません

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

言葉遣いの面でも、思いの面でも、肉体の面でも、服装の面でも清くあってください。

布を開け、紙切れを取り出しました。彼女からその紙を受け取ったとき、わたしはそれが什分の一のレシートであることに気づきました。非常に貧しい環境の中で暮らしているこの家族が、什分の一を忠実に納めていることを知り、わたしは心を打たれました。

心からのあいさつを終えると、家族はわたしを車まで見送ってくれました。自宅に向かって車を走らせながら、その夜わたしたちが感じた特別な御霊を思い出していました。以前に何度もあったように、天の御父がわたしを通してだれかの祈りにこたえてくださったことに感謝の念で満たされました。

わたしの兄弟である皆さん、わたしたちが持っている神の神権は、神聖な賜物であり、神権を通じてわたしたちとわたしたちが仕える人々に天の祝福がもたらされることを覚えておきましょう。どこにいても神権を尊び、守りましょう。いつも主の助けを受けて、主の用向きを果たせるように努めましょう。

皆さんもわたしも、人の魂を勝ち取る戦いに参加しています。その戦いが和らぐことはありません。主の御言葉はラッパのように、皆さんに、わたしに、そしてあらゆる場所にいる神権者に向かって響き渡ります。「それゆえ、今や人は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。』⁷

わたしたち一人一人がそのように行う勇気を持てますよう、イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。

注

1. 欽定訳1ペテロ2:9から和訳
2. *Gospel Doctrine*, 第5版(1939年), 139-140
3. 教義と聖約45:32;87:8;101:22
4. Conference Report, 1951年10月, 169
5. *The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編(1982年), 498
6. ルカ18:22
7. 教義と聖約107:99



愛する神権者の皆さん、わたしは全世界の教会堂、そしてその他の場所にも何百万人という兄弟たちが集っているということを思いながら、このカンファレンスセンターにいる2万1,000人の顔を見ていると、胸の高まりを覚えます。ますますすばらしくなっていく時代に、自分が年老いているのが残念です。

皆さんも知っているように、わたしは12年前、正確には1995年3月12日に大管長として聖任と任命を受けました。バラード長老がこの12年間の統計を幾つか集めてくれたので、その中から引用します。

●38万7,750人の宣教師が伝道に出ました。教会が組織されて177年がたちますが、この神権時代に奉仕したすべての宣教師のほぼ40パーセントが、最近の12年の間に伝道に出たということに

なります。

- 340万人の改宗者がバプテスマを受けました。これは教会の現在の総会員数の4分の1に相当します。
- 教会の伝道部総数は303から344に増えました。これに間もなく3つの伝道部が加わります。
- 聖餐会の出席、神権への聖任、そして什分の一の完納者の数によって判断すると、新会員の定着率は著しく増加しました。

この統計はどれも特筆すべきものですが、もう少し熱心に働くなら、このすばらしい最近のデータは偉大な未来への序章となり得るでしょう。わたしはそう確信しています。

押せ、肩の力もて、歌いて義務を果たしましょう。この大義には働きが求められます。皆でたゆまず、車を押しましょう(「世はよく働く人を求む」『賛美歌』161番参照)。

では、別の話に移りたいと思います。何年も前に紹介した話ですが、もう一度お話しします。その当時聞いた人たちはもう随分前に忘れてしまっているでしょうし、聞いたことのない人には知ってほしいと思うからです。1901年から1918年までの合計17年間、大管長の職にあったジョセフ・F・スミス大管長についての話です。

ジョセフ・F・スミスはハイラム・スミスの息子でした。ハイラムは預言者ジョセフの兄であり、カーセージの監獄でジョセフとともに殉教しました。ジョセフ・Fは1838年11月13日にミズーリ州ファーウェ

ストで生まれ、幼いころにミズーリ州を後にしました。そしてまだ6歳にもならないとき、ノーブーにあった母親の家で、窓をノックする音を聞きました。訪ねて来たのは、スミス姉妹に、夫がその日の午後カーセージで殺害されたことを知らせる早馬の使者でした。

9歳のとき、彼は、牛の引く荷車を操って母親とともに大平原を横断し、この盆地に移り住みました。そして15歳のとき、ハワイへの伝道に召されました。そこでまずサンフランシスコまで行き、その屋根板工場で働いて、ハワイ諸島へ渡る船賃を稼ぎました。

当時のハワイは今のような観光地ではありませんでした。住民も現地のハワイ人でした。大部分の人が貧しい暮らしをしていたものの、自分の持っているものについては、物惜しみしませんでした。彼はやがて現地の言葉が話せるようになり、また人々を愛するようになりました。ハワイで伝道していたときに、大管長はある特筆すべき夢を見ました。大管長の言葉から引用してみましょう。

「わたしは〔自分の〕伝道中に、非常に苦しい思いをしたことがある。わたしにはほとんど着るものもなかった。文化の発展していない地域に住む、貧しい……人々以外にまったく友もない時期があった。貧しさの中、知恵も知識もない一介の若者であったわたしは自分をひどくつまらない者と感じ、……人とともに顔を合わせる勇氣すらなかった。

そうした状態にあるときに、〔ある晩〕わたしは旅をしている夢を見た。急がなければと思った。遅れてはいけないと思い、全力で道を急いだ。可能なかぎり急ぎながらもわたしは、ハンカチでくるんだ小さな包みを手にしていることに気がついた。それが何なのか……よく分からないまま必死に道を急いでいたが、やっとのことで豪華な大邸宅に着いた。……わたしはそこが目的地であることを知っていた。急いで中へ入ると、『浴室』という表示が目にとまった。わたしはすばやく体の向きを変え、その浴室に入ると、体をきれいに洗った。手にしていた小さな包みを開



くと、〔何枚かの〕真っ白な〔衣〕が出てきた。この地方の人々は、衣類であれ何であれ、ものを徹底してきれいにするということにあまり注意を払わないため、長い間目にしたことのないきれいな衣だった。わたしの〔服は〕清潔だったが、わたしは〔その衣を〕身に着けた。そして、大きな入り口のような所に急いだ。ノックすると扉が開き、そこに預言者ジョセフ・スミスが立っていた。彼は少しとがめるような目でわたしを見、口を開くとこう言った。『ジョセフ、遅かったね。』しかし、わたしは自信をもって〔答えた〕。

『はい、でもわたしは清く、汚れがありません。』

彼はわたしの手をつかむと中に引き入れ、大きな扉を閉じた。彼の手はこの世の人の手と同じように、実感することができた。わたしは預言者ジョセフ・スミスを以前に知っていた。そして部屋の奥へ進んで行くと、わたしの父や、ブリガム〔・ヤング〕、ヒーバー〔・C・キンボール〕、ウィラード〔・リチャーズ〕、そのほかわたしの知っている立派な人たちが並んで立っていた。見るとそこにこの盆地ほどもあるような広い空間が見えた。そして、その空間には大群衆が集まっているように見えた。だが壇上にいる人たちはすべてわた

しの知っている人たちだった。母もそこにいて、ひざに幼子おなごを抱いていた。そこに座っていた人たちは選ばれて昇栄した人たちのようだった。わたしは思い出せるかぎりその人たちの名前を挙げるができる。……

〔この夢を見たとき、〕わたしは遠いハワイの山中でただ一人、敷き物の上で眠っていた。そばには、だれ一人いなかった。この示現の中でわたしは預言者に手を触れ、彼のほほえむのを見た。……

その朝、わたしは目を覚ますと、年齢的には〔まだ〕一介の子供にすぎなかったが、一人前の大人になっていた。〔その示現の後〕世の中に恐れるものはなくなっていた。自分があらゆる点で大人であるという自信をもって、あらゆる男女、子供とまともに顔を合わせられるようになっていた。そのときに享受した示現あかしと現れ、証がわたしを現在のわたしにしてくれた。わたしが少しでも善良で、主の前に清く、義にかなっているとしたら、わたしにどこか良いところがあるとしたら、その示現を契機にわたしはそのような者となったのである。その経験は、あらゆる試練と困難に遭遇したときにわたしの支えとなった。』(Gospel Doctrine, 第5版〔1939年〕, 542-543)



グアテマラ・コバンステーキの二人の幼い会員。

この意味深い夢の話の最も大切な点は、ジョセフ・スミスが若きジョセフ・Fをいさめた場面にあります。預言者は「ジョセフ、遅かったね」と告げました。

この言葉に対するジョセフ・Fの答えはこうでした。「はい、でもわたしは清く、汚れがありません。」

この夢の結果、一人の子供が大人へと成長しました。ジョセフ・F・スミスは「わたしは清く、汚れがありません」と断言できたがために、どんな人にもどんな状況にも対応できる自信と勇気を得ました。彼は、預言者ジョセフから認められたことで、ますます汚れのない良心を持つようになり、そのような良心からもたらされる力を得たのです。

この預言者の夢の話には、今晚この場に集っている大勢の男性の皆さんにも、年齢を問わず、学べるところがあります。次のような古いことわざがあります。「清さは信心に次ぐ。」

預言者イザヤは言いました。

「あなたがたは身を洗って、清くなり、わたしの目の前からあなたがたの悪い行いを除き、悪を行うことをやめ、

善を行うことをなら〔え。〕

主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。」(イザヤ1:16-18)

近代の啓示で主はこう語っておられます。「主の器を担う者たちよ、清くありなさい。」(教義と聖約133:5)

汚れにふける世の中であって、言葉遣いの面でも、思いの面でも、肉体の面でも、

も、服装の面でも清くあってください。

皆さん一人一人に申し上げます。言葉遣いの面でも清くあってください。今日、あまりにも汚れたくごらない言葉遣いがはびこっています。清い言葉で自分を表現できないのは、皆さんの語彙が極端に貧困だということを表しています。エホバが石版に書かれた御言葉は、イスラエルの子らに向けて発せられたのです。「あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱えるものを、罰しないでは置かないであろう。」(出エジプト20:7)

主は、現代の啓示の中でもその戒めを強調しておられます。「上から来るものは神聖であり、それについては注意して、御霊の促しによって語るようにしなければならぬことを覚えておきなさい。」(教義と聖約63:64)

思いの面でも清くあってください。主はこう言っておられます。「すべてのことがわたしの前に清く行われるようにしなさい。」(教義と聖約42:41)

心が汚れていれば、汚れた不敬な言葉を自然と使うようになります。しかし、心が清ければ、言葉遣いの面では肯定的で心を高める言葉を用いるようになり、行動面でも幸せな気持ちになれるような行いをするようになります。

肉体や服装、態度の面でも清くあってください。体に入れ墨を彫らないでください。そのようなことをすれば、いつか後悔することでしょう。苦痛を伴い費用のかかる処置を講じなければ入れ墨を消すことはできません。

清潔で、ござっぱりとして、きちんとした

服装を心がけてください。服装がだらしなくと態度もだらしなくなります。わたしは皆さんが上等な服を着ているかどうかについてはあまり関心がありません。しかし、それらがござっぱりとして清潔かどうかということに対しては、大に関心を寄せています。ジョセフ・F・スミスの夢を思い出してください。あの邸宅に向かって急いでいるときに、ハンカチにくるんだ小さな包みを持っていました。入浴を済ませて包みを開けると、そこには清潔な衣服が入っていたのです。皆さんが聖餐を祝福したりパスしたりするときには、最善の服装をしてください。自分が清く、そして汚れていないことを、いつも確認してください。

愛する兄弟の皆さん、話すことはまだいくらでもあります。インターネット上で起きている問題、また思いと行いの墮落につながるコンピューターの使用に関して起きている問題について、皆さんに話すこともできます。しかし、そのような害悪は神の神権を持つ皆さんにはまったく似つかわしくないとさえ十分でしょう。皆さんは主から選ばれた僕です。皆さんは神聖で驚嘆すべき職に聖任されているのです。皆さんはこの世にあっても、この世のものとなつてはなりません。この世のすべてを超越しなければならないのです。

愛する兄弟の皆さん、主が皆さんを祝福されますように。若い男性の皆さんに申し上げます。どうぞさらに続けて教育を受けてください。結婚すると、家族を養うのは皆さんの義務となります。皆さんの前途は好機で満ちあふれています。そして、教育はチャンスの扉を開いてくれる鍵です。その扉は皆さんにとって、若き日のジョセフ・F・スミスがハワイの山中で眠っていたときに見た夢に登場する大邸宅の扉と同じです。

愛する兄弟の皆さんに神の祝福がありますように。祈りを通して主と言葉を交わしてください。主との交流を深めてください。主は全能者であり、皆さんを引き上げ、助ける力を持っておられます。そうなりますように、イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。



末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

大管長会

2007年4月現在



第一顧問
トーマス・S・モンソン



大管長
ゴードン・B・ヒンクレー



第二顧問
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会



ボイド・K・パッカー



L・トム・ペリー



ラッセル・M・ネルソン



ダレン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン



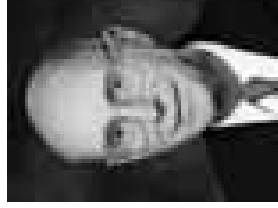
リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



ヘンリー・B・アイリング



ディーター・F・ウクトドルフ

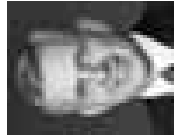


デビッド・A・ベドナー

七十人会長会



アール・C・ティンギー



D・トッド・クリストファースン



チャールズ・テイチ



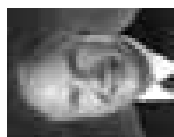
メリル・J・ペトマン



ロバート・C・オークス



ニール・L・アンダーセン



ロナルド・A・ラスバンド

七十人第一定員会



カロス・H・アマート



デビッド・S・バウスター



シェーン・M・ポーエン



モンテイ・J・プアラ



シェルドン・F・チャイルド



L・ボイド・N・クレイトン



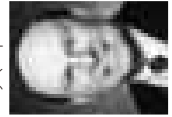
テリー・J・コールマン



スペンサー・J・コンティ



ジョン・R・クック



クエンティン・L・クック



クラウディオ・R・M・コスタ



ベンハミン・T・オヨス



ロバート・K・テレンバック



ジョン・B・テイソン



ティビッド・F・エバンス



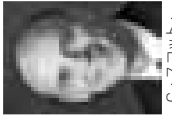
エリック・R・アラバ



カス・E・L・ゴルトマン



ウォルター・F・コンラッド



C・ポット・クロウ



ブルース・C・ヘンゲン



ロナルド・L・ホルバット



キース・K・ヘルツ



リチャード・G・ヒンクレ



ジマイ・E・シェイファー



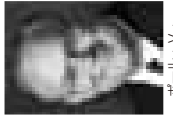
マーティン・K・ジェンセン



ダニエル・L・ジョンソン



ケニス・B・ジョンソン



ボール・V・ジョンソン



ウィリアム・R・ワイル



純地 貞彦



ボール・E・コーリカー



エリック・W・コビシュカ



ジョン・M・マドセン



リチャード・J・メイソン



リン・A・ミケルセン



マカス・B・ナッシュ



ベニス・B・ベンテン



クレイン・L・ベイス



アンダーソン・D・パーキンス



ボール・B・バイバー



ブルース・D・ボーター



カール・B・ブラット



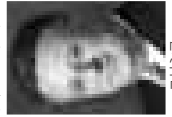
リン・G・ロベンス



セシル・O・サミュエルソン



ステイン・P・E・スノー



フランクス・J・ビーナス



リチャード・C・エッジリー



オクタビオ・テリョ



ランズ・B・ウィックマン



クラウディア・D・ジビック



W・クレーク・スウィック

管理ビショップリック



第一顧問
リチャード・C・エッジリー



管理ビショップ
H・デビッド・バートン



第二顧問
ケニス・B・マクマリ

七十人第二定員会



マーベック・B・アーナルド



ダグラス・L・カリスター



クレイグ・A・カートン



クレイグ・C・クリステンセン



ドン・R・クラーク



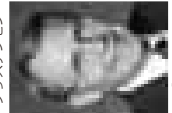
ジェームズ・M・タン



キース・R・エドワーズ



スタラー・G・エリス



ゾラー・H・ガン



D・リック・シェット



ラリー・W・キボンス



スペンサー・V・ジョンソン



高 元龍



ジェラルド・N・ランド



クレイトン・W・マスコ・ジュニア



ロバート・F・オートン



ウィリアム・W・パームリー



ウォルフガング・H・ポール



ウエイン・S・ピーターソン



R・コンラッド・シュルツ



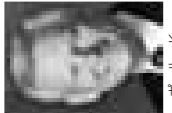
W・ウィリアム・W・シャムウエー



ローエル・M・スノー



ロバート・R・ストアー



ボール・K・ジブラウスキー



ロバート・S・ウット



H・ロス・ワークマン



ウィリアム・R・ウーガー



上—3世代そろって大会に出席した、ホンジュラス・テグシガルバ・ユカステクの末日聖徒。

左—大会の放送に出席する、カナダ・ブリティッシュコロンビア州バンクーバーの少女たち。



上—ブラジル、サンパウロで「リアホナ」の「フレンド」を読む子供たち。

左—フィリピンで、大会の様様を視聴するために集会所に到着した会員たち。



ゆる 赦しのもたらす癒しの力

大管長会第二顧問

ジェームズ・E・ファウスト管長

自分を苦しめ、傷つけた人々を赦したいと思うことができれば、わたしたちはより高い次元での自尊心と満足を得ることでしょう。



愛する兄弟姉妹、友人の皆さん、わたしはへりくだり、祈りの気持ちで皆さんの前にやって来ました。今日は赦しのもたらす癒しの力について話します。

ペンシルベニア州の美しい丘陵地帯に、自動車も電気も近代的な機械もない質素な生活を送る、敬虔なキリスト教徒の一団が住んでいます。勤勉に働き、この世から離れた静かで穏やかな生活を送っています。食物のほとんどは自分たちの農場で生産します。女性は地味で飾りけのない衣類を自分たちで縫い、編み、織っています。彼らはアーミッシュという名で知られています。

牛乳の集荷をしていたある32歳の男性が、ペンシルベニア州ニッケルマイنز地区で家族とともに暮らしていました。彼はアーミッシュではありませんでしたが、アーミッシュの営む多くの酪農場で集荷を行って

いて、物静かな牛乳集荷人として知られていました。しかし、昨年10月、この男性は突然正気を失い、自制心を失ってしまいました。錯乱したこの男性は、最初の子供の死や、事実かどうか分からない過去の経験を神のせいにしてしまいました。そして何の理由もなくアーミッシュの学校に押し入ると、男子児童と成人は解放しましたが、10人の女子児童を縛り上げ、全員を銃で撃って5人を殺害し、5人を負傷させたのです。その後、自ら命を絶ちました。

この衝撃的な暴力行為はアーミッシュの人々に深い苦しみをもたらしましたが、彼らは怒りませんでした。傷つきましたが、憎まなかったのです。彼らは即座に赦しました。そして苦しんでいる加害者の家族に全員で手を差し伸べました。事件の翌日、アーミッシュの隣人が男性の家族を訪れ、父親を両腕で抱き、こう言いました。「わたしたちはあなたを赦します。」¹ アーミッシュの指導者たちは男性の妻と子供たちのもとを訪れ、苦しみを思いやり、赦し、援助を与え、愛を示したのです。加害者の葬儀に参列した人々の半分はアーミッシュでした。さらに、アーミッシュの人々は、殺害された女子児童の葬儀に加害者の家族を招きました。このつらい状況にありながら、信仰によって自らを支えたアーミッシュの人々は、その心に驚くべき平安を受けました。

アーミッシュの人々がこの悲劇をどのように受け止めたかを、住民の一人は次のような力強い言葉で表現しています。「わたしたちは皆、同じ言葉で語っていました。英語でという意味ではなく、思いやりの言葉、

ここに住む住民たちの言葉、そして奉仕の言葉で語っていたのです。そうです、それは赦しの言葉でした。」² アーミッシュの人々は、山上の垂訓で主が教えられた「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」という教えに対し、驚くほどの、そしてあふれんばかりの完全な信仰でこたえたのです。³

5人の女子児童を殺害した加害者の家族は次のような手紙を公表しました。

「アーミッシュの友人、隣人、そして地域社会の皆さんへ

わたしたちは、皆さんが示してくださった赦しと思いやり、そして憐れみに圧倒される思いです。皆さんの愛のおかげで、狂おしいほどに必要としていた癒しを得ることができました。皆さんの祈り、頂いた花、カード、贈り物に、言葉では言い尽くせないほどの感動を覚えています。皆さんの思いやりはわたしたち家族と地域社会を越え、わたしたちの世界を変えています。そのことに心から感謝しています。

あの出来事のために、わたしたちの心は張り裂けんばかりです。わたしたちが愛し、これからも愛し続けるアーミッシュの隣人の皆さんに対して申し訳ない気持ちでいっぱいです。愛する家族を失ったすべての方にはつらい日々が待ち受けていることを知っています。わたしたち全員がこれから生活を立て直していくに当たり、引き続き、あらゆる慰めをもたらして下さる神に希望と信頼を託します。」⁴

なぜアーミッシュの人々は皆、このような赦しの気持ちを示すことができたのでしょうか。それは彼らが神を信じ、神の御言葉に信頼を置いていたからです。その信仰と信頼は彼らの人格の一部となっていました。アーミッシュの人々は自らをキリストの弟子と考え、その模範に従う望みを持っているのです。

この悲劇を知った多くの人が、生き残った5人の医療費と亡くなった5人の埋葬費にと、寄付金を送りました。アーミッシュの人々はこの寄付金の一部を、同じ被害者であるとして、加害者の妻と3人の子供たちに分けることにしました。アーミッシュの人々はこのようにして、自分たちがキリストの弟子であることを行いによって再び示し

たのです。

赦すということは必ずしもこの話のように即座にできるものではありません。罪のない子供たちが性的虐待を受けたり、殺されたりするとき、まず赦しについて考える人は少ないのです。わたしたちは自然な反応として怒りを感じます。自分や家族に危害を加えた人に「復讐」したいと思うことは当然であるとさえ感じるかもしれません。

価値実現論の権威として有名なシドニー・サイモン博士は、赦しについてのすばらしい定義を紹介しています。これは人間関係にも応用できます。

「赦しとは、これまで恨みを持ち、怒りを抱き、いまだ癒されない傷をかばうために費やしていたエネルギーを解き放つこと、そしてそのエネルギーをより効果的に利用することを指す。赦すとは、常に自分に備わっていた強さを再発見することであり、周りの人と自分自身をどこまでも理解し受け入れるだけの度量を手に入れることである。」⁵

多くの人にとって、痛みと喪失感を乗り越えるためには時間が必要です。また、赦しを先送りする理由はどこにでも見つかります。加害者が悔い改めるまでは赦さないという人もいます。しかし、赦しを引き延ばすことで、わたしたちは得られるはずの平安と幸福を失ってしまいます。はるか以前に受けた傷をいつまでも蒸し返すという愚行が幸福をもたらすことはないのです。

勇気をもって加害者を赦すことが、いかに健全で、癒しを得る近道であるかを知ることなく、生涯にわたって恨みを抱き続ける人がいます。

アーミッシュの人々のように、神と神の御言葉を信じるときに、赦すことはとても容易になります。そのような信仰があれば、「人は最も無慈悲な行為にも耐えられるようになり、自分以外の人々を思いやることができます。なによりも、人を赦すことができるようになるのです。」⁶

わたしたちは皆、まったく不当と思えるような理由で傷つけられることがあります。理解も説明もできません。この世には原因の分からない悲しみもあります。主を除い



ては、だれもその苦しみの理由が分からないということもあるでしょう。それでも、起こったことは耐えなければならないのです。ハワード・W・ハンター大管長はこう語りました。「神は人間の知らないことを御存じであり、人間には見えないものを御覧になっている。」⁷

ブリガム・ヤング大管長は、経験する苦難の少なくとも幾つかには目的があるという、深い洞察に満ちた言葉を残しています。「主は、死すべき人間にもたらされるあらゆる災いが、選ばれたわずかな人々に及ぶことを許されます。それは彼らが、喜びのうちに主にまみえる備えをするためです。……あなたがこれまでに堪え忍んできた試しと経験の一つ一つがあなたの救いに必要なのです。」⁸

自分を苦しめ、傷つけた人々を赦したいと思うことができれば、わたしたちはより高い次元での自尊心と満足を得ることでしょう。最近発表された研究結果によると、赦すことを教えられた人々は、「より楽観的で、怒ったり、落ち込んだり、心配したり、ストレスを感じたりすることが少なく」、その結果、肉体的にもより健康になるそうです。⁹ また別の研究は、「赦しは……自らを解放する賜物であり、人々が互いに与え合うことのできるものである」と結論づけ

ています。¹⁰

現代に生きるわたしたちに、主はこのように勧告されました。「あなたがたは互いに赦し合うべきである。……」また、次のように語られたときに、赦しは必須のものとなりました。「主なるわたしは、わたしが赦そうと思うものを赦す。しかし、あなたがたには、すべての人を赦すことが求められる。」¹¹

つらい離婚を経験したある姉妹が、ビショップからすばらしい助言を受けました。「常に心の中に赦すための場所を取っておき、赦す気持ちが入って来たら、喜んで受け入れてください。」¹² アーミッシュの人々の心の中には、その場所がすでにありました。なぜなら「赦しは〔アーミッシュの人々の〕宗教を『根底から支えている』土台だからです。」¹³ 彼らの赦しの模範は、キリスト教徒としての気高い愛の表現です。

1985年、このソルトレーク・シティーで、ステイブン・クリステンセン ビショップが、まったく非がないにもかかわらず、彼を殺害する目的で仕掛けられた爆弾により、無慈悲に、また何の理由もなく殺されました。マック・クリステンセンとその妻ジョアンの子供だったクリステンセンビショップには、妻テリー・クリステンセンと4人の子供がいました。ビショップの両親の合意の下で、この経験からクリステンセン家族が学んだ事柄について話したいと思います。この恐ろしい事件の後、クリステンセン家族はメディアの執拗な取材を受けました。家族の一人が強引なメディアによってつらい思いをし、ステイブンの父親マックは我慢の限界に達していました。彼は思いました。「赦さなければ、この悲劇はわたしたち家族を破壊してしまう。自分たちの中から追い払わないかぎり、恨みや憎しみは決してなくなるだろう。」完全に怒りを捨てた結果、この家族に癒しと平安がもたらされました。そして、息子の命を奪った犯人を赦すことができたのです。

最近このユタ州で起こった二つの悲劇でも、信仰と赦しのもたらす癒しの力が見られました。クリスマスイブに家族で車に乗っていたゲイリー・セランは、酒気帯びとみられるトラックに衝突され、妻と二人の

子供を亡くしました。しかし彼は、容疑者の男性を即座に赦し、氣遣いました。また昨年2月には、クリストファー・ウィリアムズビショップの車に1台の車が追突しました。ビショップは、癒しの過程が妨げられることのないように、事故を起こした運転手を「無条件に赦す」ことを心に決めました。¹⁴

このような経験から何を学ぶことができるでしょうか。まず怒りの感情があることを知り、そして認める必要があります。それには謙虚さが求められます。しかし、ひざまずき、赦したいと思えるように願い求めるなら、天の御父は助けてくださいます。主はわたしたち自身の益のために「すべての人を赦す」¹⁵ よう求めておられます。「憎しみは霊的成長を妨げる」¹⁶ からです。¹⁶ 主はアーミッシュの共同体、クリステンセン家族、セラン家族、そしてウィリアムズ家族の心に平安を与えられました。わたしたちも、憎しみや苦々しい思いを捨て去るときに初めて、主によって心の安らぎを得ることができるのです。

もちろん、社会を冷酷な犯罪者から守る必要はあります。「憐れみは正義から何も奪うことはできない」¹⁷ からです。¹⁷ ウィリアムズビショップはこの概念についての的を射たとらえ方をしています。「赦しは力の源です。しかし、起こったことが消えてなくなるわけではありません。」¹⁸ 悲劇が起こったときに、個人的な復讐を求めてはなりません。むしろ正義に任せるようにしてください。そして忘れましょう。忘れること、そして込み上げる怒りを心から払いのけるのは簡単ではありません。^{あがな}贖いを通して、救い主は全人類にかけがえのない平安を約束してくださいましたが、怒り、恨み、あるいは復讐などの否定的な感情をわたしたちが進んで捨て去らなければ、その平安は得られないのです。たとえ重大な犯罪であっても「わたしたちに対して過ちを犯す者」¹⁹ を赦すすべての人は、贖いによって必要な平安と慰めを受けるのです。

赦されるためには赦す必要があるということをお忘れないようにしましょう。わたしの好きな賛美歌の中に次のような歌詞があります。「おのが望むごと 人を赦して」。²⁰ わたしは、「すべての人を赦」しなさい²¹ と



いう救い主の勧告に従うときにもたらされる癒しの力を、全身全霊を込めて信じています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

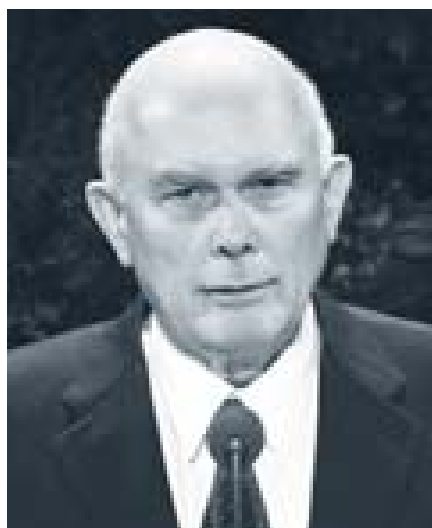
1. ジョアン・カーン, "A Community Cries", *Lancaster New Era*, 2006年10月4日付, A8
2. ヘレン・コールウェル, "After That Tragic Day, a Deeper Respect among English, Amish?", *Sunday News*, 2006年10月15日付, A1
3. マタイ5:44
4. "Amish Shooting Victims", www.800padutch.com/amishvictims.shtml.
5. スザンヌ・サイモンとの共著, *Forgiveness: How to Make Peace with Your Past and Get On with Your Life*(1990年), 19
6. マージョリー・コルテス, "Amish Response to Tragedy Is Lesson in Faith, Forgiveness", *Deseret Morning News*, 2007年1月2日付, A13
7. 『扉』『聖徒の道』1988年1月号, 63
8. ジョン・A・ウィッツオー選, *Discourses of Brigham Young*(1954年), 345
9. フレッド・ラスキン, "Learning to Forgive", *Deseret Morning News*, 2006年10月7日付, E1でキャリー・A・ムーアが引用
10. ジェイ・エバンセン, "Forgiveness Is Powerful but Complex", *Deseret Morning News*, 2007年2月4日付, G6
11. 教義と聖約64:9, 10
12. "My Journey to Forgiving", *Ensign*, 1997年2月号, 43
13. ドナルド・クレイビル, "Flowers, Prayers, Songs: Families Meet at Roberts' Burial", *Intelligence Journal*, 2006年10月9日付, A1でコルビー・イトコビッチが引用
14. パット・リービー, "Crash Victim Issues a Call for Forgiveness", *Deseret Morning News*, 2007年2月13日付, A1参照
15. 教義と聖約64:10
16. オーソン・F・ホイットニー, *Gospel Themes* (1914年), 144
17. アルマ42:25参照
18. *Deseret Morning News*, 2007年2月13日付, A8
19. ジョセフ・スミス訳マタイ6:13から和訳
20. 『敬い崇め』『賛美歌』104番
21. 教義と聖約64:10

離婚

十二使徒定員会

ダリン・H・オークス長老

よい結婚生活は、完全な男性と完全な女性を求めてはいません。完全に向かって一緒に努力しようと決意する男性と女性を必要としているのです。



離婚について話すよう靈感を受けました。繊細なテーマです。なぜなら離婚は、いろいろな面で関与した人たちに、激しい感情をもたらすからです。ある人たちは自分や愛する人たちを離婚の被害者と考えます。自分は離婚によって恩恵を受けたと考える人もいます。離婚を失敗のしるしと見なす人もいます。一方、結婚から逃げるのに欠かせない緊急避難口と考える人もいます。様々な点で、離婚は教会の多くの家族に影響を与えます。

皆さんの考えがどのようであろうと、福音の計画の一部としてわたしたちが追い求める永遠の家族関係に離婚が与える影響について、率直に話しますので、どうか耳を傾けてください。わたしは心配なので話しますが、希望も抱いています。

I

結婚の概念そのものが危機に瀕し、離

婚がありふれたことのようにになっている世の中で、わたしたちは暮らしています。

結婚生活は夫婦と子供の幸せばかりか共通の利益にもなります。そのため、結婚生活を維持することに、社会は強い関心を寄せてきました。しかし、この概念は、結婚は成人した男女の合意に基づくごく私的な関係にすぎず、一方の意志で解消されるという考えに置き換えられてきています。¹

離婚を認める法律が存在しなかった国々でも、離婚が認可されるようになってきましたし、離婚を認めている多くの国では、より簡単に離婚できるようになってきました。残念ながら、現在の無責離婚法（訳注——夫婦の合意がなくても一方の意思で離婚できるという、1970年に合衆国で制定された法律。）の下では、好ましくない従業員との雇用関係を解消する手続きよりは、好ましくない配偶者との婚姻関係を解消する手続きの方が簡単なのです。そのうえある人は最初の結婚を、引越す前にしばらく滞在する小さな家のように、「腰かけ結婚」と考えています。

結婚は永続する貴いものであるという考え方が、どこでも希薄になってきています。自分自身の両親の離婚や、「結婚は自己実現の足かせである」という通俗的な考えに影響され、ある若い人々は結婚を避けています。揺るぎない決意をせずに結婚する人の多くは、最初の重大な問題に出遭うと逃げ出してしまいます。

対照的に、現代の預言者は、結婚を「自分の都合で始め、……最初の困難に直面するとすぐに破棄する単なる契約と〔見なすことは〕、……邪悪であり、厳しい罪の

宣告を招く」と警告しています。特に子供たちを苦しめる場合はそうです。²

古代においてだけでなく、現在教会員が住んでいる一部の国の部族内のしきたりにおいても、男性はささいなことで妻を離縁する権限を持っています。女性に対するそのような不義で不当な権力行使は、救い主によって拒否されました。主はこうはっきりと言われました。

「モーセはあなたがたの心が、かたくななので、妻を出すことを許したのだが、初めからそうではなかった。

そこでわたしはあなたがたに言う。不品行のゆえでなくて、自分の妻を出して他の女をめとる者は、姦淫を行うのである。また出された女をめとる者も、姦淫を行うのである。」（欽定訳マタイ19:8-9から和訳）

昇栄を目指す結婚には、離婚は想定されていません。結婚生活は永遠に存続すると信じ、互いに神のようになることを目標としているからです。二人は主の神殿において永遠に結婚します。しかし、ある結婚はそうした理想に向かって進みません。「[[わたしたち]の心が、かたくななので」主は日の栄えの標準に基づく結果を今は強要なさいません。主は離婚した人も、より高い律法で定められている不道德の染みがないものとして、再び結婚することを認められるのです。つまり、離婚した教会員が重大な背きを犯していなければ、その人はほかの教会員に適用されるふさわしきの標準と同じ標準で、神殿推薦状の資格を得ることができるのです。

II

離婚した多くの善良な教会員がいます。最初にそのような人たちに話します。皆さんの多くは罪のない犠牲者であることを、わたしたちは知っています。別れた配偶者は神聖な聖約を度々裏切り、結婚の責任を将来にわたって遂行することを放棄し、拒絶しました。そのようなつらい事態を経験した教会員は、離婚しなければさらに事態が悪化してしまうと確信していました。

結婚生活が破綻し、修復の希望がなくなったときは、終わらせる手段がなければなりません。そんな事例をフィリピンで経験し

ました。神殿結婚の2日後、夫は若い妻を見捨てて姿を消し、10年以上も音信がありませんでした。妻は他国に逃れ、そこで離婚しましたが、フィリピンにいる夫とは国の法律上、依然として婚姻関係にありました。フィリピンの法律には離婚についての条項がないので、彼女のように、伴侶が扶養義務を放棄して出て行ってしまい犠牲者となった罪のない人たちは、その国にいるかぎり、自分たちの婚姻関係を終結させて新たな生活を始めるすべがないのです。

ある人たちは離婚を振り返るとき、破綻に至ったのは、部分的にあるいは全面的に自分の至らなさをせいだと考え、後悔の念にさいなまれています。離婚を経験したすべての人は、その苦痛を知っており、癒しの力と、贖い^{あがな}がもたらす希望を必要としています。その癒しの力と希望は、彼らと子供たちのためにあります。

Ⅲ

今度は、結婚している教会員、特に離婚を考えている教会員の皆さんにお話します。

皆さんと、現実に向き合うよう皆さんに助言してくれている人たちに強く勧告します。ほとんどの場合、結婚問題に対する解決法は、離婚ではなく悔い改めです。原因の多くは、性格の不一致ではなく、利己心です。最初のステップは、別れることではなく、自分を変えることです。離婚は万能薬ではなく、長期にわたる心痛をもたらします。広範にわたる国際的な研究では、「人生の大きな出来事」の前後における人の状態について、平均的に見て、人は、離婚後よりも伴侶を亡くした後の方が、はるかに立ち直りやすく、元の幸せな状態に戻りやすいという結果が出ています。³ 離婚により問題を解決しようと望む夫婦は、離婚によって事態が悪化したと気づくことがよくあります。離婚の持つ複雑性が新たな問題を生むのです。子供がいる場合は特にそうです。

最初に子供のことを考えてください。なぜなら離婚によって自分たちのことばかりに心が奪われ、子供のことがないがしろにされてしまうからです。子供が最初の犠



牲者です。家族問題の専門家は、現在子供の福利が脅かされている最大の原因は、昨今の結婚の弱体化であると語っています。なぜなら、家族が不安定なために、両親が子供とのかかわりを持ってなくなっているからです。⁴ 離婚後、ひとり親のもとで成長した子供は、薬物やアルコールの乱用、性的不道徳、成績不振など、様々な問題にさらされる危険性が高いことが知られています。

結婚生活に伴う重大な問題を抱える夫婦は、ビショップと話す必要があります。ビショップは主の判士として勧告を与え、場合によっては、癒しへと導く教会宗紀の手配をしてくれるでしょう。

ビショップは離婚するようには勧告しません。もちろん、夫婦が決断して離婚をしてしまった場合は、その結果と取り組む

のを助けてくれます。主の律法の下では、結婚生活は、貴く、命が宿っています。人の命と同じです。もし体が病気になれば治そうとします。あきらめません。生きる可能性が少しでもあるかぎり、何度でも癒しを求めるものです。結婚も同じであるべきです。そして主を探し求めれば、主はわたしたちを助け、癒してくださいます。

末日聖徒の夫婦は、結婚生活を守るために力の限りを尽くすべきです。『リアホナ』2007年4月号の「大管長会メッセージ」⁵に記された、結婚生活を豊かにするための勧めに従ってください。いわゆる「性格の不一致」を避けるためには、夫婦は最善の友でなければなりません。親切で、思いやりがあり、互いの必要としている事柄に敏感で、互いがいつも幸せであるように努めてください。この世のものへの願望を抑



えるために協力し、財政管理の面でパートナーとなってください。

もちろん、相手が自分の期待に添わないために傷ついたり苦しんだりする場合もあるでしょう。そのような事態が起きて嫌な思いをさせられた人は、過去に経験した良いことや将来の明るい展望を思い描いて、現在の失望を帳消しにしてください。

過去の過ちをいつまでも心に残しておき、何度も繰り返して思い出すことのないようにしてください。婚姻関係においては、わだかまりは破滅を招きます。赦しは神が定められたものです(教義と聖約64:9-10参照)。過ちを赦し、欠点を克服し、関係を強めるために、(先ほど、ファウスト管長が非常に分かりやすく教えてくださいましたように)主の御霊の導きを求めてください。

もし今、名ばかりの夫婦となってしまうのでしたら、二人で手を取り合い、一緒にひざまずき、贖いの助けと癒しの力を

祈り求めてください。二人の謙虚で一致した願いによって、主を、そしてお互いをもっと身近に感じるでしょう。そして主は、調和の取れた結婚生活を回復するための険しい山登りを助けてくださるでしょう。

結婚生活に伴う問題で教会員に助言している経験豊かで賢明なあるビショップの意見について考えてみましょう。離婚した人たちについて、彼はこう述べています。

「一般的に、どの夫婦や個人も、離婚は良いことではないと分かっていました。しかしながら、皆が『自分たちの場合は別です』と主張しました。

たいてい、彼らは配偶者の欠点にばかり焦点を当て、自分自身の言動には少しも責任を取ろうとしません。夫婦間の会話は途絶えています。

一般的に、彼らは過去を見詰めています。道端に置かれた、過去の言動が詰まったごみ箱から離れようとせず、前進しよ

うとしません。

重大な罪が関係している場合もありますが、それ以上によくあるのは、『愛が冷え切っている』場合です。彼らは、『彼はわたしの必要をもう満たしてくれない』とか、『彼女は変わってしまった』と言います。

だれもが子供たちへの影響を心配しますが、結論はいつもこうです。『わたしたちと一緒に暮らしてけんかをするのは、子供たちにとってもっと悪いことです。』

これとは対照的に、このビショップの助言に従ってともに暮らす夫婦は、自分たちの夫婦関係がいつそう強くなっていることが分かってきます。そのような前途は、戒めを守り、教会に出席し、聖文を読み、祈ることに、絶えず前向きに取り組み、自分の欠点を直そうとする互いの決意から切り開かれます。彼らは「配偶者と自分にとって贖いがいかに重要で力を持つかをよく理解しています。辛抱強く、努力を重ねます。」ビショップの報告によれば、彼が助言を与えた夫婦は、自分たちの結婚生活を守るために、これらのことを行い、悔い改め、努力していくうちに、「癒しが100パーセント達成されました。」

配偶者に全面的に非があると考える場合でも、性急な行動を取ってはなりません。ある研究によって、次のことが明らかになっています。「一般的に、成人にとって、離婚または別居した方が不幸な結婚生活にとどまるよりも幸福になれるという証拠はなかった。また、幸福な結婚生活を送っていないと感じながらも離婚を思いとどまった3人のうち2人は、5年後に幸せな結婚生活を送っていると報告した。」⁶ 子供が成長するまでつらい結婚生活を長年辛抱してきた女性はこう説明しています。「わたしたちの結婚生活には3人の当事者がいました。夫とわたし、そして主です。わたしは自分にこう言い聞かせました。『わたしたちのうち二人が踏みとどまれば、結婚生活を維持していけるだろう』と。」

これらの事例に見られる希望の力は、時には、悔い改めや改善という良い報いにつながりますが、そうならないときもあります。個人の置かれた環境は実に様々です。自分以外の人の選択をわたしたちは

コントロールできませんし、それに伴う責任を負うことはできません。それらがわたしたちにひどい衝撃を与えるときであったとしてもそうです。わたしは、ポルノグラフィ中毒や、その他の依存症的な行為、また子供時代に受けた虐待に端を発する、長期にわたる悪影響などの深刻な問題で悩んでいる配偶者を、愛をもって助けようとしている夫や妻たちを、主が愛し、祝福されていると確信しています。

結果がどうあろうと、また皆さんの経験がどんなに困難であろうと、皆さんが主を愛し、主の戒めを守り、最善を尽くしているならば、永遠の家族関係という祝福を失うことはないという約束が皆さんにはあります。若いヤコブが家族の行為で「ひどい苦難を味わい、つらい思いをした」とき、父リーハイはヤコブにこう言って確信させました。「あなたは神の偉大さを知っている。神はあなたの苦難を聖別して、あなたの益としてくださる。」(2ニーファイ2:1-2)同じように使徒パウロもわたしたちにこう保証しています。「神は、神を愛する者たち……と共に働いて、万事を益となるようにして下さる……。」(ローマ8:28)

IV

最後に、結婚について深く考えている人たちに短く話します。不信仰で、乱暴で、非協力的な配偶者との離婚を避ける最善の方法は、そのような人との結婚を避けることです。もしよい結婚を望むなら、結婚相手のことをよく知ってください。ただ「一緒に過ごすだけ」のデートや、インターネット上で情報を交換するだけでは、結婚への十分な基盤を築けません。デートに続いて、入念で、思慮深く、十分なコートシップの期間を設けるようにしてください。様々な環境の下で将来伴侶となる可能性のある人がどのような行動を取るかを観察する十分な機会を持つべきです。婚約している人たちは、間もなく結婚して親族となる互いの家族について、できるだけ多くのことを知ってください。このすべてに関連して理解しておくべきことは、よい結婚生活は、完全な男性と完全な女性を求めはしないということです。完全に向かっ



ペルーのリマで、大会に出席する夫婦。

て一緒に努力しようと決意する男性と女性を必要としているのです。

スペンサー・W・キンボール大管長はこう教えました。「結婚の聖壇に向かう二人は、自分たちが望んでいる幸福な結婚を実現するために必要とされる次のことをわきまえておかなければなりません。すなわち、結婚は……犠牲と分かち合いであり、さらには個人の自由がある程度狭めることさえも意味するということです。結婚は長期にわたって難しい儉約の生活に入ることを意味します。また、子供たちを通して経済的な重荷、奉仕の重荷、心配と不安の重荷が強えられることを意味します。しかし同時に、結婚は、すべての中で最も深く、最もすばらしい感情を経験させてくれるものでもあります。」⁷

個人的な経験から、結婚と家族生活のこの上ない喜びについて証します。「家族——世界への宣言」には、結婚は「互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な〔夫婦の〕責任」と「主イエス・キリストの教え」の上に成り立つと記されています。⁸ わたしは、わたしたちの救い主である主について証し、永遠の家族という至高の祝福のために努力しているすべての人たちのために主の御名によって祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. ブルース・C・ヘーフエン, *Covenant Hearts* (2005年), 37-39; アラン・カールソン, *Fractured Generations* (2005年), 1-13; プライス・クリステンセン, *Divided We Fall* (2006年), 44-45
2. デビッド・O・マッケイ, Conference Report, 1969年4月, 8-9または“Structure of the Home Threatened by Irresponsibility and Divorce,” *Improvement Era*, 1969年6月号, 5参照
3. リチャード・E・ルーカス, “Adaptation and the Set-Point Model of Subjective Well-Being: Does Happiness Change after Major Life Events?” *Current Directions in Psychological Science*, 2007年4月号, <http://www.psychologicalscience.org>で閲覧可能
4. ジーン・バスク・エリシュタイン, デビッド・ポピーノ, “Marriage in America” (1995年)参照, ブルース・C・ヘーフエン, “Marriage and the State’s Legal Posture toward the Family,” *Vital Speeches of the Day*, 1995年10月15日号付, 18. *Marriage and the Public Good: Ten Principles* (2006年), 24も参照
5. ジェームズ・E・ファウスト「結婚生活を豊かにする」『リアホナ』2007年4月号, 2-6
6. リンダ・J・ウェート, その他の共著, *Does Divorce Make People Happy? Findings from a Study of Unhappy Marriages* (Institute for American Values, 2002年), 6. *Marriage and the Law, A Statement of Principles* (Institute for American Values, 2006年), 21で引用された学術的研究も参照
7. 『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』194
8. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49

福音は真実ではないのですか。 それなら、ほかのものが 何だというのですか

七十人会長会

ニール・L・アンダーセン長老

救い主とその末日の業に対する確信は、強力なレンズとなり、わたしたちはこのレンズを通してほかのあらゆる事柄を正しく判断できるようになります。



わたしは今日、1973年4月の総大会でヒンクレー大管長が話したことをテーマとして採り上げたいと思います。

そのころ、わたしは伝道から帰ったばかりで、前途には多くの出来事が待ち受けているように思われました。これからの生涯を通じて常に正しい選択ができるかどうか不安でした。

当時のゴードン・B・ヒンクレー長老は、アジアからやって来た若い海軍将校と会ったときのことについて話しました。その青年はもともとキリスト教徒ではありませんでしたが、合衆国での訓練中に教会につい

て知り、バプテスマを受けました。青年はこれから祖国に帰ろうと準備をしているところでした。

ヒンクレー大管長は、彼にこう尋ねました。「故国の人々はキリスト教徒ではありませんね。キリスト教徒として、特にモルモン教徒として帰国されることで、何か支障はありませんか。」

青年は顔を曇らせ、こう答えました。「家族はがっかりするでしょう。……この先は仕事でもあらゆる機会から見放されると思います。」

ヒンクレー大管長はこう尋ねました。「福音のためにそれほど大きな代価を、喜んで払うおつもりですか。」

黒いひとみに涙を浮かべたこの青年は、こう聞き返しました。「福音は真実ではないのですか。」

ヒンクレー大管長は答えました。「そのとおり、真実です。」

すると次のような言葉が返ってきました。「それなら、ほかのものが何だというのですか。」¹

わたしはその青年の言葉について長年考えてきました。「福音は真実ではないのですか。それなら、ほかのものが何だというのですか。」わたしはこの二つの質問のおかげで、様々な難しい問題に正しい観点から対処することができました。

わたしたちが力を傾けているこの大義は真実です。わたしたちは友人や隣人の信奉していることを尊重します。わたしたちは皆、神の息子、娘です。周囲の人々からも、信仰や慈しみについて多くを学ぶことができます。そのことについては、今日ファウスト管長が非常によく教えてくれました。

しかし、わたしたちはイエスがキリストであられることを知っています。イエス・キリストは復活しておられます。わたしたちの時代に、預言者ジョセフ・スミスを通じて神の神権が回復されました。わたしたちには聖霊の賜物^{たまもの}が与えられています。モルモン書はわたしたちが主張するとおりの書物です。神殿の約束は確かなものです。末日聖徒イエス・キリスト教会に与えられている他に類のない特別な使命について主御自身が宣言されました。それは、この教会は、「世の光」であり、そして「[主]の前に道を備える使者」²であり、さらに「福音は地の果てまで転がり進む」³というものでした。

福音は真実ではないのですか。それなら、ほかのものが何だというのですか。

もちろん、わたしたちのどれもがそうですが、ほかにも大切なことはあります。ヒンクレー大管長の話聞いた21歳のときに、わたしは勉学について真剣に考える必要がありました。学業を続けるために働く必要もありました。また、ある特別な若い女性に、どうすればわたしと結婚するよう説得できるか考えなければなりません。そのほかにも価値ある事柄を楽しみながら行いました。

では、多くの大切なことの中からどのようにして道を見いだすべきでしょうか。物の見方を簡潔にし、純粹にする必要があります。邪悪で避けるべきものもあり、良いものもあり、大切なものもあり、絶対に不可欠なものもあります。救い主はこう語っておられます。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」⁴

信仰とは単なる感情にとどまりません。信仰とは決意です。祈り、研究、従順そして聖約によって、わたしたちは自らの信仰を築き、強固にします。救い主とその末日

の業に対する確信は、強力なレンズとなり、わたしたちはこのレンズを通してほかのあらゆる事柄を正しく判断できるようになります。人生の試練の中にあっても、オクス長老が今日説明したように、正しい道を歩む力が得られるのです。

ヒンクレー大管長はそのことを次のように言っています。「人が偉大で力強い真理の確信に基づいて行動するときには、自分から進んで鍛錬するものです。しかも、教会がそのように要求するからというのではなく、心の中に確信があるからするのです。」⁵

わたしたちは「偉大で力強い真理の確信」に十分に動機づけられているでしょうか。わたしたちの選択はその動機に基づいているでしょうか。わたしたちは自分になりたい者になりつつあるでしょうか。福音は真実ではないのですか。それなら、ほかのものが何だというのですか。

わたしたちは何が正しいか知っています。数年前に、妻のキャシーは娘夫婦が不在のときに孫たちと過ごしました。4歳になる孫が弟を強く押したので、妻は、泣いている弟をあやした後で、その4歳の兄に向かって優しく尋ねました。「どうして弟を押すの。」孫はわたしの妻を見て、こう答えました。「おばあちゃん、ごめんなさい。CTR(正義を選べ)の指輪をなくしちゃったから、正しいことが選べなくなったの。」わたしたちは気をつける必要があります。言い訳は進歩を妨げるのです。

「偉大で力強い真理の確信」は、世界中の様々な国に生きる末日聖徒の心の中に見いだすことができます。この固い信仰によって王国の業は前進するのです。

何年も前のこと、妻とわたしはフランスで、勇気ある一人の姉妹に会いました。彼女の夫は30代の若さで幕のかなたへ行ってしまう。彼女は独りで4人の幼い子供を義にかなって教え導くという責任に押しつぶされそうになっていました。けれども16年後、彼女の3人の息子は伝道から帰り、娘は神殿で結び固められていました。

わたしはブラジルに住む一人の兄弟を知っています。この兄弟は16歳のときに教会に加わりました。家族の中で会員は彼一人でした。伝道に出る時期が来ましたが、



両親から反対されました。伝道中、家族からの便りは1通もなく、伝道から帰ると、ビショップの家で生活するようになりました。しかし、事情は後で好転しました。この兄弟は、現在すばらしい家族に恵まれ、歯科医として働いています。両親はこの兄弟の成功を見てほかの息子たちも教会に興味を持ってくれればよいのにと願っています。

わたしはラテンアメリカのある国に住む一人の兄弟を知っています。この兄弟はバプテスマを受けた後に、^{じゅうぶん} 十分の一を正直に納めようと決心しただけでなく、競争相手が納めていない税金も完全に納めようと決心しました。主はこの兄弟をその正直さのゆえに祝福されました。

多くの犠牲がひそかに払われています。例えば、永遠の伴侶を探す責任を引き延ばさない帰還宣教師、子供を望み、自分の生活をささげて愛と真理のうちに子供を育てる義にかなった女性、霊を汚すメディアやインターネットの影響を注意深く制限する家族、もっと頻繁に一緒に神殿に参入できるように努力する夫婦がそうです。

子供もこの信仰のレンズを持つことができます。最近、わたしは韓国のソウルに住む青少年に会う機会がありました。彼らは学校のスケジュールがぎっしり詰まっています。毎晩遅くまで家に帰ることができませんが、それでも毎週5日間は朝の6時から始まる早朝セミナーに出席しています。

わたしは8歳の野球少年を知っています。彼はチームの主力選手ですが、決勝戦には参加できないことを自分からコーチに告げました。決勝戦の開催日が日曜日だったからです。

深い信仰に根ざしたひそかな行いの多くは、神だけが御存じです。しかし、そのような行いは天に記録されています。福音は真実ではないのですか。それなら、ほかのものが何だというのですか。

救い主はこうおっしゃいました。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」⁶

わたしは福音が真実であること、また福音こそが真に重要なものであることを^{あかし} 証します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. 「福音は真実です、違いますか」『聖徒の道』1993年10月号, 3-4。「教会の真の強さ」『聖徒の道』1974年2月号, 91も参照
2. 教義と聖約45:9
3. 教義と聖約65:2
4. ヨハネ17:3
5. 『聖徒の道』1993年10月号, 4-5参照
6. マタイ6:33

モルモン書の教え

中央初等協会会長会第二顧問
ビッキー・F・松森

次の世代を教え、強める伝統を始めるのは、第1世代の会員である皆さんののです。



わたしはモルモン書が大好きです。モルモン書にはあらゆる年齢層の子供にとってすばらしい物語が収められています。しかし、もっと大切なのは、モルモン書には不変の教えがあるということです。そのような教えは、初等協会の歌にも繰り返し歌われています。

例えば、ヒラマンの兵士についての歌の中にも大切な教えがあります。英語ではこのような歌詞です。「わたしたちはヒラマンの兵士のようです。わたしたちは幼いころから教えを受けてきました。」¹ また、「ニーファイのように、わたしたちは善い両親から生まれました」² ともあります。自分もそうだと感じる人も多いことでしょう。

今日は、善い両親のもとに生まれながらも、家庭で福音を教えられる機会がなかったかもしれない第1世代の会員の皆さんに向けて話します。第1世代の皆さんは、「母親から、……神が救ってくださると

教わっていた」ヒラマンの兵士ではなく（アルマ56：47）、その兵士の両親、すなわち信仰心を持たずに大人になったアンモンの民に似ているかもしれません。

アンモンの民についての話を振り返ってみましょう。彼らはアンモンやアロンといった人たちから福音を教わったレーマン人でした（アルマ23：1-4参照）。これらのレーマン人は福音を受け入れた後、アンタイニーファイ・リーハイ人と呼ばれ、後にアンモンの民と呼ばれました（アルマ23：16-17；27：23-26参照）。このアンモンの民の息子たちがヒラマンの兵士となり、まだ改心していなかったレーマン人と戦ったのです（アルマ56：3-6参照）。

ですから、ヒラマンの兵士たちの強さは、実は両親であるアンモンの民に由来しているのです。最初に聖文から福音を学んだのは親である彼らでした。祈りの力について学んだのも親である彼らでした。最初に主と聖約を交わし、守ったのも親である彼らでした。彼らがそうであったと同じように、皆さんからも福音に忠実な民が生まれるのです。次の世代を教え、強める伝統を始めるのは、第1世代の会員である皆さんののです。

聖文

偉大な宣教師だったアロンは、レーマン人の王とアンモンの民に信仰や悔い改め、イエス・キリスト、幸福の計画について教える際に、聖文を用いました（アルマ22：12-14；23：4-5参照）。今日においても、聖文を読んで研究することにより、絶えず信仰をはぐくみ、誘惑を退け、天の御父と

その御子イエス・キリストに近づくことができるようになります。

けれども、聖文を読むことはだれにとっても大変なことかもしれません。ボイド・K・パッカー会長は、10代のときに初めてモルモン書を読もうとした経験についてこのように述べています。「聖典を開いて、『わたしニーファイは善い両親から生まれたので』と読み始めました（1ニーファイ1：1）。……読み進めるのがおもしろく、イザヤ書の章……のところまでは続けることができました。数か月後に、再度モルモン書を読もうと決心し、また『わたしニーファイは善い両親から生まれたので』と同じ箇所から始めました。ところが、何回読んでも、イザヤ書の章がつかずきになるのです。……でもついに、その部分も読もうと決心しました。」³

もちろん、パッカー会長はモルモン書を読み通しました。根気よく努力することが鍵です。聖文を読む度に、なじみのない言葉が意味を帯びてきます。英雄について、また勇敢な行為について読んだり、主の深い憐れみについて学んだりすることもできます。何よりも、神の愛を感じ、イエス・キリストがわたしたちの救い主であることを知ることができます。

祈り

祈りは信仰をはぐくむもう一つの手段です。レーマン人の王は福音の喜びを受けるにはどうすればよいかを知りたいと思ったとき、主に祈りました（アルマ22：16-17参照）。わたしたちも、求めるならば与えられると約束されています。

スタンレーは香港に住む19歳の求道者でした。彼は福音に感激し、バプテスマを受けたいと思っていましたが、友人たちから教会を批判されてしまいました。スタンレーは宣教師と会いました。宣教師たちは、神はスタンレーをととも気にかけているので、スタンレーの祈りにこたえてくださると証しました。そして一緒にひざまずき、教えが正しいかどうかを天の御父に尋ねてみようと言ったのです。まず一人の宣教師が、次にもう一人が短く祈りました。そしてスタンレーが祈りました。スタンレーの謙遜な祈りが終わると、宣教師たちは

尋ねました。「スタンレー、どのように感じていますか。」スタンレーはゆっくりと顔を上げてささやくように答えました。「バプテスマ、バプテスマ。」⁴

聖約

最後に、聖約を交わし、守ることも信仰をはぐみます。アンモンの民は「同胞の血を流すよりは自分の命を捨て[る]」ことを聖約しました(アルマ24:18)。

わたしたちはバプテスマを受け、キリストの御名を受けるときに聖約を交わします。聖餐を受けるときにそれらの聖約を思い起こします。そして、その聖約を守るときに聖霊がいつもともにいてくださいます。わたしたちに「すべてのことを」教えてくださるのは、慰め主である聖霊なのです(ヨハネ14:26)。

メキシコシティに住むある姉妹は、16歳のときに宣教師の訪問を受けました。彼女は御霊によって教えを受け、「まるで宣教師がわたしの目から覆いを取り、主が理解力を増してくださっているように感じました。……神の御言葉と祈りは[わたしを]強め、次の試練、すなわち父に話すことに耐えられるようにしてくれました。バプテスマを受けたことで家族から拒絶されたとき、主の御霊はこのようにささやいて力づけてくれました。『前進しなさい。進みなさい。親戚が何人か教会員になるでしょう。』」⁵

聖文、祈り、そして聖約を交わして守ることから、アンモンの民だけでなく、世界中の第1世代の会員が助けを受けています。わたしもその一人です。わたしは善い両親のもとに生まれましたが、家庭で福音を教わりませんでした。けれども、両親は道徳的な価値観や倫理にかなう行動について教えてくれました。わたしが教会で初めて話をしたとき、会員でない父が原稿を書くのを手伝ってくれたことを覚えています。割り当てられたテーマは「正直」でした。わたしたちは信仰箇条の第13条を引用する代わりに、「正直エーブ」というニックネームの男性の例を用いました(訳注——正直エーブとは、エーブラハム・リンカーン大統領の愛称)。

わたしに福音について教えてくれたの



は初等協会の教師、若い女性の指導者、そして神権指導者でした。7歳のとき、日曜学校の年少クラスの教師が祈りについて教えてくれ、わたしは祈りたくなりました。その教師は自分の一についても教えてくれ、わたしは自分の一を納めたくりました。断食についても教えてくれましたが、わたしはまだほんの7歳だったので、断食はしたくありませんでした。でも、バプテスマについて教えてくれたとき、わたしはバプテスマを受けたくりました。わたしの決意を支持してくれ、その後、同じように教会の会員になった、わたしの善い両親に感謝しています。

わたしたちから始める

アンモンの民は福音に従って生活し、「彼らは……最後まで確固としてキリストを信じ[まし]た。」(アルマ27:27)アンモンの民から始まったように、わたしたちから始めましょう。証を得た第1世代の会員としてわたしたちは、今度は今日の子供たちを教える責任を負っています。家庭やクラスで子供たちを教えなければなりません。聖文を使って神の御言葉を子供たちに教えなければなりません。祈りの力を子供たちに教えなければなりません。聖約を交わして守ることから祝福が得られることを子供たちに

教えなければなりません。もしこれらのことを子供たちに教えるなら、彼らはこのように言うことができるでしょう。

わたしたちはヒラマンの兵士のようです。わたしたちは幼いころから教えを受けてきました。ですから、わたしたちは将来、主の宣教師になって、主の真理を携えて世界に出て行きます。⁶

イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

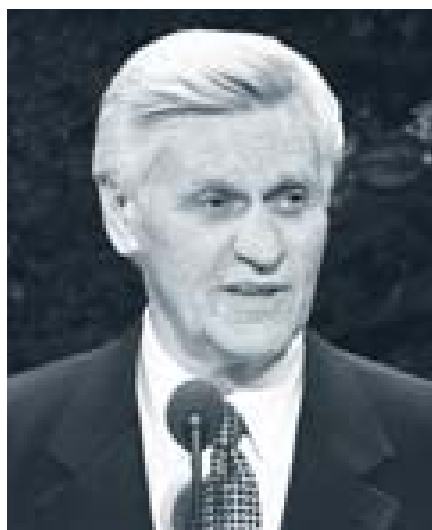
1. 「ニーファイのように」『子供の歌集』92 (訳注——日本語の歌詞は「ヒラマンの勇士のように、子供のときから」)
2. 『子供の歌集』92 (訳注——日本語の歌詞は「ニーファイのようによい父母より」)
3. 「教え、学ぶことの原則」『世界指導者訓練集会』2007年2月10日。『リアホナ』2007年6月号、53に掲載予定
4. 個人的な書簡
5. 個人的な書簡
6. 『子供の歌集』92参照(訳注——日本語の歌詞は「ヒラマンの勇士のように、子供のときから、教え受け、御言葉宣べ伝える」)

あなたは知っていますか

七十人

グレン・L・ベイス長老

「わたしの言葉を試し」てみてください。ジョセフ・スミスのお話を読み、祈ってください。



あるとき、16歳のすてきな若い女性と、とても有意義な会話を交わしました。通っている高校で教会員は彼女一人だと知ったわたしは、「ほかにだれも教会員がなくて、いちばん大変なことは何ですか」と尋ねました。

彼女はじっと考えると、とても賢明な答えを口にしました。「みんなが偽りだというものを真実だと信じ、みんなが大丈夫というものを誤りだと信じることです。」

わたしはもう一つ質問をしました。「あなたは、ジョセフ・スミスが神の預言者だと知っていますか。」彼女はこう答えました。「そうと思いますが、確信はありません。」

今朝は教会の青少年の皆さんに尋ねたいと思います。「あなたは知っていますか。」

わたしが自分に証があると初めて知ったのはまだ11歳のときでした。両親に連れられてソルトレーク・シティーのテンプルスクウェアを訪れたときのことです。

当時、わたしの趣味は無料のものを集めることでした。無料で物をもらうことに関して、わたしには絶対成功する秘策がありました。まず、「ただですか」と聞き、そうだとされるとそれに手を伸ばしてから子供の無邪気さで、「ありがとうございます。あれもただですか？ うれしいなあ!」と言うのです。時々、「ごめんね、5セントなの」などと言われますが、わたしも負けていません。がっかりと肩を落とし、「そうですか。あれはずっと読みたかったパンフレットなんです。でもお金もないし。やっぱりだめですか」と言えば必ず作戦は成功です。実は、集めるばかりで読んだことは一度もありませんでした。

テンプルスクウェアに着いたわたしは、1948年製のシボレー車の中で独りで両親を待っていました。どうしてもなく退屈で、仕方なく、座席に積まれていたわたしの無料品コレクションを眺め、『ジョセフ・スミスの物語』(Joseph Smith Tells His Own Story[英文])と書いてあるパンフレットを手にとると、最初のページを開きました。

するとわたしはその内容に引き込まれ、喜びで胸がいっぱいになりました。最後まで読み終え、バックミラーに映った自分の顔を見ると、驚いたことに泣いていました。そのときは理解できませんでしたが、今は分かります。わたしは聖霊による証を感じていたのです。車の中に両親はいませんでした。きょうだいも初等協会の先生もいませんでした。いたのはわたしと聖霊の御霊だけだったのです。

さて、皆さんにも同じことが起こり得ます。きっと皆さんも、すでに似たような経験

をしていることでしょう。

教会員の家に生まれた皆さんが証を得たいと思うと、今までに感じたどんな気持ちとも違う、驚くほど霊的な感情を期待してしまうかもしれません。バプテスマを受けた人の改宗談を聞き、自分には何か足りないのではと思う人もいるかもしれません。改宗者が驚異的と感じるような経験をする理由の一つは、それが彼らにとって初めてのことだからです。

皆さんは生まれたときからずっとその気持ちを感じてきました。家庭の夕べや青少年の証会、そしてセミナーのクラスで、また聖文を読んでいるときなど、事あるごとにその気持ちを感じてきたのです。

宣教師は、御霊を感じた求道者にそれが御霊だということを伝える訓練を受けています。わたしも、求道者との熱のこもった霊的なレッスンを中断し、このように言ったことが何度もあります。「ちょっと話を止めて、今あなたが感じている気持ちについて話し合しましょう。以前にあった出来事を思い出したような気持ちがしていませんか。わたしたちの話すことが真実だと感じていませんか。平安を感じていませんか。そうであれば、あなたは御霊を感じているのです。」

ある頭脳明晰な女性を教えていたときのことで。彼女はすべての疑問に論理的な答えが得られるまでは何も受け入れられませんでしたが、しかし、ついにはこう言ったのです。「これ以上この気持ちを否定できません。」

彼女は教会員になり、最初の数年はとても充実した生活を送っていました。しかし、再び徐々に知的面での疑問を持つようになり、ついには教会を離れてしまいました。

それから15年後、その彼女が我が家を訪ねてくれました。わたしたちは彼女をテンプルスクウェアに連れて行きました。救い主の像へと続く曲線状のスロープを上り始めると、彼女は足を止め、涙ながらに言いました。「またあの気持ちだわ。頭では決して受け入れていないのに、今でも心はこの気持ちを熱望している。」

一度感じたら、忘れることはできないのです。

たくさんの霊的な経験をしながら育つ人は、若いうちに霊的な確証を得ます。両親や教師、指導者であるわたしたちは、若人の皆さんに戒めや規則を理解させることに重点を置きがちですが、原則と教義への証を皆さんが得られるようもう少し助ける必要もありそうです。恐らくわたしたちは、ちょっとした時間をもっと頻繁に取り、若人の皆さんが御霊を認識する手助けをすべきでしょう。

御霊を感じるとどのような気持ちになるかが分かれば、御霊を感じることに對する信仰が増します。そしてすぐに、自分の霊的な直感が発達したことに気づくでしょう。霊的な直感は、わたしたちを正しく導いてくれます。

わたしは11歳のときにジョセフ・スミスが神の預言者だと知りました。声を聞いたり天使を見たりしたわけではありませんが、わたしが感じたのはもっと確かなものでした。霊的な感覚が揺り動かされたのです。あらゆる偽りから守られていた最も深い所から、大きな喜びがわき上がりました。この霊的な感覚が目覚めるのは、聖霊が働きかけられるときだけです。

霊的な確証とはどのような気持ちなのでしょう。それは、バラの香りや鳥の歌声、景色の美しさを説明するのと同じくらい難しいことです。しかし、その気持ちを感じればそれが御霊だと分かります。

聖文はこの気持ちを理解する助けを与えてくれます。

「まことに、まことに、あなたに言う。わたしはあなたにわたしの御霊を授けよう。わたしの御霊はあなたの思いを照らし、あなたの霊に喜びを満たすであろう。そのとき、あなたは知るであろう。……」(教義と聖約11:13-14)

御霊を感じると、何かの記憶がよみがえったような気持ちになることがあります。わたしたちは最初、天の家で福音を学びました。そしてこの地上に来るときに忘却の幕を通りましたが、わたしたちの霊にはその記憶が眠ったまま残っています。聖霊はこの幕を開き、これらの記憶を眠りから呼び覚ますことができになります。これまで知らなかった真理を見いだすと、よく



「ああ、思い出した!」と感じるのは恐らくこのためでしょう。

「……助け主、すなわち……聖霊は、あなたがたに……ことごとく思い起おこさせるであろう。」(ヨハネ14:26)

若い兄弟姉妹の皆さん、「わたしの言葉を試し」てみてください(アルマ32:27)。ジョセフ・スミスの話を読み、祈ってくださいか。

ジョセフ・スミスの経験が真実であると知るのはすばらしいことです。父なる神とイエス・キリストが生きておられ、今日この

教会の頭かしらとして立っておられることも同時に分かるからです。わたしは11歳のときにこの知識を得ました。そして今、聖任された特別なイエス・キリストの証人として皆さんの前に立ち、これが真実であると証します。また、主は皆さんにもこれが真実であることを知るように願っておられると証します。主は「これが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてください」のです(モロナイ10:4)。イエス・キリストの御名みなにより、アーメン。

聖書という奇跡

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード長老

わたしたちは主イエス・キリストと、^{みことば}聖書を通して啓示された御言葉を、真心から信じる者で……す。



わたしの兄弟姉妹である皆さん、聖書は奇跡です！ 聖書の中にある4,000年の霊的な歴史と世俗的な歴史が、預言者や使徒、靈感を受けた信者によって記録され、保存されてきたことは奇跡です。

聖書の力強い教義や原則、詩や物語をわたしたちが手にしているのは奇跡です。しかし、何よりもすばらしい奇跡は、わたしたちが今日イエス・キリストの御言葉と、その生涯と務めに関する記述を手にしていることであり、また、そのために、暗黒の時代や何世代にもわたる争いの時代をくり抜けてそれらが守られてきたことです。

聖書のページに文字どおり、改心と癒しをもたらずキリストの御霊があることは奇跡です。その御霊は、何世紀にもわたって人々の心を変え、祈るように、正しい道を選択するように、救い主を見いだすように導いてきたのです。

聖書はその名のとおり、神聖な書物です。聖書が神聖なのは、真理を教えるからであり、その御霊でわたしたちを温めてくれるからです。聖書が神聖なのは、神が人にどのように接してこられたかを人が理解して神を知ることができるように教えているからであり、主イエス・キリストについて随所で証しているからです。

エーブラハム・リンカーンは聖書についてこう述べています。「この偉大な書物は……神が人間にお与えになった最高の贈り物です。救い主がこの世の人々に与えられたすべての良いことがその書物に書かれています。聖書がなかったなら、わたしたちは善悪の区別が分からなかったでしょう。」(*Speeches and Writings, 1859-1865* [1989年], 628)

今日わたしたちが聖書を持っているのは偶然によるものではありません。義にかなった生活をした人々が御霊に促されて、目にした神聖な事柄と、耳にしたり語ったりした靈感に満ちた言葉を記録したのです。また、ほかにも献身的な人々がいて、これらの記録を守り、保存するように促されました。ジョン・ウィクリフや勇敢なウィリアム・ティンダル、ヨハネス・ゲーテンベルクのような人々が多くの障害にも負けずに、大衆が理解できる言葉に翻訳し、大衆が読めるように本にして出版したのです。ジェームズ王の学者たちでさえ、靈感を受けて翻訳の業を行ったのだと、わたしは信じています。

中世の暗黒時代が暗い時代だったのは、福音の光が人から隠されていたためです。使徒や預言者がいなかっただけで

なく、一般の人は聖書を手にすることすらできませんでした。聖職者たちは聖典を秘密のものとし、人々に触れさせませんでした。礼拝の自由と民衆への聖典の開放を要求したマルチン・ルター、ジョン・カルビン、ジョン・フスのような、多くの勇敢な殉教者や改革者にわたしたちは多くの恩を受けています。

聖書の力を非常に深く信じたウィリアム・ティンダルは殉教しました。彼はこう言いました。「神の御言葉を読む人や、御言葉について論理的な説明や討論を聞く人はだれでも、すぐに毎日成長し始め、ついには完全な人になります。それが神の御言葉の特徴です。」(*S・マイケル・ウィルコックス, Fire in the Bones: William Tyndale—Martyr, Father of the English Bible* [2004年], xv)

聖書を誠実に勤勉に研究すると、確かにわたしたちは次第に成長します。ですから、聖書の力を知っていた無数の殉教者を決して忘れてはなりません。わたしたちが聖書の言葉を読み、天の御父の王国における永遠の幸福と平安へ通じる道を見いだせるように、彼らは命をささげてくれたのです。

当時のキリスト教改革者は、多くの点で共通の認識を持っていましたが、教義に関しては相いれない点が多数残りました。その結果、多くのキリスト教の教派が生まれました。宗教の自由を早くから提唱していたロジャー・ウィリアムズはこう結論付けています。「この地上には正式に設立された教会はないし、教会の儀式を執行する権能を持つ者もない。それらが実現するのは、教会の偉大な管理者である御方から新しい使徒たちが遣わされるときであろう。わたしはその訪れを待ち望んでいる。」(*ウィリアム・カレン・ブライアント編, Picturesque America; or, the Land We Live In, 全2巻* [1872-1874年], 第1巻, 502)

何千万もの人が聖書を通して真理を探し求め、神とイエス・キリストへの信仰を見いだしました。そのような無数の人たちは、信仰をはぐくみ、信仰のよりどころとするために、聖書しか持っていませんでした。

宗教改革者たちの努力により、聖書が家庭に置かれるようになりました。「神の御言葉は貧しい家の暖炉のそばでも、金持ちの家の客間でも、読まれるようになりました。」(ジョン・A・ウイツォー, Conference Report, 1939年4月, 20)

何百万もの家族が聖書を学んで、イエス・キリストの教会を見つけようとしてきました。そうした家族の一つが、1800年代の初めにニューヨーク州北部に住んでいたジョセフ・スミス・シニアの家族でした。息子の一人、ジョセフ・スミス・ジュニアは、聖書を勉強して、多くの教派の中でどれがイエス・キリストが組織されたのと同じ教会なのかを知ろうとしていました。少年は聖書の言葉から、神が与えてくださる、より豊かで霊的な光と知識を祈り求めるよう促されます。聖書に約束された知恵を求めようと決心したジョセフは、1820年の早春、ひざまずいて謙遜に祈りました。父なる神と主イエス・キリストの栄光に満ちた現れを見たその日、何というすばらしい光と真理が彼に注がれたことでしょう！ 神はノアやアブラハム、モーセの時代と同じように、再び預言者を召されたのです。

わたしたちは聖書にどれほど感謝するべきでしょう。聖書を読むと、キリストの生涯と教えと教義だけでなく、主の教会と神権について、また当時、主が御自分で設立し、イエス・キリストの教会と名付けられた組織について学ぶことができます。わたしたちはその教会を信じており、末日聖徒イエス・キリスト教会はそれと同じ教会であり、地上に回復され、当時と同じ組織と神権を持った、欠けるところのない教会であると信じています。

聖書がなければ、わたしたちは当時の主の教会を知ることも、今日、完全な主の福音を知ることもなかったでしょう。

わたしは聖書を愛しています。その教えと教訓、聖書に宿る御霊を愛しています。旧約聖書に記されている、心を動かす深遠な物語や、キリストの来臨を証した偉大な預言者たちを愛しています。新約聖書の使徒の旅や奇跡、パウロの手紙を愛しています。わたしたちの救い主イエス・キリストの御言葉と模範と贖いを実際



に見聞きした人々が記した話をとりわけ愛しています。また、聖書を読むことから得られる物の見方と平安を愛しています。

兄弟姉妹の皆さん、皆さんの多くは人々が次のように言うのを聞いたことがあるでしょう。「モルモンはキリスト教徒ではない。なぜなら、モルモン書という自分たちの聖書を持っているからだ。」こうした誤解をしている人に、わたしたちは主イエス・キリストがわたしたちの救い主、救いの源であられると信じていて、聖書を信じ、尊び、愛していると申し上げます。確かに、わたしたちはさらにモルモン書を含むその他の聖文を持っていますが、それは聖書に取って代わるものではなく、聖書を支えるものです。

イエスは教えられました。「聖文を調べなさい、それは「わたしについてあかしを

するものである」と(欽定訳ヨハネ5:39から和訳)。これらの言葉は、イエス・キリストについての真理を熱心に探求するすべての人に、洞察と靈感を与えてくれます。聖文は、歴史や教義、物語、説教、証の宝庫であり、それらすべてが最終的に焦点を当てているのは、永遠なるキリストについて、またキリストが天の御父の子供たちに対して肉体的、霊的に携えておられる使命についてなのです。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、「聖文は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、……有益である」と信じています(欽定訳2テモテ3:16から和訳)。聖書とその他の聖典を愛しています。それは、聖書が神の明らかにされた御言葉であるというわたしたちの信仰を知らない人にとっては驚くべきことかもしれま



せん。聖書はわたしたちの信仰の一つの柱であり、救い主についての力強い証です。聖書は、主を礼拝し、主に従う人々の生活に絶えず影響を及ぼすキリストの力について証するものです。聖書を読んでその教えを研究すればするほど、イエス・キリストの回復された福音の教義の基礎がいつそうはっきりと分かるようになります。人は時間を費やして学んだ聖文を好きになるものです。すべての聖文を愛し、理解するために、バランスよく勉強をする必要があるでしょう。

特に、若い人たちは、聖書を過小評価してはいけません。聖書は主の生涯を記した神聖な記録です。聖書には、当教会のほかの聖典をすべて合わせたよりも数百ページも多くのページがあります。聖書はすべてのキリスト教徒の信仰の土台です。わたしたちは、人の信仰を批判したり、見下したりしません。キリスト教徒としてのわたしたちの大きな責任は、神が啓示されたすべてを、すべての神の息子娘たちと分かち合うことです。

この教会に入る人は聖書に対する信仰を捨てることはありません。むしろ、聖書への信仰は強まります。モルモン書は聖書の価値を下げたり、おとしめたり、軽んじたりすることはありません。逆に、広げ、拡大し、高めます。聖書とモルモン書に

は矛盾する点はありません。モルモン書は聖書を証し、両者とも、キリストを証しています。

キリストについての第1の証は旧約聖書です。旧約聖書は、救い主の来臨、偉大な生涯、人々を解放する贖罪について預言しました。

キリストについての第2の証は新約聖書です。新約聖書には、主の降誕と生涯、主の務め、主の福音と教会、主の贖いと復活、そして主の弟子たちの証が記録されています。

キリストについての第3の証はモルモン書です。モルモン書は、キリストの来臨を預言し、救いをもたらす贖いに関する聖書の記述を確認し、復活された主が地球の西半球を訪れられたことを明らかにしています。モルモン書の表紙には、この聖典が書かれた目的を明らかにする「キリストについてのもう一つの証」という副題が印刷されています。

この3冊の聖典はいずれも、主が御自身の子供たちのために啓示された偉大な御言葉であり、互いに切り離すことができません。そこにはキリストの御言葉が記されています。キリストの御言葉は、わたしたちが永遠の命を得るふさわしさを身に付けるために、よく味わうように勧告されているものです(2ニーファイ31:20参

照)。一つの聖典が他の聖典よりも重要度や真実性で勝っていると考える人は、古代の正典(公式に受け入れられた聖典)の美と完全さを見失っています。

また、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員はイエス・キリストや聖書を信じてなどいないと考える人は、時間をかけてこの教会と、その名前の意義と、この教会が発するメッセージの力を理解する必要があるでしょう。

この教会が聖書を信じていることや、わたしたちがクリスチャンであることに疑問を抱く人がいることを、不思議に思います。この教会の名前はイエス・キリスト教会です。この建物で行われた前回の総大会で、この教会の指導者たちは聖書からほぼ200回も引用しました。この教会にはキリストが新約聖書の時代に御自身の弟子たちとお立てになった教会と同様の組織と機能があります。今日この壇上に座っているのは、主イエス・キリストの預言者と使徒たちです。

わたしたちは主イエス・キリストと、聖書を通して啓示された御言葉を、真心から信じる者であると厳粛に証します。わたしたちは聖書を信じているだけでなく、その教えに従い、聖書に書かれているメッセージを教えるよう励んでいます。わたしたちの宣教師が伝えるメッセージは、キリストと、主の福音と主の贖いです。そのメッセージの原典は聖典です。わたしたちはすべての方に申し上げます。「わたしたちは皆さんを愛しています。教会へ来てください。皆さんに、神が啓示されたすべてをお伝えしましょう。」

わたしの兄弟姉妹である皆さん、わたしたちは、この教会の会員も含めてすべての人が、聖書の力と大切さを理解できるように助けなければなりません。聖書は聖文であり、イエス・キリストを救い主として受け入れるよう、わたしたちとすべての人を導いています。わたしたちが、神の教えを受け入れ、神の教えに従って生きる望みと力を、神から与えていただけますよう、主イエス・キリストの御名により、へりくだり祈ります。アーメン。

わたしの知っていること

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

わたしはこの業の基本的な真理について証^{あかし}を述べたいと思います。



愛する兄弟姉妹の皆さん。今朝、皆さんに話す機会をうれしく思っています。わたしのために祈ってくれる皆さん一人一人に感謝しています。皆さんに心の底から感謝しています。中央幹部として務めた49年の間に、総大会で優に200を超える話をしてきました。生まれてからもうすぐ97年がたとうとしています。風の吹きすさぶ中、枝に残る最後の一片のような気がしています。

いろいろと憶測が流れているようですが、実際のわたしはすこぶる健康です。熟練した医師と看護師のおかげで健康を維持しています。皆さんの中にはわたしより先に逝く人もいられるかもしれません。しかしながら、自分の年齢のことを念頭に置いて、わたしはこの業の基本的な真理について証を述べたいと思います。

正直に言いますが、わたしは何もかも知っているわけではありません。しかし確

信している事柄もあります。わたしが知っていることについて、今朝、皆さんに話したいと思います。

コンスタンティヌス帝はキリスト教に改宗したとき、神の属性について聖職者の間で様々な議論があることを知りました。この議論に終止符を打つために、紀元325年、ニカイア(ニケーア)に地位の高い聖職者が集められました。参加者には自由に見解を述べる機会が与えられました。しかし、議論はますます熱を帯びるだけで、一致した定義に到達することはできませんでした。そのため一つの妥協案が出されることになったのです。これがやがてニカイア(ニケーア)信条として知られるようになったもので、その基本的な概念は、現在の大半のキリスト教徒の信仰に受け継がれています。

個人的には、この信条が理解できません。読むと混乱してしまいます。

この教会に属するわたしたちは、神の属性に関して、人の作ったいかなる主張もよりどころしていません。わたしはそのことに心から感謝しています。わたしたちの知っていることは、ジョセフ・スミス個人の経験から直接もたらされたものです。ジョセフはまだ少年のとき、永遠の父なる神とその愛子^{あいし}、復活された主と語りました。御二方^{みまへ}の御前にひざまずき、御二方^{みまへ}の御声を聞き、それに答えました。御二方^{みまへ}は別々の御方でした。ジョセフが母親に、母親の信奉する教会は真実ではないことが分かった、と告げたのも、驚くことではありませんでした。このように、この教会の偉大で何よりも重要な教義の一つは、わたしたちが永遠の父なる神を信じてい

るということです。神は実在し、独立して存在される御方です。また、宇宙の偉大な統治者であると同時に、わたしたちの御父であられ、わたしたちはその子供です。

わたしたちは神に祈ります。祈りは神と人との会話です。わたしは、神がわたしたちの祈りを聞き、こたえてくださることを確信しています。その事実を否定することができません。わたしは祈りがこたえられたという経験を非常に多くしてきました。

アルマは息子のヒラマンにこう教えています。「あなたのすべての行いについて主と相談しなさい。そうすれば、主はあなたのためになる指示を与えてくださる。まことに、夜寝るときは、眠っている間も主が見守ってくださるように、主に身を託して寝なさい。そして、朝起きるときに、神への感謝で心を満たしなさい。これらのことを行うならば、終わりの日に高く上げられるであろう。」(アルマ 37:37)

わたしが確信する第2の偉大な教えもまた、その根拠を預言者ジョセフの示現に置いています。つまり、イエスが生きておられるということです。イエスは生けるキリストであり、旧約聖書のエホバであり、新約聖書のメシヤです。また、御父の指示の下に、この地球の創造主となられました。ヨハネによる福音書は次のような意味深い言葉で始まります。「初めに言^{ことば}があった。言は神と共にあった。言は神であった。

この言は初めに神と共にあった。

すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。」(ヨハネ 1:1-3)

特に最後の「すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった」という節に注目してください。

イエスこそ偉大な創造主でした。シナイ山で戒めをお書きになったのは、イエスの指でした。天の住まいを去って地上に生まれ、最もつましい環境でお生まれになったのは、このイエスでした。務めを果たされた短い期間、このイエスは人の病を癒し、見えない者を見えるようにし、死者をよみがえらせ、律法学者やパリサイ人を叱責されました。イエスは、かつて地上に生を受け



た者のうち、唯一完全な御方でした。こうしたことはすべて御父の計画の一部でした。ゲツセマネの園でイエスは大きに苦しまれ、御父に祈り求めつつ血の汗を流されました。しかしこれも偉大な贖いの犠牲のほんの一部でしかありませんでした。イエスは群衆によって引き出され、ピラトの前に連れて行かれました。群衆はイエスの死刑を求めて叫びます。イエスは、御自分の死刑の道具である十字架を運ばれました。そしてゴルゴタの丘で、「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」と叫びながら、その命をささげられたのです(ルカ 23:34)。

その遺骸はアリマタヤのヨセフの墓に静かに横たえられました。しかし3日の後、最初のイースターの朝、その墓は空になったのです。マグダラのマリヤがイエスに話しかけ、イエスはそれにお答えになりました。また、使徒たちに御姿を現し、エマオへ向かう二人の弟子とともに歩かれました。さらに、500人ほどの人々も復活された主を見た記録されています(1コリント15:6参照)。

イエスはかつてこう言われました。「わたしにはまた、この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも、わたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、ひとりの羊飼となるであろう。」(ヨハネ 10:16)この

御言葉どおり、イエスは西半球のバウンティフルの地に集まった人々に御姿を現されました。ここで、旧世界で民を教えられたのと同じように、民を教えられたのです。このことはすべてモルモン書に詳細に記録されています。モルモン書は主の神性について述べた第2の証です。

繰り返します。御子と御父が少年ジョセフに御姿を現され、御父が御子をこう紹介されました。「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい。」(ジョセフ・スミス—歴史1:17)

さて次に、わたしが確信していて、証したいことは、主イエス・キリストの贖罪についてです。これがなければ人生は無意味です。これはわたしたちの存在のかなめです。この教えから、この地上に生を受ける前にわたしたちがすでに生きていたことがわかります。またこの世の生涯は、将来のはるかに栄光に満ちた状態に到達するための一段階でしかありません。死の悲しみは復活の約束によって和らげられるのです。復活祭がなければ、クリスマスも存在しないでしょう。

次にわたしが確信をもってお話しするのは、イエス・キリストの福音の回復です。神権が回復されています。すなわち、神の御名によって語る権能が人に与えられているのです。この神権には二つの位がありま

す。小神権またはアロン神権として知られているものは、バプテスマのヨハネによって回復されました。さらに、高位の神権すなわちメルキゼデク神権は、ペテロ、ヤコブ、ヨハネによって回復されました。

アロン神権の回復に当たって、復活したバプテスマのヨハネがその手をジョセフ・スミスとオリバー・カウドリの頭に置き、こう言いました。「わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはアロンの神権を授ける。これは天使の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の救済のために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ。」(教義と聖約 13:1)

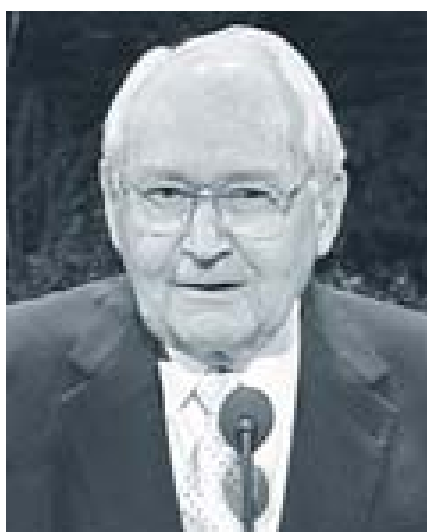
ウィルフォード・ウッドラフ大管長は、晩年、教会の若人に向かって次のように語っています。「わたしは皆さんにぜひ訴えたいことがあります。それは、神権の召しを尊んで大いなるものとするならば、その人が祭司であれ、使徒であれ、何ら違いはないということです。祭司は天使の働きの鍵を持っています。わたしは祭司の職にあったとき、使徒、七十人、長老、そのいずれの職にあるときにも増して、豊かな主の守りを受けました。」(Millennial Star, 1891年10月5日付, 629)

メルキゼデク神権、すなわち大神権は人に、他の人々の頭に手を置いて祝福を受ける力を与えます。また、病気の人にも祝

回復のメッセージ

十二使徒定員会
L・トム・ペリー長老

わたしたちは地上にイエス・キリストの完全な福音が回復されていることを世界に宣言しています。



福を授けます。新約聖書の中でヤコブはこう宣言しています。「あなたがたの中に、病んでいる者があるか。その人は、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリブ油を注いで祈ってもらおうがよい。」(ヤコブの手紙 5:14)

最後に、わたしは主の宮の祝福についても触れることにします。これは古代の福音の回復によってもたらされたものです。

近年その数が著しく増大した神殿は、ほかの場所では得られない祝福を提供するものです。この聖なる宮で行われるすべてのことは、人の永遠と関係があります。この中では、夫と妻と子供が永遠の家族として結び固められます。結婚とは「死が二人を分かちまで」のものではありません。夫婦双方がその祝福にふさわしく生きていけば、永遠のものです。すべての事柄の中で最も驚くべきことは、主の宮の中で身代わりの業を行う権能があるということです。神殿の中では、生前に儀式を受ける機会がなかった死者のために、儀式が執り行われています。

最近アイダホフォールズで、夫を亡くしたある女性について聞きました。この女性は、15年以上にわたって、アイダホ州のアイダホフォールズ神殿で2万人もの人々の代理としてエンダウメントを受け続けてきました。ある金曜日に2万人目のエンダウメントを終え、翌日の土曜日に神殿にまた参入してもう5人分の儀式を受けました。そしてその翌週、亡くなったのです。

この小さな一人の女性が成し遂げたことを考えてみてください。今朝このカンファレンスセンターに集っているのと同じくらい多くの人のために代理としてエンダウメントを受けたのです。幕の向こう側でどれほど多くの人に喜んで迎えられたことでしょうか。

兄弟姉妹の皆さん、これが皆さんに厳粛に述べるわたしの証です。

忠実な末日聖徒の皆さん一人一人を、神が祝福してくださいませうに。皆さんの家庭に平安と愛があり、皆さんが行うすべてのことに、皆さんを導く信仰と祈りがありますよう、イエス・キリストの聖なる御名によって、へりくだり祈ります、アーメン。

ソルトレーク盆地のあるステーキ大会を管理したときのことです。神権の鍵^{かぎ}について話していたわたしは、若い執事定員会の会長を説教台に招きました。神権定員会を管理する鍵を含め、彼にはきわめて特別な職が与えられているということを彼自身に理解してほしいのです。少しの間、わたしは彼と、鍵を持つという責任の偉大さや、定員会に属することがいかに特別なことであるかについて話しました。席に戻ってもらう前に彼の定員会には何人の神権者がいるかと尋ねると、14人とのことでした。

さらに聞きました。「何人が活発に集っているの？」

「12人です。」

「あとの2人はどうしたのかな。」

彼はこう答えました。「これから頑張つて、その2人が活発に定員会へ集えるよう

にします。」

そこで、その目標をいつごろまでに達成できそうかと聞くと、恐らく3か月ほどだと答えました。わたしはぜひ頑張つてほしいと伝えました。

そして、ほぼきっかり3か月後、彼は定員会の全員が活発に集っていることを手紙で伝えてくれました。彼は2人と友達になって、1人は執事定員会の集会に参加するようになり、もう1人はビショップから教師に聖任されたそうです。手紙の内容にわたしは胸がいっぱいになりました。神権を尊び、その鍵を使いながら主から託された責任を果たす神権者として、何とすばらしい模範でしょうか。神権の力を行使して地上での主の業を管理するようになると、主がお立てになった計画に驚かずにいられません。

まだ14歳にもならないこの若い男性は、生涯にわたる奉仕に備えるための尊い訓練を受けているのです。皆さんは、彼が5、6年後に末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師となり、この奉仕を続けている姿を思い浮かべることができますか。彼のスーツの上着には、人生のうちの2年間をささげることが示す名札が輝いていることでしょう。

この若い男性は、人への奉仕のために神権を行使しながら経験を積んでいます。さらに回復のメッセージ、すなわち何千人もの宣教師が今日世界に宣言しているメッセージについて揺るぎない理解を得ることで、自らを備えなければなりません。このメッセージは、時満ちる神権時代である現代に福音が回復されたことを



大会訪問者にあいさつする、ユタ州ソルトレーク・シティー・テンブルスクウェア伝道部の姉妹宣教師たち。

伝えていきます。そしてこの福音に耳を傾けて従うすべての人には祝福が与えられるのです。

最初の示現

時満ちる神権時代は、15歳にも満たないもう一人の若い男性に与えられた非常に特別な示現によって到来しました。彼は宗教に関して心に疑問を抱き、答えを求めて祈るべく森へ行きました。ジョセフ・スミスは目の前に開かれた栄えある示現をこのような言葉で描写しています。

「わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。

……そして、その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」(ジョセフ・スミス—歴史1:16-17)

この示現により、父なる神とその愛子

イエス・キリストが別々の御方であられることが明らかにされました。それぞれが栄光を受けた完全な骨肉の体をお持ちであることが分かったのです。このようにして、神の概念に関して何世紀も存在してきた誤解が解けました。ジョセフ・スミスが信仰箇条を書いたとき、第1条で「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる」と宣言したのは実にもっともなことです(信仰箇条1:1)。

モルモン書

預言者が最初の示現を人に語ると、すぐに疑念、不信、誤報が起こることを御存じであった主は、主イエス・キリストについてのもう一つの証であるモルモン書を世に出されました。この古代の聖典は聖書と肩を並べる神聖な書物であり、イエス・キリストの完全な永遠の福音が記されています。また、ジョセフ・スミスが確かに神の預言者であることを世に確信させる証拠が載っています。モルモン書が世に出ることについて、教義と聖約には次のような宣言が書かれています。

「〔神はジョセフ・スミスを〕鼓舞する

数々の戒めを下された。

また、前もって備えられた手立てによって、『モルモン書』を翻訳するために、高い所から彼に力を授けられた。

この書には、ある墮落した民の記録と、異邦人ならびにユダヤ人にあてたイエス・キリストの完全な福音が載っている。

これは靈感によって与えられ、天使たちの働きによってほかの人々に確認され、その人々によって世の人々に知らされるのである。

これらのことは、聖文が真実であること、また神が実に人々に靈感を与えて、昔と同じようにこの時期と時代にあっても神の聖なる業に人々を召しておられることを、世に証明している。」(教義と聖約20:7-11)

モルモン書の翻訳は、それ自体が奇跡であり、その書物の神聖な起源をさらに証明しています。オリバー・カウドリが預言者の筆記者として奉仕するため、1829年4月5日にペンシルベニア州ハーモニーに到着したとき、モルモン書の翻訳は最後の部分に当たるほんの数ページしか終わっていませんでした。その晩ジョセフとオリバーはともに座り、夜が更けるまで

預言者の経験について話し合いました。そして2日後の4月7日、彼らはモルモン書の翻訳を始めました。それから3か月の間ジョセフは驚くべき速さで翻訳し、約60日で、印刷にしておよそ500ページ分の作業を終えています。

オリバーは目を見張るようなこの経験を次のように記しています。「これらの日々は、決して忘れられないものであった。天の靈感によって語られた声、この胸にこの上ない感謝の念を呼び起こした声の下に座していたのである。彼が『モルモン書』と呼ばれる歴史すなわち記録を、ウリムとトンミム……を用いて翻訳するまに、わたしは、来る日も来る日も、彼の口から出る言葉を絶え間なく書き続けた。」(Messenger and Advocate, 1834年10月号, 14。ジョセフ・スミス—歴史1:71, 注も参照)

神 権

翻訳を進めながら、ジョセフとオリバーはこの書物に記されている教義に胸を躍らせました。特に印象的だったのは、復活された救い主が西半球の住民を訪れて教えられたバプテスマの教義です。彼らの心に、バプテスマの教義の大切さをはっきりと示されました。ジョセフとオリバーは、自分たちがどのようにしてバプテスマを受けるといふ祝福にあずかれるのかを知るために、熱烈な祈りをもって主を求めことにしました。

1829年5月15日、彼らはサスケハナ川近くの森でひざまずいて祈りました。そこでの出来事をオリバーは次のように書いています。「突如、永遠のただ中から来たかのように、贖い主の声わたしたちに平安を告げられた。それと同時に、とばりが分けられ、神の天使が栄光をまとうて降って来て、わたしたちが切に待ちこがれていた知らせを告げ、悔い改めの福音の鍵を渡してくださったのである。何という喜びであろう。何という驚異であろう。何という驚きであろう。世の人々が苦しみ、当惑していたときに——幾百万の人々が目の不自由な人のように壁を手探りしていたときに、また万人が一



団となって不確実な状態にとどまっていたときに、……わたしたちの目は見、わたしたちの耳は聞いたのである。」(Messenger and Advocate, 1834年10月号, 15。ジョセフ・スミス—歴史1:71, 注も参照)

その天使は、自分の名はヨハネといい、新約聖書の中でバプテスマのヨハネと呼ばれている者だと言いました。ヨハネはジョセフとオリバーの頭に手を置いて言いました。

『わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはアロンの神権を授ける。これは天使の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ。また、レビの子らが再び義をもってささげ物を主にささげるまで、これは決して再び地上から取り去られることはないであろう。』

その方は、このアロン神権には聖霊の賜物を授けるためのあし接手のする力はないが、これは将来わたしたちに授けられると言われた。またその方は、行ってバプテスマを受けようにわたしたちに命じ、わたしがオリバー・カウドリにバプテスマを施し、その後彼がわたしにバプテスマを施すようにと指示された。

それでわたしたちは行ってバプテスマを受けた。わたしがまず彼にバプテスマを施し、その後、彼がわたしにバプテスマを施した。それから、わたしが彼の頭に手を置いて、彼をアロン神権に聖任し、

その後、彼がわたしに手を置いて、わたしを同じ神権に聖任した。そのようにわたしたちは命じられたからである。」(ジョセフ・スミス—歴史1:69-71)

その後間もなく使徒ペテロ、ヤコブ、ヨハネが現れ、同じ業に携わる二人の僕の頭に手を置き、メルキゼデク神権を受けました。

イエス・キリストの教会

主の御名によって行動する力が再び地上に存在するようになった後、ジョセフは正式に教会を組織するように命じられました。1830年4月6日、ニューヨーク州フェイエットにあるピーター・ホイットマー・シニアの家で、すでにバプテスマを受けていた6人の男性が、神の戒めにより、イエス・キリストの教会を組織することを全会一致で決議しました。その集会で次のような啓示が与えられました。

「見よ、あなたがたの間で記録を記さなければならない。そして、その記録の中で、父なる神の御心とあなたがたの主イエス・キリストの恵みによって、あなた〔ジョセフ・スミス〕は聖見者、翻訳者、預言者、イエス・キリストの使徒、教会の長老と呼ばれなければならない。

あなたは、教会の基を据えて、最も聖なる信仰のためにこれを築き上げるように、聖霊による靈感を受けた。

この教会は、あなたがたの主の千八百三十年、第四の月、四月と呼ばれる月の第



六日に組織、設立された。

それゆえ、彼がわたしの前を完全に聖く歩み、わたしの言葉と戒めを受けるとき、あなたがたの教会員は、彼があなたがたに与えるそれらのすべてを心に留めなければならぬ。

あなたがたは忍耐と信仰を尽くして、あたかもわたし自身の口から出ているかのように、彼の言葉を受け入れなければならない。」(教義と聖約21:1-5)

このようにして、救い主の教義と教えをもって人類に祝福を与えるために、イエス・キリストの教会が再び地上に存在するようになりました。この教会は、主がいにしえの時代に立てられた計画に従って組織されたのです。

聖書のエベソ人への手紙の中でパウロはこう宣言しました。

「彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。

それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。

こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりするこ

とがなく、

愛にあつて真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。」(エペソ4:11-15)

ヒンクレー大管長は回復に関して次のように述べています。「幾世代もの人々がこの地上に生を受けました。その多くは争い、憎悪、暗黒、そして悪の中で生涯を送りました。しかしついに、回復というあの偉大な更新の時代が訪れました。御父と御子が少年ジョセフに御姿を現され、栄光に満ちた福音の時代の幕が切って落とされたのです。こうして世界は、時満ちる神権時代の夜明けを迎えました。過去のすべての神権時代に存在したすべての善なるもの、美しいもの、神聖なものが、この最も注目すべき時代に回復されました。」(「明るい夜明けだ」『リアホナ』2004年5月号、82-83)

わたしたちのメッセージはたぐいまれなものです。わたしたちは地上にイエス・キリストの完全な福音が回復されていることを世界に宣言しています。また、天でも地でも結び固めの力を持つ神権の鍵が人に回復されていることを大胆に宣言しています。主は、主とともに永遠の命に入るために必要な儀式を明確にされていますが、人を救うそれらの儀式は、今や主の聖なる神権の力をふさわしく行使する人々に与えられている結び固めの権能によって執り行うことができるのです。わたしたちは、聖書の預言者たちによって末日と呼ばれた時が今であることを世界に宣言します。今はイエス・キリストが地球を支配し統治するために来られる前、つまり最後の時なのです。

回復されたイエス・キリストの福音のメッセージをわたしたちから聞くようすべての人々にお勧めします。そうすれば、この栄えあるメッセージと他の人々から聞くかもしれない事柄とを比較することができ、どちらが神からで、どちらが人から出たものか判断できるでしょう。

この教会は、末日に回復されたイエス・キリストの教会であることを証します。わたしたちの主なる救い主、イエス・キリストの御名によって、アーメン。

「今日」という日

十二使徒定員会

ヘンリー・B・アイリング長老

わたしたちには、永遠の命を得るために今、ここでなすべき事柄があります。それらを引き延ばすという悲劇を避けるために、すべての人が主の助けを必要としています。



「今日ではなく」という意味の「いつか」という言葉には、危険が伴います。「いつか悔い改めよう」「いつか彼を赦そう」「いつか友達に教会について話そう」「いつかじゅうぶんの一分を納め始めよう」「いつか神殿に行こう」「いつか……」

聖文には、引き延ばすことの危険性がはっきりと書かれています。もう時間が無いことに気づく時が来るのです。今日という宝物を与えてくださる神から、その時間をどのように使ったかを報告するように求められます。明日悔い改めよう、明日主に仕えようと思ながらもその日は決して訪れず、行うことを夢見ながらもその機会が去ってしまうなら、わたしたちは涙を流し、主も涙を流されることでしょう。「今日」という日は神からの大切な贈り物なのです。「いつかやろう」という思いは、時という機会と永遠の祝福を奪い去ってしまいます。

モルモン書には、厳粛な警告と勧告の言葉が記されています。

「さて、前に話したように、あなたがたにはすでに非常に多くの証拠があるので、最後まで悔い改めの日を引き延ばすことのないように切に勧めます。永遠に備えるためにわたしたちに与えられている現世の生涯を終えると、見よ、もしわたしたちが現世にいる間に時間を有益に用いなければ、後から暗闇くらやみの夜がやって来る。そして、そこでは何の働きもできない。

あなたがたはその恐ろしい危機に陥るときに、『わたしは悔い改めて神に立ち返ろう』と言うことはできない。あなたがたはこのように言うことはできない。なぜならば、現世を去るときにあなたがたの肉体を所有しているその同じ霊が、あの永遠の世で、あなたがたの肉体を所有する力を持つからである。』¹

そしてアミュレクは、悔い改めと奉仕の業を引き延ばすなら、主の御霊みたまは去ってしまうと警告しています。

しかしアミュレクは、警告の言葉とともに、このような希望も与えています。

「わたしはこのことを知っている。主は清くない宮に住まず、義人の心に住むと言われたからである。主はまた、義人は主の王国で座に着いて二度とそこを去ることがなく、義人の衣は小羊の血によって白くされるとも言われた。』²

聖文には、賢明な神の僕たちの数々の模範が記されています。彼らは皆、自分たちが生きている時を大切に、清めをもたらす事柄を行うことを選びました。ヨシユアもその中の一人です。ヨシユアはこ

う言いました。「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。』³

主に仕えるとき、聖霊がともにいてくださるようになります。聖霊は罪を清めてくださる御方です。

罪のない救い主でさえも、引き延ばさないことの必要性を模範によって示してくださいました。主はおっしゃいました。

「わたしたちは、わたしをつかわされたかたのわざを、昼の間にしなければならぬ。夜が来る。すると、だれも働けなくなる。

わたしは、この世にいる間は、世の光である。』⁴

復活した救い主は、今日も、永遠にわたっても、世の光であられます。主は引き延ばすことなく、御自身のもとに来て仕えるように招いておられます。次の言葉は、皆さんやわたしへの主の励ましの言葉です。「わたしは、わたしを愛する者を愛する、わたしをせつに求める者は、わたしに出会う。』⁵

一日についても、一生についても同じことが言えます。朝の祈りと聖文の研究によって、主のために何ができるかを知ること、その日一日の行動を左右します。わたしたちが選び得るすべての行動の中から、どれが神にとって、つまりはわたしたちにとって最も重要かを知ることができます。そのような祈りは必ずこたえられることを、わたしはこれまで学んできました。幼子のように従順になり、尋ね、思い巡らし、どんなにささいな奉仕であっても先延ばしすることなく実行する備えができていなければ、必ず答えが与えられるでしょう。

多くの場合、最も大切なことを行うのは簡単ではありません。簡単にいくように定められてはいないからです。神の創造の目的は、自らのふさわしさを証明する機会をわたしたちに与えることでした。神の計画は、わたしたちが誕生する前に霊界で示されました。霊界で雄々しくあったわたしたちは、神の最も偉大な賜物である永遠の命に備えるために、現世において誘惑に屈しない選択をする機会を得ました。たとえ容易ではなくても、それに忠実で従順でいられるかどうかを試されると知って、

わたしたちは喜びました。「そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であるかと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」⁶

その試しがどれほど困難であるかを知らながらも、わたしたちは必ずその試しに耐えられるという確信があったために喜びました。その確信は、イエス・キリストが救い主として世に来られるという知識から来るものでした。主は死を克服されます。そして、主の贖いの力を受ける条件を満たすなら、罪から清めてくださるのです。

また、清めを受けるためには何が必要かということについても、確かな知識を得ていました。権能を持つ者から受けるバプテスマ、権能を持つ神権者の手によって与えられる聖霊、主を覚え、主の御霊を常に共にすること、そして主の戒めを守ること、……これらすべての清めに必要なものが、へりくだる者に与えられるのです。特別な知性や富、長生きすることは必要ありません。そしてわたしたちは、試練が難しく、引き延ばそうとする誘惑が大きいときに、救い主がわたしたちをみもとに引き寄せてくださり、わたしたちを助ける力を持っておられることも知っていました。偉大な預言者アルマは、キリストがその力をどのように得られたか説明しています。

「そして神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉が成就するためである。

また神の御子は、御自分の民を束縛している死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。また神の御子は、肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。」⁷

わたしたちには、永遠の命を得るために今、ここでなすべき事柄があります。それらを引き延ばすという悲劇を避けるために、すべての人が主の助けを必要としています。ほとんどの人にとって、引き延ばそうとする誘惑は、次の二つの思いのどちらか、あるいは両方の形で来ます。



それらは相反する思いで、一つは、自分がすでにしたことへの自己満足であり、もう一つは、もっとしなければならぬことに圧倒されてしまう思いです。

自己満足はだれもが陥りやすい危険です。霊的な事柄をする時間は将来十分あると考える、純真な青少年にもその危険性があります。これまで生きてきた短い期間からすれば、十分いろいろなことを行ったと考えるのです。わたしは自分の経験から、主がそのような青少年に、自分が霊的成長の過程にいることに気づかせてくださることを知っています。主は青少年の皆さんに、自分がクラスメートから見られていることを思い出させてくださいます。皆さんがすること、しないこと、その行いを見ることによって、級友たちの永遠の行く末が決まることを理解できるようにしてください。友人に対する「良い影響を与えてくれてありがとう」という感謝の言葉は、皆さんが考える以上に彼らを高めます。皆さんが願い求めるなら、神は幼いころから皆さんのそばにいる友人を高める機会を示すことがおできになりますし、実際そうしてくださるのです。

自己満足は、熟年に達した大人にも悪影響を及ぼします。良い働きをして、長く仕えれば仕えるほど、誘惑する者は皆さんの心にこのよううそを吹き込もうとします。「もう十分働いたから、そろそろ休みを取る時期だ。」皆さんは、小さな支部で初等協会の会長を2度も果たしたかもしれませんし、伝道地で長い間、熱心に働き、多くの犠牲を払ったかもしれません。あるいは、皆さんの国において教会の開拓者だったかもしれません。「奉仕は新しい人

に譲ろう。もう自分の分は果たした」という思いを持つかもしれません。いつの日か、もう一度奉仕の業に戻ればいいと信じるように誘惑されるのです。

もう十分に働いたから休みを取ろうと考えることの危険性についても、主は気づかせてくださいます。ある年配の主の僕と話す機会を通して、主はわたしに気づかせてくださったのです。彼は長年の忠実な働きと病気のために身体が弱り、医者からは外出を禁止されていました。わたしは彼の願いにこたえて、わたしの経験したある旅の話をしました。その旅では、主に仕えて幾つもの国を訪問し、多くの集会に出席し、大勢の人と面接し、個人や家族を助けました。人々が、彼とその長年にわたる働きに感謝していることも伝えました。近々どこか訪問する予定があるかと聞かれたので、また長い旅に出る予定であることを伝えました。わたしは彼の次の言葉に驚くと同時に、自己満足という病気にかからないためのワクチンを受けたような気がしました。彼はわたしの腕をつかみこう言ったのです。「ああ、どうかわたしも一緒に連れて行ってください。」そのワクチンの効果が永遠に続くよう願っています。

贖いによってわたしたちの性質が変わられ、永遠の命を受けるに足りるほど、自分が十分に仕えたかどうかを知るのは難しいことです。また、あとどのくらい仕えたら、そのような大きな変化が起きるのかも分かりません。しかし、時間を無駄にしないかぎり、時は十分与えられていることは分かります。聖文には、すばらしい記述があります。

「また、人の子らの命は、肉にある間に悔い改めることができるように、神の御心によって引き延ばされた。したがって、彼らの状態は試しの状態となり、彼らの寿命は主なる神が人の子らに与えられた命令で長くされた。」⁸

主から与えられるその確信は、様々な状況下で押しつぶされそうになっている人々の助けになります。最も難しい試練にあっても、祈る力さえあれば、愛に満ちた神にこう祈ることができます。「どうか、

わたしに今日、仕えさせてください。自分にできることがどんなに少なくてもかまいません。ただ、わたしに何ができるかをお示しください。わたしは今日従います。お父様の助けがあれば、きっとできます。』

主からの静かな招きは、皆さんを傷つけた人を赦すようにという、とても分かりやすいことかもしれません。それは病院のベッドからでもできます。あるいは、空腹の人を助けに行くようにという促しかもしれません。自分も貧しく、一日中働いて疲れ切っているために、圧倒されてしまうこともあるでしょう。しかし、もっと力とお金があるときまで待つのではなく、示された場所へ向かいながら聖なる御霊を求めて祈るなら、そこに着いたときに、何をすべきか、また自分より貧しい人をどのように助けるべきかが示されるでしょう。また、そこに着いたときに、人々が主の御名によって、皆さんのような人が来るのを祈り、待ち続けていたことを知るでしょう。

自分の置かれている状況に落胆し、今日主に仕えることはできないと感じている皆さんに、わたしは二つの約束をします。今日の状況がどんなに悪く思えても、もし皆さんが心のすべてをささげて今日主に仕えることを選ぶなら、明日はもっとよい状況になっていることでしょう。皆さんが望むほど完全にはよくなるかもしれませんが。しかし、重荷を背負うための新たな力が与えられ、荷が重すぎて背負えないときには、皆さんが仕えた主が代わりに背負ってくださるといふ、新たな確信が与えられるでしょう。主はその方法を御存じです。はるか昔に、備えられたからです。主は肉体にあって、皆さんの弱さと悲しみをその身に受けて苦しみました。それは、皆さんを救う方法を知るためだったのです。

もう一つの約束は、今日主に仕えることを選ぶなら、主の愛を感じ、さらに主を愛するようになるということです。次の聖句が思い浮かぶでしょう。

「わたしはあなたがたに言う。あなたがたはこの名をいつも心にしっかりと記しておくことを忘れないようにしてほしい。そうすればあなたがたは……自分が



どの声で呼ばれ、どの名で呼ばれるかが聞いて分かるであろう。

なぜならば、仕えたこともなく、見も知らぬ他人で、心の思いと志を異にしている主人を、どのようにして人は知ることができようか。』⁹

今日、主に仕えることによって、主をもっとよく知ることができます。主の愛とねぎらいを感じるでしょう。そのような祝福を受けることを引き延ばしたいとは思わないでしょう。主の愛を感じることによって、自己満足や落胆を取り去り、再び主に仕えようという思いに駆られるのです。

主に仕えるとき、どのような声で呼ばれるかがもっと分かるようになります。

一日を終えて眠りに就くとき、次の言葉が心に浮かぶのです。「良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であった……。」¹⁰ 今日、毎日、そして人生の終わりに、そのような言葉が与えられ

るように祈っています。

わたしは天の御父が生きておられ、祈りにこたえてくださることを知っています。イエスが生けるキリスト、世の救い主であられ、わたしたちが今日、主に仕えることを選ぶなら、喜びと平安が得られることを知っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

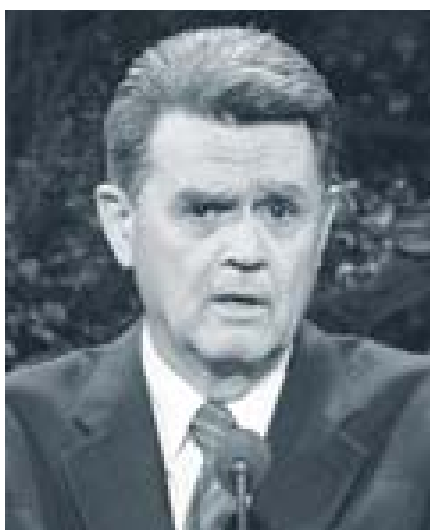
1. アルマ34:33-34
2. アルマ34:36
3. ヨシュア24:15
4. ヨハネ9:4-5
5. 箴言8:17
6. アブラハム3:25
7. アルマ7:11-12
8. 2ニーファイ2:21
9. モーサヤ5:12-13
10. マタイ25:21。23節も参照

「お母さん、 わたしたちは クリスチャンなの？」

七十人

ゲリー・J・コールマン長老

わたしは回復された教会に改宗して以来、真の「キリストの教義」というさらなる知識にあずかることができたのですから、特別に恵まれた敬虔なクリスチャンだと言えます。



キリスト教は、永遠の父なる神の独り子であるイエス・キリストの生涯、およびその務めを信奉しています。キリスト教会は世界の至る所にありますが、その教義は様々です。ある伝道部長の娘で14歳になるコートニーは、高校に入学するとクラスメートたちからクリスチャンなのかどうか聞かれました。末日聖徒イエス・キリスト教会の通称を使って、「モルモンよ」と答えると、嘲笑されたそうです。そこで、家に帰るなり母親に尋ねました。「お母さん、わたしたちはクリスチャンなの？」

わたしは、この教会ではなく別の教会に集う熱心な信者の家庭で育ちました。わ

たしは生後間もなく洗礼を受けて、その教会の会員になりました。家族は毎週教会に行きましたし、わたしはきょうだいたちと、牧師が日曜日の礼拝行事を行うのを長年手伝っていました。また、家族は毎日集まって一緒に祈っていましたから、家族の祈りの大切さも学んでいました。わたしはいつかその教会の牧師になるつもりでした。わたしたちには、どこから見ても敬虔なクリスチャンだという自負がありました。

ところが大学生のころに、救い主を中心にした信仰を持つ末日聖徒イエス・キリスト教会の会員と親しくなり、その教えに触れる機会がありました。この末日にイエス・キリストの福音が回復された、という教義を学び始めたのです。わたしはそれまで知らなかった真理を学び、人生も、福音に対する見方も変わりました。大いに研究し、祈り、信仰をはぐくんだ結果、この教会にしか見いだすことのできない、美しい回復された真理を受け入れることにしました。

回復された真理の中でわたしが最初に学んだのは、神会の属性でした。神会は3人の別個の御方から成るといふ真のキリストの教義は、聖書の時代には知られていました。神は幾つかの場面で、御自身の独り子イエスについて証しておられます。イエスがバプテスマを受けられたとき、神はこう言われました。「これはわたしの愛

する子、わたしの心にかなう者である。」¹ イエス御自身も、父なる神について次のように証されました。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることです。」² わたしたちは次のことを知っています。イエスが亡くなって復活された後、ステパノは、「聖霊に満たされて、天を見つめていると、神の栄光が現れ、イエスが神の右に立っておられるのが見え[ました]。そこで、彼は「ああ、天が開けて、人の子が神の右に立っておいでになるのが見える」と言[い]ました。」³ このキリストの弟子が述べた神会についての証は実に印象的です。

神についての知識、および神と御子と聖霊がそれぞれ別個の御方であられるという知識は、キリストと使徒たちの死後失われました。神会に関する混乱や誤った教義は、ニカイア(ニケーア)信条とコンスタンティノポリス公会議に由来しています。この会議では、神会とは3人の別個の御方から成るのではなく、ただ一人の神の中に存在する3つの人格を指すという三位一体説が宣言されました。キリスト教の改革を推し進めたプロテスタントの宗教改革者たちは、人の作ったこの教義に苦悩しました。わたしもそうでした。三位一体の教義を学んだのは青少年のころでしたが、わ



わたしには理解できませんでした。

しかし、預言者ジョセフ・スミスが経験した、最初の示現の中で明らかになった輝かしい真理はわたしにとって衝撃的でした。この真理を知らされてようやく、わたしは永遠の父なる神とその独り子の属性について真理を理解することができたのです。ジョセフは次のように宣言しています。「わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」⁴ この天の示現は、驚くべきものであると同時に分かりやすくて貴い、神とその御子に関する知識を再び地上に回復しました。その知識は、過去に学んだ三位一体の教義をわたしの心から一掃しました。人が作った教義には、神会に関して重大な誤りがありました。天から与えられた啓示がその誤りに取って代わったのです。わたしは神がわたしたちの天の御父であられることを知っています。その御子イエス・キリストはわたしの救い主です。聖霊は、御父と御子について証してください。主イエス・キリストが復活されたことを、この末の日に神が人類に知らせてくださったことに深く感謝しています。救い主は生きていて、人に御姿を現し、語り、現代の預言者や使徒を通して御自身の教会の業を指示しておられます。主が教えてくださいましたこの真理はまことにすばらしいものです。主は良い羊飼いとて、今も御自分の羊を見守っておられます。

この教会の求道者だったころ、回復された真理のうち2番目にわたしが学んだのは、聖文と啓示が新たに与えられるという教義でした。預言者イザヤは示現の中で1冊の書物を見ました。これは「不思議な驚くべきわざ」⁵とイザヤが宣言した業の一端を担う書物です。わたしは『モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証』こそ、この書物であると証します。モルモン書は、キリストのみもとに来るようすべての人を招くために、神の預言者たちが書いた神聖な記録です。また、イエス・キ



リストの福音を完全な形で明らかにする助けとなる書物です。モルモン書には、救い主がお生まれになる前からキリストの御名を受けていた預言者やその他の忠実な教会員について書かれています。⁶ この書物は、復活したキリストが人々に、この世にあって平安を得、来るべき世にあって永遠の救いを得るためには何をしなければならぬかを説かれたことを告げています。主の御名を受け、御自身のようになりなさいという主の勧告に従おうと努めている人以上にクリスチャンと呼ぶにふさわしい人がいるでしょう。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、「わたしには、クリスチャンたちがなぜこの書物を受け入れないのか、その理由が分かりません」⁷と語っています。わたしが初めてモルモン書を読んだのは21歳のときです。続いて、この書物が真実かどうか神に尋ねました。そして、平安を与える聖霊の力に

よって真実であることがはっきりと分かりました。⁸ わたしは、モルモン書がイエス・キリストについての二つ目の証であることを知っています。この神聖な書物には、「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言[する]」⁹という預言者の宣言が収められています。この宣言にわたしの証を付け加えます。わたしは、主がこれまでに語ってくださった御言葉一つ一つに、そしてこれから語ってくださるであろう御言葉一つ一つに感謝しています。主が語られる御言葉は、わたしたちの渇きを潤してくれる命の水です。

回復された福音の真理の中でわたしが理解するようになったもう一つの教えは、神権の権能、つまり神の御名によって働くための力の回復です。エリヤやモーセ、バプテスマのヨハネ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネら古代の預言者や使徒がわたしたちの時

代に神とキリストから遣わされ、神の神聖な神権が回復されました。この教会の神権者はだれでも、神権の系譜をイエス・キリストまでたどることができます。現在、教会を設立する鍵を人間が持っており、人はキリストのみもとに来て、永遠に効力を及ぼす主の救いの儀式を受けることができます。¹⁰ この教会がイエス・キリストの教会であることを証します。この教会は、真の神権の権能を与えられている唯一の教会です。この権能があるので、神聖な儀式を通して救いの鍵を行使できるのです。

コートニーはこう尋ねました。「お母さん、わたしたちはクリスチャンなの？」末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるあなたは、確かにクリスチャンです。わたしもそうです。わたしは回復された教会に改宗して以来、真の「キリストの教義」¹¹ というさらなる知識にあずかることができたのですから、特別に恵まれた敬虔なクリスチャンだと言えます。回復された真理は、この教会にはイエス・キリストの完全な福音があると教えています。ほかの教会員と同様、現在のわたしは神会の属性を正しく理解しており、新たに与えられた聖文や啓示を読むことができ、神権の権能の祝福にあずかることができます。そうです、コートニー。わたしたちはクリスチャンです。わたしは、これまで述べてきたことが真実であることを証します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

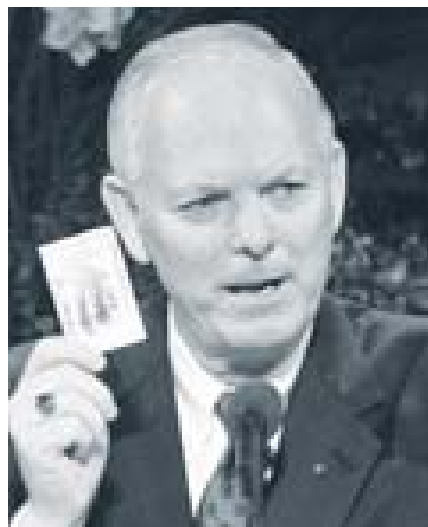
注

1. マタイ3:17
2. ヨハネ17:3
3. 使徒7:55-56
4. ジョセフ・スミス—歴史1:17
5. イザヤ29:14。11-12, 18節も参照
6. アルマ46:14-16参照
7. 「わたしたちの信仰の驚くべき基盤」『リアホナ』2002年11月号, 81
8. モロナイ10:4-5参照
9. 2ニーファイ25:26
10. 教義と聖約2章:13章:110章:112:32参照
11. 2ニーファイ31:2。3ニーファイ11:31-36も参照

主の方には 誰が立つや

中央若い男性会長
チャールズ・W・ダーククウィスト2世

皆さんが主の側にとどまっているならば、敵対するものはそれを越えて皆さんを誘惑しに来ることはできません。



愛する兄弟姉妹、わたしは、預言者と十二使徒が地上にいて靈感と導きを与えてくれる時期と時代にわたしたちが生きていることを感謝します。モーセやアブラハム、そしてこの世に存在したほかのすべての預言者と同じように、ヒンクレイ大管長が確かに神の預言者であることを証します。今朝、大管長から与えられた勧告に感謝するとともに、この総大会の終わりにもう一度お話を聞けることをうれしく思っています。

今日わたしは、特に教会の若い男性と若い女性の皆さん、そして両親および青少年の指導者に向けて話したいと思います。また、神の王国で奉仕するための驚くべき才能と能力、そして可能性を備えたヤングシングルアダルトの皆さんにも話

します。

ヒンクレイ大管長は皆さんの世代について次のように話しました。「このような時代はかつてありませんでした。世界の歴史の中で、生を受けるのにこれほどすばらしい時はありません！ これほど立派な青少年のいた時代は今までありませんでした。……皆さんは確かに『選ばれた世代』なのです。』(Way to Be!, 2002年, 3)

シオンの若者である皆さんにはなすべき偉大な業があります。住む場所を問わず、皆さんには天の御父が期待されるとおりに主の御心を実践するためのあらゆる才能と機会が与えられています。今日話すが、主の御心を行おうと努力する皆さんの役に立つよう祈っています。

1852年2月、イングランドのヤーマスでハンナ・ラスト・コナビーという若い女性がバプテスマを受けました。多くの改宗者が経験するような、静かで敬虔なバプテスマ会ではありませんでした。ハンナはその日のことを次のように書き残しています。「暴徒の一団に取り囲まれた家から、わたしたちはやっとの思いで抜け出しました。……水辺に着く前に大勢の暴徒に追いつかれてしまったので、夫はたくさん石を投げつけられ罵声^{ばせい}が浴びせられる中でわたしにバプテスマを施しました。……しかし、まるで降り注ぐ雹^{ひょう}のようにわたしたちのそばを飛んで行った石は一つとして体に当たらず、わたしたちはこの奇跡的な助けに感謝しながら、無事に



家へ帰り着くことができました。」(ハンナ・コナビー、*Autobiography and Poems*〔1881年〕、24-25)

彼女の人生はその後も決して楽なものではありませんでしたが、後に、彼女は次の言葉を残しました。

主の方には 誰が立つや
恐れず聞かん 時は至る
(「主の方には」『賛美歌』165番)

現在はあまり頻繁に歌わない賛美歌の歌詞ですが、真理と義への決意を表したこの歌は、わたしの好きな賛美歌の一つです。「主の方には誰が立つや」という言葉は、世界中の若い男性と若い女性一人一人が自問するべき問いかけです。そしてわたしは、皆さんが大声で「わたしです!」と答えてくれると信じています。

主が父リーハイを通し、真鍮の版を手に入れるためニーファイと兄たちにエルサレムへ戻るよう命じられたとき、ニーファイの心の中にあったのがこの問いかけでした。レーマンとレムエルがつぶやいたとき、ニーファイは「主の方には誰が立つや」という質問に答える必要がありました。そし

て「わたしです!」と言ったのです。「わたしは行って、主が命じられたことを行います。主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それだけでなく、主は何の命令も人の子らに下されないことを承知しているからです。」(1ニーファイ3:7)

旧約聖書の若きダビデの場合も同じでした。まだ年のいかない羊飼いのダビデが前線にいる兄たちを訪れたときのことを思い出してください。ダビデはペリシテ人の大男ゴリアテがイスラエルの兵士たちに戦いを挑むあざけりの声を聞きました。イスラエルのすべての戦士はゴリアテと戦うのを恐れました。「主の方には誰が立つや」という問いかけに対する彼らの答えは、「わたしです」ではなく、「だれ? わたしなの?」でした。

しかし、少年ダビデは違いました。石と質素な羊飼いの石投げだけを手に持って大男に立ち向かい、次のように言いました。「おまえはつるぎと、やりと、投げやりを持って、わたしに向かってくるが、わたしは万軍の主の名……によって、おまえに立ち向かう。

きょう、主はおまえをわたしの手にわた

されるであろう。わたしは、……イスラエルに、神がおられることを全地に知らせよう。」(サムエル上17:45-46) このときダビデは恐る恐るではなく、走ってこの大男に立ち向かって行ったのです。そして神への信仰によってゴリアテを倒し、イスラエルは勝利を収めることができました。

若い兄弟姉妹の皆さん、わたしは訪問するあらゆる地で、皆さんのように気高い青少年に会う機会があります。若い皆さんは、主と交わした聖約と主から与えられた標準を破らせようと誘惑する現代のゴリアテに絶えず直面しています。不敬な言葉、社会で容認されている不道德、不謹慎な行為、ポルノグラフィ、テレビやインターネットを含むメディアが流す不適切な映像や情報、そして蔓延する薬物やアルコールなどに絶えず取り囲まれている今、これはよりいっそう重要になっています。つまり、どのような形にせよ、「主の方には誰が立つや」と尋ねられない日は1日としてないのです。皆さんがこの質問に正しく答える備えができるよう、二つの短い提案をしたいと思います。

一つ目は、自分が何者であるかを決して忘れないことです。初等協会でもわたし

たちの多くが習った「神の子です」(『賛美歌』189番)という賛美歌の中には簡潔な真理が込められています。賢明で心優しい天の御父は、わたしたちをこの地上に送っただけで後はほうっておくようにはされません。神は、わたしたちが御父の望まれることを達成できるよう、案内人を用意してくださったのです。御父は、わたしたちを助け、愛し、教えてくれる家族、そしてわたしたちを導く生ける預言者を与えてくださいました。さらに、大管長会を通して、小冊子『若人の強さのために』にある標準と、次のような約束も与えてくださいました。「皆さんにお約束します。これらの標準に従い聖文にある真理を守って生活するなら、人生の務めに知恵をもって巧みに対処することができ、また、これまで以上の勇気を得て試練に耐える力が与えられるでしょう。聖霊の助けが得られるでしょう。」(『若人の強さのために』、2)

わたしはいつも携帯版の小さな冊子を持ち歩いています。いつもです！皆さんも同じことをするようにお願いします。そうすれば、バスを待っているときや少し時間が余ったときに取り出して読み、この冊子に書かれている標準を守るという決意を新たにすることができます。そのようにすれば、幸福と平安、そしてあふれる勇気と自尊心が得られることを約束します。

選択の自由を使うとき、皆さんは独りではないことを覚えておいてください。心優しく思慮深い天のお父様のほかに、皆さんが賢明な選択をするように祈っている人たちがいます。若いころ、わたしはデートをしたり友人と出かけたりした後、家に戻ったことを両親に報告していました。ノックして両親の部屋のドアを開け、「ただいま」と言ってから床に就いていました。ある夜のこと、デートから帰りいつものようにノックしてドアを開けました。すると、廊下の明かりが、ひざまずいて祈っている優しい母の姿を照らしました。その姿を見たとき、わたしには母がだれのために祈っているのかが分かりました。その経験を忘れたことはありません。今も母がわたしのために祈ってくれているという事実がわたしを勇気づけ、



自分がだれであるかということ、そして決して独りではないことを思い起こさせてくれます。

二つ目の提案は、自分の思いをコントロールできるようになることです。天の御父が下さった幸福の計画によって、わたしたちは試しを受けるためにこの地上に送られました。常に誘惑が存在するのはそのためです。末日聖徒であるわたしたちは、サタンが仕掛ける誘惑があっても神の戒めを守らなければなりません。わたしの経験から言っても、思いをコントロールすることができれば、誘惑を避けて戒めを守ることがとても容易になります。音楽や聖文、良い詩を暗記して、心の中に悪い思いが浮かんだときに思い出すことは特に効果的です。

ボイド・K・パッカー会長は、賛美歌を暗記して、不適切な思いが心に浮かぶときにその賛美歌と置き換えるようにと勧告しています。この教えを实践したある友人は次のように話してくれました。「ある日、わたしは昼食を食べようと事務所を出ました。2ブロックほど歩いたところで、ふと自分がお気に入りの歌、『神の子です』をハミングしているのに気がつきました。どうしてこの歌が出て来たのだらうかと思い返してみると、事務所を出て道を横断したときに目の前を不適切な服装をした若い女性が通ったことを思い出しました。そ

の瞬間、自分でも気づかないうちに、心の中で『神の子です』の歌詞とメロディーが流れ、不適切な思いを追い払っていたのです。」その日、友人は自分の思いをコントロールする能力について大事な教訓を学んだのでした。

このことに関して、ジョージ・アルバート・スミス大管長はすばらしい勧告を残しています。「主の領域と悪魔の領域の間には、はっきりと定められた境界線があります。あなたがこのまま主の側にとどまっているならば、敵対するものはそれを越えてあなたを誘惑しに来ることはできません。……しかし、……もしあなたが境界線を越えて悪魔の側に行くならば、あなたは悪魔の領域に入ったことになり、……悪魔はあなたに働きかけて、その境界線から悪魔の領域へできるかぎり引っ張り込もうとします。悪魔は、安全な場所から引き離すことがあなたを滅ぼす唯一の手段であることを知っているのです。」(Conference Report, 1945年10月, 118参照)

2007年のミューチャルでは、この賢明な勧告に聞き従う人に与えられている約束がテーマになっています。「絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい。そうするときに、神の前においてあなたの自信は増し、……聖霊は常にあなたの伴侶と……なるであろう。」(教義と聖約121:45-46)

神が生きておられることを証します。わたしたちが神の子であり、神はわたしたち一人一人を名前でも知っておられ、重要な決断に迫られるときにわたしたちを独りにはなさないことを知っています。日々、皆さんは選択をします。その選択によって境界線のどちら側になるかが決まるのです。わたしはこの声の届くすべての青少年に、すなわち世界中の高貴な生得権を持つ青少年の皆さんにお願いしたいと思います。善と悪を選ぶとき、心の中に「主の方には誰が立つや」と問う声が聞こえたら、力のかぎりに「わたしです！」と答えてください。そう答えられるような生き方をしてください。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

人は神の物を盗むことをするだろうか

七十人

菊地 良彦 長老

皆さんとわたしとが、正直に、完全な什分の一^{じゅうぶん}を納めるなら、主は天の窓を開いてくださいます。



わたしは什分の一の律法についてお話しします。マラキ書の中で、主はこうお尋ねになりました。

「人は神の物を盗むことをするだろうか。しかしあなたがたは、わたしの物を盗んでいる。あなたがたはまた『どうしてわれわれは、あなたの物を盗んでいるのか』と言う。十分の一と、ささげ物をもってである。

あなたがたは、のろいをもって、のろわれる。あなたがたすべての国民は、わたしの物を盗んでいるからである。

わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みをあなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる。」¹

什分の一は非常に重要な戒めです。主は復活された後にアメリカ大陸^{みすかた}を現され、これとまったく同じ言葉を繰り返されました。² また、主は現代においてこうおっしゃいました。「このように什分の一を納めた者は、毎年彼らの得る全利益の十分の一を納めるのである。」³

レビ記の中で主は3度、什分の一は「主に聖なる物〔である〕」⁴とおっしゃいました。

主はこう言われました。「これをもってわたしを試み(別の言葉で言えば「わたしを試し」)、わたしが天の窓を開くかどうかを見なさい。」⁵ わたしたちの多くは正しい方法で主を試みますが、そうしない人もいます。

例えば10個のリンゴがあるとします。これらのリンゴは確かに、10個すべてが主の物です。しかし主は、そのうちの10分の1、すなわち一つだけを返すように求めておられます。

皆さんはリンゴをかじり、かじった部分だけささげようとしてはいいのでしょうか。そのような小さなささげものを納めようとしているのでしょうか。

それとも恥ずかしく思い、リンゴをかじった跡を埋め、取れた部分を隠して主にささげますか?

わたしたちは、主に完全に清いささげ物をしたいと望みます。こう教えられてきました。「見よ、主は心と進んで行く精神とを求める。そして、進んで行く従順な者は、この終わりの時にシオンの地の良いものを

食べるであろう。」⁶

数年前、わたしはアイダホ州ケアリーステークを再組織する割り当てを受けました。ツインフォールズ空港に到着すると、これまですばらしい奉仕の業を行ってきたロイ・ヒューバート会長が出迎えて、車で自宅へ連れて行ってくれました。車の中でわたしはこう尋ねました。「会長や聖徒たちのためにできることがありますか。」

ヒューバート会長はこう答えました。「ええ、ここ数年間、ひどい干ばつが続いています。今年は特にひどくて、多くの農民が仕事を探すために町を離れました。」

主と教会を深く愛する会員たちが農場を手放していることを思うと、わたしはいたたまれなくなりました。

新しいステーク会長には、若いビショップのR・スペンス・エルズワース兄弟が召されました。日曜日の一般部会の間、干ばつの被害がわたしの心に重くのしかかっていました。そして話をしていたときに強く促されて、聖徒たちに次のことをするよう求めました。

1. 若い者も年老いた者も、忠実に什分の一を納める。
2. へりくだり、個人と家族の祈りを定期的に行う。
3. 献身的に、個人と家族の聖文学習を日々行う。
4. 感謝の気持ちで安息日^{きよ}を聖く保つ。
5. 感謝の気持ちで頻繁に神殿に参入し、感謝をささげ、礼拝する。
6. 新しい指導者を進んで支持し、従う。
7. 干ばつの被害にある地区の人々で断食に参加する意志がある人を含め、ステーク全体で断食をする。

ステーク大会後の数日間、雨が降るといふ予報はなかったにもかかわらず、多くの会員たちが完全な信仰をもって穀物を植えました。

水曜日に、エルズワース会長の指示の下に、ステーク全体で断食を行いました。同じ週に、多くの会員、指導者とその伴侶^{はんりよ}が、アイダホ州ボイシ神殿へ行き、感謝の祈りをささげました。この忠実な聖徒たちが神殿に参入していたとき、地区全体に雨が降り始めました。天気予報では2、3週



間、雨の気配すらありませんでした。次の土曜日、かなりの量の雨が降り、数日間続きました。また、4月末であったにもかかわらず、山々に雪が降り、十分な水を賄うことができました。ディートリッチとリッチフィールド地区の貯水池は30パーセント以下の水量でしたが、断食の後には貯水量が100パーセント近くになりました。ケアリーでは、約44パーセントだった水量が100パーセントを超えました。穀物の生育期の後半も、ケアリーステーキの会員たちはさらに数回断食し、正直に什分の一を納め、さらに頻繁に神殿へ参入することによって信仰を増し加えました。こうして主は彼らの祈りを聞き、こたえてくださったのです。その年は霜が降るのが遅く、農家の人々は穀物をはじめ、砂糖大根やアルファルファ、ジャガイモなどの収穫を得ることができました。その日から、その後毎年、

聖徒たちは主に感謝の祈りをささげており、主はその「深い憐れみ」⁷により、引き続き彼らを祝福してくださっています。

歴代志の中で、主はこうおっしゃっています。「わたしの名をもってとなえられるわたしの民が、もしへりくだり、祈って、わたしの顔を求め、その悪い道を離れるならば、わたしは天から聞いて、その罪をゆるし、その地をいやす。」⁸

完全で正直な什分の一を納めるならば、わたしたちは神殿へ導かれます。什分の一は、ヒンクレイ大管長の預言者としての優先事項でもあるでしょう。

先週の若い女性の集会の中で、ヒンクレイ大管長はこう言いました。「什分の一はお金で納めますが、もっと大切なことは、信仰をもって納めることです。」⁹

別の機会に大管長はこう言いました。「これは金銭の問題というよりは信仰の間

題です……皆さん一人一人に、この重要な問題において、主の御言葉をそのまま受け入れるよう強くお勧めします。」¹⁰

什分の一は、わたしたちの献身です。この地球は主に帰属します。わたしたちの命もそうです。主は地のあらゆるものを使うことをお許しになっており、ほんの10分の1を返すように求めておられるだけです。什分の一は感謝のしるしであり、従順のしるしです。また、わたしたちの進んで行う精神、献身のしるしです。什分の一を進んで納めるなら、正直で清い心を持てるようになります。什分の一を納めることにより、主に対する愛を増し加えることができます。

主はこうおっしゃいました。「今日は犠牲の日であり、わたしの民が什分の一を納める日である。」¹¹

兄弟姉妹、信仰を実践しましょう。進んで従う意志を示しましょう。イエス・キリストの御名によって約束します。皆さんとわたしが、正直に、完全な什分の一を納めるなら、主は天の窓を開いてくださいます。

天の御父は生きておられます。御父は皆さんを祝福してください。イエス・キリストは救い主です。ジョセフは天の御父と愛する御子イエス・キリストにまみえました。これは主の教会です。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は神の生ける預言者です。大管長はわたしたちに頻繁に神殿へ参入するよう求めています。イエス・キリストの御名によりへりくだり祈ります。アーメン。

注

1. マラキ3:8-10
2. 3ニーファイ24:8-10参照
3. 教義と聖約119:4
4. レビ27:30。32-33節も参照
5. 3ニーファイ24:10
6. 教義と聖約64:34
7. エテル6:12
8. 歴代下7:14
9. 「絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい」『リアホナ』2007年5月号、116
10. 「主のみ業を推し進める」『聖徒の道』1986年1月号、84
11. 教義と聖約64:23

帰還可能点

十二使徒定員会

ディーター・F・ワークトドルフ長老

イエス・キリストの贖いの賜物は、どんなときにも、どんな所でも、悔い改めと赦しの祝福を授けてくれます。



旅 客機の機長になる訓練を受けていたとき、長距離の飛行方法を習得しなければならなかった。広大な海や砂漠の上を飛び、大陸から大陸へ渡る飛行では、予定の目的地へ安全に到着するために周到な計画が必要です。この無着陸飛行は14時間に達し、ほぼ9,000マイル(約1万4,000キロ)にも及びることがあります。

そうした長距離飛行には、「帰還可能点」としてよく知られている重要な決定点があります。引き返して、飛び立った空港へ無事に戻れるだけの燃料が十分に残っているという地点です。この点を過ぎてしまうと、戻るという選択肢は失われ、飛び続けなくてはなりません。そのため、この点は「帰還不能点」とよく言われます。

わたしたちの生活には「帰還不能点」があるでしょうか。

「あらゆる偽りの父」(2ニーファイ2:18), 「争いの父」(3ニーファイ11:29), 「あらゆる罪の根源」(ヒラマン6:30), 「神に対する敵」(モロナイ7:12)であるサタンは、わたしたちが罪を犯すといつも、引き返すことはできないのだと、悪の力を用いて説得します。サタンはわたしたちがもはや赦されないと感じるように望んでいるので、聖文では「訴える者」と呼ばれています(黙示12:10参照)。わたしたちが罪を犯すと、「帰還不能点」を過ぎてしまい、進路を変えるにはもう遅いと考えさせたいのです。美しいと同時に悩み多きこの世では、こうした考え方が家族や夫婦、個人の生活に深い悲しみや苦痛をもたらしています。これは悲しい現実です。

サタンは神の業を装おうとし、そうすることによって、多くの人をだまそうとしています。わたしたちを失望させ、サタンのように惨めな思いにさせ、もはや赦されないと信じ込ませるために、神の正義が強調されている聖文の言葉を悪用することもあります。聖文を用いて、憐れみの余地はないことをほめかすのです。

わたしたちが無事に引き返すために、主はどのような計画を持っておられるでしょうか。

わたしたちを悪魔の影響から守ってくれるのは、イエス・キリストの福音です。イエス・キリストが人類のために完全な贖

いをされたという良きおとずれです。それは神と和解することができるという、愛と希望と憐れみのメッセージです。

罪とは、神の律法に故意に背くことです。イエス・キリストの贖いは、罪の結果を正し、克服するよう、神がその子供たちに与えられた賜物です。神は御自分のすべての子供たちを愛しておられ、わたしたちへの愛と希望を絶やさないことは決してなさいません。天の御父の計画は明確であり、このようなすばらしい約束をしています。「神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、……この世が救われるためである。」(ヨハネ3:17)

キリストはわたしたちを救うために来られました。道を間違っても、イエス・キリストの贖いは、罪が「帰還不能点」ではないという確信を与えてくれます。人を救うための神の計画に従うなら、無事に戻ることができるのです。

この計画は、宇宙で最高の権威を持つ御方、わたしたちの天の御父である神から頂いたものです。創世の前から用意された「偉大な幸福の計画」であり、「憐れみの計画」、「贖いの計画」、「救いの計画」です。この計画のおかげでわたしたちは肉体を与えられ、準備期間として死すべき状態を経験し、神のみもとへ戻り、永遠の幸福と栄光に満ちた生活をすることができます。それはイエス・キリストの回復された福音の教義の中で説明されています。

この計画に従うと、わたしたち個人や家族にとっても、また将来の世代や、さらには過去の世代にとっても、すばらしい永遠の結果が待ち受けています。この計画には、神と和解し、罪を赦されることが含まれています。

どのようにして神の赦しを受けられるのでしょうか。

教会は、「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなって」いることを認めています(ローマ3:23)、罪と同様に悔い改めと赦しが現実に存在することも明言しています。

イエス・キリストの贖いにより、各人は自分個人の罪に対して責任を負うことに



なります。しかし、贖いの祝福と恩恵にあずかることにより、個人の罪の結果を克服することができるのです。

デビッド・O・マッケイ大管長はこのように述べています。「イエス・キリストの福音の原則と儀式は、どれも意義深く重要なものです。……しかし、永遠に効力を持つ神聖な原則、すなわち悔い改めほど、人類の救いに不可欠なものはほかにありません。」(*Gospel Ideals* [1953年], 13)

「悔い改めて、主イエス・キリストを信じるのでなければ、……決して救いは与えられないからである。」(モーサヤ3:12)
人を救うのは、悔い改めだけではあり

ません。イエス・キリストの血がわたしたちを救うのです。わたしたちが誠実に、心から行動を改めるだけでなく、「わたしたちが最善を尽くした後、神の恵みによって救われる」のです(2ニーファイ25:23)。とはいえ、真の悔い改めは神の赦しを生活に招くために必須の条件です。真実の悔い改めは「真っ暗な夜[を明るい]昼」に変えてくれます(スペンサー・W・キンボール『赦しの奇跡』364)。

真の悔い改めには何が必要でしょうか。

悔い改めを可能にするのは、キリストを信じる強い信仰です。信仰には、「[神の]

特性、完全さ、属性についての正しい理解」が伴わなくてはなりません(*Lectures on Faith* [1985年], 38)。神がすべてを御存じで、愛と憐れみに満ちておられることを信じるなら、救いについて揺らぐことのない信頼を神に置くことができます。キリストに対する信仰は、神の御心に調和しない思いや信念、行為を変えるのです。

真の悔い改めは正しい行いへ引き戻してくれます。真の悔い改めをするには、罪を認め、深く後悔し、神の御心に添った悲しみを感じ、神に罪を告白しなければなりません。罪が重大な場合、権限を受けた神権指導者にも告白します。そして、神に赦しを求め、自分の行動が招いたすべての損害を償うために、できる限りのことをする必要があります。悔い改めは思いと心の変化を意味します。すなわち、悔い改めるとわたしたちは、間違っただけをやめ、正しい行いを始めます。神と自分自身、生活全体に対する態度を改めるのです。

赦しの実とは何でしょうか。

真の悔い改めは贖いの効果による祝福を生活に招きます。すなわち、神の赦しと神の平安を感じ、罪悪感や悲しみは消え去ります。御霊の力をさらに豊かに受け、わたしたちの天の御父とともに生活するためにより良い備えができます。

スペンサー・W・キンボール大管長はこのような教えています。「赦しの奇跡の真髄は、以前には不安と動揺と焦燥と、恐らくは激しい苦悩とを味わっていた魂に、平安をもたらすことである。……神は……苦悶、悔い、……恐れ、罪の涙をぬぐい取ってください。」(『赦しの奇跡』364, 370)

イエスはこう約束しておられます。「わたしの平安をあなたがたに与える。……あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ14:27)

神の赦しにより罪深い状態から幸福な状態に回復された預言者アルマはこのように宣言しています。「悪事は決して幸福を生じたことがない。」(アルマ41:10) アルマは身をもって罪の苦痛を体験しましたが、真の悔い改めと赦しに伴う幸福に

ついて、胸を躍らせてこう語りました。「まことに、あなたに言うが、……わたしはほかにあり得ないほど美しく、また快い喜びを味わった。」(アルマ36:21) また、赦しを求めるすべての人に、このような力強く賢明な勧告を与えています。「さて、……あなたはこれからはもう、これらのことに思い悩まされることなく、ただ自分の罪にだけ心を悩まし、その悩みによって悔い改めに導かれるようにしてもらいたい。」(アルマ42:29)

神に赦されたことは、どうしたら分かるでしょうか。

ハロルド・B・リー大管長はこのように述べています。「過ちを克服するためにできる限りのことをすべて行い、二度と同じ過ちを繰り返さないと固く決意するとき、皆さんは良心の安らぎを感じ、それによって罪が赦されたことを知るでしょう。」(“Law of Chastity Vital, Girls Told,” Church News, 1972年9月2日付, 7で引用)

真の悔い改めをすると、キリストは罪悪感の重荷を取り除いてくださいます。そこで、赦され、清められたことが自分で分かるのです。聖霊が確証を与え、わたしたちを聖めてくださいます。これ以上に大きな赦しの証はほかにありません。

主はこう述べておられます。「悔い改めて主の戒めを守る者は赦されるであろう。」(教義と聖約1:32, 強調付加)「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」(マタイ11:28)「忠実かつ熱心[であり]なさい。そうすれば、わたしはあなたがたの愛の腕の中に抱くであろう。」(教義と聖約6:20)

また、主はこのように宣言しておられます。「見よ、自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」(教義と聖約58:42)

わたしたち自身は自分の罪を思い起こすことができるので、赦されないとサタンは信じ込ませようとしします。サタンは偽り者です。わたしたちの目をくらませ、悔い改めと赦しの道に近寄せないようにしているのです。神はわたしたちが自分の



罪を思い起こさなくなるとは約束されませんでした。記憶は同じ間違いを繰り返すのを避けるのに役立ちます。しかし、もし誠実で忠実であるなら、罪の記憶は時がたつにつれて和らいでいきます。これは必要とされる癒しと聖めの過程です。アルマは、イエスに憐れみを呼び求めた後も自分の罪を覚えていましたが、赦されたことを知っていたので、もはや罪の記憶に苦しむことがなくなったと証しています(アルマ36:17-19参照)。

罪深い記憶に引き戻すものを避けるのはわたしたちの責任です。「打ち砕かれた心と悔いる霊」を持ち続けるとき(3ニーファイ12:19)、神が「もう[わたしたちの罪]を思い起こさない」ということを信じるようになります。

人を赦すことは、わたしたちが神の赦しを受けるうえでどのように役立つでしょうか。

イエスは永遠の真理についてこう教えられました。「わたしたちが自分に負債のある者を赦していますように、わたしたちの負債をお赦しください。……もしあなたがたが人の過ちを赦すならば、天におられるあなたがたの父もあなたがたを赦してくださるであろう。もし……赦さないならば、あなたがたの父も、あなたがたの過ちを赦してくださらないであろう。」(3ニーファイ13:11, 14-15)

したがって、人の過ちを赦すことは、赦しを受けるための前提条件なのです。

わたしたち自身の徳のためにも、わたしたちには、人を赦し、赦しを求める勇氣が必要です。人を赦す心ほど、気高く勇敢な心はほかにありません。これには自分を赦すことも含まれます。

わたしたちは皆、神の御言葉により、寛容と憐れみの心を示し、互いに赦し合うよう戒められています。こうしたキリストのような特質が、家族や結婚生活、ワードやステーク、地域社会そして国の中で大いに求められています。わたしたちが、赦しに伴う喜びを人々に惜しみなく与えるならば、わたしたち自身の生活にもその喜びがもたらされます。口先だけの悔い改めでは不十分です。心や思いの中から辛辣な気持ちや思いを追い払い、キリストの光と愛を招き入れる必要があります。結果として、主の御霊は、神から与えられる良心の安らぎに伴う喜びで、わたしたちの魂を満たしてくれるでしょう(モーサヤ4:2-3参照)。

愛する兄弟姉妹、長距離飛行をするジェット機は、帰還可能点を過ぎた後で、向かい風が非常に強かったり、飛行する高度が低すぎたりすると、当初の目的地とは異なる空港に進路変更を余儀なくされることがあります。しかし、天の家に帰るといふ、わたしたちの人生の旅路においてはそのようなことはありません。皆さんが人生の旅路のどの地点にいても、どんな試練に遭っていても、帰還可能点も希望も常に存在します。皆さんは自分の人生の操縦桿を握っており、神は皆さんが無事にみもとに戻れるよう計画を用意してくださっています。

イエス・キリストの贖いの賜物は、どんなときにも、どんな所でも、悔い改めと赦しの祝福を授けてくれます。この神聖な賜物のゆえに、罪の悲惨な道から無事に戻る機会がわたしたち皆に開かれているのです。

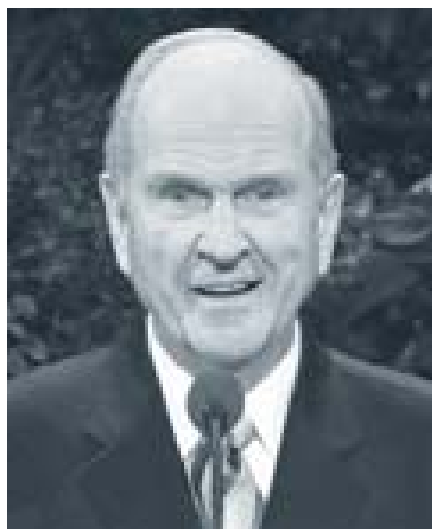
この祝福について、愛に満ちた天の御父に感謝し、イエス・キリストの御名により心から証します。アーメン。

悔い改めと改心

十二使徒定員会

ラッセル・M・ネルソン長老

悔いる心を持つ人は改心した人であり、改心した人は悔いる心を持つ人なのです。



昨年、デビッド・S・バクスター長老とわたしは車でステーキ大会へ向かう途中、あるレストランに立ち寄りました。食事をして車へ戻ろうとしたとき、一人の女性に呼び止められました。わたしたちは彼女の姿に驚きました。彼女の身だしなみが(というよりは、身だしなみに欠けている様子が)、いかにも「極端」だったからです。彼女はわたしたちに教会の長老かどうか尋ねてきました。そうだと答えました。すると彼女は、自分の罪に満ちた悲劇的な人生について事細かに語りだしました。28歳という若さで、彼女は悲惨な状態に陥っていました。人生に何の希望も、生きる価値も見いだせずいたのです。話している間に、彼女の魂の優しさがにじみ出てきました。彼女は涙ながらに、自分にも絶望から抜け出す望みがあるかと聞きました。

わたしたちは答えました。「もちろん、希望はあります。希望は悔い改めと結びついています。変わることができますよ。あなた

も「キリストのもとに来て、キリストによって完全にな」ることができるのです。』¹ わたしたちは彼女に悔い改めを引き延ばさないように強く勧めました。² 彼女はへりくだってむせび泣き、心から感謝してくれました。

車で移動を続けながら、バクスター長老とわたしはその経験について思い巡らしていました。そしてアロンが打ちひしがれた人物に与えた勧告を思い出しました。アロンはこう言っています。「あなたの罪をすべて悔い改め、神の御前にひれ伏して、……神の御名を呼ぶならば、そのときあなたは、今願っているものを得るでしょう。』³

総大会のこの最終部会で、わたしも悔い改めについてお話しします。それは主がその僕たちに、すべての民に悔い改めを叫ぶようにお命じになったからです。⁴ 主は御自身の子供たちに喜びをもたらすために福音を回復されましたが、その福音の中の必要不可欠な要素が悔い改めなのです。⁵

悔い改めの教義には福音そのものと同じくらい古い歴史があります。聖書の創世記⁶と黙示録⁷の中でも悔い改めが教えられています。イエス・キリストがこの地上でなされた教えの中には、次のような警告も含まれていました。「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ。』⁸ 「あなたがたも悔い改めなければ、みな同じように滅びるであろう。』⁹

モルモン書には悔い改めに関する聖句がさらに多く記載されています。¹⁰ 古代アメリカの民に向かって、主は次のような戒めをお与えになりました。「もう一度あなたがたに言う。あなたがたは悔い改めて、わたしの名によってバプテスマを受け、幼子のようにならなければならない。そうしなければ、あなたがたは決して神の王国を受け継ぐ

ことができない。』¹¹

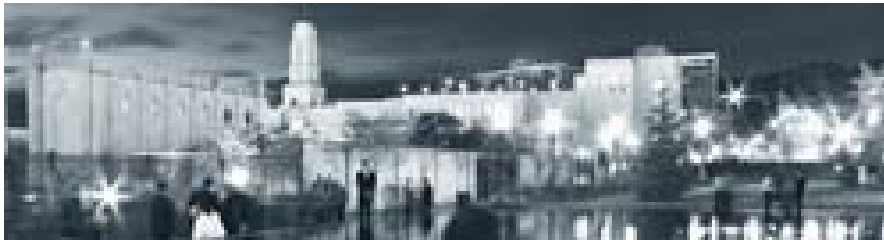
福音の回復に伴い、救い主は再びこの教義を強調されました。教義と聖約にある138の章のうち、なんと47の章に、「悔い改める」、すなわち「repent(リペント)」という言葉とその派生語が記されているのです。¹²

罪を悔い改める

悔い改めるとはどういう意味でしょうか。まず、辞書の定義から見てみましょう。辞書には、「[悔い改めるとは]罪に背を向け、……後悔の念と悲しみを感じること」¹³と書かれています。罪を悔い改めるのは決して楽なことではありません。しかし、悔い改めによって得られる結果には、それだけの価値があります。悔い改めるには幾つかの段階を踏まなければなりません。謙遜に祈ることによって、その重要な段階を一歩ずつ進むことができます。赦しを得るには¹⁴、まず罪を認め、悲しみ、告白することが前提となります。「人が罪を悔い改めたかどうかは、これによって分かる。すなわち、見よ、彼はそれを告白し、そしてそれを捨てる。』¹⁵ 告白は、罪を犯した相手に向かってなされなければなりません。告白は心からのものでなくてはならず、単に罪が露見したからそれを認めるというものではありません。複数の人に対して罪を犯した場合は、その一人一人に罪を告白すべきです。教会の会員資格や権利に影響を及ぼす可能性のある罪に関しては、直ちに主がイスラエルの一般判士として召したビショップに告白しなければなりません。¹⁶

次の段階は償い、つまり、可能であれば、与えた損害を回復することです。さらに次の段階は、より善くなる決意をし、元の悪い状態に逆戻りしないように自分を抑制すること、すなわち「十分に固い決意をもって」¹⁷悔い改めるといことです。イエス・キリストが贖い¹⁸によって償ってくださったおかげで、罪を犯した人も悔い改めて罪から離れるなら完全な赦しが与えられます。イザヤは悔いる心を持つ人に次のように言っています。「たとえあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。』¹⁹

教義と聖約第19章を読めば、主が悔い改めを絶対不可欠なものとして強調しておら



れることは明らかです。「わたしは、悔い改めるようにあなたに命じる。わたしの口の鞭によって、わたしの憤りによって、またわたしの怒りによって打たれて、つらい苦しみを被ることのないように、悔い改めなさい。これらの苦しみがいかにつらいか、あなたは知らない。いかに激しいか、あなたは知らない。まことに、いかに堪え難いか、あなたは知らない。」

見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。

しかし、もしも悔い改めなければ、彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しむであろう。²⁰

主が悔い改めるように強く求めておられるのに、たいいてい人はその差し迫った必要性をあまり感じていません。²¹ そのような人たちは、自分のことを善良であろうと努力している人間であると考えているのです。²² 彼らに悪意はありません。しかし、主はその教えの中ではっきりと、すべての人が悔い改めなければならないと言っておられます。単に、してはならないことをした罪だけでなく、なすべきことを怠っている罪も悔い改めよと言っておられるのです。子供を持つ親に与えられた次の警告がその良い例です。「シオンにおいて、……子供を持つ両親がいて、……悔い改め、生ける神の子キリストを信じる信仰、およびバプテスマと按手による聖霊の賜物の教義を理解するように彼らを教えなければ、罪はその両親の頭にある。」²³

悔い改めという言葉の広い意味

悔い改めの教義には辞書の定義よりもはるかに広い意味があります。イエスが「悔い改めよ」と言われたとき、弟子たちはその戒めをギリシャ語の「metanoeo(メタノエオ)」という動詞を使って記録しました。²⁴ これは非常に重要で深い意味を持つ言葉です。この単語の「meta(メタ)」という接頭辞は「変わる」という意味です。²⁵ 接尾辞は4つの重要なギリシャ語の言葉と関係があります。つまり「思い」という意味の「nous(ノウス)」²⁶、「知識」という意味の「gnosis(グノシス)」²⁷、

「霊」という意味の「pneuma(プネウマ)」²⁸、そして「息」という意味の「pnoe(プノエ)」²⁹です。

ですから、「悔い改めよ」と言われたとき、イエスはわたしたちの思いと知識と霊と、さらに息まで変えなさいと言っておられたのです。息を変えろというのは、一息一息を与えてくださる主に感謝しつつ呼吸することだと、一人の預言者が説明しました。ベニヤミン王は次のように言っています。「あなたがたがまた、……あなたがたを造り、……あなたがたに息を与えて日々守り、いかなる瞬間にも……支えてくださっている御方に、たとえ全身全霊を尽くして仕えたとしても、それでもなお、あなたがたはふつつかな僕である。」³⁰

そうです。主は、わたしたちに悔い改めて、生き方を変え、主のみもとに来て、もっと御自身のようになるように命じておられるのです。³¹ これには完全な変化が必要です。アルマは息子に教えて言いました。「忘れずに若いうちに知恵を得なさい。……神の戒めを守ることを若いうちに習慣としなさい。……あなたの思いを常に主に向けるようにしなさい。まことに、あなたの心の愛情をとこしえに主に向けるようにしなさい。」³²

真に悔い改めるとは、主イエス・キリストと主の神聖な業に完全に改心することを意味します。アルマが次の質問をしたとき、実はこの概念を教えていたのです。「教会の同胞よ、わたしはあなたがたに尋ねる。あなたがたは霊的に神から生まれているか。あなたがたの顔に神の面影を受けているか。あなたがたは心の中に、この大きな変化を経験したか。」³³ このような変化は「再び生まれ」て改心し、神の王国へ至る旅路に焦点を当てるようになったときに生じるものです。³⁴

悔い改めの実

悔い改めの実は甘いものです。悔い改めて改心した人は、回復された福音の真理が自分の思いと行いを支配して新たな習慣を形作り、人格を形成するのを経験します。彼らは忍耐強くなり、神の御心に添わないものをすべて拒むことができるようになります。³⁵

さらに、それまで制御できなかった欲望³⁶や、ポルノグラフィや有害な薬物への依存³⁷、激情³⁸、肉の思い³⁹、高慢⁴⁰が軽減され、代わりに主に完全に帰依して主に仕え、その模範に従う決心が生じます。⁴¹ 彼らの思いは徳で飾られ、自信が増します。⁴² 什分の一を義務や犠牲と感じるのではなく、自分の身を守ってくれる喜ばしい祝福と考えるようになります。⁴³ 真理をよりいっそう好ましいものと感じるようになり、称賛に値することにもっと携わりたいと思うようになります。⁴⁴

悔い改めは、霊的な成長を促す主の方法です。ベニヤミン王は次のように説明しています。「生まれながらの人は神の敵であり、アダムの墮落以来そうであって、今後もそうである。また人は、聖なる御霊の勧めに従い、主なるキリストの贖罪により、生まれながらの人を捨てて聖徒となり、子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり、子供が父に従うように、主がその人に負わせるのがふさわしいとされるすべてのことに喜んで従わないかぎり、とこしえにいつまでも神の敵となるであろう。」⁴⁵ 兄弟姉妹の皆さん、これがすなわち改心ということです。悔い改めこそ改心なのです。悔いる心を持つ人は改心した人であり、改心した人は悔いる心を持つ人なのです。

亡くなった人たちの悔い改め

生きている人は皆、悔い改めることができます。それでは、亡くなった人たちはどうでしょうか。彼らにも悔い改めの機会はあります。聖文はこう宣言しています。「この神権時代の忠実な長老たちが、死すべき世を去っても彼らの働きを続け、死者の霊たちの大なる世界において……罪の束縛の下にいる者たちの間で、悔い改め……の福音を宣べ伝えているのを見た。」

悔い改める死者は、神の宮の儀式に従うことによって贖われるであろう。

彼らは自分の背きの代価を支払い、洗われて清くなった後、その行いに応じて報いを受けるであろう。⁴⁶

預言者ジョセフ・スミスはさらに啓示を受けました。「先祖と子孫の間にある事項について固いつながりがなければ、地はのろいをもって打たれます。」……[死者]なしには

わたしたちが完全な者とされることはなく、またわたしたちなしには彼らが完全な者とされることはないのです。……[この]神権時代の到来に当たって、……神権時代と鍵と力と栄光のすべての、ことごとくの、完全な和合と結合が起こ……ることが必要だからです。』⁴⁷

イエスはわたしに「光となるように」⁴⁸ 望んでおられるでしょうか。もちろんです。あなたにも、そう望んでおられます。また、家族が散り散りになるというのろいを抑制するために⁴⁹、日の栄えの結合の鎖を作る鍛冶屋の役割を果たすことも望んでおられます。地球が造られ神殿が建てられたのは家族が永遠にともに結ばれるためです。⁵⁰ わたしたちの多くは(たとえ大多数ではないとしても)、先祖のためにもっと神殿や家族歴史の業に取り組むよう、悔い改めて改心する必要があることでしょう。つまり、祖先が悔い改めるためには、まずわたしたちが悔い改める必要があるのです。

わたしたちの亡くなったすべての先祖を代表して、罪のぬかるみにはまったあの28歳の女性と、わたしたち一人一人に対して宣言します。悔い改めの清らかな祝福を受けることは可能です。主と主の神聖な業に完全に帰依することによってそれを受けることができますのです。

神が生きておられることを知っています。イエスはキリストです。この教会は主の教会です。現在の主の預言者はゴードン・B・ヒンクレー大管長です。以上をイエス・キリストの御名によって証^{あかし}します。アーメン。

注

1. モロナイ10:32
2. アルマ13:27:34:33参照。スペンサー・W・キンボール大管長は引き延ばしとは「[自分の]責任を今進んで受け入れようとしなさいこと」であると説明している(『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』5)。
3. アルマ22:16。モルモンが導いた罪深い民のことも思い出される。モルモンは彼らのことで心を痛めこう語った。「わたしは主の裁きが彼らに下ることを知っていたので、望みを持っていなかった。彼らが自分たちの罪悪を悔い改めず、自分

たちを造られた御方に請い願うことなく、ただ自分たちの命のために戦っていたからである。』(モルモン5:2)

4. 特にこの末日においてそうである。教義と聖約18:11-12, 14:19:21:34:5-6:43:20:133:16-17参照
5. 「福音の第一の原則と儀式とは、第一に主イエス・キリストを信じる信仰、第二に悔い改め、第三に罪の赦しのために水に沈めるバプテスマ、第四に聖霊の賜物を授けるための授手である。』(信仰箇条1:4)教義と聖約39:6:84:27:138:19も参照。
6. ジョセフ・スミス訳創世4:8から和訳
7. 黙示2:16参照
8. マルコ1:15。マタイ4:17も参照
9. ルカ13:3
10. 「悔い改める」に当たる「repent」という言葉の派生語(*repent, repentance, repented, repenteth*など)が(悔い改めの教義を教える際に)出てくるのは、欽定訳聖書では72回、ジョセフ・スミス訳聖書では68回である。モルモン書では、「repent」という単語とその派生語は360回出てくる。
11. 3ニーファイ11:38。もう一つの例——「わたしはあなたがたに、わたしを信じ、罪を悔い改めて、打ち砕かれた心と悔いる霊をもってわたしのもとに来るようという父の律法と戒めを与えた。』(3ニーファイ12:19)
12. 教義と聖約の以下の章を参照。1章, 3章, 5-6章, 10-11章, 13-16章, 18-20章, 29章, 33-36章, 39章, 42-45章, 49-50章, 53-56章, 58章, 63-64章, 66章, 68章, 75章, 84章, 90章, 93章, 98章, 104章, 107章, 109章, 117章, 124章, 133章, 136章, 138章
13. *Webster's Ninth New Collegiate Dictionary* (1987年)、「repent(悔い改める)」の項
14. 1ヨハネ1:9;モーサヤ26:29;教義と聖約61:2:64:7参照
15. 教義と聖約58:43。もしだれも傷つかなかった場合、祈りの中で神に告白すべきである。そうすれば、隠れたことをお聞きになる主が公然と報いてくださるだ

ろう(マタイ6:4, 6, 18:3ニーファイ13:4, 6, 18参照)。

16. 教義と聖約107:73-74参照
17. 2ニーファイ31:13;モルモン書ヤコブ6:5;モーサヤ7:33;3ニーファイ10:6:12:24:18:32
18. モーサヤ4:2-3参照
19. イザヤ1:18
20. 教義と聖約19:15-17
21. 「悔い改め」という意味の「repent」という言葉から「罰」という意味のある「penalty(罰則)」や「penalize(罰則を適用する)」という言葉を連想し、罰の伴わない罪は悔い改める必要がないと推論する人もいるかもしれない。
22. スペンサー・W・キンボール大管長はこう述べている。「たぶんぼんやりと皆がそう思っていることがあります。すなわち、主は悔い改めを、殺人、姦淫、盗み、その他の忌まわしい罪を犯した人々のためにだけに備えられたのだという考えです。もちろんそうではありません。もしわたしたちが謙遜であって、福音に従って生活したいと望んでいるならば、悔い改めは、霊的なことであろうとこの世的なことであろうと、自分が人生で行うすべてのことに当てはまると考えるようになるでしょう。悔い改めはまだ完全な状態に到達していないすべての人のために備えられているのです。』(『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』37) 1ヨハネ1:8;モーサヤ4:29-30も参照
23. 教義と聖約68:25, 強調付加
24. 「metanoeo(メタノエオ)」という言葉がギリシャ語のマタイ4:17;マルコ1:15;ルカ13:3で主の言葉として使われていた。使徒2:38:3:19:8:22でもペテロが同じ言葉を使っている。
25. マタイ17:2とマルコ9:2の「transfigured(姿が変えられた)」という言葉は「metamorphoo(形が変わる)」という言葉から翻訳されている。
26. エペソ4:23の「mind(心)」という言葉は、ギリシャ語の「nous(ノウス)」という言葉から翻訳されている。
27. ルカ1:77;ローマ2:20;2コリント6:6の「knowledge(知識)」という言葉は、

「gnos(グノス)」あるいは「gnosis(グノシス)」という言葉から翻訳されている。「gnos」という言葉の前に「a-」という否定を示す接頭語が付くと、「agnostic(認知不能)」という単語のように「知識に欠けた」という意味を表す。使徒17:23の「unknown(知られない)」は「agnostos(アグノストス)」から、「ignorantly(知らずに)」という語は「agnoeo(アグノエオ)」という語幹から翻訳されている。

28. マタイ12:18とローマ8:5の「spirit(霊)」という語は、ギリシャ語の「pneuma(プネウマ)」から翻訳されている。
29. 使徒17:25の「breath(息)」という言葉はギリシャ語の「pnoe(プノエ)」から翻訳されている。
30. モーサヤ2:21
31. 3ニーファイ27:21, 27参照
32. アルマ37:35-36
33. アルマ5:14
34. ヨハネ3:3, 7;モーサヤ27:25;アルマ5:49;7:14;モーセ6:59参照
35. モロナイ10:32参照
36. ガラテヤ6:7-8参照
37. 士師13:7;ルカ1:15;教義と聖約89:5, 7-9参照
38. マタイ5:27-28;アルマ38:12;3ニーファイ12:27-28;教義と聖約42:23参照
39. ローマ8:5-6参照
40. アルマ38:11;教義と聖約121:37参照
41. ヨハネ13:15;1テモテ4:12;1ペテロ2:21;2ニーファイ31:16;3ニーファイ18:16;モルモン7:10参照
42. 教義と聖約121:45参照
43. 教義と聖約85:3参照
44. ビリビ4:8;信仰箇条1:13参照
45. モーサヤ3:19
46. 教義と聖約138:57-59, 30-34節も参照
47. 教義と聖約128:18
48. 『子供の歌集』38
49. 教義と聖約27:9;110:14-15;128:18;138:48参照
50. 教義と聖約2:2-3;132:19;138:47-48;ジョセフ・スミス—歴史1:39参照

閉会に当たり

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

どの話者も、……靈感を与える知識を分かち合うために、祈りの気持ちで準備しました。



わたしの愛する兄弟姉妹の皆さん、わたしたちはすばらしい大会を楽しんできました。わたしたちはソルトレーク・タバナクルの大規模な改装を行い、使用を再開するに際し、再奉献いたしました。各部会でのカンファレンスセンターは満席になりました。わたしたちの言葉は世界中にいる教会員に響き渡りました。

そしてこれからそれぞれの家に帰ります。運転をする方は、気をつけて運転してください。このすばらしい大会の御霊が事故で台なしにならないようにしましう。

皆さんが教会機関誌の5月号を家庭の夕べのテキストとして利用して、この大会で語られた内容を復習するよう願っています。どの話者も、聞く人すべてがもう少し努力したい、もう少し善い人になりたいという気持ちになれるようにと望みながら、靈感を与える知識を分かち合うため

に、祈りの気持ちで準備しました。

皆さんの家庭に平安と調和がありますように。夫の皆さん、妻を愛して、大事にしてください。彼女たちは皆さんの最高の宝物です。妻の皆さん、夫を励まし、夫のために祈ってください。彼らはあらゆる助けが必要なのです。両親の皆さん、子供に優しく接してください。彼らは皆さんの名前に名誉をもたらす次の世代です。

それでは、しばしの別れに際し、愛する友である皆さんに神の祝福がありますように。皆さんに別れを告げながら、イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。



おんちち 天の御父の娘

中央若い女性会長
スーザン・W・タナー

天の御父は皆さんを御存じで、愛しておられます。皆さんは天父の特別な娘です。主は皆さんのために計画を用意しておられます。



義理の息子が3歳の娘エライザに、とても特別なテーマで家庭の夕べのレッスンをすると話したところ、エライザはにっこり笑い、そのテーマを当てようとしてこう言いました。「きっと、わたしのことね。だって、わたし、とっても特別なもの。」エライザは、自分がだれであるかを覚えています。自分がとても特別な神の子であることを知っているのです。エライザはこのことを母親から学びました。この集会の開会で歌った「神の子です」(『賛美歌』189番)は、エライザが赤ちゃんのときから毎晩聞いていた子守歌です。

12歳から18歳までの若い女性は、世界中で、そしてほとんどの言語で同じことを宣言しています。「わたしたちは天父の娘です。天父はわたしたちを愛し、わたしたちも天父を愛しています。」(『若い女性のテーマ』『成長するわたし』[小冊子], 5)しかし成長するにつれて、3歳のエライザ

が抱く「わたしは特別」という確かな知識から遠ざかってしまうことがよくあります。若人はしばしば「自己認識の危機」を経験し、自分は一体だれなのかと悩みます。また、10代は「自己認識のおびやかされる」時期でもあるとわたしは考えます。この世の考えや哲学、策略がわたしたちを混乱させ、翻弄し、ほんとうの自分についての知識を奪おうとするからです。

ある、とても立派な若い女性がわたしにこう言いました。「時々、自分が何者なのか自信がなくなります。天のお父様の愛が感じられず、生きることがとてもつらく思えるのです。わたしが望み、願い、夢に見たようにはいかないことばかりです。」わたしは今、そのとき彼女に話したことをそのまま世界中の若い女性の皆さんに伝えます。わたしははっきりと知っています。皆さんは神の娘です。天の御父は皆さんを知り、愛し、皆さんのために計画を用意しておられます。御父はわたしに、このメッセージを皆さんに伝えるよう望んでおられます。

末日の預言者と使徒たちは、わたしたちの持つ神から受け継いだ特質について証しています。家族についての世界への宣言にはこうあります。「人は皆、天の両親から愛されている霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末を受け継いでいます。」(『リアホナ』2004年10月号, 49)また、ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこうのように話しました。

「皆さんに及ぶ者などいません。皆さんは神の娘たちなのです。

生まれながらの受け継ぎとして、皆さん

は美しく、神聖な、天与の特質を授かっています。決してそのことを忘れないでください。皆さんの永遠の御父は偉大な宇宙の主であられます。御父はすべてを支配しておられますが、御自分の娘である皆さんの祈りにも耳を傾け、皆さんが語りかけるときに聞いてくださいます。そして皆さんの祈りにこたえてくださるのです。皆さんを独りにしたりはなさいません。」(『気高い道にとどまる』『リアホナ』2004年5月号, 112)

自分が神の娘であるという知識を心の奥深くにしっかりと植え付けるなら、皆さんは慰められ、信仰を強められ、振る舞いに影響を受けるでしょう。この徳高い真理で絶えず皆さんの思いを飾るなら、今年のミュージアルのテーマが約束するように、自信をもって神の御前に立つことができるのです(教義と聖約121:45参照)。

では、どうしたら自分が天の御父の娘であると知り、また感じるができるでしょう。天と地との間には幕があり、わたしたちはこの幕、つまり「眠りと忘却」を通してこの世に生まれました(ウィリアム・ワーズワース“Ode Intimations of Immortality from Recollections of Early Childhood”第5連, 58)。これは、わたしたちが「完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現するために、地上での経験を得[る]」うえで必要なことです(『リアホナ』2004年10月号, 49)。天の御父はわたしたちを愛し、わたしたちが御父のことを思い出そう願っておられます。天の御父が、わたしたちに永遠をかいま見させてくださるのはそのためです。使徒パウロはこのように教えています。「御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。」(ローマ8:16)御霊は自分のほんとうの姿をかいま見させてくださいます。わたしたちが祈るとき、聖文を読むとき、わたしたちに対する主の憐れみについて思い巡らすとき、神権の祝福を受けるとき、人に仕えるとき、あるいは人から愛され、認められていると感じるとき、御霊はしばしばわたしたちに語りかけてくださいます。



モーセは力強く霊的な経験を通して自分が何者であるかを学びました。神と顔を合わせて語ったモーセは、自分が神の息子であり、特別な使命を与えられていることを知りました。この驚くべき経験の後、モーセはサタンに打たれました。しかし、神の栄光を身をもって感じていたモーセは、サタンが何の栄光も持たないことに気づきました。そして自分が神の息子であり、神から使命を与えられていることを知っていたので、モーセはサタンを退け、義にかかった判断を下し、力を求めて神を呼び求め、常に神の御霊とともにいるための力と能力を持つことができたのです(モーセ1章参照)。

わたしたちも同じ方法を使うことができます。自分が何者であるかを知り、感じるようになると、善と悪を見分け、誘惑に抵抗するための力が得られるようになります。主から与えられた自分の神聖な使命を理解する一つの方法は、祝福師の祝福です。これは非常に具体的で個人的なメッセージであり、神権の力によってわたしたち一人一人が受けることができます。

皆さんの持つ永遠にわたる特質を教えてください。霊的な物の見方は、親や指導者を通して得ることもできます。彼らは、靈感を受けて皆さんの真の姿を見ることができ、皆さんを勇気づけてくれます。わたしはこれまで、自分の子供たちの真の姿について、とても具体的な御霊のささやきを折に触れて受けてきました。子供の

一人が生まれる前の晩、心の中に、この子はきょうだい一人一人にとってすばらしい友、そして助け手となるという、とてもはっきりとした印象を受けました。そしてまさにそのとおりになっています。また、10代の子供が自動車事故のためにとっても落ち込んでいたとき、わたしの頭に「わたしはこの子を愛している。そしてこの子の人生を導いていく」という言葉が、はっきりと聞こえました。確かにこの子は導かれました。その後も、このような導きを何度も受けてきました。子供たちに励ましが必要になったとき、わたしは祝福されて、彼らの偉大で高貴な永遠の霊を感じることができたのです。

皆さんは外出するとき、母親や父親から「自分が何者であるかを忘れないで」と言われたことがありますか。この言葉は何を意味しているのでしょうか。「家族の一員として恥ずかしくない振る舞いをしてね」という意味もあるでしょう。しかし何よりも「神の子であることを忘れないでね。それにふさわしく行動しなくてはならないのですよ」という意味が込められています。宣教師は胸に名札を着けることで、末日聖徒イエス・キリスト教会の代表者であることを常に心に留めています。だからこそ彼らは慎重深く、さっぱりとした服装をし、礼儀正しく人に接し、キリストの面影をその顔に受けるよう努力しているのです。彼らは名札を着け、外から見える形で自分が何者であることを示しているのです。このよ

うな行動をしなければならないのです。わたしたちも皆、聖約によってキリストの御名を受けました。主の御名がわたしたちの内側、つまり心の中に刻まれていなければなりません。わたしたちも同様に、天の御父の子供としてふさわしく行動することが期待されています。ひょっとすると、天の御父もわたしたちをこの世に送り出すとき「自分が何者であるかを忘れないで」とおっしゃったかもしれません。

教会の若い女性の皆さんに仕える召しを受けたとき、わたしはそれにふさわしい行動をしなければならないと思いました。ある日、娘が道路に車を止めていたとき、期限切れの登録証をはっていたために違反切符を切られてしまいました。郵送されて来るはずの登録書類がまだ届いていないことが原因でした。わたしは娘の代わりに事情を説明しようと強気で市役所へ向かいました。こちらに非のないことを証明しようと厳しい表情で建物に入っていくと、だれかがわたしに声をかけ、「あなたのことを知っていますよ」と言いました。それを聞いて足が止まりました。わたしも、自分が何者であるかを思い出す必要があることに気づいたのです。ただ中央若い女性会長であるというだけではありません。何よりも、わたしは神の娘なのです。

人と付き合うときは、相手もまた天の御父の子供であることを覚えておかなければなりません。結婚したばかりのころ、主人はよくこう言いました。「君が美人だ



から結婚したんじゃないよ。」あまり何度
も言うので、とうとうわたしは「あまりお世
辞には聞こえないけど」とからかってみま
した。すると主人は、これがわたしへの最
高の褒め言葉のつもりだと説明してくれま
した。それはわたしにもよく分かっていた
のです。そして主人は「君にはすばらしい
特質が備わっていて、君はそれを永遠に
わたって伸ばしていくと思う。だから君が
好きなんだ」と言うてくれました。主は言
われました。「顔かたちや身のたけを見
てはならない。……わたしが見るところ
は人とは異なる。人は外の顔かたちを見、
主は心を見る。」(サムエル上16:7) 家族
や友人関係、デート、結婚など、いずれに
おいても、外見の美しさや経歴だけで判
断するのではなく、性格や高い価値観、そ
してお互いの持つ神から受け継いだ特質
を大切にすべきです。

チリのあるステーキで、キャンプを行っ
た若い女性たちがこのことを実践しまし
た。お互いのすばらしい特質を書き留め
たのです。彼女たちは日に日にお互い
をもっとよく知るようになりました。そし
てそれぞれの中に備わっている良い点に
気づき、書き出していきました。キャンプ
の終わりに、彼女たちは感じたことを
伝え合いました。それは全員が自分の中
にある神聖な特質に気づく助けになりま
した。ある指導者はこう語っています。「わた

たちは文字どおり、思いやりと優しさにあ
ふれたすばらしい御霊に包まれていまし
た。誇張ではなく、若い女性たちからは
一言の不平も聞かれませんでした。互い
を受け入れる優しい心が彼女たちの中
にあふれていました。これは10代の少女
の間ではあまり見られないことです。競
い合いも、争いもありませんでした。キ
ャンプは、小さな天国のようでした。」(私
信より) 少女たちはお互いが持つ、神
から受け継いだ特質に気づき、認め合
いました。徳高い思いが語られたこのキ
ャンプは御霊に満たされていました。

C・S・ルイスは、賢明にもこう言っ
ています。「周りにいる人は皆、神や女神
になる可能性を持っている。この事実を
軽々しく扱ってはならない。すぐ近く
にいる、だれよりも物分かりが悪くつま
らない人が、いつの日か、あなたが心
から崇拜したくなるような存在となる
かもしれないということを忘れてはいけ
ない。今のあなたには、その姿が見
えていないだけなのだ。……この世
に凡人などいない。……あなたの隣
人はあなたが知覚し得るものの中
で、最も神聖な存在なのである。」
("The Weight of Glory," *Screwtape
Proposes a Toast and Other Pieces*
[1974年], 109-110)

自分やほかの女性たちが愛にあふれた
天の御父の娘であると知っている若い女

性は、どこに住んでいようと、徳高く、奉
仕を愛する模範的な生活を送ることによ
って主への愛を示します。ブラジルの非
常に蒸し暑い地域にあっても慎み深い服
装をしている若い女性を見て、わたしは
感銘を受けました。彼女たちは「慎み深
くあることは、気候の問題ではなく、心
の問題です」と語っています。この若い
女性たちは、自分が神の娘であることを知
っていました。

最近、悲惨な水の事故で亡くなった、ア
イダホの末日聖徒の学生5人の徳高い行
動について聞き、わたしは胸を打たれま
した。彼らは義の標準に従って生活し、
徳の高さと健全さにおけるすばらしい模
範として、周りの学生や地域の人々に知
られていました。彼らは、自分たちが神
の息子、娘であることを知っていました。

両親が離婚した、ある若い女性の示し
た模範からも感銘を受けました。彼女は
幼い弟や妹たちが愛されていないと感じ
ることのないように、毎晩ともに祈り、愛
を伝えました。この若い女性は、自分
が天の御父の娘であり、御父が彼女を愛
していらっしゃることを知っています。そ
して弟や妹を愛することによって、御父
への愛を示しています。

また、貧困や政治的弾圧にあぐ地域
に住む若い女性の行動について知り、感
動しました。自分たちこそ困難な状況に

あるにもかかわらず、彼女たちはキャンプに集まり、人々を元気づける方法を計画しました。助けが必要な女性のために衛生セットを作ったり、地域や病院、家庭でさらに奉仕を行ったりもしました。その行動を見れば、彼女たちは自分が神の娘であることを理解しているのが分かります。彼女たち、そして世界中の若い女性たちに対する愛で、わたしの心は満ちあふれています。皆さんは神の娘であり、神は皆さんを愛しておられることをわたしは知っています。

最後に、特別な、わたしにとって神聖とも言える経験を話しましょう。わたしが最初に中央若い女性の会長に召されたとき、自分は力不足だと感じ、身のすくむ思いがしました。幾晩も心を悩まし、悔い改め、泣きながら夜を明かしました。数日間このような夜を過ごした後、とても感動的な経験をしました。まず、若い女性の年齢にある姪たちのことを考え始めました。次に近所とワードの若い女性、そして高校でいつも会っていた若い女性を思い浮かべ、それから50万を超える世界中の教会の若い女性たちを心に描きました。それまで味わったことのない、すばらしく温かい思いが込み上げてきて、わたしを包んでくれました。世界中に住む末日聖徒の若い女性、皆さん一人一人に対してこの上なく深い愛を感じ、この気持ちは天の御父が皆さんに抱いておられる愛であると分かりました。力強く、すべてを包み込むような愛でした。そのとき初めて平安を感じました。天の御父がわたしに望んでおられることを知ったからです。それは、主が皆さんに抱いておられる大いなる愛を、皆さんに証することです。ですからわたしはもう一度証します。わたしは一点の疑いもなく知っています。天の御父は皆さんを御存じで、愛しておられます。皆さんは天父の特別な娘です。主は皆さんのために計画を用意しておられます。いつもそばにいて、導き、道を示し、ともに歩んでくださいます。「神の子です」(参照)。皆さんがこのことを知り、感じるができるように、イエス・キリストの御名によって心から祈ります、アーメン。

主を覚え、 悔い改め、変わる

中央若い女性会長会第一顧問
ジュリー・B・ベック

幸福と平安へのいちばんの近道は、できるかぎり早く悔い改めて自分を変えることなのです。



救い主に感謝しています。「キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい」と、救い主がわたしたちすべてを招いておられることに感謝しています。わたしは、救い主を覚え、悔い改めて自分を変えていくことについて、最近わたし自身が考え、感じていることを皆さんに伝えたいと願っています。ある3人の女性について話し、そこからわたしが学び取った事柄を説明します。それが、わたしの感じてきたことを表現するのにいちばんいい方法だと思のです。

まず、ルース・メイ・フォックスの話から始めましょう。昔、中央若い女性の会長を務めた人です。彼女は84歳までこの召しを果たしました。フォックス姉妹はイギリスで生まれ、13歳のとき開拓者の一団とともに

ソルトレーク盆地^{ほんち}まで移動したのですが、そのほとんどの行程^{こうてい}を歩き通しました。赤ん坊のころに母と死別したため、最初の十数年は様々な家族のもとを転々としてきました。「手の焼ける子」だからという理由で祖母には引き取ってもらえなかったからです、扱いにくい子供だったのでしょ^う。2

後にルースは結婚して12人の子供の母親となります。強い証^{あかし}を子供たちに伝え、働く傍らで子供たちに福音を教えました。上の子たちに対するしつけは厳しすぎたと自分でも認めています。気が短く、カッとなったときに「10まで数えて」³ 怒りを冷ますということがなかなかできなかったからです。けれども、懸命な努力によってルースはこの欠点を克服^{こくふく}し、心の優しい奉仕の人として知られるようになりました。

フォックス姉妹は104歳まで生きました。長い生涯で大きな喜びもつらい試練も経験してきた彼女はこう教えています。「人生では往々にして、つらい経験から学ばされることがあります。温室育ちの植物が弱いように、問題を避けて通ってはいけません。強靱な人格は育ちません。」⁴

去年、ワイオミング州のインディペンデンス・ロックに行き、ソルトレーク盆地に向かう旅の途中で当時13歳のフォックス姉妹が自分の名前を彫った場所を探しました。140年の風雪を経てほとんど消えかけていたものの、「1867年、ルース・メイ」という文字をわたしはどうか確認することがで



きました。この偉大な指導者でありイエス・キリストの弟子であった女性についてさらに興味をそそられました。彼女は生涯人格を磨き続け、「神の王国がすべてであり、そのほかの事柄はどうでもよいことです」⁵をモットーとしました。

次の話は、ある女性の話です。仮に「メアリー」としておきましょう。福音のために多くを犠牲にした信仰深い開拓者の両親のもとに生まれた娘です。神殿で結婚し、10人の子供の母親となりました。才能豊かな女性で、子供たちに祈りの仕方や勤勉の大切さ、互いに愛し合うことを教えました。什分の一も払っていませんし、日曜日には家族そろって幌馬車で教会に通っていました。

けれども、知恵の言葉に反すると知りながらコーヒーを飲む習慣がついてしまい、オープンの後ろにコーヒーポットを置くようになりました。彼女に言わせれば、「たかがコーヒーくらいで、主から天の祝福を取り上げられるはずはない」ということでしたが、そのコーヒーを飲んでいてただ一点のために彼女は神殿推薦状を受ける資格を失い、一緒にコーヒーを飲んでいた子供たちもその資格を失ったのです。長寿だっ

た彼女は、晩年には再び参入資格を得て神殿で奉仕しましたが、10人の子供たちの中で神殿結婚したのはたった一人だけでした。そして、今では5世代目になる子孫の非常に多くは、彼女が信じ、その先祖が多大な犠牲を払って擁護した回復された福音の祝福にあずかってはいないのです。

最後はクリスティーナ(仮名)という女性の話です。彼女は子供のころにバプテスマを受けて家族と結び固められましたが、その後いつしか家族は福音に従うのをやめてしまいました。10代後半になった彼女はそれまで何度か誤った選択をしており、とても苦しんでいました。

ある日わたしは、そんな彼女に『成長するわたし』を渡してこう言いました。「この本に書いてあることを実行すれば、キリストが持っておられる特質を生活に取り入れて、あなたの望むように人生を変えることができるはずよ。今日から、ここに書かれていることを実行してみてください。そして、今晚開かれる青少年のファイヤサイドにこの本を持って来てほしいの。どんなことを学んだのかわたしに教えてね。」その晩、彼女は目を潤ませて言いました。「今日わたしは、『成長するわたし』

のプログラムを始めました。」その日以来、彼女はわたしに時々手紙を書いてくれます。彼女は日曜日の集会やミューチャル、セミナーに再び出席するようになりました。2, 3週間後には姉や母親も一緒に教会に来るようになり、後に父親も加わって、今では家族全員が神殿に参入できるようにまでなっています。

さて、これまで話した3人の姉妹の話から、主を覚え、悔い改め、自分を変えることについて、わたしはどんなことを学び取ったでしょうか。

第1の教訓は、だれでも間違いを犯すということです。⁶最近わたしは、8歳の女の子と一緒に過ごしました。その子はちょうどその日バプテスマを受けたのです。1日が終わるころ、その子は自信たっぷりにこう言いました。「バプテスマを受けて1日が終わったけれど、わたし、一度も罪を犯さなかったわ!」でも、完全な日が永遠に続くわけではありません。今ごろはこの女の子も分かり始めていると思いますが、わたしたちすべてがよく知っているように、どんなに頑張っても、悪い状況や間違った選択を常に避けることはできませんし、自分を常に正しくコントロールできるわけではありません。現代の神権時代が選ばれた貴い世代であるとはよく耳にしますが、「完全な世代」と呼ばれるのは聞いたことがありません。特に攻撃されやすいのは10代の子供たちです。なぜならサタン力は実際に存在しますし、10代の子供たちは人生で初めて重要な決定を自分で下す時期に来ているからです。これは、生まれて初めて重大な過ちを犯す時期に来ているということでもあります。

モルモン書に出てくるコリアントンはそのような経験をしました。コリアントンは忠実に伝道の業を果たすべきでしたが、自分は強くて賢いので、危険な状況や悪い仲間の影響を上手にくぐり抜けることができると考えたのです。けれども、ふさわしくない場所に身を置き、よからぬ人々と交わり、間違ったことを行い始めると、足をすくわれて重大な罪を犯してしまいました。⁷

第2の教訓は、悔い改めは単なる選択肢の一つではないということです。悔い

改めは戒めです。⁸ 救い主は、悔い改めて幼子おきなごのようにならないかぎり人は神の王国を受け継ぐことができないと言っておられます。⁹ ほんの1杯のコーヒーやたった一つの悪い習慣、たった一度の間違った選択、たった一度の判断の誤りのために生涯にわたって福音の道から外はずれてしまうようなことがあってはなりません。

時々、悔い改めを軽く考えてしまう人がいます。悔い改めは難しすぎるという言葉聞いたこともありますし、罪悪感にさいなまれるのはもう飽き飽きだとか、悔い改められるよう助けようとしてくれた指導者に不快感を覚えたという言葉聞いたこともあります。過ちを犯すとあきらめてしまい、もう立ち直れる望みはないと思込んでしまう人が時々います。そうかと思えば、回復された福音を捨てて教会を離れてしまった方がよほど楽になるだろうと考える人もいます。

間違いを犯した人の心に、もう望みはないという考えを植え付けるのはサタンの仕業しわざです。主イエス・キリストは常にわたしたちに希望を与えてくださいます。主はこうのように言っておられます。

「あなたは主の業を行うために選ばれた。しかし、背そむきのゆえに、あなたは用心しなければ落ちるであろう。

しかし、神は隣れみ深いということを感じておきなさい。それゆえ、あなたが行ったことで、わたしがあなたに与えた戒めに反する行いを悔い改めなさい。そうすれば、あなたはまだ選ばれた者であって、再び業に召される。」¹⁰

幸福と平安へのいちばんの近道は、できるかぎり早く悔い改めて自分を変えることなのです。

第3の教訓は、わたしたちは自分を自分で行うのではないということです。自分の力だけで自分を真に変えることは不可能です。意志の力と心からの正しい動機どうきだけでは不十分なのです。過ちを犯したり望ましくない選択をしたりしてしまった場合、救い主の助けなしに正しい道に戻ることはできません。わたしたちは毎週毎週聖餐せいさんを取ることで、救い主にはわたしたちを変えることがおできになるという信仰を示しているのです。わ



ブラジルで中央若い女性集會に出席する若い姉妹たち。

たしたちは罪を告白し、その罪を捨てることを約束します。¹¹

どんなに努力しても力が及ばないときに、さらに努力し続けられるよう力が与えられるのは主の恵みによるのです。¹² 主はこう言っておられます。「もし人がわたしのもとに来るならば、わたしは彼らに各々の弱さを示そう。わたしは人を謙遜けんそんにするために、人に弱さを与える。わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」¹³

自分を変えるために主の助けを求める人には、次のような約束が与えられています。「自分の罪を悔い改めた者は赦ゆるされ、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」¹⁴ 主はわたしたちをお見捨てになりません。こう言っておられます。「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」¹⁵ 赦されたのだと分かったときにわたしたちが味わう喜びと平安は神からの祝福です。主が定められた時に主の方法によってではありませんが、そのような平安は確かに与えられます。

最後の教訓は、わたしたちは自分を変えることができるということです。救い主を覚えてその模範もはんに従う機会は日々新たに与えられます。悔い改めなしに成長する

ことはあり得ません。¹⁶ 悔い改めが福音の第二の原則であるのはこのためです。¹⁷

自分の欠点について言い訳をするのではなく、日々良い習慣しゅうかんとキリストのような特質を身に付けることができるよう努力しましょう。スペンサー・W・キンボール大管長はこうのように言っています。「キリストのような特質を身に付けるのは、骨の折れる過酷かこくな仕事です。それは時々気が向いたときに行えばよいというものではありませんし、常に自分を成長させようと不断の努力を重ねる覚悟かくごのない人に達成できるようなことでもありません。」¹⁸ クリステイーナの模範を見て、キリストのような特質を生活に取り入れることは、自分が変わりつつあることのあるということを感じました。

わたしたちは人間ですから、だれでも過ちを犯します。悔い改めは単なる選択肢の一つではなく、必ずしなければならないものですが、自分独りだけでできるものではありません。わたしたちには救い主がいて、悔い改めができるよう助けてくださいます。救い主の特質を生活に取り入れることによって、自分が変わり、救い主に近づいて行くのが分かるようになります。

福音は「誘惑からわたしを守る外套がいとうであり、悲しむときに慰めを与えるものであり、人生を通じてわたしの喜びと栄光であり、永遠の命への希望を与えてくれるものです」とフォックス姉妹は言っています。¹⁹ 彼女は

道をそれずに

中央若い女性会長会第二顧問
イレイン・S・ダルトン

わたしたちは時折、かけっぶちの生活をして徳を守れると考えることがあります。しかしそのような状況に身を置くのは危険です。



我が家の近くの峡谷を抜ける道に、「道をそれるな」という標識があります。道を歩き始めるとすぐに、それが賢明な助言であることがはっきりと分かります。坂や曲がり角、急斜面もあり、一歩踏み外すと足もとが不安定で、季節によっては時折ガラガラヘビが出て来ることもあります。今晚、皆さん一人一人に対するメッセージは、その標識と同じ「道をそれない」というメッセージです。

数年前、何人かの若い女性と一緒に、ワイオミング州のティートン山脈へ山歩きに出かけました。道はかなり険しく、2日目に最も危険な場所へ差しかかりました。わたしたちは、「ハリケーンの通り道」と呼ばれる道を通る予定でした。そこは名前が示すとおり、ほとんど絶え間なく強風が吹いている道でした。森林警備員から、道の中央を歩き、周囲に木がない所では

できるだけ姿勢を低くして、手荷物はずべてリュックに入れ、素早く進むように指示されました。写真を撮ったり、ぐずぐずしたりしてはなりません。若い女性が全員その地点を無事に通り抜けたときには、大きな安堵と喜びを感じました。しかも、「がけの縁」までどれくらい近づいてもいいかなどと質問する子もいませんでした。

わたしたちは時折、人生の道を歩みながら、おもしろくてスリルがあるし、自分でコントロールできるからと、危険な場所でだらだら時を過ごそうとします。かけっぶちの生活をして、徳を守れると考えることもあります。しかしそのような状況に身を置くのは危険です。預言者ジョセフ・スミスが語ったように、「幸福こそ、わたしたちの存在する目的であり計画です。わたしたちがそこへ通じる道に従って行けば、最後に到達できるものです。その道とは、徳です。」(History of the Church, 第5巻, 134-135)

教義と聖約第25章のエマ・スミスに対する主の助言は、主のすべての貴い娘に向けられた助言です。第25章では行動規範が与えられ、「徳の道を歩む」ように勧告されています(第2節)。徳とは、「道徳的に高い標準に基づいた思いと行動のパターンです。」(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』118)では、徳高くあるのに役立つ道徳的に高い標準とは何でしょうか。

徳には、思いや言葉、服装、態度における慎み深さが含まれます。慎み深さは純潔の礎石です。ガラガラヘビが潜む山道を素足で歩く人がいないように、今日の世で安全であるためには慎み深さが不

「神の王国がすべてであり、そのほかの事柄はどうでもよいことです」という言葉を自分のモットーとしました。なぜなら、心を尽くして福音に従うとき、救い主がわたしたちすべてに与えてくださった次の約束を受けられることを知っていたからです。「悔い改めて、わたしの名によってバプテスマを受ける者はだれであろうと、満たされるであろう。そして、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、わたしはその者を、わたしが立って世の人々を裁くその日に、わたしの父の御前で罪のない者としよう。」²⁰

わたしは、悔い改めを通して救い主を知ることができました。自分を変えてくださいと救い主に助けを求めるとき、信仰も救い主への信頼も増し加わります。救い主の実在と、その力について証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. モロナイ10:32
2. ジャネット・ピーターソン、ラレーヌ・ガント共著、Keepers of the Flame: Presidents of the Young Women (1993年)、33-34参照
3. Keepers of the Flame、38参照
4. Keepers of the Flame、41
5. Keepers of the Flame、49
6. 『聖句ガイド』『悔い改め』の項、89-90参照
7. アルマ39:1-9参照
8. 教義と聖約19:15参照
9. 3ニーファイ11:38
10. 教義と聖約3:9-10
11. 教義と聖約58:43参照
12. 『聖句ガイド』『恵み』の項、254参照
13. エテル12:27
14. 教義と聖約58:42
15. マタイ11:28
16. 『聖句ガイド』『悔い改め』の項、89-90参照
17. 信仰簡条1:4参照
18. 「女性の特権と責任」『聖徒の道』1979年2月号、150参照
19. Keepers of the Flame、49
20. 3ニーファイ27:16

可欠です。慎み深くあるとき、わたしたちは天の御父の娘として御父と自分の関係を理解していることを周りの人に表します。また、神を愛し、どのようなことについても神の証人になることを示します。わたしたちは慎み深くあることで、周りの人に「徳を重んじている」ことを示します（“Dearest Children, God Is Near You” Hymns 96番）。慎み深さとはセンスの良さではありません。それは心と聖さに関する事柄です。流行を追うことではなく、忠実であることです。かっこうが良いことではなく、純潔であり、聖約を守ることです。人気があることではなく、清くあることです。慎み深さには、純潔と徳の道を実践に歩むために行うすべてのことが含まれます。徳高いことが昇栄の条件であることは明らかです。モルモンの言葉は、純潔と徳がともに「あらゆるものに勝って最も大切で貴いもの」であることを教えてくれます（モロナイ9：9）。罪に無関心であったり、近寄りすぎたりしては絶対になりません。神の娘が歩くには危険な場所だからです。

教義と聖約第25章の中でわたしたちは、自分が交わした聖約を固く守るように勧告されています（第13節参照）。わたしにとって、固く守るとは、主と交わした約束に固くついて離れず、ほんとうにしっかりとつかまることを意味します。聖約は誘惑に抵抗する強さを与えてくれます。聖約を守るなら、徳の道をそれることはないでしょう。バプテスマのときに交わした聖約を守るなら、道の中心にとどまることができます。ジェフリー・R・ホランド長老は次のように注意を促しています。

「バプテスマを最初の聖約として、永遠の命に向かうこの道を歩んでいく間に、わたしたちは様々な聖約を交わします。……交わした聖約に従って歩むならば、常に必要なだけ十分に聖霊の促しを受けることができます。わたしたちの歩む道ではほとんど毎日のように問題という上り坂に直面します。けれどもその坂を乗り越えるための助けが文字どおり神から与えられます。神会の御三方、すなわち御父と御子と聖霊は、わたしたちが聖約を



交わしているのを助けてくださるのです。

これらの聖約を思い起こすために、毎週聖餐を受けます。パンの祝福の祈りの中で、わたしたちは、『進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守ることを、永遠の父なる神よ、あなたに証明して、いつも御子の御霊を受けられるように』と祈ります。〔教義と聖約20：77〕（「新会員すべてに

知ってほしいこと、会員歴の長い人すべてに留意してほしいこと」『リアホナ』2006年10月号、11-12）

主の御霊の導きを受けると、皆さんは確信と幸福に満ち、絶えず徳で思いを飾るようになります。モルモン書には、社会全体が聖約を守り、清く徳高い生活を送ったときの状態について記されています。「神の手によって造られたすべての人の中



で、彼ら以上に幸せな民は確かにあり得なかった。」(4ニーファイ1:16)また、聖霊の導きを受けると、周りの人に義にかなった影響を与えることもできます。

わたしの事務所には、我が家代々の女性の写真が飾ってあります。曾祖母、祖母、母、そして娘のエミの写真です。彼女たちが自らをささげてきた人生や、救いの計画を信じる信仰のおかげで、わたしはもっと高くまで登り、もっと遠くまで旅することができました。今その写真を見ると、徳高い生活の大切さがとてもよくわかります。今では娘一人だけでなく、その写真に加わった5人の義理の娘と5人の小さな孫娘がいるので、娘や孫に徳高く、聖い生活の模範を示すという大きな責任を感じています。たとえ改宗した最初の世代であっても、皆さんにも後に続く人たちに對する責任があります。

最近、わたしは冒頭で話したあのティートン山脈へまたハイキングに出かけました。今回は夫と、同年代の友達数人と一緒でした。出発するときは、皆意気揚々としていて、のんきにかまえていましたが、目的地へ着く前にくたくたに疲れ、問題が生じました。何年も前に若い女性たちと出かけたときは違い、身体的な備えができていなかったのです。それに不注意

にも荷物を詰めすぎにありました。リュックの重みで体力はさらに消耗し、もう限界に近い状態でした。標高が高く斜面が急で、荷物が重いために、ほかの人たちも苦しうでした。夫は皆の様子に気づくと、先を急ぎました。わたしは見捨てられたように感じました。しかし1時間もすると、夫が谷の向こう側を下りて来るのが見えました。こちらへ走って来るのです。そして、わたしのところへ来ると、荷物を背負い、わたしの涙をぬぐって、目的地へ連れて行ってくれました。そこは松林がそびえ立つ、水晶のように透き通った湖でした。夫はすぐに山道を引き返し、ほかの人たちのために同じことを4回繰り返しました。夫の姿を見ながら、自分が十分な備えをしていなかったことを悔やみました。さらに、余分なものをこんなに持って来て、重い荷物を夫に背負わせてしまったことを悔やみました。そして夫の強さと無私(せいしん)の精神、備えと愛に心から感謝しました。

人生の山に登るとき、徳高い道をそれずに歩んでください。皆さんには助けてくれる人がいます。両親や家族、ビショップ、アドバイザー、あらゆる年代の義にかなった友人たちです。疲れたり道を間違ったりしたら、方向を変え、徳高い道へ戻ってください。救い主がそばにいてくださ

ることを忘れないでください。主は皆さんが悔い改められるようにして下さいます。そして皆さんを強め、荷を軽くし、涙をぬぐい、慰め、道をそれないように助けを与え続けてくださるのです。

救い主は徳の完全な模範です。聖地の道を歩かれたとき、イエスは「よい働きをしながら……巡回(じゆんかい)されました。」(使徒10:38)病人を癒し、目の不自由な人々を見えるようにし、死人をよみがえらせられました。そして永遠の真理と、前世が実際に存在すること、この世での人生の目的、神の……娘が持つ来世における可能性についてお教えになりました(「生けるキリスト——使徒たちの証」『リアホナ』2000年4月号、2-3参照)。わたしの好きな聖句にこう記されています。「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」(箴言3:5-6)

このことが真実であると証します。主は道を示してくださっただけでなく、時には手を取ってわたしを導いて下さいました。「イエス・キリストの道は、この世においては幸福に、後の世においては永遠の命に至る道です。」(「生けるキリスト」『リアホナ』2000年4月号、3)わたしは主が生きておられることを証します。主は皆さんの祈りを聞き、行く手を導いて下さいます。イエス・キリストはわたしたちの模範であり、導き手です。道をそれないでください。慎み深くあり、聖約を固く守り、聖霊を伴侶とするふさわしさを保ってください。主はこのように約束しておられます。「元気を出しなさい。わたしがあなたがたを導いて行くからである。王国はあなたがたのものであり、その祝福もあなたがたのものであり、また永遠の富もあなたがたのものである。」(教義と聖約78:18)「イエス・キリストのたぐいまれな生涯が現実のものであり、この御方の偉大な贖いの犠牲が無限の力を有すること」にただ驚くばかりです(「生けるキリスト」『リアホナ』2000年4月号2、強調付加)。イエス・キリストの御名により、アーメン。

絶えず徳で あなたの思いを 飾るようになさい

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

皆さんの可能性に限界はありません。生活をうまくコントロールすれば、将来は機会と喜びに満たされます。



愛する若い女性の皆さん、この立派なホールに皆さんが集う光景は何とすばらしいことでしょうか。皆さんは母親や祖母、教師とともに出席しています。このカンファレンスセンター以外でも世界中で何十万人もの人が集っています。集会の模様は、20か国語以上の言語で放送されています。わたしたちの話が皆さんの母国語に通訳されているのです。皆さんにお話するのは圧倒されるような重い責任ですが、すばらしい機会でもあります。わたしが語る言葉に聖なる御霊の導きがあるよう祈っています。

ほかの姉妹たちがこの集会のテーマを

雄弁に語ってくれましたので、わたしは簡単に触れるだけにします。そのテーマとは、教義と聖約第121章で主が語られた啓示の言葉です。こうあります。

「絶えず徳でああなたの思いを飾るようになさい。そうするとき、神の前においてあなたの自信は増し、神権の教義は天からの露のようにあなたの心に滴るであろう。

聖霊は常にあなたの伴侶となり、あなたの労は義と真理の不変の労となるであろう。そして、あなたの主権は永遠の主権となり、それは強いられることなく、とこしえにいつまでも、あなたに流れ込むことであろう。」(45-46節)

この主の啓示の注目すべき言葉以上に偉大な約束が人に与えられているでしょうか。これは神の御言葉であり、預言者ジョセフへの啓示として与えられました。絶えず徳で思いを飾るすべての人へのすばらしい約束が含まれています。

若い女性の皆さんは人生の入り口に立っています。バプテスマを受けてからは何年かたちましたが、まだ十分若いので、将来に対してどんな夢でも見られます。皆さん一人一人は神の子供です。そして神聖な存在であり、文字どおり全能者の娘です。皆さんの可能性に限界はありません。生活をうまくコントロールすれば、将来は機会と喜びに満たされます。自分

の才能や時間を無駄にしている余裕はありません。皆さんにはすばらしい機会が待ち構えているのです。

これから、もし従えば必ず幸せになれる簡単な方法を教えましょう。それには簡単な4つのポイントがあります。(1) 祈る(2) 勉強する(3) 什分の一を納める(4) 集会に出席する、の4つです。

1番目のポイントは、個人の祈りです。皆さんは天の御父の娘です。そして御父は皆さんの天における親です。御父に話してください。毎朝毎晩ひざまずいて、心を感じている感謝を伝えてください。皆さんの望みや、必要とする祝福について話してください。この教会は、少年ジョセフ・スミスが父親の農場の森で謙遜な祈りをささげたことから始まったことを決して忘れないでください。最初の示現と呼ばれるその驚くべき経験からこの御業が発展し、今日160か国で1,200万人以上の会員を有するまでに至ったのです。これはまさに、人手によらずに山から切り出された石が全地に満ちるまで転がり進むという、ダニエルが見た啓示の成就です(ダニエル2:44-45参照)。

個人の祈りをささげるだけでなく、もししていなければ家族の祈りをするよう、両親に働きかけることもできます。祈りは天の御父に近づくための橋です。お金はかかりません。信仰と努力のみが求められます。ひざまずいて謙遜な祈りをささげること以上に報いの多いものはありません。祈りでは神への愛を語りますが、それは神があらゆる善の源であられるからです。祈りは、自分を大切にすする心の表れです。祈りに代わるものはありません。祈りは神との個人的なコミュニケーションなのです。

2番目のポイントは勉強することです。この短い言葉にはどういうことが含まれているでしょうか。まず聖文の勉強です。旧約聖書は一部しか読んだことがないかもしれませんが、旧約聖書には偉大な教訓が含まれています。新約聖書は教訓の宝庫です。マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる4つの福音書、そして使徒行伝や数々の書簡が含まれています。福音書のどれ



か一つでいいので読んでみてください。ヨハネによる福音書がいいかもしれません。それが終わったら、モルモン書を読んでください。

2年前、わたしは全教会員にモルモン書とその年のうちに全部読むよう勧めました。その勧めに驚くべき数の人がこたえてくれました。実行した人はその努力に対して祝福を受けました。贖い主^{あがな}についてのさらなる証^{あかし}であるこの書物に没頭^{ぼつとう}するにつれ、心が活気づき、霊が鼓舞されました。当時まだ小さくて読めなかった人もいるでしょうが、今なら小さすぎて読み始めることができないということはありません。

聖文の勉強だけでなく、学業にも力を

入れてください。若い今のうちに、できるだけの教育を受けると決心してください。現代は競争社会であり、今後もその傾向^{けいこう}は強まる一方です。教育は機会^{かぎ}という扉^{とびら}を開く鍵となります。

皆さんは結婚するかもしれませんが、そう望んでいることでしょう。でも、将来のことはだれにも分かりません。結婚したとしても、教育は自分にとって大きな利益になります。日々進歩することなく、ぼんやりと過ごすことのないようにしてください。皆さんが努力するなら、主は祝福してくださいます。新たな経験と知識^{しき}に心を開くならば、生活は豊かになり、視野が広がります。

3番目のポイントは、什分の一を納める

ことです。什分の一を納める人に対して主は輝かしい約束をしておられます。現代の啓示で、彼らは「焼かれない」、と言っておられるのです(教義と聖約64:23参照)。

主の偉大な約束は、マラキ書に記されています。「人は神の物を盗むことをするだろうか。しかしあなたがたは、わたしの物を盗んでいる。あなたがたはまた『どうしてわれわれは、あなたの物を盗んでいるのか』と言う。十分の一と、ささげ物をもってである。……」

わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなた

がたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる。」(マラキ3:8, 10)

そして主は続けてとても興味深いことを言われました。聞いてください。

「わたしは食い減ぼす者を、あなたがたのためにおさえて、あなたがたの地の産物を、減ぼさないようにしよう。また、あなたがたのぶどうの木が、その熟する前に、その実を畑に落とすことのないようにしよう、万軍の主は言われる。

こうして万国の人は、あなたがたを祝福された者となえるであろう。あなたがたは楽しい地となるからである……。」(マラキ3:11-12)

什分の一はお金で納めますが、もっと大切なことは、信仰をもって納めることです。わたしはこれまで、正直に什分の一を納めながらも不平を漏らす人に会ったことがありません。むしろ正直に納める人は主に信頼を置いていて、主も彼らをお見捨てになることはありません。

わたしがまだ小さかったころ、毎年12月になると父はわたしたち全員を、道路の反対側にあったダンカンビショップの家に連れて行きました。什分の一面接のためです。ビショップ室が教会堂になかったので、ビショップは自宅で業務を行っていました。わたしたち全員がビショップの家のリビングルームに座り、ビショップは一人一人をダイニングルームに招き入れました。わたしたちの什分の一は25セントや50セントでしたが、それでも完納でした。ビショップが領収書を書き、ワードの記録に金額を記入しました。金額がとても少なかったのに、記録をつけるための経費は什分の一の金額より多くかかったことでしょう。それでも、そうやって身に付いた習慣は、今日までずっと続いています。主が約束されたとおりに、什分の一を納めることで数え切れないほどの祝福を受けてきました。

わたしはお金のない大恐慌時代に結婚しましたが、什分の一は納めていました。そしてどういふわけか食べ物や必要なものに困ることはありませんでした。

4番目のポイントは、聖餐会やその他の出席すべき集会に出席することです。主



の聖餐を取ることに代わるものは何もありません。人類の救い主の肉と血の記念にパンと水を取ることができるのは、厳かで、神聖で、すばらしいことなのです。

人類史上、聖なる贖い主の贖いの犠牲以上に意義深い出来事はありません。それに匹敵するものは何もないのです。贖いがなくては、人生に意味などなくなり、目的のない旅となってしまおうでしょう。

贖いがあるおかげで永遠の命が保証されています。死は終わりではなく、むしろより栄えある世界への通過点となります。

これらすべては聖餐を取ることに象徴されます。集会のほかのあらゆる事柄は主の犠牲の象徴である聖餐を取ることに比べたら重要度は低くなります。

皆さんがこの4つのことを行うならば、生活が実りあるものとなり、皆さんはとても幸福になり、あらゆる面で多くのことを達成し、満足を得られることを約束します。

愛する若い姉妹である皆さんを、主が祝福されますように。主の祝福が常に、どんなときにも皆さんに注がれますように。わたしたちは皆さんを愛し、皆さんのために祈っています。天が皆さんにほほえみかけるよう、聖なるイエス・キリストの御名により、へりくだり祈り求めます。アーメン。

大会で話された実話や物語の索引

以下のリストは、総大会の説教の中から、個人学習や家庭の夕べ、そのほかの教える機会の参考に選んだ経験談です。
(数字は説教の最初のページです。)

話者	実話や物語	教義または原則
ゴードン・B・ヒンクレー大管長	ジョセフ・F・スミス青年は、夢で預言者たちに出会った、60 子供時代のゴードンは、 ^{じゅうぶん} 十分の一の面接に行った、115	清さ、従順 十分の一、信仰
トーマス・S・モンソン管長	筋ジストロフィーの4人の子供たち、22 大会で自分に向けて話されて、バプテスマを決意した少女、41 海軍で病気になった友人を祝福した、57 ある家族から頼まれて、死が近づいている父親を祝福した、57	愛、永遠の命 信仰、バプテスマ 感謝、神権の力 十分の一、神権の力
ジェームズ・E・ファウスト管長	教師を聖任する若い祭司、54 愛する人を殺害されても赦すことで平安を取り戻した家族、67	^{あかし} 証、神権の力 赦し、 ^{けんそん} 謙遜
ボイド・K・パッカー会長	初等協会の聖歌隊を聞いて確信を受けた、26	靈感、音楽
L・トム・ペリー長老	執事定員会の会長が、少年たちが教会に来るよう助けた、85	活発化、奉仕、神権の鍵 ^{かぎ}
ラッセル・M・ネルソン長老	罪のぬかるみにはまり、赦しを求めた女性、102	悔い改め、希望
M・ラッセル・バラード長老	聖書を守ってきた人々への感謝、80	聖典、犠牲
ジョセフ・B・ワースリン長老	ボールから目を離さないという教訓、45 不正をしない、45	従順、勤勉 正直、勇気
ロバート・D・ヘイルズ長老	緊急訓練を受けようとしなかったパイロット、48 夜に方向感覚を失って墜落したパイロット、48	従順、備え 従順、信仰
デビッド・A・ベドナー長老	ビクルスと霊的な変化のたとえ、19	霊的に生まれ変わる、 ^{きよ} 聖め
ジェイ・E・ジェンセン長老	宣教師の歌で改宗に導かれた家族、11	伝道活動、音楽
ジョン・B・ディクソン長老	知恵の言葉を守ると決意した若い男性、14	知恵の言葉、従順
ボニー・D・パーキン	家族の祝福のかご、34 扶助協会の姉妹からの感謝、34	感謝、試練 感謝、愛
キース・B・マクマリンビショップ	若いころの、学校とフットボールでの失敗、51	備え、勤勉
ビッキー・F・松森	バプテスマについて祈った求道者、76 父親が、教会でする話を手伝ってくれた、76	祈り、信仰 家族、正直
グレン・L・ペイス長老	高校でただ一人教会員の若い女性、78 子供のころ証を得た、78	試練、勇気 証、信仰
ゲアリー・J・コールマン長老	大学生のときに改宗した、92	啓示、バプテスマ
チャールズ・W・ダールクウィスト2世	迫害にもかかわらずバプテスマを受けた開拓者、94 母親が自分のために祈ってくれているところを見た、94	試練、犠牲 祈り、親の務め
菊地良彦長老	聖徒たちが十分の一を納めると、主が干ばつを終わらせてくださった、97	十分の一、信仰、従順
スーザン・W・タナー	キャンプですばらしい特質に気づいた若い女性たち、106 天の御父が一人一人の子供たちを知っておられることへの証、106	模範、一致 神の特質、愛
ジュリー・B・ベック	ルース・メイ・フォックスの信仰、109 『成長するわたし』に取り組む若い女性、109	犠牲、模範 信仰、活発化

分かち合いましょう

皆さんや皆さんの家族は、総大会の説教を学んで良い経験をしましたか。体験談をお寄せください。タイトルは英語で“Learning from Conference”
(大会から学んだこと)と書いてください。英語なら400語以内、日本語なら1,000文字以内にまとめ、liahona@ldschurch.org または、
Liahona, Room 2420, 50 E. North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA までお送りください。

わたしたちの時代のための教え

メルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンは、「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間です。各レッスンは、最近の総大会で語られた、一つまたは複数の説教を基に準備します。ステーク会長および地方部会長は、レッスンに用いる説教を指定することができます。または、この責任をビショップおよび支部会長に委任することもできます。神権指導者は、メルキゼデク神権者の兄弟と扶助協会の姉妹が同じ日曜日に同じ説教を学ぶことの大切さを強調するべきです。

第4日曜日の集会の出席者は、教会機関誌の、最新の総大会特集号をよく研究し、クラスに持参するよう奨励されています。

説教に基づいてレッスンを準備する際の提案

説教を研究し教えるに当たり、聖なる御霊がともにあるよう祈ってください。教師はほかの資料を使

ってレッスンを準備したくなることがあるかもしれません。しかし、大会説教は承認された教科課程用資料です。教師の務めは、人々が最新の総大会で教えられた福音を学び、それに従って生活できるよう助けることです。

クラスの生徒の必要に合った原則と教義を探しながら、説教の内容を検討してください。また、そのような真理を教えるのに役立つ説教から、物語や参照聖句、声明を探してください。

原則と教義を教えるための大まかな計画を立ててください。計画には、クラスの生徒が以下のことを行ううえで役立つ質問を取り入れてください。

- 説教に含まれる原則と教義を探す。
- それらの意味について考える。
- 理解したことや考え、経験、証を分かち合う。
- それらの原則と教義を実生活に適用する。■

月	第4日曜日のレッスン教材
2007年5月—10月	『リアホナ』2007年5月号掲載の説教*
2007年11月— 2008年4月	『リアホナ』2007年11月号掲載の説教*

*これらの説教は、www.lds.org にアクセスすることにより、(多くの言語で)インターネット上で視聴および閲覧することができます。(訳注—日本語版の文字データを閲覧するには、www.ldschurch.jp にアクセスし、「教会員の方へ」ライブラリー「総大会説教」の順にクリックしてください。)

一緒に聖文を読む、
ブラジル・
サンパウロの
二人の若い女性。



アロン神権者および若い女性用リソースガイド

以下は「アロン神権2」および「若い女性2」のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。本ガイドに掲載された「神への務め」および「成長するわたし」の活動の幾つかは、レッスン中に実施することもできますし、家庭で行うよう定員会の会員またはクラスの生徒に勧めることもできます。

レッスンはテキストに掲載されている順番に教えてください。教師用手引きには、クリスマスのための特別なレッスンは掲載されていません。クリスマスのための特別なレッスンを教えたい場合は、救い主の生涯と使命に焦点を絞った聖句や大会説教、教会機関誌の記事、絵、賛美歌を活用することを検討してください。

インターネットを使用して、英語以外の幾つかの言語でこのリソースガイドを探す場合は、<http://www.lds.org> にアクセスし、“Language” (言語) をクリックした後、言語を選択してください。次に「リアホナ」をクリックし、2006年11月号を選択してください。(訳注—日本語の場合は、<http://www.ldschurch.jp> にアクセスし、「教会員の方へ」ライブラリー」の順に選択してください。あとは上と同じように「リアホナ」をクリックし、2007年5月号を選択してください。)リソースガイドの英語版を閲覧する場合は、<http://www.lds.org> を開き、“Gospel Library” (福音図書館) をクリックしてください。開いた画面の右の欄にリソースガイドへのリンクがあります。

『若い女性2』用リソースガイド

第26課—聖餐

L・トム・ベリー「聖餐にあずかるとき」『リアホナ』2006年5月号, 39。悦子の話をリゾート地での休暇についてのベリー長老の話に代えることを検討します。

『成長するわたし』「徳質の体験—

『信仰』の4

第27課—従順になることによって証を強める

ヘンリー・B・アイリング「霊的な備え—早くから始め、絶えず積み重ねる」『リアホナ』2005年11月号, 37。従順になることによりかたに証を強めることができるかを話し合う際、アイリング長老の4つの状況を用います。

第28課—自由意志

ロバート・D・ヘイルズ「思いのままに行動する—選択の自由という賜物と祝福」『リアホナ』2006年5月号, 4。タナー管長の話をヘイルズ長老の6つの基本的な選択に置き換えることを検討します。

ウォルフガング・H・ポール「選択の自由の賜物」『リアホナ』2006年5月号, 34。ポール長老が示す、選択の自由が大切な理由について話し合い、スミス大管長の引用を補足します。

第29課—昇栄

ジェームズ・E・ファウスト「主の側に立つ」『リアホナ』2004年11月号, 18。ファウスト管長の勧告は、わたしたちが今主の側に立つことによって、それぞれが最後まで堪え忍ぶうえで助けとなることを示します。

デビッド・A・ベドナー「いつも主の御霊を受けられるように」『リアホナ』2006年5月号, 28。儀式を受け、聖約を交わすことの大切さを教えるうえで「バプテスマの儀式とそれに伴う聖約」を用います。

第30課—奉仕を通して証を強める

トーマス・S・モンソン「堅固な土台」『リアホナ』2006年11月号, 62。「心からの奉仕は喜びをもたらす」の中にある物語の一つを、モンソン管長の若い女性クラスの話に置き換えます。

『成長するわたし』「徳質の体験—『善い行い』」の1, 2, 5, および6。

第31課—国の法律

ラッセル・M・ネルソン「平和をつくり出す人たちは、さいわいである」『リアホナ』2002年11月, 39。愛国心について話し合うとき、説教の中の「市民

としての義務」という項を用います。

第32課——生命の大切さ

ラッセル・M・ネルソン「創造」『リアホナ』2000年7月号, 102。この話を用いて、創造の奇跡を説明します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『神から受け継いだ特質』」の1

第33課——神聖な創造の力

リチャード・G・スコット「女性の務めの神聖さ」『リアホナ』2000年7月, 43。トラックの荷台に乗った若い女性に遭遇したスコット長老の話をして、彼女たちのふるまいと服装を教会の標準と比較します。

「生殖の神聖な力」『リアホナ』2005年6月号, 38。「家族——世界への宣言」を用います。

第34課——主の標準を忠実に守る

ジェームズ・E・ファウスト「あなたごとの光——もろもろの国民のための旗」『リアホナ』2006年5月, 111。レッスンの終わりにジャンス・ダルクの物語を紹介し、まとめとして高い標準を維持するようにというファウスト管長の励ましの言葉を引用します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『誠実』」の1

第35課——賢明な選択

リチャード・G・スコット「邪悪がはびこる世界で正しい生活を送る方法」『リアホナ』2004年5月, 100。導入の部分をボリビアのキリサの話に置き換えることを検討します。

ロバート・D・ヘイルズ「思いのままに行動する——選択の自由という賜物と祝福」『リアホナ』2006年5月, 4。偉大なる教えを子供たちや孫たちに残すというヘイルズ長老の概念を取り入れることを検討します。

第36課——正直

リチャード・C・エッジリー「3本のタオルと25セントの新聞」『リアホナ』2006年11月号, 72。レッスンのまとめにエッジリービショップの3本のタオルについての話を紹介します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『誠実』」の2

第37課——正しい生活を通して清さを保つ

ジェフリー・R・ホランド「若い女性の皆さんへ」『リアホナ』2005年11月号, 28。純潔を守るという項目の補足として用います。

中央若い女性および中央若い男性会長会「真の自信」『リアホナ』2007年1月号, 8。キャロラインの話

の補足として、絶えず良い思いを持つ方法についての勧告を用います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『誠実』」の5

第38課——健康

ボイド・K・パッカー「あなたがたは神の宮である」『リアホナ』2001年1月号, 85。わたしたちの身体を清く保つことによって得られる祝福について話し合う際、パッカー会長の祝福師の祝福に関する話を紹介します。

ダイアン・L・スバングラー「肉体、神聖な贈り物」『リアホナ』2005年7月号, 16。レッスンの始めに、容姿に対する神の視点とこの世的な視点との相違を話し合います。

第39課——病気の予防

ディーター・F・ワークトドルフ「初めから終わりを知る」『リアホナ』2006年5月号, 42。健康作りの習慣の大切さを話し合う際、ワークトドルフ長老の少年時代の経験を紹介します。

第40課——自制

ディーター・F・ワークトドルフ「わしの翼に乗って」『リアホナ』2006年7月号, 14。レッスンの「聖典と教会の指導者は自制心を養う方法を教えてくれる」の項を強調するため、この説教を用いることを検討します。

デビッド・A・ベドナー「何ものも彼らをつまづかすことはできません」『リアホナ』2006年11月号, 89。「自制は幸福と自尊心に通じる」の項を話し合う際、「傷つかないという選択をする」の項を取り入れます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『誠実』」の2, 5

第41課——楽観的な態度

ジョセフ・B・ワースリン「豊かな人生」『リアホナ』2006年5月号, 99。わたしたちがどのように快活で楽観的であるかについて話し合う際、記事から物語や例を用います。

アンソニー・D・パーキンズ「大きな驚くべき愛」『リアホナ』2006年11月号, 76。落胆を認識し、それを克服する方法を知ることができるように、レッスンを通じてこの説教を役立てます。

第42課——感謝

ゴードン・B・ヘンクレー「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号, 30。「感謝する人になりましょう」の項を読んで、レッスンの導入の部分を補足します。

ダリン・H・オークス「すべてについて感謝をささげる」『リアホナ』2003

年5月号, 95。感謝を示す方法について話し合う際、この説教の中の考えについて触れます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『個人の価値』」の3

第43課——余暇の上手な活用

トーマス・S・モンソン「完成への道」『リアホナ』2002年7月号, 111。勤労の必要性和、引き延ばすことによって生じる害を説明する際、モンソン管長の4つ目の勧めを用います。

ジョセフ・B・ワースリン「わたしについてきなさい」2002年7月号, 15。レッスンの導入で、この説教の要点を用いることを検討します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『選択と責任』」の2

第44課——才能を伸ばす

ジェームズ・E・ファウスト「できると信じている、できると分かっていた」『リアホナ』2002年11月号, 49。才能を伸ばす必要性和、与えられた賜物を善い目的のために使うことを強調し、「レッスンの応用」の項を補足するうえでこの記事を役立てます。

ロナルド・A・ラズバンド「タラントのたとえ」『リアホナ』2003年8月号, 34。マイ125:14-30を教える際にこの記事を役立てます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『知識』」の2

第45課——芸術に親しむ

ダリン・H・オークス「啓示が必要な8つの理由」『リアホナ』2004年9月号, 8。「芸術は生活を豊かにする」の話し合いの一环として「啓示が与えられる目的」の項に挙げられている、オークス長老の4つ目の目的の項を用います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『個人の価値』」の6

第46課——金銭上の責任

ジョセフ・B・ワースリン「この世の負債と天の負債」『リアホナ』2004年5月号, 40。自立に関する話し合いの際、ワースリン長老が挙げている財政的な自由を得るための5つのステップを取り入れます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『選択と責任』」の7

第47課——よい環境

ディーター・F・ワークトドルフ「わしの翼に乗って」2006年7月号, 14。「健全な環境を作り出す」の項を話し合う際、ライト兄弟がいかに彼らの環境に影響を与えたかということに関連づけます。

ジェレミー・ロバートソン「壁の額」『リアホナ』2004年8月号, 8。レッスンの導入でこの話を紹介します。

第48課——指導者としてのコミュニケーション技術

L・トム・ベリー「互いに愛と関心を示し合う厳粛な責任」『リアホナ』2006年6月号, 56。レッスンを教える際「私たちは指導者となることができる」の項の補足として、この記事の要点を用います。

M・ラッセル・バラード「おお、賢くありなさい」『リアホナ』2006年11月号, 17。「指導とは愛の実践である」の項を教える際、賢く適切に奉仕する6つの方法について話し合います。

第49課——障害のある人々を大切に励ます

ゲール・M・クレック「子供たちに違いを受け入れることを教える」『リアホナ』2004年6月号, 16。レッスンの中で紹介されているビデオ(訳注——日本語版のテキストにはビデオについての紹介はない)が入手できなければ、この記事の始めに出てくる二つの話を紹介します。

『アロン神権2』 用リソースガイド

第26課——清い思い

ダリン・H・オークス「ボルノグラフィ」『リアホナ』2005年5月号, 87。話し合いの中にオークス長老の警告を取り入れます。

『神への務め——教師』「霊的な面での成長」の5

第27課——主の健康の律法

トーマス・S・モンソン「真理を守り」『リアホナ』2006年5月号, 18。レッスンの終わりにある話をマカフエケのたとえに置き換えることを検討します。

『神への務め——執事』「学業、人格、職業への備えの面での成長」の12

第28課——安息日

L・トム・ベリー「家族の大切さ」『リアホナ』2003年5月号, 40。レッスンの最初の項にある安息日のふさわしい活動について学ぶ際に、ベリー長老の勧告を用います。

アール・C・ティンギー「永遠の規範を確立する」『リアホナ』2004年10月号, 20。レッスンの「安息日を聖く守る」の項で、クック長老の話の代わりにティンギー長老の話を用います。

『神への務め——教師』『霊的な面での成長』の2

第29課——人生の目的

リチャード・G・スコット「真理の回復」『リアホナ』2005年11月号, 78。救いの計画を理解することがどのように人生の試練に立ち向かう助けとなるかについて、スコット長老の勧告を用いてレッスンを締めくくります。

ロバート・D・ヘイルズ「思いのままに行動する——選択の自由という賜物と祝福」『リアホナ』2006年5月号, 4。記事の中にある概念を用いて、選択の自由がいかに誘惑を退けるうえで助けとなるかについて示します。

第30課——キリストの愛

H・デビッド・バートン「思いやりの心と助けの手」『リアホナ』2006年5月号, 8。レッスンの最後の方にある物語の代わりに、バートンビショップの語る模範の幾つかを紹介します。

『神への務め——教師』『社会の一員としての社会的な面での成長』の3

第31課——赦し

ジェームズ・E・ファウスト「贖い——最も大いなる希望」『リアホナ』2002年1月号, 19。レッスンの最初の項で、贖いがどのようにわたしたちに人を赦す力を与えてくれるかについて話し合います。

ボイド・K・バック「輝かしい赦しの朝」『聖徒の道』1996年1月号, 20。コリー・テン・ブームの話の代わりに、記事のジョン・ブリーンの話を紹介することを検討します。

第32課——みたまの賜を養う

デビッド・A・ベドナー「主の深い憐れみ」『リアホナ』2005年5月号, 99。霊的な賜物が主の深い憐れみとしてどのようにわたしたちに訪れるかを説明します。

第33課——学問を求むべし

ジョン・K・カーマック「永代教育基金——希望に満ちた明るい光」『リアホナ』2004年1月号, 32。永代教育基金によって教育を受けることに関して、わたしたちが学ぶことのできる原則について話し合います。

『神への務め——教師・祭司』『学業、人格、職業への備えの面での成長』の1, 2

第34課——模範の力

ゴードン・B・シンクレイ「さらに親切になる必要性」『リアホナ』2006年5月号, 58。「神権者のよい模範は教会に対する評価を高める」の中にある

話の一つに代えて、大管長の説教に出てくるリチャードの話を読みます。

トーマス・S・モンソン「主の設計図」『リアホナ』2006年1月号, 2。「信者の模範」の項を話し合いに取り入れます。

第35課——法律を守り、敬い、支える

『神への務め——執事』『社会の一員としての社会的な面での成長』の5

第36課——すべてのことに感謝する

ダリン・H・オークス「すべてについて感謝をささげる」『リアホナ』2003年5月号, 95。レッスンの導入部分の代わりに、オークス長老が挙げている感謝をささげる5つの理由を紹介します。それぞれに当てはまる経験があれば、それを生徒に話してもらいます。

H・デビッド・バートン「思いやりの心と助けの手」『リアホナ』2006年5月号, 8。競売人の話の代わりにジョセフ・スミスのお話を紹介することを検討します。

『神への務め——執事』『霊的な面での成長』の10

第37課——女性の役割を理解する

ゴードン・B・シンクレイ「人生で出会う女性たち」『リアホナ』2004年11月号, 82。女性の役割と男性の役割はどのように違っているか、また両方の役割がどのように同様に大切であるかを話し合ううえでこの記事を役立てます。

ジュリー・B・ベック「母の心」『リアホナ』2004年5月号, 75。この説教を用いて、レッスンのまとめを強調します。

第38課——不義の世に正しく生きる

ジェームズ・E・ファウスト「悪魔のど」『リアホナ』2003年5月号, 51。レッスンを始めるに当たり、この説教にある滝の比喩を用います。

リチャード・G・スコット「邪悪がはびこる世界で正しい生活を送る方法」『リアホナ』2004年5月, 100。村人に福音を教えたスコット長老の宣教師としての経験を紹介し、レッスンの導入部分を補足します。

『神への務め——執事、教師、祭司』『家族の活動』の2

第39課——信仰を守りぬく勇氣

ゴードン・B・シンクレイ「確かな道を歩みなさい」『リアホナ』2005年1月号, 2。試練によりよく立ち向かうため、道徳的な勇氣を養うという話し合いの補足として、この記事の3つ目の項を用います。

『神への務め——祭司』『家族の活動』の2

第40課——誘惑を避け、克服する

ディーター・F・ワークトルフ「初めから終わりを知る」『リアホナ』2006年5月号, 42。レクター長老の勧告をワークトルフ長老の標準に関する勧告に代えることを検討します。

『神への務め——教師』『霊的な面での成長』の5。

第41課——聖餐——主の記念

L・トム・ベリー「聖餐にあずかるとき」『リアホナ』2006年5月号, 39。聖餐を受けるときに交わす聖約について教える際、この記事に挙げられている原則を用います。

『神への務め——執事』『定例会活動』の7;『神への務め——祭司』『定例会活動』の1

第42課——教会幹部に従う

L・トム・ベリー「神がこれまで以上に啓示されたすべてのことを信じる」『リアホナ』2003年11月号, 85。レッスンの最初の項を教える際、どのように啓示が教会に与えられているかについて確認します。

ジェフリー・R・ホランド「またこの地に預言者たちが」『リアホナ』2006年11月号, 104。「教会指導者たちは私たちのためになる指針を与える」の項の補足として、ホランド長老の説教に挙げられている原則を用います。

第43課——伝道のための霊的な備え

デビッド・A・ベドナー「宣教師になる」『リアホナ』2005年11月号, 44。この説教を用いて、どのように、また、なぜ伝道のために霊的に備えるべきなのかについて説明します。

レッスンの補足として『リアホナ』2007年3月号を用います。

第44課——神殿結婚に備える

ラッセル・M・ネルソン「神殿の祝福を受けるための個人の備え」『リアホナ』2001年7月号, 37。この説教を用いて、神殿に参入するために必要な神殿推薦状と個人的な準備について、レッスンの導入の部分を補足します。

M・ラッセル・バラード「永続するものこそ最も大切なものである」『リアホナ』2005年11月号, 41。レッスンのまとめを補足するためにバラード長老の3つの勧めを用います。

第45課——効果的なホームティーチング

トーマス・S・モンソン「最善を尽くして義務を果たす」『リアホナ』2005年11月号, 56。「ホームティーチングは神権につける責任です」の項を教える



際、モンソン管長のホームティーチングについての勧告を当てはめます。

『神への務め——教師』『定例会活動』の1

第46課——メディアの低俗な影響力を避ける

M・ラッセル・バラード「声を届かせる」『リアホナ』2003年11月号, 16。レッスンのまとめとして、不道徳なメディアの影響を最小限にとどめることに関するバラード長老の勧めを取り入れます。

『神への務め——教師』『社会の一員としての社会的な面での成長』の9

第47課——清い言葉遣い

H・デビッド・バートン「雄々しく立つ」『リアホナ』2002年1月号, 75。言葉遣いに心が現れることについて話し合う際、バートンビショップの二つ目の例を役立てます。

第48課——世にあって、世のものとならず

ジェームズ・E・ファウスト「聖なる場所に立つ」『リアホナ』2005年5月号, 62。聖なる場所に立つことが、どのように、世にあって、世のものとならないための助けとなるか話し合う際、この記事に挙げられている原則を役立てます。

『神への務め——教師』『家族の活動』の2

第49課——正直と高潔さ

D・トッド・クリストファーソン「真の男になる」『リアホナ』2006年11月号, 46。この記事に挙げられている考えを使って、レッスンを締めくくります。

リチャード・C・エッジリー「3本のタオルと25セントの新聞」『リアホナ』2006年11月号, 72。レッスンの最後にある話の代わりに、エッジリービショップの夏の仕事と新聞の話を読みます。

『神への務め——祭司』『霊的な面での成長』の1

第50課——障害者を尊重し、励ます

『神への務め——祭司』『肉体的な面での成長』の11

中央補助組織会長会

日曜学校



第一顧問
ダニエル・K・ジャッド



会長
A・ロジャー・メリル



第二顧問
ウィリアム・D・オズワルド

扶助協会



第一顧問
シルビア・H・オールレッド



会長
ジュリー・B・ベック



第二顧問
バーバラ・トンプソン

若い男性



第一顧問
ディーン・R・バージェス



会長
チャールズ・W・ダールクウイスト2世



第二顧問
マイケル・A・ナイダー

若い女性



第一顧問
イレイン・S・ダルトン



会長
スーザン・W・タナー



第二顧問
メアリー・N・クック

初等協会



第一顧問
マーガレット・S・リファース



会長
シェリル・C・ラント



第二顧問
ビッキー・F・松森

チャーチ・ニュース



総大会, 多くの人々に視聴され、幕を閉じる

第177回年次総大会の様子は、90言語に同時通訳され、教会所有の受信設備を備えた各会場に向けて衛星放送された。このような会場は、85か国の6,000か所以上に及ぶ。これにより、過去最多の会員が教会指導者の言葉を母語で聞くことができた。

96歳になるゴードン・B・ヒンクレー大管長は、土曜午前の部会を除くすべての部会で、全世界の聴衆に向けて話をした。「いろいろと憶測が流れているようですが、実際のわたしはすこぶる健康です。」そして、ユーモアを交えてこう続けた。「熟練した医師と看護師のおかげで健康を維持しています。皆さんの中にはわたしより先に逝く人もいますが、お祈り申し上げます。」

土曜午後の部会の中で、ヒンクレー大管長はテンプルスクウェアにあるソルトレークタバナク

ルを再奉献した。このタバナクルで総大会の部会が開かれたのは、2000年4月に初めてカンファレンスセンターが使用されるようになって以来のことである。タバナクルは耐震補強と改装のため2年間閉館されていた(関連記事参照)。

土曜日、新しい指導者が支持を受けた。その中には、合衆国以外の地域から召された5人の中央幹部、中央扶助協会会長会、中央若い女性会長会顧問が含まれる(教会指導者の異動については4ページを、新しい指導者の略歴については124ページを参照)。

世界中の数百万に上る会員が、教会所有の受信設備のある会場で視聴したり、ローカル放送局や他の衛星放送、ケーブルテレビ、インターネットを通じて家庭で視聴したりして、集会に出席した。

タバナクル、大規模な改修工事を終え、再奉献される

1867年に初めて総大会で使用されて以来、ソルトレークタバナクルは開拓者の信仰と創意工夫の象徴となってきた。140年近くたった今も、タバナクルはしっかりと立ち、今、さらに堅固な土台の上に築かれた。

3月31日に開かれた土曜午後の部会の中で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、2年間に及んだ改修工事を終えたソルトレークタバナクルを再奉献した。

オーク材製の新しい長いすを据えたが、座りやすいように列の間を広げた。以前は外から2階席に昇ようになっていた階段は、利便性を上げるため屋内に移し、さらに屋内2か所に階段を追加した。また、客席から見えるオルガンのパイプに新しい金めっきを施し、天井を補修し塗り直した。聖歌隊員のために新たに更衣室と音楽資料室を作り、説教壇は移動

可能な形になり、座席を増やしたり、公演会のステージを設けたりできるようになった。また、配管設備、機械装置、電気系統はすべて、新しい建築基準に基づいて入れ替えた。

このような目に見える部分が最新化されただけでなく、一般の目に触れない部分で最も重要な改修が行われた。

構造的な強度を上げ、耐震補強するために、タバナクルの基礎と壁を改修したのである。

独特な形をしたタバナクルの屋根を支える44本の柱には、上から下まで鋼製の棒をはめ込んで補強した。各柱の土台もコンクリートで補強した。柱と柱をつなぐ桁（訳注——柱の上に棟の方向に渡して、支えとするもの）には箱状の鉄鋼を使い、天井の長い桁は、特殊な鋼材でしっかりと柱に取り付けた。

このように、タバナクルは短

期間のうちに、さらに堅固さを増した。短い期間でより力強くなったという点で、近年の教会の発展に似ている。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、新しくなったタバナクルの奉献の祈りの中で次のように述べた。「かつては末日聖徒のほとんどが、この盆地と、開拓された周辺の地域に住んでいました。現在では、あなたの御業は発展して地に広がり、この国に住む会員よりも、この国以外の地に住む会員の方が多くなっています。」

タバナクルの建築

ブリガム・ヤング大管長は、タバナクルの建築構想を実現するためにヘンリー・グローに助けを求めた。ペンシルバニア州フィラデルフィア出身の改宗者であったグロー兄弟は橋を造る職人で、そのような業に従事するのに必要な技術を備えていた。

計画が立てられ、1863年に建築が始まった。

通常の建築材料の多くが入手できなかったため、職人たちは廃材を再利用したり、近辺にあるものを使ったりしてタバナクルを建設した。近くの溪谷から丸太を運び、ソルトレーク神殿の建設現場からは余った石を運んだ。また、



オルガンのパイプには新しく金めっきが施された。

軍の余剰備品や木製の牛の蹄鉄から釘やボルトの座金を作った。動物の皮を煮て接着剤を作ったり、近くで取れた石灰岩からしっくいを作ったり、その補強のために動物の毛を使ったりした。

当時入手できた材料を考えたとしても、タバナクルはまさに信仰と創意工夫によって建てられたと言える。

建て始めてから4年後、タバナクルで大会が開かれた。そして、2階席が増築された後の1875年10月、タバナクルは公式に奉献された。

注目すべき事実

- ジョセフ・スミスとブリガム・ヤング以外のすべての大管長は、タバナクルで開かれた聖会において支持を受けた。
- タバナクルには以前、ソルトレーク・シティー地域の会員が利用できるようなバプテスマフォントが置かれていたが、この改築に当たり、建物のスペースを広くするために撤去された。



タバナクルの屋内改装では、天井の修理、新しいいすの設置、壇上をステージとしても使用できるようにする移動可能な説教壇の設置などが行われた。



耐震性を上げるため、基礎の補強も行われた。

- もともとの座席はマツの木で作られ、オーク材の風合いが出るように色が塗られていた。
- オルガンの外枠はボンデロサマツ(訳注——米国西部産の大きなマツの一種)で作られ、マホガニー材の風合いが出るように色が塗られている。
- ソルトレークタバナクルが建つ前は、現在「旧タバナクル」と呼ばれるタバナクルが、神殿のあるブロックの南西の角に、聖徒たちの集会所として建てられた。
- これまで12人の合衆国大統領がタバナクルを訪れた。
- タバナクルの音響効果は独特で、いちばん前にある説教壇で針を落とした音が、最後列で聞こえると言われている。■

世界指導者訓練集会の内容、教会機関誌に掲載される

2月に行われた世界指導者訓練集会の内容が2007年6月号の『リアホナ』と『エンサイン』(Ensign)に掲載される。「教え、学ぶ」という今回の訓練集会のテーマは全会員に当てはまることなので、全会員が読めるようにするためである。

訓練集会の内容が出版されるのは、これで2度目となる。昨年、家族をテーマに開かれた訓練集会の内容は、2006年6月号の機関誌に掲載された。

訓練集会の話者は以下のとおりである。大管長会第一顧問トーマス・S・モンソン管長、十二使徒定員会会長代理ボイド・K・バックナー会長、および十二使徒定員会会員のL・トム・ベリー長老とジェフリー・R・ホランド長老。

2月のこの衛星放送は www.lds.org/broadcasat で、10言語で聞くことができ、24言語で読むことができる。■

お詫びと訂正

- 2007年3月号『リアホナ』チャーチ・ニュース14ページ、「『親が恐れていたら子供は不安になります』確固とした信仰と教育の両立——牛久ワード、根本家の場合」の項に、誤りがありました。(15ページ、第3列16行目)。正しくは以下のとおりです。
誤：『……UNDOF(国連によるシリアとイスラエルの兵力引き離し監視軍)の司令官を務める根本勉一等陸尉は……』
正：『……UNDOF(国連によるシリアとイスラエルの兵力引き離し監視軍)の司令部要員を務める根本勉一等陸尉は……』
- 読者の皆様ならびに関係各位には大変ご迷惑をお掛けいたしました。ここに謹んでお詫びし、訂正させていただきます。(編集室)

エンリケ・R・ファラベラ長老

七十八



エンリケ・リエンシ・ファラベラ・アレラーノ長老は、イエス・キリストについての、また贖いが自らの生活に及ぼす影響についての個人の証ほど価値あるものはないと信じています。

ファラベラ長老は、証を得るには、まず真理を知りたいと強く望むことと、進んで真理に従うことが必要であると、若いときに学びました。

ファラベラ長老は1950年5月9日にウディネ・ファラベラとレオノール・ファラベラの間にも生まれました。生まれ育ったグアテマラシティーの自宅のドアを宣教師がノックしたのは、ファラベラ長老が12歳のときのことでした。母親は4人の子供を残して数年前に他界していました。長男だったファラベラ長老は、この宣教師たちにほかのだれとも違う何かを感じました。彼がそのような違いを感じたのは、宣教師が愛を示し、力強く教えたからでした。

「彼らが知っていることを知りたいと思いました。」ファラベラ長老はそう回想します。そのような強い望みと、宣教師に勧

められたことを進んで行ってみようという気持ちがファラベラ長老を改宗へと導きました。

「かなり早い時期に、救い主の次の御言葉が持つ意味を理解できるようになりました。『神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。』(ヨハネ7:17)福音の原則に従った生活を送るならば、御霊はわたしたちの心に触れることができになります。すると、わたしたちは福音が文字どおり真実であると分かることでしょう。」

中央アメリカ伝道部で専任宣教師として奉仕した後、ファラベラ長老は1975年6月21日にアリゾナ州メサ神殿で妻のブランカ・リディア・サンチェスと結び固められました。ファラベラ長老はグアテマラのサンカルロス大学で農業経済学の学士号を取得し、後に、コスタリカ大学でマーケティングを学びました。中央幹部として専任で教会のために奉仕する召しを受ける前には、化学薬品会社で働いていました。

5人の子供が成長する中、ファラベラ長老はステーキ伝道部会長、ビショップ、地区代表、ステーキ会長を務めました。さらに地域七十人時代には、中央アメリカ地域会長会会長として2年間奉仕しました。グアテマラシティーで宣教師訓練センターの支部会長として働いていたときに、七十人第一定員会会員として召されました。◆

エリック・W・コピシュカ長老

七十八



エリック・ウィリ・コピシュカ長老が得た証を一つ挙げるとすれば、それは、主がわたしたち一人一人にとって最も必要なものは何かを御存じであるということです。

コピシュカ長老は、母国ドイツで専任宣教師として働く召しを受けたときに、少し落胆したことを覚えています。「外国語を学びたいと思っていました」とコピシュカ長老は言います。しかし、間もなくコピシュカ長老は祖国の人々に教えることが大好きになりました。そして伝道部事務所の書記の責任を受けた9か月の間、英語を学ぶ必要に迫られました。

コピシュカ長老は、その伝道はまさに主が自分のために立てられた計画だったことに気づくようになりました。なぜなら、伝道が彼を将来に備えたからです。

「主はこの人生における皆さんの使命を御存じです。それこそわたしが得た最大の証です」とコピシュカ長老は語

ります。「主は皆さんの前途に何が待ち構えているかを御存じなのです。」

コピシュカ長老は、1956年10月20日、ドイツのエルムスホルンで、忠実な末日聖徒の両親、ヘルガ・ハウプト・コピシュカとクルト・コピシュカとの間に生まれ、育てられました。

コピシュカ長老は商学で学位を取得しました。伝道から帰還後、軍務に服し、その後さらに職業訓練を受けました。この間、看護学校に通っていた将来の妻、クリスティアーヌ・グラックに出会い、1978年12月19日にスイス・ベルン神殿で結婚しました。二人には7人の子供がいます。

コピシュカ長老は保険業界で働きましたが、1996年に教会教育システムに就職し、2000年にはヨーロッパ中央地域ディレクターに任じられました。

2003年、ベルン伝道部の会長として働くよう召されました。コピシュカ長老夫妻はその召しが大好きでした。

七十人第一委員会の召しを受ける前に、コピシュカ長老はビショップリック顧問、ステーク高等評議員、地方部会長、ステーク会長、伝道部会長、地域七十人、ヨーロッパ中央地域会長会第二顧問として奉仕しました。◆

マイケル・J・テー長老

七十八



マイケル・ジョン・テー長老にとって、旅そのものは目的地と同様に大切なものです。それが人生の旅であればなおさらです。1986年に受けた専任宣教師の召しは、あらゆる面でこの現世での旅に影響を及ぼしたとテー長老は語っています。なぜなら、その召しを通して福音に対する証が強まったからです。

「わたしにとって伝道は人生の分岐点となりました。伝道に出たことですばらしい祝福を受けてきました」とテー長老は語ります。「天の御父とその御子イエス・キリストを知ようになりました。いつでも天の御父を呼び求め、御父に話しかけられるということが分かるようになりました。このことからわたしは大きな慰めを受けています。」

テー長老は人生の岐路に立つ人々が必要としているのは証であり、証の助けによって人は正しい道に踏みとどまることができると語っています。

「わたしたちの天の御父は皆さんが自らの証を得ようと

祈りの気持ちで努力するとき、皆さんに真理を明らかにしてください」とテー長老は言います。「自分自身で真理を知り、自信をもって真理について証できたときに感じる思いは何とすばらしいことでしょう。」

テー長老は1965年6月25日、フィリピンのダバオデルスル州ダバオ市で、マーティン・テーとノーマ・テーのもとに生まれました。テー長老が12歳のときに、家族はマニラに引っ越しましたが、テー長老はフィリピン・ダバオ伝道部での召しを受け、生まれ故郷であるダバオ市に戻りました。

伝道後、テー長老はマニラにあるデラサール大学で経営学の学士号を取得しました。卒業後最初の4年間はフィリピン・マニラ神殿の記録部長として働き、そこで1989年12月16日にグレース・メイ・ウィードンと結婚しました。二人の間には3人の子供がいます。

テー長老は教会の指導者と交わる機会に感謝しています。テー長老はこれまでにビショップ、ステーク会長顧問、高等評議員、伝道部会長顧問として奉仕してきました。七十人第一委員会会員として召されたとき、テー長老は地域七十人であり、フィリピン地域会長会第二顧問として奉仕していました。◆

オクタビオ・テノリオ長老

七十人



オクタビオ・テノリオ・ドミンゲス長老は、神殿の儀式を受けることで人生が変わることを知っています。テノリオ長老自身の人生も変わりました。また、人の人生が変わるのを目にする立場にずっといました。「神殿に近くあってください。」テノリオ長老はそう力説します。

テノリオ長老は、1942年10月31日、メキシコのベラクルス市、ティラパンで、オクタビオ・テノリオとフローラ・ドミンゲス・デ・テノリオのもとに生まれました。教会に加わったのは、家族がメキシコ北部のリオブラボアに引っ越した後のことでした。

会計とビジネスの資格を取得後、現在住んでいるメキシコシティでロサ・エルバ・バレンズエラ・ゴンザレスと出会いました。1974年1月4日、アリゾナ州メサ神殿で結び固められ、5人の子供がいます。

仕事を初めて間もなく、テノリオ長老はメキシコにある教会系図サービスセンターの管理者として転職する機会を持ちかけられました。出版業界で成

功していたテノリオ長老はその新しい仕事を引き受けるべきかどうか確信が持てませんでした。しかし、一連の出来事から靈感を受け、それは引き受けるべき仕事であると悟りました。

「その仕事はわたしの人生の進路を変えました」とテノリオ長老は語ります。それ以来、家族歴史と神殿活動が生活の中で重要な位置を占めるようになりました。

テノリオ長老はその仕事を7年間続け、その間、ステーキ会長として奉仕しました。その後、メキシコ・メキシコシティ神殿で最初の記録部長として、また結び固め執行者として召されました。後に、テノリオ長老は、メキシコ・トウストラグティエレス伝道部を管理するため、メキシコシティ神殿を離れました。後に、同地域の会員記録、資材管理、福祉部を管理し、その間、地区代表、後に地域七十人として奉仕しました。

その後、テノリオ長老の後継者として記録部長を務めていた兄弟が退職した後、長老は再びメキシコシティ神殿の記録部長となりました。

「神殿はわたしの人生の重要な部分を占めています」とテノリオ長老は言います。「真の幸福を見いだすことができるのは、神殿での儀式を通してであることを信じています。」テノリオ長老は主に深く感謝し、これから七十人第一定員会で奉仕できることを大いなる祝福だと考えています。◆

クラウディオ・D・シビック長老

七十人



クラウディオ・ダニエル・シビック長老は、正しい生活を送る努力をしているならば、わたしたちは神が導いてくださることを信頼してよいのだと信じています。

シビック長老は1948年12月19日、アルゼンチンのブエノスアイレスで、末日聖徒の両親、セルジオ・ホルヘ・シビックとエレオラ・ザレウスキー・シビックのもとに生まれました。シビック長老は、15歳のとき、800メートル走で同年代の走者の中で全国第2位となりました。シビック長老の最大の望みは、オリンピックに出場することでした。十種競技の選手としてオリンピックに出場した経験を持つ彼のコーチも、彼が日曜日の試合に出るのを嫌がりさえしなければ、オリンピック出場も夢ではないと信じていました。

「どちらにするか選ばなければなりません」とシビック長老は語ります。「結局のところ、試合に出るのは主の御心ではないと感じました。」

シビック長老は職業を選ぶ

ときにも、難しい決断を下さなければならぬ事態に直面しました。会計学の成績が年間を通してとても悪く、中等学校在学中、4年続けて、学年末試験で追試を受けなければなりませんでした。

「会計学はほんとうに好きではありませんでした」とシビック長老は言います。けれども、将来の職業について祈りの気持ちで考えたとき、会計の道に進むべきだと強く感じたのです。主を信頼したシビック長老は、ブエノスアイレス大学で会計学の学位を取得し、公認会計士として働く機会に恵まれました。

シビック長老は生涯を通して主の導きがあったことを実感しています。「正しい生活を送るならば、主は祝福を与えてくださいます」とシビック長老は語ります。「そうするときに、物事は自然にうまくいくものです。」

シビック長老は軍務を終えた後、妻のダイナ・ノエミ・アルバレスと、1979年1月9日、ブラジル・サンパウロ神殿で結び固められました。シビック長老と姉妹の間には、5人の子供がいます。

七十人第一定員会の召しを受ける前に、シビック長老は長老定員会会長、インスティテュート教師、ビショップ、ステーキ高等評議員、ステーキ会長顧問、神殿儀式執行者、地区代表、スペイン・ビルバオ伝道部長、南アメリカ南地域会長会第二顧問として奉仕しました。◆

ジュリー・B・ベック

中央扶助協会会長



ジュリー・バンガター・ベック姉妹はバプテスマを受けたときも、また神殿で聖約を交わしたときも「主の王国で使われる者となることを主と約束しました。」以来、どこで、どのような責任に召されてもベック姉妹は喜んで主に仕えてきました。これまで中央若い女性第一顧問として奉仕したベック姉妹は、こう語ります。「新しい責任を受けることは〔教会では〕だれにでもあることです。どんな責任を受けるかは問題ではありません。これは主の業であり、わたしたちは天の御父の子供たちと一緒に奉仕しているのです。」

現在、七十人第一定会名譽会員であるウィリアム・グラント・バンガターとジェラルディン・ハンブリン・バンガターの子供として1954年9月29日に生まれたベック姉妹は、ディクシー・カレッジとブリガム・ヤング大学で学び、家庭科学の学位を取得しました。1973年12月28日にラモン・P・ベックとソルトレーク神殿で結婚し、3人

の子供と8人の孫がいます。

教会中央役員に召される前は、ワードの若い女性および初等協会会長として責任を果たしたほか、ステーキ扶助協会会長会の顧問としても奉仕しました。

ベック姉妹は上手に時間を使うために優先順位を3つの分野、つまり「必ずすべきこと」「するべきこと」「できたらうれしいこと」に分けています。個人の祈り、聖文の勉強、神殿参入、そして家族は「必ずすべきこと」のリストに入っています。ベック姉妹はこう語ります。「わたしの知っている女性は皆、手に負えないほどたくさんの仕事を抱えています」が、優先順位をつけることで「罪悪感がなくなります。また、驚くほどたくさんの『できたらうれしいこと』もこなすことができます。」

ベック姉妹は、遠くに住む孫にも祖母として愛情を示すアイデアを主から得ています。電話越しに孫たちに本の読み聞かせを行っているのです。

「わたしは常に扶助協会を愛してきました。まだ新婚だったとき、両親が遠くに赴任していたのですが、扶助協会の姉妹たちはわたしの『母親』になってくれました。これまで世界中を巡って、教会の女性に心からの愛を感じてきました。彼女たちを尊敬しています。これから扶助協会での奉仕に力を注げることはすばらしい祝福です。」◆

シルビア・H・オールレッド

中央扶助協会会長会第一顧問



先日、中央扶助協会会長会第一顧問に召されたシルビア・エンリケス・オールレッド姉妹が扶助協会への愛を抱くようになったのは、まだ16歳のときでした。

その理由についてオールレッド姉妹はこう話しています。「母はエルサルバドルにある教会でバプテスマを受けてすぐ、その支部の扶助協会会長に召されました。責任の重さに圧倒されていましたが、(同じくバプテスマを受けたばかりだった)姉とわたしは母に言いました。『大丈夫よ。主が助けてくださるわ。』そして主は確かに助けてくださいました。」

扶助協会の書記として母親のそばで奉仕したオールレッド姉妹は、扶助協会を通して指導力、教育、家事能力、奉仕において成長する機会が得られることに感銘を受けました。そうした機会は「イエス・キリストの福音を受け入れるすべての女性に」与えられるとオールレッド姉妹は語

っています。

オールレッド姉妹は1944年10月11日、カルロス・フロレンティーノ・エンリケスとイルダ・アルバレンガの8人の子供の4番目として、エルサルバドルのサンサルバドルで生まれました。アリゾナ大学とブリガム・ヤング大学に在籍したほか、エルサルバドルのフランシスコ・モラサン・インスティテュートで数学と言語を学びました。

1966年9月7日にソルトレーク神殿でジェフリー・A・オールレッドと結婚し、8人の子供に恵まれています。

オールレッド姉妹は中央アメリカ伝道部で専任宣教師として伝道し、ワードやステーキで扶助協会と初等協会の会長として、また若い女性中央管理会会員としても奉仕しました。また、パラグアイ・アスンシオン伝道部会長、最近ではドミニカ共和国にある宣教師訓練センターの会長だった夫とともに奉仕する機会にも恵まれました。スペインのマドリッドで広報宣教師としても奉仕しています。

オールレッド姉妹は生涯にわたり、最初に受けた扶助協会の責任で得た教訓に頼ってきたと語ります。「天の御父は、わたしたちに何が必要かを御存じです。御父が力を与えてくださることを知っています。」◆

バーバラ・トンプソン

中央扶助協会会長会第二顧問



元ワード活動委員長のバーバラ・トンプソン姉妹は、中央扶助協会の会長会にいるよりも、ジーンズをはいて、衛生用品セットをまとめている方が落ち着くようです。しかしトンプソン姉妹は、会長会第二顧問としての新しい召しに感謝していると語ります。

ドイツ・ハンブルク伝道部の宣教師として奉仕したほか、福音の教義クラス教師、若い女性キャンプディレクター、ローレルおよびビーハイブのアドバイザー、ワード若い女性会長、ワード扶助協会顧問、扶助協会中央管理会会員を歴任したトンプソン姉妹は次のような信念を持っています。「福音が真実であると信じる姉妹たちの証は、行動となって現れます。」

1952年6月13日、カリフォルニア州サン・ルイス・オビスポでW・ピーター・トンプソンとフアン・ライマー・トンプソンの

間に生まれたトンプソン姉妹は、後に家族とユタ州グレインジャーに移り住みました。趣味はスポーツやキャンプでしたが、時間ができると好んで友人や家族を訪問していました。

ユタ大学で社会福祉事業の修士号を取得し、ユタ州福祉局に30年間勤務しました。退職後は虐待や育児放棄に苦しむ子供のための国際機関で常任理事を務めています。

結婚と子育ての経験はありませんが、トンプソン姉妹は「家族や友達がいますし、教会の姉妹たちからいつも助けてもらってきました」と語っています。

トンプソン姉妹は、ベック姉妹を支えることがこれからの自分の役割であると考え、次のように語りました。「召しを果たすベック姉妹を力づけていきたいと思っています。」

この責任を通して世界中の会員から証を聞けるのを楽しみにしているというトンプソン姉妹は、扶助協会の姉妹に向けて次のメッセージを伝えています。「主を愛してください。全身全霊をもってキリストのみもとに来てください。女性は非常に大きな試練に直面しますが、福音や扶助協会の姉妹同士の結びつきに頼るならば、重荷は軽くなることでしょう。」◆

メアリー・N・クック

中央若い女性会長会第二顧問



「心をつくして主に信頼せよ」(箴言3:5)は、中央若い女性会長会第二顧問メアリー・ニールセン・クック姉妹を導く真理となっています。

1951年6月8日、ユタ州ミッドベールに生まれたクック姉妹は、主に頼ることを、両親であるケネス・N・ニールセンとフアン・S・ニールセンの模範から学びました。クック姉妹がまだ小さな赤ん坊だったころ、採掘事故のため父親が健康に深刻な問題を抱え、しばらくの間は母親が家族を養っていました。それは試練の時でした。

若いころ、結婚して母親になることを夢見ていたクック姉妹でしたが、独身の日々が何年も続きました。「夢がかなう日がほんとうに来るのだろうか」と悩むこともありましたが、でも信仰を持ち続けるよう努力し、受けていた祝福に目を向けるようにしました」とクック

姉妹は語ります。

この間、言語病理学と聴覚学の学士号と修士号を取得し、ブリガム・ヤング大学で教育専門スペシャリストの学位を取得しました。そして特殊教育の教師として、また後に学校運営者として働きました。

1988年7月16日、後に七十人第二定員会会員となるリチャード・E・クックとソルトレーク神殿で結婚しました。クック長老の最初の妻は1984年に亡くなっていました。クック姉妹はそのとき「4人のすばらしい子供を受け継ぎ、8人の孫のおばあちゃんになりました」と語っています。2人には現在17人の孫がいます。

モンゴルで専任宣教師の召しを夫婦で果たしていたとき、夫が新たに組織されたモンゴル伝道部の会長に召されました。また、後にクック長老がアジア地域会長会で奉仕することになったときも、クック姉妹は香港^{ホンコン}に同行しました。彼女はこれまでにワード扶助協会会長として、また若い女性中央管理会の責任も果たしています。

クック姉妹はこれまでの経験に感謝し、次のように証しています。「どのような試練が降りかかろうと、主に信頼を置いていれば、主はわたしたちに道を示してくださいませ。」◆



「クインス通りからの風景」アル・ラウンズ画

南東にソルトレーク神殿とタバナクルを臨んだ風景。ソルトレーク神殿は1893年4月の総大会で奉獻された。タバナクルは1875年10月の総大会で奉獻された。末日聖徒が実際にタバナクルを使用したのは、それ以前の1867年10月の総大会からである。



第177回年次総大会を
閉じるに当たり、
ゴードン・B・ヒンクレー大管長は
次のように語った。

「わたしの愛する兄弟姉妹の皆さん、
わたしたちはすばらしい大会を
楽しんできました。

……皆さんが教会機関誌の5月号を
家庭の夕べのテキストとして利用して、
この大会で語られた内容を
復習するよう願っています。

どの話者も、聞く人すべてが
もう少し努力したい、
もう少し善い人になりたいという
気持ちになれるようにと望みながら、
靈感を与える知識を分かち合うために、
祈りの気持ちで準備しました。」

